

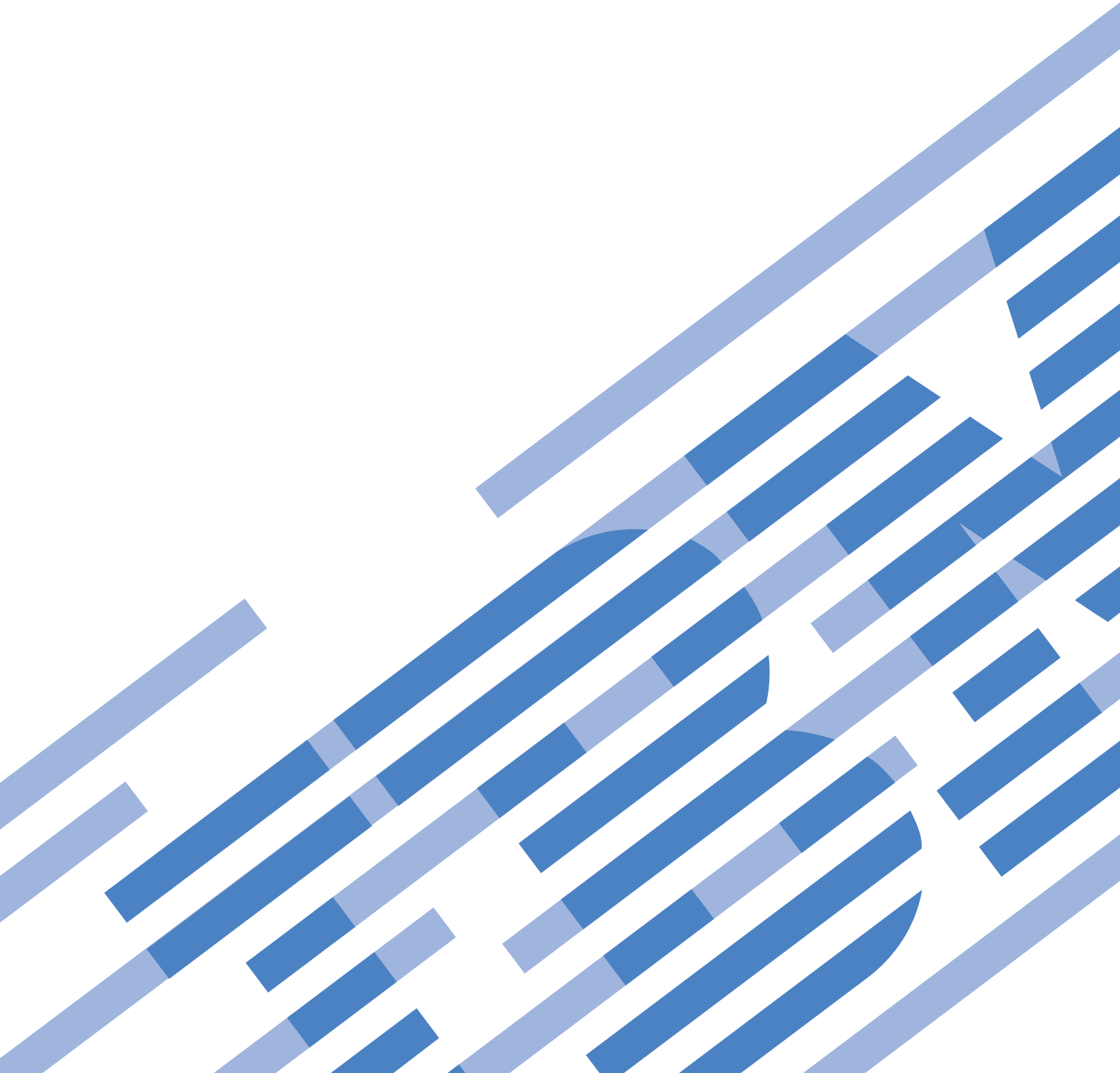


IBM i

データベース

SQL メッセージおよびコード

7.1







**IBM i**

**データベース**

**SQL メッセージおよびコード**

*7.1*

**ご注意！**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、231 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i 7.1 (製品番号 5770-SS1) に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM i  
Database  
SQL messages and codes  
7.1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.4

© Copyright IBM Corporation 2001, 2010.

---

## 目次

<b>SQL メッセージおよびコード</b> . . . . .	<b>1</b>	SQL メッセージのリスト . . . . .	27
IBM i 7.1 の新機能 . . . . .	1		
SQL メッセージおよびコードの PDF ファイル . . . . .	1		
SQLCODE と SQLSTATE の概念 . . . . .	2	<b>付録. 特記事項</b> . . . . .	<b>231</b>
SQLSTATE クラス・コードのリスト . . . . .	3	プログラミング・インターフェース情報 . . . . .	233
SQLSTATE 値のリスト . . . . .	5	商標 . . . . .	233
SQL メッセージの概念 . . . . .	27	使用条件 . . . . .	233



---

## SQL メッセージおよびコード

このトピック・コレクションを使用して、DB2<sup>®</sup> for i で SQL を使用したときに戻されるコードおよびメッセージの説明を見つけ出してください。このトピックには、SQLCODE、SQLSTATE、クラス・コード、および SQL メッセージのリストが含まれています。

注: コード例を使用することによって、228 ページの『コードに関するライセンス情報および特記事項』の条項に同意するものとします。

---

### IBM i 7.1 の新機能



SQL メッセージおよびコードのトピック集に関する新規情報または大幅に変更された情報を一読してください。

#### 新たに追加されたメッセージおよびコード

5 ページの『SQLSTATE 値のリスト』、および SQL メッセージのリストに、一部内容の追加が行われています。

#### 新規または変更箇所の確認方法

技術的な変更が加えられた箇所には、その箇所が識別できるように、次の情報が使用されています。

-  イメージは、新規情報または変更された情報が始まる個所を示します。
-  イメージは、新規情報または変更された情報が終わる個所を示します。

PDF ファイルでは、新規情報と変更された情報には、左マージンにリビジョン・バー (|) が左マージンに示されています。

このリリースでの新機能または変更点に関する他の情報を調べるには、プログラム資料説明書を参照してください。

---

### SQL メッセージおよびコードの PDF ファイル

この情報の PDF ファイルを表示および印刷することができます。


本書の PDF バージョンを表示またはダウンロードするには、「SQL メッセージおよびコード」を選択します。

#### PDF ファイルの保存

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーの PDF リンクを右クリックする。
2. PDF をローカルで保管するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

## Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、ユーザーのシステムにインストールされている Adobe® Reader が必要です。このアプリケーションは、Adobe Web サイト (<http://get.adobe.com/reader/>)  から無料でダウンロードできます。

---

## SQLCODE と SQLSTATE の概念

本書には、SQLCODE と関連する SQLSTATE のリストが提供されています。これらのメッセージのテキストとともにメッセージ・ファイルにある SQLCODE を検索する方法が、本書に示されています。

SQLCODE および SQLSTATE は、SQLCA 構造に戻されるかまたは GET DIAGNOSTICS ステートメントによって戻されます。SQLSTATE は優先標準戻りコードです。SQLSTATE は、アプリケーション・プログラムに DB2 製品の中で検出された共通エラー条件の戻りコードを渡します。SQLSTATE は、分散 SQL アプリケーションで起こったエラーを処理するときを使用すると、特に便利です。

### SQLCODE

SQLCODE は戻りコードです。戻りコードは、各 SQL ステートメントの完了後に、データベース・マネージャによって送信されます。

DB2 for i アプリケーション・サーバーで認識されるそれぞれの SQLCODE には対応するメッセージがあり、メッセージ・ファイル QSQLMSG に入っています。SQLCODE のメッセージ ID は、SQLCODE の絶対値 (5 桁) を SQ の後に付け加え、SQLCODE の 1 文字目が '0' の場合は、3 文字目を 'L' に変えることによって構成されます。例えば、SQLCODE が 30070 の場合、メッセージ ID は、SQ30070 になります。SQLCODE が -0204 であれば、メッセージ ID は SQL0204 となります。最後に、SQLCODE が 3 桁の正数の場合は、最初の数字の前にゼロを追加します。たとえば、SQLCODE が 551 の場合は、メッセージ ID は SQL0551 となります。

### SQLSTATE

SQLSTATE は、アプリケーション・プログラムに DB2 製品の中で検出された正常、警告、およびエラー状態を示す共通戻りコードを渡します。SQLSTATE 値は、分散 SQL アプリケーションで起こったエラーを処理するときを使用すると、特に便利です。SQLSTATE 値は、SQL 1999 標準に含まれている SQLSTATE 仕様と整合しています。

SQLSTATE 値は、最後に実行された SQL ステートメントの結果を示す戻りコードです。SQLSTATE 値にアクセスするために使用されるメカニズムは、SQL ステートメントが実行された場所によって異なります。Java™ では、SQLSTATE 値は `getSQLState()` メソッドを使用して戻されます。SQL 関数、SQL プロシージャ、SQL トリガー、および Java 以外の組み込みアプリケーションの場合、SQLSTATE 値は次のようにして戻されます。

- SQLCA の最後の 5 バイト
- 独立型 SQLSTATE 変数
- GET DIAGNOSTICS ステートメント

SQLSTATE 値は、アプリケーション・プログラムが特定の条件または条件のクラスをテストできるように設計されています。

SQLSTATE 値は、2 文字のクラス・コード値とそれに続く 3 文字のサブクラス・コード値で構成されています。クラス・コード値は、正常に完了した、または、失敗した条件のクラスを表します。アプリケーション

ンの戻りコードのベースに SQLSTATE を使用したい場合は、以下のガイドラインに従って、独自に SQLSTATE クラスまたはサブクラスを定義できます。

- 7 から 9 まで、または I から Z までの文字で始まる SQLSTATE クラスを定義できます。これらのクラスの範囲内であれば、任意にサブクラスを定義できます。
- 0 から 6 まで、または A から H までの文字で始まる SQLSTATE クラスは、データベース・マネージャー用に予約済みです。0 から H までの文字で始まるサブクラスは、データベース・マネージャー用に予約済みです。I から Z までの文字で始まるサブクラスを定義できます。

SQLSTATE 値のクラス・コードは、SQL ステートメントが正常に実行されたか (クラス・コード 00 と 01) または失敗したか (それ以外のすべてのクラス・コード) を示します。

SQLSTATE は SQLCODE と関連しています。SQLSTATE には、それぞれに関連づけられた 1 つ以上の SQLCODE があります。SQLSTATE は複数の SQLCODE を参照することがあります。

## DB2 for i 以外のアプリケーション・サーバーから戻される SQLSTATE

00000 以外の SQLSTATE が DB2 for i ではないアプリケーション・サーバーから戻される場合、DB2 for i は、その SQLSTATE を DB2 for i SQLCODE およびメッセージにマップすることを試行し、次の結果を得ます。

- SQLSTATE が DB2 for i に認識されないときは、そのクラスの共通メッセージが出されます。
- SQLSTATE と SQLCODE が単一の DB2 for i SQLCODE に対応する場合は、DB2 for i は戻されたトークンを SQL メッセージに適合する置換データに変換しようとします。トークンの変換時にエラーが生じた場合、次のような結果になります。
  - トークンは、変換されずに SQLCA の SQLERRM フィールドまたは SQL 診断域に戻されます。
  - SQLSTATE のクラス・コードの共通メッセージが出されます。

### 関連資料

『SQLSTATE クラス・コードのリスト』

この表は、一般的な SQLSTATE クラスをリストしたものです。それぞれのクラスは、それらのクラスを構成する、より特定の SQLSTATE コードのリストにリンクしています。

5 ページの『SQLSTATE 値のリスト』

このトピックの表では、DB2 for i5/OS® によってアプリケーションに戻される可能性のある SQLSTATE コードについて説明します。この表には、SQLSTATE 値、その意味、およびそれに対応する SQLCODE 値が含まれます。

SQL メッセージ・ファインダー

---

## SQLSTATE クラス・コードのリスト

この表は、一般的な SQLSTATE クラスをリストしたものです。それぞれのクラスは、それらのクラスを構成する、より特定の SQLSTATE コードのリストにリンクしています。

クラス・コード	意味	サブコード
00	無条件正常終了	5 ページの表 1
01	警告	5 ページの表 2
02	データなし	7 ページの表 3
07	動的 SQL エラー	7 ページの表 4

クラス・コード	意味	サブコード
08	接続例外	8 ページの表 5
09	トリガー・アクション例外	8 ページの表 6
0A	機能がサポートされていない	8 ページの表 7
0E	スキーマ名リスト指定が無効	8 ページの表 8
0F	トークンが無効	8 ページの表 9
0K	ハンドラーが活動状態でない場合の再シグナル	9 ページの表 10
0N	SQL/XML マッピング・エラー	9 ページの表 11
0W	禁止されたステートメントが、トリガー中に検出された	9 ページの表 12
0Z	診断例外	9 ページの表 13
20	CASE ステートメントにケースが見つからない	9 ページの表 14
21	カーディナリティ違反	9 ページの表 15
22	データ例外	9 ページの表 16
23	制約違反	11 ページの表 17
24	カーソル状態が無効	12 ページの表 18
25	トランザクション状態が無効	12 ページの表 19
26	SQL ステートメント ID が無効	12 ページの表 20
27	起動されたデータ変更違反	12 ページの表 21
28	許可指定が無効	12 ページの表 22
2D	トランザクション終了が無効	13 ページの表 23
2E	接続名が無効	13 ページの表 24
2F	SQL 関数例外	13 ページの表 25
33	無効な SQL 記述子名	13 ページの表 26
34	カーソル名が無効	13 ページの表 27
35	条件番号が無効	13 ページの表 28
36	カーソル・センシティブィティ例外	13 ページの表 29
38	外部関数例外	14 ページの表 30
39	外部関数呼び出し例外	14 ページの表 31
3B	無効な SQL 記述子名	14 ページの表 32
3C	あいまいなカーソル名	14 ページの表 33
42	構文エラーまたはアクセス規則違反	15 ページの表 34
44	WITH CHECK OPTION 違反	23 ページの表 35
46	Java エラー	23 ページの表 36
51	アプリケーション状態が無効	23 ページの表 37
53	無効なオペランドまたは矛盾する指定	24 ページの表 38
54	SQL または製品制限を超過	24 ページの表 39
55	オブジェクトが前提条件の状態にない	25 ページの表 40
56	その他の SQL または製品エラー	25 ページの表 41
57	リソースが使用不可またはオペレーター介入	26 ページの表 42
58	システム・エラー	26 ページの表 43

## SQLSTATE 値のリスト

このトピックの表では、DB2 for i5/OS によってアプリケーションに戻される可能性のある SQLSTATE コードについて説明します。この表には、SQLSTATE 値、その意味、およびそれに対応する SQLCODE 値が含まれます。

表 1. クラス・コード 00: 無条件正常終了

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
00000	操作は正常に実行されました。警告または例外条件は発生していません。	+000

表 2. クラス・コード 01: 警告

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
01002	DISCONNECT エラーが起きました。	+596
01003	NULL 値が、集約関数の引数から除去されました。	+000
01004	ストリングの値が、長さの短い別のストリング・データ・タイプに割り当てられたときに切り捨てられました。	+000、+445、+802、+20141
01005	SQLDA の項目数が不足しています。	+239
01006	特権は取り消されませんでした。	+569
01007	特権が付与されていません。	+570
01009	検索条件が、情報スキーマには長すぎます。	+177
0100A	ビューの照会式が、情報スキーマには長すぎます。	+178
0100C	1 つ以上の adhoc の結果セットが、プロシージャーから返されました。	+466
0100D	クローズしていたカーソルが、チェーン内の次の結果セットで再度オープンしました。	+467
0100E	プロシージャーが戻した結果セットが多すぎます。	+464、+20206
01503	結果列の数が、指定された変数の数よりも大きくなっています。	+000、+030
01504	UPDATE または DELETE ステートメントに、WHERE 文節がありません。	+000、+088
01505	ステートメントはこの環境では受け入れられないため、実行されませんでした。	+084、+143
01506	算術演算の結果である無効な日付を訂正するため、DATE または TIMESTAMP の値が調整されました。	+000
01515	列の非 null 値が変数の範囲外にあるため、null 値が変数に割り当てられました。	+304
01517	変換できない文字を、置換文字で置き換えました。	+335
01519	数値が範囲外であるため、null 値が変数に割り当てられました。	+802
01520	文字を変換することができないため、null 値が変数に割り当てられました。	+331
01522	CREATE ALIAS ステートメントに使用されているローカルの表名またはビュー名が未定義です。	+403
01526	分離レベルがエスカレートされました。	+595
01527	SET ステートメントが AS に存在しない特殊レジスターを参照します。	+799
01528	索引キーに null 値を含めることができないため、WHERE NOT NULL は無視されました。	+645
01532	未定義のオブジェクト名が検出されました。	+204
01534	日時値のストリング表記が無効です。	+180、+181

表 2. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
01535	日付またはタイム・スタンプの算術演算の結果が、有効な日付の範囲内にありません。	+183
01536	存在チェックが据え置かれている遠隔バインド中に、指定されたサーバー名が現行サーバーと一致しません。	+114
01539	接続は成功しましたが、SBCS 文字のみが使用できます。	+863
01542	許可 ID は、指定された操作を実行する特権を持っていません。	+552
01544	サブstring・エラー (たとえば、SUBSTR の引数が範囲外にある) のため、null 値が変数に割り当てられました。	+138
01545	修飾されていない列名が、関連参照として解釈されました。	+012
01547	混合データ値が正しくない形式になっています。	+191、+304、+802
01548	許可 ID に、識別されたオブジェクトに対して指定された操作を実行する権限がありません。	+551
01557	SELECT INTO または FETCH に指定された変数の数が多すぎます。	+326
01564	ゼロで割り算を行ったため、null 値が変数に割り当てられました。	+802
01565	各種データ例外が起きたために、null 値が変数に割り当てられました。その例外とは、たとえば CAST、DECIMAL、FLOAT、または INTEGER スカラー関数の文字値が無効である場合や、パック 10 進フィールドに浮動小数点 NAN (非数字) データまたは無効データが検出された場合です。	+304、+420、+20365、+802
01567	表は作成されましたが、ジャーナルされませんでした。	+7905
01587	作業単位がコミットあるいはロールバックされましたが、その結果がすべてのサイトで完全に認識されているわけではありません。	+990
01593	ALTER TABLE はデータ切り捨ての原因となる場合があります。	+460
01594	ALL 情報のための SQLDA の項目数が不足しています (明確に区別された名前を返すために十分な記述子がありません)。	+237
01614	結果セットの数よりロケーターの数が少ないです。	+494
01623	DEGREE の値は無視されます。	+1530
01627	表が調整ベンディングまたは調整不能状態のため、DATALINK 値は無効である可能性があります。	+360
01634	特殊データ・タイプ名が長すぎて、SQLDA に戻すことができません。代わりに、短い名前が戻されます。	+7036
01643	SQLCODE または SQLSTATE 変数に対する割り当ては、警告またはエラーを示してはいません。	+385
01646	カーソルが閉じたため、結果セットを戻すことができませんでした。	+7050
01647	DB2SQL BEFORE トリガーが DB2ROW に変更されました。	+7051
01660	ルーチンは作成されましたが、リストアはカタログを更新しません。	+7909
01662	リリース・レコード・オプションが CLOSE で無視されました。	+30107
01680	オプションを指定したコンテキストでは、そのオプションはサポートされていません。	+20367
01685	NOT DETERMINISTIC 関数または EXTERNAL ACTION 関数の正しくない使用が検出されました。	+583
01687	データベース・リソースを使用できませんでした。処理を続行します。	+904
0168C	10 進浮動小数点演算で、不正確な結果が生成されました。	+364

表 2. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0168D	10 進浮動小数点演算は無効でした。	+364
0168E	10 進浮動小数点演算は、オーバーフローまたはアンダーフローを生成しました。	+364
0168F	10 進浮動小数点演算は、0 での除算を生成しました。	+364
0168G	10 進浮動小数点演算で、正常以下の数値が生成されました。	+364
0168I	SQL ステートメントは、指定されたフラグ・レベルに準拠しています。	+362
0168P	デフォルト・ジョブ CCSID 用として関連付けられた混合またはグラフィックの CCSID が存在しません。	+20446
0168R	テキスト索引は、期限切れの可能性があります。	+20455
0168U	プロシージャが関数またはトリガーから直接または間接的に呼び出されたため、結果セットはクライアントに返されません。	+20463
01693	PROGRAM TYPE SUB が PROGRAM TYPE MAIN に変更されました。	+7057
01Hxx	有効な警告 SQLSTATE が、ユーザー定義関数または外部プロシージャ CALL によって返されました。	+462

表 3. クラス・コード 02: データなし

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
02000	以下のいずれかの例外が起きました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SELECT INTO ステートメントの結果、または INSERT ステートメントの副選択の結果が、データのない表になった。</li> <li>探索型の UPDATE または DELETE ステートメントで指定された行の数がゼロになった。</li> <li>FETCH ステートメントで参照されたカーソルの位置が、結果表の最終行の後になった。</li> <li>フェッチの方向は無効です。</li> </ul>	+100
02001	追加の結果セットは戻されません。	+387
02503	ALLOCATE CURSOR ステートメントで識別されるプロシージャが ad hoc の結果セットを返しませんでした。	+482
02505	GET DESCRIPTOR VALUE が COUNT より大きくなっています。	+20298

表 4. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
07001	変数の数がパラメーター・マーカースの数として正しくありません。	-313
07002	呼び出しパラメーター・リストまたは制御ブロックが無効です。	-804
07003	EXECUTE ステートメントで識別されたステートメントが、選択ステートメントであるか、または準備された状態にありません。	-518
07004	動的パラメーターに USING 文節または INTO 文節が必要です。	-313
07005	カーソルのステートメント名が、カーソルと関連付けられない準備されたステートメントを識別しました。	-517
07006	データ・タイプが適切でないため、入力変数、変換変数またはパラメーター・マーカースを使用できません。	-301

表 4. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
07008	記述子カウントが無効です。	-074
07009	記述子索引が無効です。	-075
0700C	DATA 値が未定義です。	-822
0700E	無効な LEVEL が SET DESCRIPTOR ステートメントに指定されました。	-804
0700F	無効な DATETIME_INTERVAL_CODE が SET DESCRIPTOR ステートメントに指定されました。	-804

表 5. クラス・コード 08: 接続例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
08001	アプリケーション・リクエスターが接続を確立できません。	-30080、-30081、-30082、-30089
08002	接続がすでに存在します。	-842
08003	接続が存在しません。	-843、-900
08004	アプリケーション・サーバーが、接続の確立を拒否しました。	-30060、-30061
08501	DISCONNECT は、接続が LU 6.2 保護会話を使用しているときは許可されません。	-858

表 6. クラス・コード 09: トリガー・アクション例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
09000	トリガー SQL ステートメントが失敗しました。	-723

表 7. クラス・コード 0A: サポートされていない機能

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0A001	処理が接続可能状態にないため、CONNECT ステートメントは無効です。	-752

表 8. クラス・コード 0E: スキーマ名リスト指定が無効

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0E000	パス名リストが無効です。	-329

表 9. クラス・コード 0F: 無効なトークン

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0F001	ロケーター値は現在いかなる値も表していません。	-423

表 10. クラス・コード 0K: ハンドラーが活動状態でない場合の再シグナル

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0K000	RESIGNAL が発行されましたが、ハンドラーが活動状態ではありません。	-787

表 11. クラス・コード 0N: SQL/XML マッピング・エラー

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0N002	文字を有効な XML 文字にマップできません。	-20377

表 12. クラス・コード 0W: 禁止されたステートメントがトリガー中に検出された

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0W000	このステートメントは、トリガーの中では許可されません。	-751

表 13. クラス・コード 0Z: 診断例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
0Z001	スタック診断域の最大数を超過しています。	-20226
0Z002	活動中のハンドラーを使用せずに、スタック診断にアクセスしました。	-20228

表 14. クラス・コード 20: CASE ステートメントにケースが見つからない

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
20000	CASE ステートメント用のケースが見つかりませんでした。	-773

表 15. クラス・コード 21: カーディナリティー違反

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
21000	SELECT INTO、スカラー全選択、または基本述部の副照会の結果が複数です。	-811
21506	MERGE ステートメントの更新、削除、または挿入操作で、ターゲット表の同じ行が複数回確認されました。	-788

表 16. クラス・コード 22: データ例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
22001	文字データの右側が切り捨てられました。たとえば、更新または挿入の値が、列には長すぎる文字列である、またはホスト変数が小さすぎるため、日時の値をその変数に割り当てられない、などが考えられます。	-302、-303、 -404、-433、-802
22002	値が NULL、または標識パラメーターがないことがわかりました。たとえば、標識変数が指定されていないため、NULL 値が変数に割り当てられない、などが考えられます。	-305
22003	数値が範囲を超えています。	-302、-304、 -406、-446、-802

表 16. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
22004	NULL 値は許可されていません。	-087, -305
22005	割り当てでエラーが発生しました。	-076
22006	フェッチの方向は無効です。	-231
22007	無効な日時形式が検出されました。これは、無効なストリング表現または値が指定されたことが考えられます。	-180, -181, -20447, -20448
22008	日時フィールドにオーバーフローが起きました。たとえば、日付またはタイム・スタンプの算術演算の結果が、有効な日付の範囲内でないことが考えられます。	-183
I 2200E	配列ターゲットに NULL 値が入っています。	-20439
I 2200L	XML 値が、単一のルート・エレメントを持つ整形形式文書ではありません。	-20345
I 2200M	XML 文書が無効です。	-16168, -20398, -20400
I 2200S	XML コメントが無効です。	-20331
I 2200T	XML 処理命令が無効です。	-20332
I 2200W	直列化できないデータが XML 値に含まれていました。	-20412
22010	無効な標識パラメーター値です。	-363
22011	サブストリング・エラーが起きました。たとえば、SUBSTR または SUBSTRING の引数が範囲内でないことが考えられます。	-138
22012	0 による除算は無効です。	-802
22018	CAST、DECIMAL、FLOAT、または INTEGER スカラー関数については、文字の値は無効です。	-420
22019	LIKE 述部に無効なエスケープ文字があります。	-130
I 2201R	XML 文書が無効です。	-20399
22021	文字がコード化文字セットの中にないか、または変換がサポートされていません。	-330, -331
22023	パラメーターまたは変数の値が無効です。	-302, -304, -406, -802
22024	NUL で終了する入力ホスト変数またはパラメーターに、NUL がありません。	-302
22025	LIKE 述部ストリング・パターンに、無効なエスケープ文字のオカレンスがあります。	-130
I 2202E	配列エレメント・エラー。	-20439
I 2202F	配列データが右側で切り捨てられました。	-20440
22501	可変長ストリングの長さコントロール・フィールドが、負の値になっているか、または最大値を超えています。	-311
22502	各種のデータ例外が起きたため、null 値が変数に割り当てられました。	-20365
22503	名前のストリング表記が無効です。	-188
22504	混合データの値が無効です。	-191, -304, -406, -802
22511	ROWID または参照列の値が無効です。	-399
22522	CCSID の値が、完全に無効であるか、データ・タイプまたはサブタイプに対して無効であるか、またはエンコード・スキーマに対して無効です。	-189
22524	文字変換の結果、切り捨てが行われました。	-334
22525	パーティション・キー値が無効です。	-327

表 16. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
22527	複数行挿入で無効の入力データが検出されました。	-30106
22528	DECRYPT_CHAR 関数と DECRYPT_DB 関数のバイナリー・データは無効です。	-20224
22534	XML スキーマ文書が、組み込みまたは再定義を使用して他の XML スキーマ文書と接続されていません。	-20340
22535	XML スキーマが、指定されたグローバル・エレメントを宣言していません。	-20346
22536	必須のルート・エレメントが XML 値に含まれていません。	-20347
22539	拡張標識パラメーター値の使用は無効です。	-365
22540	UPDATE ステートメントのすべての列を UNASSIGNED に設定することはできません。	-20434
225D1	指定された XML スキーマは分解可能になっていません。	-16265
225D2	XML 文書の分解中に SQL エラーが発生しました。	-16266
225DE	XML スキーマを分解可能にすることができません。	-16246、-16247、-16248、-16249、-16250、-16251、-16252、-16253、-16254、-16255、-16257、-16258、-16259、-16260、-16262
225X0	XSLT プロセッサ・エラー。	-16280

表 17. クラス・コード 23: 制約違反

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
23001	親キーの更新または削除が、RESTRICT 更新または削除の規則によって妨げられています。	-531、-532
23502	挿入または更新の値が NULL ですが、列に NULL 値を入れることはできません。	-407
23503	外部キーの挿入または更新の値が無効です。	-530
23504	親キーの更新または削除が、NO ACTION 更新または削除の規則によって妨げられています。	-531、-532
23505	固有索引または固有制約で定められている制約に対する違反が起きました。	-803
23507	フィールド・プロシージャによって課された制約の違反が発生しました。	-681
23511	チェック制約が削除を制限しているため、親行を削除できません。	-543
23512	表に制約定義を満たしていない行があるため、チェック制約を追加できません。	-544
23513	INSERT または UPDATE の結果の行が、チェック制約定義に合いません。	-545
23515	表にある指定されたキーの値が重複しているため、ユニーク索引を作成できないか、またはユニーク制約を追加できませんでした。	-603
23520	外部キーの値が、親表の親キーとすべて等しくないため、外部キーを定義できません。	-667
23522	ID 列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。	-359

表 18. クラス・コード 24: 無効なカーソル状態

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
24501	識別されたカーソルがオープンしていません。	-501、-507
24502	OPEN ステートメントで識別されたカーソルが、すでにオープンしています。	-502、-7055
24504	UPDATE、DELETE、SET、または GET ステートメントで識別されたカーソルが、行に位置付けられていません。	-508
24506	PREPARE で識別されたステートメントは、オープン・カーソルのステートメントです。	-519
24507	FETCH CURRENT が指定されましたが、現在行は削除されているか、または現在行の ORDER BY 列の値が変更されています。	-226
24513	カーソル位置が不明のため、FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE は許可されません。	-227
24514	以前のエラーによって、このカーソルを使用できません。	-906
24516	カーソルは既に、結果セットに割り当て済みです。	-499

表 19. クラス・コード 25: 無効なトランザクション状態

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
25000	挿入、更新、または削除操作は、それらが指定されたコンテキストでは無効です。	-30090
25001	ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されます。	-428
25006	トランザクションが読み取り専用であるため、更新操作は無効です。	-817

表 20. クラス・コード 26: 無効な SQL ステートメント ID

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
26501	識別されたステートメントが存在しません。	-514、-516
26510	DECLARE CURSOR の中で指定されたステートメント名に対して、すでにカーソルが割り振られています。	-5023

表 21. クラス・コード 27: トリガー・データ変更違反

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
27000	同じ SQL ステートメント内の同じテーブル内の同じ行の変更が、複数回試みられました。	-907

表 22. クラス・コード 28: 無効な許可指定

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
28000	許可名が無効です。	-113、-188

表 23. クラス・コード 2D: 無効なトランザクション終了

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
2D522	COMMIT と ROLLBACK は、ATOMIC コンパウンド・ステートメントでは許可されません。	-774
2D528	動的 COMMIT または COMMIT ON RETURN プロシージャが、アプリケーション実行環境では無効です。	-426、-30090
2D529	動的 ROLLBACK が、アプリケーション実行環境では無効です。	-427、-30090

表 24. クラス・コード 2E: 無効な接続名

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
2E000	接続名が無効です。	-113、-188、-251

表 25. クラス・コード 2F: SQL 関数例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
2F002	SQL 関数がデータを変更しようとしたのですが、その関数は MODIFIES SQL DATA として定義されていませんでした。	-577
2F003	このステートメントは、関数またはプロシージャの中では許可されません。	-751
2F004	SQL 関数がデータを読み取ろうとしたのですが、その関数は READS SQL DATA として定義されていませんでした。	-579
2F005	関数は RETURN ステートメントを実行しませんでした。	-578

表 26. クラス・コード 33: 無効な SQL 記述子名

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
33000	SQL 記述子名が無効です。	-077

表 27. クラス・コード 34: 無効なカーソル名

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
34000	カーソル名が無効です。	-504

表 28. クラス・コード 35: 無効な条件番号

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
35000	条件番号が無効です。	-393

表 29. クラス・コード 36: カーソル・センシティブィー例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
36001	SENSITIVE カーソルは、指定した選択ステートメントには定義できません。	-243

表 30. クラス・コード 38: 外部関数例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
38xxx	外部ルーチンまたはトリガーにより、有効なエラー SQLSTATE が戻されました。	-443
38000	Java ルーチンが、例外とともに終了しました。	-4302
38001	外部ルーチンは、SQL ステートメントの実行を許可されません。	-487
38002	外部ルーチンがデータを変更しようと試みましたが、そのルーチンは MODIFIES SQL DATA として定義されていません。	-577
38003	ステートメントはルーチンでは許可されていません。	-751
38004	外部ルーチンがデータを読み取ろうと試みましたが、そのルーチンは READS SQL DATA として定義されていません。	-579
38501	ユーザー定義の関数、プロシージャ、またはトリガー (SIMPLE CALL または SIMPLE CALL WITH NULLS 呼び出し規則を使用) の呼び出し中にエラーが発生しました。	-443
38H10	CONTAINS 関数または SCORE 関数のテキスト検索処理中に、エラーが起きました。	-20423
38H11	テキスト検索管理テーブルの 1 つで、問題が検出されました。	-20424
38H12	この列のテキスト索引は存在しないので、テキスト検索処理を実行できません。	-20425
38H13	この索引に対して、更新などの、競合するテキスト検索管理プロシージャがすでに実行中です。	-20426
38H14	テキスト検索管理プロシージャ中に、エラーが起きました。	-20427

表 31. クラス・コード 39: 外部関数呼び出し例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
39001	ユーザー定義関数が無効な SQLSTATE を返しました。	-463
39004	PARAMETER STYLE GENERAL または Java プリミティブ・タイプの引数を使用するときは、IN 引数または INOUT 引数に対して NULL 値は許可されません。	-470、-20205

表 32. クラス・コード 3B: セーブポイント例外

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
3B001	セーブポイントが無効です。	-880
3B002	セーブポイントが最大数に達しました。	-20112
3B501	重複するセーブポイント名が削除されました。	-881
3B502	RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT が指定されましたが、セーブポイントは存在しません。	-882
3B504	セーブポイントをサポートしないリソースが登録されているため、SAVEPOINT は許可されません。	-175

表 33. クラス・コード 3C: あいまいなカーソル名

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
3C000	カーソル名があいまいです。	-051

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42501	許可 ID に、識別されたオブジェクトに対して指定された操作を実行する権限がありません。	-551
42502	許可 ID に、指定された操作を実行する権限がありません。	-552
42506	所有者の許可が失敗しました。	-30053
42601	文字、トークン、または文節が、無効もしくは欠けています。	-007、-011、-029、-097、-104、-109、-115、-128、-172、-199、-441、-491
42602	名前に無効な文字が見つかりました。	-113、-567、-251
42603	未終了ストリング定数が見つかりました。	-010
42604	無効な数値またはストリング定数が見つかりました。	-103、-105
42605	スカラー関数に指定された引数の数が無効です。	-170
42606	無効な 16 進定数が見つかりました。	-110
42607	集約関数のオペランドまたは CONCAT 演算子が無効です。	-112
42608	VALUES または割り当てステートメントでの NULL または DEFAULT の使用は無効です。	-584
42609	演算子または述部のオペランドが、すべてパラメーター・マーカーです。	-417
42610	パラメーター・マーカーは許可されていません。	-184、-418
42611	列、引数、パラメーター、またはグローバル変数の定義は無効です。	-106、-604、-4903、-4905、-4917
42612	ステートメント・ストリングが、示されているコンテキストでは受け入れられない SQL ステートメントです。	-084、-142
42613	文節が相互に排他的です。	-628
42614	重複キーワードまたは文節は無効です。	-637
42615	無効な代替が見つかりました。	-644
42616	無効なオプションが指定されています。	-5047
42617	ステートメント・ストリングがブランクまたは空です。	-198
42618	ホスト変数は許可されていません。	-090、-312、-5012、-5024
42620	読み取り専用 SCROLL が UPDATE 文節で指定されました。	-228
42621	チェック制約または生成された列式が無効です。	-546
42622	名前またはラベルが長すぎます。	-107
42623	DEFAULT 文節を指定できません。	-373
42625	CASE 式が無効です。	-580
42629	SQL ルーチンにパラメーター名を指定しなければなりません。	-078
42631	式は、SQL 関数の中の RETURN ステートメントで指定する必要があります。	-057
42633	XMLATTRIBUTES または XMLFOREST の引数に AS 節が必要です。	-20227
42634	XML 名が無効です。	-20275

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42635	XML 名前空間接頭部が無効です。	-20276
42701	同じ SQL ステートメントの割り当てで、同じターゲットが 2 回以上指定されています。	-121
42702	重複する名前があるため、列の参照が未確定です。	-203
42703	未定義の列名またはパラメーター名が検出されました。	-205、-206、 -213、-5001
42704	未定義のオブジェクトまたは制約名が見つかりました。	-204
42705	未定義のサーバー名が見つかりました。	-950
42707	ORDER BY の中の列名が、結果表の列を示していません。	-208
42709	キー列リストに重複する列名が指定されています。	-537
42710	重複するオブジェクトまたは制約名が見つかりました。	-456、-601
42711	オブジェクト定義または ALTER TABLE ステートメントにおいて、重複した列名が検出されました。	-612
42712	重複するテーブル指定子が FROM 文節、または CREATE TRIGGER ステートメントの REFERENCING 文節で見つかりました。	-212
42713	オブジェクトのリストで重複オブジェクトが検出されたか、または重複オブジェクトが既存のオブジェクトと同じです。	-242
42718	ローカル・サーバー名が定義されていません。	-250
42723	同じシグニチャーを持つ関数が、すでにスキーマに存在します。	-454
42724	ユーザー定義関数またはプロシージャに使用される外部プログラムにアクセスできません。	-444、-4300、 -4303、-4304、 -4306
42725	ルーチンが (シグニチャーまたは特定のインスタンス名を使わずに、) 直接参照されましたが、そのルーチンの特定インスタンスが複数存在します。	-476
42726	複数の共通テーブル式に重複した名前が検出されました。	-340
42732	特殊レジスター内で重複したスキーマ名が検出されました。	-585
42733	指定された名前を持つプロシージャをスキーマに追加することはできません。これは、プロシージャ多重定義がこのデータベース内で許されず、スキーマ内にすでに同一の名前を持つプロシージャが存在しているためです。	-484
42734	重複するパラメーター名、SQL 変数名、ラベル、または条件名が検出されました。	-590
42736	GOTO、ITERATE、または LEAVE ステートメント上のラベル指定が、見つからないかまたは無効です。	-779
42737	指定された条件が定義されていません。	-781
42738	重複する列名または名前のない列が、FOR ステートメントの DECLARE CURSOR ステートメントに指定されました。	-783
42747	同じ記述子項目が、同一 SET DESCRIPTOR ステートメントで複数回指定されました。	-20299
42749	XML スキーマについて、同じターゲット名前空間およびスキーマ・ロケーションを持つ XML スキーマ文書が既に存在しています。	-20328
4274A	XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリに見つかりません。	-20330
4274B	固有の XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリに見つかりませんでした。	-20335
42802	挿入値または更新値の数が、列または変数の数と同じではありません。	-117

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42803	列がグループ列ではないため SELECT または HAVING 文節での列の参照が無効であるか、または GROUP BY 文節での列の参照が無効です。	-119、-122
42804	CASE 式の結果式に互換性がありません。	-581
42805	ORDER BY 文節の整数が、結果表の列を識別していません。	-125
42806	データ・タイプに互換性がないため、変数に値を割り当てられません。	-303
42807	データ変更ステートメントは、このオブジェクトでは許可されません。	-150、-155
42808	INSERT または UPDATE 操作で識別された列は更新できません。	-151
42809	識別されたオブジェクトは、ステートメントが適用するタイプのオブジェクトではありません。	-152、-156、 -159
42810	基本表が FOREIGN KEY 文節で識別されません。	-157
42811	指定された列数が、SELECT 文節の列数と同じではありません。	-158
42812	CREATE TABLE では、システム命名モードのライブラリー名が必要です。	-5002
42813	指定されたビューには、WITH CHECK OPTION を使用できません。	-160
42814	この列は表内の唯一の列であるため、除去できません。	-195
42815	データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が無効です。	-060、-171、- 451、-713、- 846、-5005、- 20338
42816	式の日時の値または期間が無効です。	-182、-187
42817	ビューまたは制約が列に依存するか、または列がパーティション・キーの一部を成しているか、あるいはセキュリティー・ラベル列であるため、列を除去できません。	-196
42818	演算子または関数のオペランドに互換性がないか、または比較可能ではありません。	-131、-401
42819	算術演算のオペランド、または数値を必要とする関数のオペランドが数値ではありません。	-402
42820	数値定数が長すぎるか、またはそのデータ・タイプの範囲内にはない値を持っています。	-405、-410
42821	列、または変数の割り当て用の指定データ・タイプが、そのデータ・タイプと互換性がありません。	-408
42822	ORDER BY 文節または GROUP BY 文節の中の式が正しくありません。	-214
42823	単数の列のみを許可する副照会から、複数の列が戻されます。	-412
42824	LIKE のオペランドがストリングではないか、または最初のオペランドが列ではありません。	-132、-414
42825	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行に、互換性のある列がありません。	-415
42826	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行が、同じ数の列を持っていません。	-421
42827	UPDATE または DELETE で識別された表が、カーソルによって指定された表と同じではありません。	-509
42828	UPDATE または DELETE ステートメントのカーソルによって指定された表を修正できないか、またはカーソルが読み取り専用です。	-510、-520
42829	カーソルによって指定された結果表を修正できないため、FOR UPDATE OF が無効です。	-511

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42830	外部キーが親キーの記述に適合しません。	-538, -542
42831	ROW CHANGE TIMESTAMP の列では、NULL 値は許可されません。	-593
42832	操作がシステム・オブジェクトでは許可されていません。	-607
42833	修飾オブジェクト名が命名オプションと矛盾しています。	-5016
42834	外部キーのいずれの列にも NULL 値を割り当てられないため、SET NULL は指定できません。	-629
42835	名前派生表の間では、循環参照は指定できません。	-341
42836	再帰的な名前派生表の指定は無効です。	-345, -346
42837	列の属性が現在の列属性と非互換であるため、列を変更できません。	-190
42841	パラメーター・マーカは、ユーザー定義タイプまたは参照タイプにはできません。	-432
42842	指定されたオプションが、列の記述と矛盾するため、列またはパラメーターの定義が無効です。	-683
42845	NOT DETERMINISTIC 関数または EXTERNAL ACTION 関数の正しくない使用が検出されました。	-583
42846	ソース・タイプからターゲット・タイプへのキャストはサポートされません。	-461
42847	OVRDBF コマンドが参照ファイルの 1 つに対して出されましたが、パラメーターのいずれかが SQL の場合正しくありません。	-7002
42848	分離レベル CS WITH KEEP LOCKS は許可されません。	-194
42849	指定したオプションは、ルーチンではサポートされていません。	-20102
42850	論理ファイルは、CREATE VIEW においては無効です。	-7010
42851	参照ファイルが表、ビュー、または物理ファイルではありません。	-7011
42852	GRANT または REVOKE で指定された権限が無効であるか、または矛盾しています。(たとえば、ビューでの GRANT ALTER など。)	-557
42854	選択リストの結果列データ・タイプは、タイプ付きビューまたはマテリアライズ照会表定義に定義されているタイプと非互換です。	-20055
42855	この変数に対する LOB の割り当ては許可されません。このカーソルでの、LOB のすべてのフェッチに対するターゲット変数は、ロケーターあるいは LOB 変数である必要があります。	-392
42857	参照ファイルに複数の様式があります。	-7003
42858	操作を指定オブジェクトに適用させることができません。	-7001
42860	この制約は主キーまたは ROWID を強制しようとするため、この制約を除去することはできません。	-784
42862	拡張動的ステートメントは、非拡張動的パッケージに対しては実行できません。	-827
42863	REXX で未定義のホスト変数が見つかりました。	-306
42866	CREATE FUNCTION ステートメント内の RETURNS 文節または CAST FROM 文節の中のデータ・タイプが、関数本体のソース関数または RETURN ステートメントから戻されたデータ・タイプに該当しません。	-475
42872	FETCH ステートメント文節がカーソル定義と非互換です。	-225
42873	複数行の FETCH または複数行の INSERT において、無効な行数が指定されました。	-221
42874	ALWCOPYDTA(*NO) が指定されましたが、この選択ステートメントをインプリメントするにはコピーが必要です。	-527

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42875	修飾名のうちのスキーマ名の部分は、スキーマ名と同じ名前であればなりません。	-5051
42876	CREATE INDEX 内のキーに対しては、*HEX 照合シーケンスが指定されている場合に限って、それぞれ異なる CCSID が許可されます。	-7024
42877	列名は修飾できません。	-197
42878	無効な関数またはプロシージャ名が EXTERNAL キーワードで使用されました。	-449
42879	CREATE FUNCTION ステートメントの 1 つ以上の入力パラメーターのデータ・タイプが、ソース関数の対応するデータ・タイプに適合しません。	-492
42880	CAST TO と CAST FROM のデータ・タイプが一致しないか、または固定ストリングが切り捨てられる可能性があります。	-453
42881	関数の使用法が正しくありません。	-391
42882	特定のインスタンス名の修飾子が、関数名の修飾子と等しくありません。	-455
42883	シグニチャーが一致するルーチンは見つかりませんでした。	-458
42884	指定された名前と互換性のある引数を持つルーチンが見つかりませんでした。	-440
42885	CREATE FUNCTION ステートメントで指定した入力パラメーターの数が、SOURCE 文節で指定した関数によって与えられた数と一致しません。	-483
42886	IN、OUT、または INOUT パラメーター属性が一致しません。	-469
42887	コンテキストとの関係で関数が無効です。	-390
42888	表に主キーがありません。	-539
42889	表にはすでに主キーがあります。	-624
42890	列リストが参照文節で指定されていますが、識別された親表が、指定された列名による固有制約を持っていません。	-573
42891	重複する UNIQUE 制約がすでに存在します。	-541
42892	DELETE 規則とトリガー・イベントに互換性がないため、参照制約とトリガーは許可されません。	-675
42893	別のオブジェクトが依存しているため、オブジェクトまたは制約のドロップ、変更、または転送を行ったり、そのオブジェクトの権限を取り消したりすることはできません。	-478、-616
42894	列または文字列属性の値が無効です。	-574
42895	静的 SQL で、入力変数のデータ・タイプにプロシージャまたはユーザー定義関数のパラメーターとの互換性がないため、その入力ホスト変数は使用できません。	-301
42896	ASP 番号が無効です。	-7026
42898	無効な相関参照または変換表が、トリガー内で検出されました。	-696
42899	相関参照および列名は、FOR EACH STATEMENT 文節を持つ起動されたアクションには許可されません。	-697
428A1	ファイル参照変数によって参照されるファイルに、アクセスできません。	-452
428B3	無効な SQLSTATE が指定されました。	-435
428B7	SQL ステートメントで指定された数値は、有効範囲外です。	-490
428B8	名前変更で指定された名前が無効です。	-7029
428BA	WITHOUT RETURN カーソルを SET RESULT SETS に指定することはできません。	-20236
428C1	テーブルの列のデータ・タイプまたは属性は、1 回のみ指定できます。	-372
428C4	述部演算子の各サイドの要素数が同じではありません。	-216

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
428C7	ROWID 列または参照列の指定が無効です。	-771
428C9	ROWID 列または IDENTITY 列を、INSERT または UPDATE のターゲット列として指定することはできません。	-798
428D1	DATALINK の値によって参照されたファイルにアクセスできません。	-358
428D2	非 LOB パラメーターに AS LOCATOR を指定することはできません。	-398
428D4	FOR に指定されているカーソルを OPEN、CLOSE、または FETCH ステートメントで参照することはできません。	-776
428D5	終了ラベルが開始ラベルに一致しません。	-778
428D6	UNDO は NOT ATOMIC 複合ステートメントには許可されません。	-780
428D7	条件値は許可されていません。	-782
428D8	SQLCODE または SQLSTATE 変数宣言が無効です。	-785
428DE	PAGESIZE 値がサポートされていません。	-1583
428EC	マテリアライズ照会表に指定された全選択が無効です。	-20058
428EK	スキーマ修飾子が無効です。	-079
428EW	この表をマテリアライズ照会表に変換できないか、マテリアライズ照会表からこの表に変換できません。	-20093
428F1	SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。	-20120
428F2	SQL プロシージャの中の RETURN ステートメントで整数式を指定しなければなりません。	-058
428F9	シーケンス式はこのコンテキストでは指定できません。	-348
428FA	10 進数の位取りをゼロにする必要があります。	-336
428FC	暗号化パスワードの長さが無効です。	-20144
428FD	復号に使用されるパスワードがデータの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。	-20145
428FE	データが ENCRYPT 関数の結果ではありません。	-20146
428FI	ORDER OF 文節を指定しましたが、参照したテーブル指定子が順番になっていません。	-20214
428FJ	ビューまたはマテリアライズ照会表の外部全選択で ORDER BY または FETCH FIRST は許可されません。	-20211
428FL	データ変更ステートメントは、それが指定されるコンテキスト内では無効です。	-20165
428FM	SELECT 文節内の SQL データ変更ステートメントが、対称でないビューを指定しました。	-20166
428FP	INSTEAD OF トリガーがビューの各種操作で許可されるのは 1 つのみです。	-20178
428FQ	INSTEAD OF トリガーは、WITH CHECK OPTION を使用して定義されるビュー、WITH CHECK OPTION を使用して定義される別のビューに定義されるビューを指定してはいけません。	-20179
428FR	指定されているように列を変更できません。	-20180
428FT	CREATE または ALTER に指定したパーティション化文節は無効です。	-20183
428FY	マテリアライズ照会表内で、列を追加、除去、または変更できません。	-20235
428G0	論理ファイルにより、パーティション属性の変更は行えません。	-20246
428G2	最後のデータ・パーティションは表から除去できません。	-20251

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
428G3	全選択中の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビューに INSTEAD OF トリガーが定義されている場合、FINAL TABLE は無効です。	-20257
428G4	INPUT SEQUENCE 配列の使用が無効です。	-20258
428G6	全選択の FROM 文節中のデータ変更ステートメントのターゲットから選択できない列が指定されています。	-20259
428GI	XML スキーマ文書が欠落しているため、XML スキーマは完全ではありません。	-20329
428GU	テーブルは、暗黙で非表示になっていない少なくとも 1 つの列で構成されていなければなりません。	-20422
428GX	このコンテキストではグローバル変数を設定または参照できません。	-20430
428H0	配列タイプではないオブジェクトに配列指標を適用できません。	-20437
428H1	配列指標式のデータ・タイプが配列に対して無効です。	-20438
428H2	データ・タイプが使用されているコンテキストでは、そのデータ・タイプはサポートされていません。	-20441
42902	INSERT、UPDATE、または DELETE のオブジェクトは、FROM 文節でも識別されています (おそらく、ビューを介して暗黙で)。	-118
42903	集約関数または OLAP 関数の使用が無効です。	-120
42904	コンパイル・エラーのため、SQL プロシージャは作成されませんでした。	-7032
42906	HAVING 文節の副照会の中の集約関数の中に、演算子を相関参照に適用する式があります。	-133
42907	ストリングは、その指定先のコンテキストでは長すぎます。	-134
42908	必要な列リストがステートメントにありません。	-153, -343
42910	このステートメントは、コンパウンド・ステートメントでは許可されません。	-775
42911	10 進数の除算で、結果の位取りが負の値になるものは無効です。	-419
42912	列がカーソルの選択ステートメントの UPDATE 文節で識別されていないため、この列を更新できません。	-503
42914	副照会で参照された表が影響を受けるため、DELETE は無効です。	-536
42917	オブジェクトを明示的にドロップまたは変更できません。	-658
42918	システム定義のデータ・タイプ名 (たとえば INTEGER) で、ユーザー定義のデータ・タイプを作成することはできません。	-473
42922	DROP SCHEMA は、コミットメント制御のもとでは実行できません。	-5003
42923	プログラムまたはパッケージは、別名を参照できるように再作成する必要があります。	-7033
42924	別名は、リモート・ロケーションにある表またはビューではなく、他の別名に解決されました。	-513
42925	再帰的名が付けた派生表は、SELECT DISTINCT を指定できず、UNION ALL を指定する必要があります。	-342
42926	ロケータは、COMMIT(*NONE) とともに使用できません。	-7034
42927	関数は、1 つ以上の既存ビューで参照されているので、NOT DETERMINISTIC または EXTERNAL ACTION に変更できません。	-20073
42928	WITH EMPTY TABLE を指定できません。	-1596
42929	エンコードされたベクトル索引には FOR ALL PARTITIONS は許可されません。	-20489

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
42930	同じ列が FOR UPDATE OF および ORDER BY の中で識別されました。	-5021
42932	プログラム準備の前提事項に誤りがあります。	-30052
42937	パラメーターには混合しているサブタイプは許可されません。	-192
42939	指定された ID はシステム使用のために予約されているため、この名前は使用できません。	-457、-553、-707
42944	許可 ID は、所有者および 1 次グループ所有者のいずれにもなれません。	-7028
42961	指定されたサーバー名は、現行サーバーと一致しません。	-114
42962	長い列、LOB 列、構造型の列、またはデータ・リンク列を、索引、キー、生成された列、または制約の中で用いることはできません。	-350
42969	パッケージは作成されませんでした。	-7020
42970	COMMIT HOLD または ROLLBACK HOLD は DB2 for i5/OS アプリケーション・サーバーに対してのみ許可されます。	-7018
42971	すでにコミットメント制御が別のリレーショナル・データベースに対して活動状態であるため、SQL ステートメントをコミットメント制御下で実行することはできません。	-7017
42972	結合条件の式または MERGE ステートメントの ON 文節が、複数のオペランド表の列を参照しています。	-338
42977	許可 ID は、ローカル・サーバーへの接続中に変更できません。	-7022
42978	標識変数は短整数ではありません。	-080
42981	CREATE SCHEMA は、変更が作業単位で保留になっている場合は許可されません。	-7941
42984	*OBJOPR 権限または *OBJMGT 権限が従属ビューまたは従属表に存在し、権限を付与される側の *ALLOBJ または指定された特権がその従属表または従属ビューにないため、そのビューに特権を付与することはできません。	-7027
42985	ステートメントはルーチンでは許可されていません。	-577、-579、-751
42987	このステートメントまたはルーチンは、トリガーの中では許可されません。	-751
42990	キー列はパーティション・キー列のスーパーセットでないため、固有索引または固有制約は許可されません。	-270
42995	要求された関数は、グローバル一時表に適用されません。	-526
42996	パーティション・キーは日付/時刻列または浮動小数点列にはなれません。	-328
42997	このバージョンの DB2 アプリケーション・リクエスター、DB2 アプリケーション・サーバー、または両者の組み合わせでは、機能はされていません。	-7906
42998	外部キー列がパーティション・キー列のスーパーセットでないため、またはノード・グループが親表と同じでないため、参照制約は許可されません。	-256
42999	分散表またはビュー上では、照会は許可されません。	-255
429B6	分散表が FILE LINK CONTROL の指定されているデータ・リンク列を含んでいるため、その分散表からの行を再配布することができません。	-7037
429B7	CASCADE の削除規則を伴う参照制約を、FILE LINK CONTROL を指定した DATALINK 列を持つ表に追加することはできません。	-7038
429BD	RETURN は、SQL 行または表関数の中の ATOMIC 複合ステートメントの最後の SQL ステートメントでなければなりません。	-20148
429BM	このコンテキストでは、照合シーケンスを使用できません。	-20268

表 34. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
429BV	ROW CHANGE TIMESTAMP 列の指定が無効です。	-20354
429BX	索引キーの式は無効です。	-356
429C2	配列に指定されたデータ・タイプは、それが指定されたコンテキストでは無効です。	-20436
429C3	オブジェクトを作成または再び妥当性検査すると、無効な直接または間接自己参照が発生します。	-20481

表 35. クラス・コード 44: WITH CHECK OPTION 違反

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
44000	結果の行がビュー定義を満たしていないため、INSERT または UPDATE は許可されません。	-161

表 36. クラス・コード 46: Java エラー

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
46001	JAR プロシージャのインストールまたは置換で指定された URL は、有効な JAR ファイルを識別していません。	-20200
46002	Java プロシージャのインストール、置換、または除去で指定された JAR 名が無効です。	-20201
46003	JAR ファイルは除去できません。クラスはプロシージャによって使用されています。	-20202
46007	Java 関数が、無効なシグニチャーのある Java メソッドを持っています。	-20203
46008	Java 関数は、単一の Java メソッドにマップすることができませんでした。	-20204
46501	jar インストールまたは除去プロシージャが、デプロイメント記述子の使用を指定しました。	-20207

表 37. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
51002	SQL ステートメントの実行要求に対応するパッケージが見つかりませんでした。	-805
51003	整合性トークンが一致しません。	-818
51004	SQLDA のアドレスが無効です。	-822
51009	コミットメント制御が開始されていないため、COMMIT または ROLLBACK は許可されません。	-7007
51015	バインド時にエラーが検出されたセクションを実行しようとしてしました。	-525
51021	アプリケーション処理がロールバック操作を実行するまで、SQL ステートメントを実行できません。	-918
51030	DESCRIBE PROCEDURE ステートメントまたは ASSOCIATE LOCATOR ステートメントで参照されるプロシージャは、まだアプリケーション・プロセス内で呼び出されていません。	-480
51035	値がこのセッションでまだシーケンスについて生成されていないため、PREVIOUS VALUE 式は使用できません。	-845

表 37. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
51036	セーブポイントが未解決であるので、リモート・サーバーへの暗黙の接続は許可されません。	-20110
51037	トリガーが作動不能としてマークされているため、操作は許可されません。	-7048
51039	ENCRYPTION PASSWORD 値が設定されていません。	-20143

表 38. クラス・コード 53: 無効なオペランドまたは矛盾する指定

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
53037	パーティション化されていないテーブル・スペース内で、パーティション化索引をテーブル上に作成することはできません。	-662
53038	キーしきい値の数がゼロであるか、またはキーの列数よりも大きくなっています。	-663
53039	ALTER ステートメントの PARTITION 文節が省略されているか、または無効です。	-665
53045	キー制限定数のデータ・タイプが、列のデータ・タイプと異なります。	-678

表 39. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
54001	ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。	-101
54002	ストリング定数が長すぎます。	-102
54004	ステートメントの SELECT または INSERT リストにある表名または項目が多すぎます。	-129, -840
54005	ソート・キーが長すぎるか、またはソート・キーが持つ列が多すぎます。	-136
54006	結果ストリングが長すぎます。	-137
54008	キーが長すぎるか、キーの持っている列が多すぎるか、またはキー列が長すぎます。	-602, -613, -614, -631
54009	GRANT または REVOKE で指定されたユーザーが多すぎます。	-5017
54010	表のレコード長が長すぎます。	-101
54011	表、ビュー、または表関数に指定されている列の数が多すぎます。	-680, -101
54012	リテラルが長すぎます。	-684
54018	行が長すぎます。	-809
54019	おそらくは多数の異なる CCSID が使用されたために、遅延記述子の最大数を超過しています。	-871
54021	制約が多すぎるか、または制約のサイズが大きすぎます。	-642
54023	関数またはプロシーチャーのパラメーターまたは引数の数が、限界を超過しています。	-442, -448
54028	並行 LOB ハンドルが最大数に達しました。	-429
54035	内部オブジェクトの制限を超過しました。	-7049
54038	ネストされたルーチンまたはトリガーの最大の深さを超過しました。	-724
54044	複数バイト (UCS-2) 照合シーケンス・テーブルは、大きすぎるために DRDA® ではサポートされません。	-7031
54054	パーティションの数、またはテーブル・スペース・パーティションの数とそれに対応するパーティション制限キーの長さの組み合わせを超過しています。	-4701

表 39. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過 (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
54057	XML 要素名、属性名、名前空間接頭部、または URI が長すぎます。	-20326

表 40. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
55005	再帰は DB2 for i5/OS アプリケーション・サーバーに対してのみサポートされています。	-145
55006	オブジェクトが現在同じアプリケーション処理によって使用されているため、オブジェクトをドロップできません。	-615、-615、 -950
55007	オブジェクトが現在同じアプリケーション処理によって使用されているため、オブジェクトを変更できません。	-951
55018	スキーマはライブラリー・リストの中にあるため、除去できません。	-7006
55019	オブジェクトが無効な状態にあるため、操作できません。	-7008、-7009、 -20054
55029	ローカル・プログラムがリモート・データベースとの接続を試みました。	-862
55042	別名は、複数メンバー・ファイルの単一メンバーを識別しているため、許可されません。	-7030
55048	暗号化されたデータは暗号化できません。	-20147
55050	オブジェクトを保護スキーマの中に作成することはできません。	-7052
55058	DISABLE DEBUG MODE を使用して作成されたルーチンの場合 DEBUG MODE を変更できません。	-20313
55063	XML スキーマが操作に対して正しい状態にありません。	-20339
55068	行変更タイム・スタンプがテーブルに付いていないので、行変更タイム・スタンプ式を使用できません。	-20431

表 41. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
56016	データ・パーティションに指定された範囲が無効です。	-636
56023	リモート・オブジェクトへの無効な参照が見つかりました。	-512
56084	選択リストまたは入力リストで、サポートされていない SQLTYPE が検出されました。	-351、-352
56095	BIND オプションが無効です。	-30104
56098	暗黙的な再バインド、再コンパイル、または妥当性再検査時にエラーが発生しました。	-727
560BF	暗号化および暗号化解除機能がインストールされていません。	-20223
560C3	AFTER トリガーが INSERT ステートメント用に挿入される行を修正できません。	-989
560C4	このオプションは ARD インターフェースには無効です。	-5027、-5028
560C6	参照制約が全選択内の SQL データ変更ステートメントにより修正される行を修正できません。	-864
560CR	XML Toolkit LPO、Java JDK または JVM、あるいは PASE がインストールされていません。	-7056

表 42. クラス・コード 57: リソースが使用不可、またはオペレーター介入

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
57005	ユーティリティまたは管理プログラムの時間制限を超えたために、ステートメントは実行できません。	-666
57006	DROP または CREATE が保留中であるために、オブジェクトを作成できません。	-679
57007	操作がペンディングであるため、オブジェクトを使用できません。	-910
57010	フィールド・プロシージャをロードできませんでした。	-682
57011	仮想記憶またはデータベース・リソースを使用できません。	-904、-971、 -7053
57012	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行には影響しません。	-684、-30040
57013	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行に影響する可能性があります。	-30041
57014	要求にしたがって処理が取り消されました。	-952
57017	文字変換が定義されていません。	-332
57033	自動ロールバックなしで、デッドロックまたはタイムアウトが起きました。	-913
57042	DDM 再帰が発生しました。	-30001
57043	ローカル SQL アプリケーション・プログラムをアプリケーション・サーバー上で実行できません。	-7021
57050	ファイル・サーバーは現在使用できません。	-357

表 43. クラス・コード 58: システム・エラー

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
58002	エラーまたは無効データが出口から戻されました。	-685、-7054
58003	正しくないセクション番号が検出されました。	-144
58004	システム・エラーが発生しました (このエラーは、必ずしも後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるものではありません)。	-901、-4301
58008	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。	-30000
58009	会話の割り振り解除の原因となる分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。	-30020
58010	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えます。	-30021
58011	バインド処理の進行中は、DDM コマンドは無効です。	-30050
58012	指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド処理がアクティブではありません。	-30051
58014	DDM コマンドはサポートされていません。	-30070
58015	DDM オブジェクトはサポートされていません。	-30071
58016	DDM パラメーターはサポートされていません。	-30072
58017	DDM パラメーターの値がサポートされていません。	-30073
58018	DDM 応答メッセージがサポートされていません。	-30074

表 43. クラス・コード 58: システム・エラー (続き)

SQLSTATE 値	意味	SQLCODE 値
58028	作業単位内のリソースがそのリソースをコミットできなかったために、コミット操作が失敗しました。	-175
58033	クライアント・ドライバーへのアクセスの試行中に、予期しないエラーが発生しました。	-969

## SQL メッセージの概念

SQL メッセージは、DB2 for i を使用するアプリケーションに対して、エラー・コードまたは警告コードを戻す際に表示されます。

特定のメッセージ、SQLCODE、または SQLSTATE を検索するには、SQL メッセージ・ファインダーを使用してください。

### メッセージ記述の表示のためのメッセージ記述表示 (DSPMSGD) の使用

すべての DB2 for i メッセージ (SQLCODE を含む) の詳細記述は、メッセージ・ファイル QSQLMSG で使用可能です。それらは「メッセージ記述表示 (Display Message Description)」画面に表示し、印刷することができます。メッセージ記述を表示する CL コマンドは、DSPMSGD です。このコマンドは、メッセージの第 1 レベルおよび第 2 レベルの両方のテキストを表示します。第 1 レベルのテキストは、短い一文によるメッセージです。第 2 レベルのテキストは、一般に、原因をより詳細に説明し、考えられるリカバリー方法を示します。

SQLCODE 0204 に対応するメッセージを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
DSPMSGD RANGE(SQL0204) MSGF(QSYS/QSQLMSG)
```

### 関連資料

『SQL メッセージのリスト』

以下の表には、SQL メッセージがリストされています。これらの表を使用して、メッセージ・テキスト、原因テキスト、リカバリー・テキスト、および対応する SQLCODE と SQLSTATE を見つけることができます。

## SQL メッセージのリスト

以下の表には、SQL メッセージがリストされています。これらの表を使用して、メッセージ・テキスト、原因テキスト、リカバリー・テキスト、および対応する SQLCODE と SQLSTATE を見つけることができます。

SQLCODE が正であっても負であっても、下記の表を使用することができます。SQLCODE の絶対値に文字 SQL (SQLCODE が 10000 より小さい場合) または文字 SQ (SQLCODE が 10000 以上の場合) を付加して、メッセージ ID を判別します。各 SQLCODE は 1 つまたは複数の SQLSTATE と対応しています。

SQ16168	
メッセージ・テキスト:	XML 文書の XML 宣言が無効です。

SQ16168	
原因:	XML 文書または XML スキーマの XML 宣言が正しくありません。エラー・タイプは &1 です。エラー・タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- サポートされていないバイト・オーダー・マークが存在するか、宣言ストリングの順序が正しくないか、宣言が小文字でないか、「version=」ストリングが欠落している、またはサポートされていない属性が指定されています。</li> <li>• 6 -- 指定されたバージョンがサポートされていません。</li> <li>• 7 -- 指定されたエンコードがサポートされていないか、または内部エンコードと外部エンコードが一致していません。</li> <li>• 8 -- XML 宣言が終結していません。</li> </ul>
回復手順:	XML 文書を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-16168
SQLSTATE:	2200M

SQ16246	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &2 の &1 またはその近傍にある注釈マッピングが不完全です。理由コードは &3 です。
原因:	XML スキーマ項目をデータベース・オブジェクトにマップする注釈で、&2 の &1 の近くの情報の一部が欠落しています。理由コードは &3 です。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 行セット名が指定されていないか、または完全修飾されていません。</li> <li>• 2 - マッピングでは宛先カラムまたは条件のいずれかを指定する必要があります。宛先カラムと条件のどちらも指定されていません。</li> <li>• 3 - 注釈の形式が予期していたものではありません。</li> <li>• 4 - 注釈が空です。 &amp;2 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。 XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。</li> </ul>
回復手順:	XML スキーマの注釈を変更してください。理由コードに基づく可能な処置は次のとおりです。 1 - 行セット名を指定するか、または行セット名を完全修飾名にしてください。 2 - 宛先カラムまたは条件のいずれかを指定してください。 3 - 注釈の形式を訂正してください。 4 - 注釈値を指定してください。
SQLCODE:	-16246
SQLSTATE:	225DE

SQ16247	
メッセージ・テキスト:	ソース XML タイプ &1 をターゲット SQL タイプ &2 にマップすることはできません。
原因:	XML スキーマ文書 &4 の &3 またはその周辺にある注釈は、XML スキーマ・タイプ &1 を非互換の SQL タイプ &2 にマップします。 &4 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。 XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	XML スキーマ・タイプと SQL タイプとの互換性については、注釈付き XML スキーマの資料を参照してください。それに従って適切に注釈を訂正してください。
SQLCODE:	-16247
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16248</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 中の &2 またはその近傍に不明な注釈 &1 があります。
原因:	注釈付き XML スキーマ文書 &3 には &2 またはその近くの注釈にエラーが含まれています。注釈タグに指定された、認識されない名前は &1 です。 &3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	正しい注釈とその構文のリストについては、注釈付き XML スキーマの資料を参照してください。不明な注釈を訂正するか、除去してください。
SQLCODE:	-16248
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16249</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 の &2 またはその近傍にある db2-xdb:expression 注釈 &1 が長すぎます。
原因:	指定された式のストリング長が許容最大長を超えています。 &3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	db2-xdb:expression 注釈で指定されるストリングの制限については、注釈付き XML スキーマの資料を参照してください。それに従って適切に式を訂正してください。
SQLCODE:	-16249
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16250</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ内に複数の db2-xdb:defaultSQLSchema が存在しています。
原因:	XML スキーマ文書 &3 の &2 またはその近くにある、値 &1 の db2-xdb:defaultSQLSchema は、同じ XML スキーマ内にある XML スキーマ文書のいずれかに指定されている別の db2-xdb:defaultSQLSchema と競合します。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。  注釈付き XML スキーマを構成するすべての XML スキーマ文書を通じて、db2-xdb:defaultSQLSchema 注釈の値は 1 つでなければなりません。XML スキーマ文書 &3 の &2 またはその近くにある、指定された SQL スキーマ名 &1 は、XML スキーマのこの XML スキーマ文書または別の XML スキーマ文書にある db2-xdb:defaultSQLSchema 注釈の別の値と競合します。
回復手順:	db2-xdb:defaultSQLSchema のすべての指定が競合しないように注釈付き XML スキーマを訂正してください。
SQLCODE:	-16250
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16251</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 の &2 またはその近傍に &1 の重複注釈が定義されています。

<b>SQ16251</b>	
原因:	注釈付き XML スキーマ内に &1 の注釈が複数あります。XML スキーマ文書 &3 中の &2 またはその周辺で、このオブジェクトの重複注釈が見つかりました。&3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	XML スキーマの XML スキーマ文書から重複注釈を除去することで、注釈付き XML スキーマを訂正してください。
SQLCODE:	-16251
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16252</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 中の &2 の近傍にある db2-xdb:rowSet &1 は別のテーブルに関連付けられています。
原因:	注釈付き XML スキーマ内の行セットは、厳密に 1 つのテーブルに対応していなければなりません。&2 またはその近くにある行セット宣言で、行セット &1 とエンクロージング db2-xdb:table 注釈に指定されたテーブルとの関連付けが宣言されています。指定された行セットは、別の db2-xdb:table 注釈にある異なるテーブルに既に関連付けられています。&3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	XML スキーマのすべての注釈付き XML スキーマ文書を通じて各行セット名が厳密に 1 つのテーブルに一意的に関連付けられるように、注釈付き XML スキーマを訂正してください。
SQLCODE:	-16252
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16253</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 の行 &2 またはその近傍にある db2-xdb:condition 注釈 &1 が長すぎます。
原因:	&1 で始まる db2-xdb:condition に関連付けられているストリングの長さが許容最大長を超えています。この db2-xdb:condition は XML スキーマ文書 &3 中の行番号 &2 またはその周辺にあります。&3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	XML スキーマ文書の db2-xdb:condition の条件ストリングのサイズを小さくしてください。
SQLCODE:	-16253
SQLSTATE:	225DE

<b>SQ16254</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書 &3 の &2 の近傍にある db2-xdb:locationPath &1 が無効です。理由コードは &4 です。

SQ16254	
原因:	<p>&amp;3 の注釈付きスキーマに指定された値が無効です。 &amp;3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - URI にマップされないネーム・スペース接頭部を持つ要素または属性があります。ロケーション・パスで使用されるすべてのネーム・スペース接頭部は、このロケーション・パスを指定する注釈が含まれる XML スキーマ文書内のネーム・スペースに関連付けられていなければなりません。</li> <li>• 2 - 構文がロケーション・パスには無効な構文です。</li> <li>• 3 - 指定されたパスは、ルート・ノードから、当該要素または属性がインスタンス文書内に出現する可能性のあるロケーションへの、考えうどのパスとも一致していません。</li> </ul>
回復手順:	<p>XML スキーマの注釈を変更してください。理由コードに基づく可能な処置は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - db2-xdb:locationPath のネーム・スペース接頭部が必ず正しいことを確認するか、欠落しているネーム・スペースの宣言を追加してください。</li> <li>• 2 - db2-xdb:locationPath の値の構文がロケーション・パスに有効な構文になるようにしてください。</li> <li>• 3 - db2-xdb:locationPath の値が、ルート・ノードからロケーション・パスの終わりにある要素または属性への可能なパスに対応するようにしてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-16254
SQLSTATE:	225DE

SQ16255	
メッセージ・テキスト:	db2-xdb:rowSet 値は同じ名前の db2-xdb:table 注釈と競合します。
原因:	<p>XML スキーマ文書 &amp;3 中の &amp;2 またはその近くで使用される db2-xdb:rowSet 値 &amp;1 は、同じ名前の db2-xdb:table 注釈と競合します。注釈付き XML スキーマに &amp;1 という名前のテーブルを宣言する db2-xdb:table 注釈が含まれていますが、注釈付き XML スキーマには &amp;1 をテーブルに関連付ける db2-xdb:rowSet 注釈宣言がありません。行セットがどの db2-xdb:table 注釈でも宣言されていない場合、その行セットは db2-xdb:defaultSQLSchema の値によって修飾された同じ名前のテーブルに暗黙的に関連付けられます。注釈付き XML スキーマは、行セットと &amp;1 という同じ名前のテーブルとの暗黙的関連付けに依存する db2-xdb:rowSet 注釈を使用し、同時に db2-xdb:table 注釈を使用して &amp;1 という名前のテーブルを宣言することはできません。 &amp;3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。スキーマが分解の対象として有効ではありません。</p>
回復手順:	<p>&amp;1 という名前の db2-xdb:table 要素に db2-xdb:rowSet 子要素を追加することによって、注釈付き XML スキーマを訂正してください。そうすると、行セットがテーブルに明示的に関連付けられます。</p>
SQLCODE:	-16255
SQLSTATE:	225DE

SQ16257	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ機能 &1 は分解の対象としてサポートされていません。
原因:	<p>機能 &amp;1 が XML スキーマで使用されています。場合によっては、XML スキーマの中にサポートされていない機能が存在すると、XML スキーマが分解の対象として有効にならないことがあります。</p>

SQ16257	
回復手順:	必要に応じて、この機能を XML スキーマから除去するか、またはこの機能に関連付けられている分解注釈を除去してください。指定された XML スキーマ機能の使用制限については、分解に関する資料を参照してください。
SQLCODE:	-16257
SQLSTATE:	225DE

SQ16258	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマに再帰的要素が含まれていますが、この要素は分解の対象としてサポートされていない機能です。
原因:	XML スキーマに再帰的要素が含まれていますが、この要素は分解の対象としてサポートされていない機能です。この再帰的要素はタイプ &2 の &1 であると識別されます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	この再帰の使用を XML スキーマから除去してください。
SQLCODE:	-16258
SQLSTATE:	225DE

SQ16259	
メッセージ・テキスト:	同じ行セットにマップされる要素間の多対多マッピング関係が無効です。
原因:	XML スキーマ文書 &1 中の &2 の近傍および XML スキーマ文書 &3 の &4 の近くで検出された多対多マッピングが無効です。2つの要素宣言にそれらに lowest common ancestor として順序モデル・グループがある場合は、それらの要素宣言からそのモデル・グループまでのパスの一方のみが、そのパス内の1つ以上の要素宣言またはモデル・グループで maxOccurs > 1 を持つことが可能です。&1 および &3 と XSROBJECTCOMPONENTS カタログ・テーブルの SCHEMALOCATION カラムを照合することによって、XML スキーマ文書を確認することができます。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	多対多マッピングがなくなるように注釈を訂正してください。要素および属性のマッピングに関する規則については、注釈付き XML スキーマの資料を参照してください。
SQLCODE:	-16259
SQLSTATE:	225DE

SQ16260	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ注釈にテーブルのカラムへのマッピングが含まれていません。
原因:	XML 要素または属性をテーブルのカラムにマップする注釈が XML スキーマに含まれていません。XML スキーマが分解の対象として有効ではありません。
回復手順:	少なくとも1つの XML 要素または属性がテーブルのカラムにマップされるように、注釈を XML スキーマに追加してください。
SQLCODE:	-16260
SQLSTATE:	225DE

SQ16262	
メッセージ・テキスト:	注釈付き XML スキーマに、行セット &1 にマップされるカラムがありません。

SQ16262	
原因:	行セット &1 に関連する注釈のセットにどのカラムへのマッピングも含まれていません。行セットを分解の対象とするためには、少なくとも 1 つのカラムをいずれかの XML 要素または属性にマップする必要があります。
回復手順:	指定された行セットのカラムをいずれかの XML 要素または属性にマップする注釈を追加してください。この行セットを分解の対象とする意図がない場合は、この行セットへの参照を注釈付き XML スキーマから除去してください。
SQLCODE:	-16262
SQLSTATE:	225DE

SQ16265	
メッセージ・テキスト:	&2 内の XML スキーマ &1 は分解の対象として有効ではありません。
原因:	<p>&amp;2 の &amp;1 によって識別される XML スキーマは、分解を実行するために適した状態ではありません。この XML スキーマは次のいずれかの状態である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 分解の対象として有効ではありません (おそらく有効になる可能性はありません)</li> <li>• 分解の対象として無効です</li> </ul> <p>分解の対象として有効な XML スキーマを使用する場合にのみ分解を実行できます。XML 分解は開始されませんでした。</p>
回復手順:	XML スキーマを XML 文書の分解のために使用する前に、その XML スキーマが分解の対象として有効であることを確認してください。XML スキーマの分解状況は、&1 によって識別される XML スキーマの XSROBJECTS カタログ・テーブルの DECOMPOSITION カラムを選択することで確認することができます。
SQLCODE:	-16265
SQLSTATE:	225D1

SQ16266	
メッセージ・テキスト:	XML 文書 &1 の分解中にエラーが発生しました。
原因:	文書 &1 の分解中、データの挿入を試みている際、SQL エラーが発生しました。このエラーで戻された情報は SQLCODE &2 および SQLSTATE &3 です。このエラーは、XML 文書の何らかのデータに基づいて SQL 挿入操作を試みているときに発生しました。XML 文書は分解されませんでした。
回復手順:	SQLCODE &2 に関連付けられているメッセージを確認してください。そのメッセージで示されている処置に従ってください。
SQLCODE:	-16266
SQLSTATE:	225D2

SQ16280	
メッセージ・テキスト:	XSLT プロセッサ・エラー。
原因:	XSLTRANSFORM 機能のための XSLT 処理でエラーが発生しました。問題を説明しているテキストは &1 です。
回復手順:	このエラーについては、XSLT プロセッサの資料を参照してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-16280
SQLSTATE:	225X0

<b>SQ20054</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のファイル &1 にはリンク保留モードのデータ・リンクがあります。
原因:	<p>アクセスしたファイル &amp;1 には、理由コード &amp;3 のためにリンク保留モードのデータ・リンクがあります。理由コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 21 データ・リンクの状況を確認できません。ファイルはリンク保留モードの時には、INSERT および UPDATE ステートメントに使用することはできません。</li> </ul>
回復手順:	WRKPFDL (物理ファイル・データ・リンクの処理) コマンドを使用して、データ・リンクがリンク保留モードになっているファイルを判別してください。保留中のリンクを解決して要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20054
SQLSTATE:	55019

<b>SQ20055</b>	
メッセージ・テキスト:	結果欄が実体化された QUERY テーブルの欄 &1 と互換性がありません。
原因:	選択リストの結果列のデータ・タイプが実体化された QUERY テーブルの列 &1 と互換性がありません。
回復手順:	SELECT のすべての結果列のデータ・タイプが実体化された QUERY テーブルの対応する既存の列と互換性があるようにしてください。
SQLCODE:	-20055
SQLSTATE:	42854

<b>SQ20058</b>	
メッセージ・テキスト:	実体化された QUERY テーブル &1 の副選択が理由コード &3 のために有効ではありません。
原因:	<p>SELECT ステートメントに無効な参照または式が含まれているので、&amp;2 で &amp;1 を作成または変更できません。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 別のマテリアライズ照会表または保護されたシステム・ファイルを参照しているか、またはマテリアライズ照会表または保護されたシステム・ファイルを参照するビューを参照している。</li> <li>• 2 -- FROM 文節で宣言された一時テーブル、QTEMP 中のテーブル、プログラム記述ファイル、または非 SQL 論理ファイルを参照している。</li> <li>• 3 -- 無効なマテリアライズ照会表の項目を格納した VIEW を参照している。</li> <li>• 4 -- データ・リンクをもつ式、あるいはデータ・リンクが FILE LINK CONTROL である場合に、そのデータ・リンクに基づく特殊タイプをもつ式が含まれている。</li> <li>• 6 -- 外部アクションをもつか、決定論関数でない関数を参照している。</li> <li>• 8 -- 特殊レジスターまたはグローバル変数を参照している。</li> <li>• 9 -- 精度付きバイナリー、DBCS 専用、DBCS 択一など SQL データ・タイプでない結果列を参照している。</li> <li>• 10 -- フィールド・プロシーチャーが指定されている列を参照しており、その列が選択リスト内の式で使用されている。</li> </ul>
回復手順:	理由コードに基づいて、実体化された QUERY テーブルの SELECT ステートメントを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20058
SQLSTATE:	428EC

<b>SQ20073</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 中の関数 &1 の属性が無効です。
原因:	&2 中の関数 &1 は、MQT においてかまたは WITH CHECK OPTION 属性を持ったビューにおいて参照されているため、作成できないか、NOT DETERMINISTIC または EXTERNAL ACTION として変更できません。
回復手順:	関数に DETERMINISTIC または NO EXTERNAL ACTION を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20073
SQLSTATE:	42927

<b>SQ20093</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 中のテーブル &1 の ALTER は失敗しました。理由コードは &3 です。
原因:	<p>実体化された QUERY テーブルが含まれる ALTER 要求を完了できません。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 -- ALTER で DROP MATERIALIZED QUERY または ALTER MATERIALIZED QUERY を指定していますが、指定されたテーブルが実体化された QUERY テーブルではない。</li> <li>• 4 -- テーブルに 1 つ以上のトリガーが定義されている。</li> <li>• 8 -- テーブルが別の実体化された QUERY テーブルの定義で参照されている。</li> <li>• 9 -- テーブルが SELECT ステートメントで直接または間接に (たとえばビューを介して) 参照されている。</li> <li>• 10 -- ALTER で ADD MATERIALIZED QUERY を指定しているが、指定されたテーブルがすでに実体化された QUERY テーブルとなっている。</li> <li>• 11 -- 既存のテーブルの列数が SELECT ステートメントの結果の列数と一致しない。</li> <li>• 12 -- 既存のテーブルの列のデータ・タイプが SELECT ステートメントの結果の列のデータ・タイプと一致しない。</li> <li>• 16 -- ALTER で ADD MATERIALIZED QUERY を指定しているが、指定されたテーブルに複数のメンバーがある。</li> </ul>
回復手順:	ALTER ステートメントを変更するか、別のテーブルを指定するか、あるいは別の結果の列を指定するよう SELECT ステートメントを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20093
SQLSTATE:	428EW

<b>SQ20102</b>	
メッセージ・テキスト:	ルーチン &1 に &3 を指定できません。
原因:	&3 は、&2 のルーチン &1 に指定できません。SQL ルーチンには、ALTER REPLACE のみを指定できます。SQL および JAVA ルーチンには、DEBUG MODE のみを指定できません。SQL ルーチンの言語タイプを変更できません。SQL ルーチンには外部名を指定できません。
回復手順:	使用できない文節を取り除きます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20102
SQLSTATE:	42849

<b>SQ20110</b>	
メッセージ・テキスト:	セーブポイントが未解決であるとリモート・サイトには暗黙に接続できません。
原因:	活動 SAVEPOINT が存在している時に、ステートメントがリモート DBMS のオブジェクトを参照しました。
回復手順:	セーブポイントが未解決であるので、リモート・サーバーへの暗黙の接続は許可されません。 RELEASE TO SAVEPOINT または ROLLBACK TO SAVEPOINT を出してから、ステートメントを再試行してください。トランザクションをコミットまたはロールバックすると、既存の SAVEPOINT も解放されます。
SQLCODE:	-20110
SQLSTATE:	51036

<b>SQ20112</b>	
メッセージ・テキスト:	セーブポイントが最大数に達しました。
原因:	リソース限界を超えました。
回復手順:	RELEASE TO SAVEPOINT または ROLLBACK TO SAVEPOINT を出してから、追加の SAVEPOINT を作成してください。既存の SAVEPOINT を解放するには、COMMIT または ROLLBACK を出すことができます。
SQLCODE:	-20112
SQLSTATE:	3B002

<b>SQ20120</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL TABLE 関数はテーブル結果を戻さなければなりません。
原因:	SQL TABLE 関数内の RETURN ステートメントはテーブル結果を戻さなければなりません。
回復手順:	TABLE 関数の RETURN ステートメントに QUERY プログラムを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20120
SQLSTATE:	428F1

<b>SQ20141</b>	
メッセージ・テキスト:	長さが &1 の値の切り捨てが &2 で起こった。
原因:	<p>ホスト変数またはパラメーターへの値の代入時に、切り捨てが起こり、切り捨てられた値の長さが標識変数に戻すには大きすぎます。この状態が起こる可能性があるのは、切り捨てが以下の代入時に起こる場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リモート・ストアード・プロシージャのパラメーターへの値および切り捨てようとしている値が 127 バイトより大きい。この場合は、標識変数には値 127 が入ります。</li> <li>ホスト変数への LOB 値 または XML 値および切り捨てようとしている値が 32767 バイトより大きい。この場合は、標識変数には値 32767 が入ります。</li> </ul> <p>以上の場合は、切り捨てられた値の実際の長さは標識変数を使用してアプリケーションに戻すことができません。値の実際の長さはメッセージ・トークンの長さとして戻されます。</p>
回復手順:	ホスト変数またはパラメーターの長さを変更し、要求をやり直してください。
SQLCODE:	+20141
SQLSTATE:	01004

<b>SQ20143</b>	
メッセージ・テキスト:	暗号化または復号関数が失敗しました。
原因:	暗号化パスワード値が設定されていないので、暗号化または復号関数が失敗しました。
回復手順:	SET ENCRYPTION PASSWORD ステートメントを使用して、暗号化および復号関数に使用されるパスワードを設定してください。パスワードは、暗号化および復号関数の引数として指定することもできます。
SQLCODE:	-20143
SQLSTATE:	51039

<b>SQ20144</b>	
メッセージ・テキスト:	暗号化パスワードの長さが有効ではありません。
原因:	暗号化パスワードの長さは 6 から 127 文字でなければなりません。
回復手順:	パスワード値の長さを訂正してください。要求を再投入してください。
SQLCODE:	-20144
SQLSTATE:	428FC

<b>SQ20145</b>	
メッセージ・テキスト:	復号関数は失敗しました。
原因:	復号に使用されるパスワードがデータの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。データの復号は、データの暗号化に使用されたものと同じパスワードを使用して行う必要があります。
回復手順:	データの暗号化と復号に同じパスワードが使用されるようにしてください。
SQLCODE:	-20145
SQLSTATE:	428FD

<b>SQ20146</b>	
メッセージ・テキスト:	復号関数は失敗しました。データが暗号化されていません。
原因:	データは ENCRYPT、ENCRYPT_AES、ENCRYPT_RC2、または ENCRYPT_TDES 関数の結果でなければなりません。
回復手順:	データが ENCRYPT、ENCRYPT_AES、ENCRYPT_RC2、または ENCRYPT_TDES 関数の結果であるようにしてください。復号関数に渡されるデータは暗号化されたデータでなければなりません。
SQLCODE:	-20146
SQLSTATE:	428FE

<b>SQ20147</b>	
メッセージ・テキスト:	ENCRYPT 関数が失敗しました。データはすでに暗号化されています。
原因:	すでに暗号化されたデータを暗号化しようとしてしました。
回復手順:	データがまだ暗号化されていないことを確認してください。
SQLCODE:	-20147
SQLSTATE:	55048

SQ20148	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 には RETURN ステートメントを指定する必要があります。
原因:	SQL 関数には RETURN ステートメントを指定する必要があります。
回復手順:	RETURN ステートメントを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20148
SQLSTATE:	429BD

SQ20165	
メッセージ・テキスト:	データ変更テーブル参照は、指定された場所では許可されません。
原因:	データ変更テーブル参照を指定できるのは、特定の FROM 文節においてのみです。データ変更テーブル参照は、以下の箇所で使用される FROM 文節内の唯一のテーブル参照でなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SELECT または SELECT INTO ステートメントの外部全選択</li> <li>• SET または VALUES INTO ステートメントの唯一の全選択</li> <li>• RETURN ステートメントの QUERY 式</li> </ul>
回復手順:	データ変更テーブル参照を正しく使用するように、ステートメントを変更してください。これが、FROM 文節内の唯一のテーブル参照であることを確認してください。
SQLCODE:	-20165
SQLSTATE:	428FL

SQ20166	
メッセージ・テキスト:	データ変更テーブル参照のビューまたは論理ファイル &1 は、許可されません。
原因:	&2 の中の &1 を、データ変更テーブル参照のターゲットとして指定することはできません。 &1 がビューである場合、確定的でない関数、外部アクションを持つ関数、または SQL データを変更する関数をビュー定義内の WHERE 文節中で使用できません。 &1 が論理ファイルである場合、選択/省略の指定を付けることも、結合論理ファイルにすることもできません。
回復手順:	データ変更テーブル参照内で、別のビューまたは論理ファイルを指定してください。
SQLCODE:	-20166
SQLSTATE:	428FM

SQ20178	
メッセージ・テキスト:	INSTEAD OF トリガーは、ビュー &1 用に作成されていません。
原因:	&2 のビュー &1 には、指定した操作の INSTEAD OF トリガーがすでに定義されています。ビューが INSERT、UPDATE、および DELETE の各操作ごとに定義できる INSTEAD OF トリガーは 1 つのみです。
回復手順:	既存トリガーを除去します。既存のトリガーの関数と新規トリガーを結合して単一のトリガーにします。トリガーを再度作成してください。
SQLCODE:	-20178
SQLSTATE:	428FP

SQ20179	
メッセージ・テキスト:	WITH CHECK OPTION を使用するビュー &1 用のトリガーは作成できません。

SQ20179	
原因:	&2 のビュー &1 は、WITH CHECK OPTION を指定するか、または WITH CHECK OPTION のあるビューに依存します。WITH CHECK OPTION のあるビューに対して INSTEAD OF トリガーを定義できません。
回復手順:	ビューから WITH CHECK OPTION を除去してください。
SQLCODE:	-20179
SQLSTATE:	428FQ

SQ20180	
メッセージ・テキスト:	欄 &1 は変更できません。
原因:	列 &1 は &3 中のテーブル &2 のパーティション・キーであり、変更できません。
回復手順:	テーブルを非パーティション・テーブルに変更してから、列を変更するか、ステートメントから ALTER COLUMN 文節を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20180
SQLSTATE:	428FR

SQ20183	
メッセージ・テキスト:	ALTER TABLE 区分化文節は &1 には有効ではありません。
原因:	&2 中のテーブル &1 は変更できません。次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ALTER TABLE ステートメントに ADD PARTITION BY が指定されましたが、テーブルはすでにパーティション・テーブルであるか、物理ファイルです。</li> <li>ALTER TABLE ステートメントに ADD PARTITION、ALTER PARTITION、または DROP PARTITION が指定されましたが、テーブルがパーティション・テーブルではありません。</li> <li>ALTER TABLE ステートメントに RANGE パーティションの DROP PARTITION が指定されましたが、PRESERVE ROWS 文節が使用されています。PRESERVE ROWS 文節は、HASH パーティション化のあるパーティション・テーブルの場合にのみ有効です。</li> </ul>
回復手順:	ステートメントを有効なものに変更するか、別のテーブルを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20183
SQLSTATE:	428FT

SQ20200	
メッセージ・テキスト:	&3 が見つからなかったため、&2 の &1 の導入または置換が失敗しました。
原因:	JAR 導入または置換プロシージャで指定されている URL が有効な JAR ファイルを識別しませんでした。
回復手順:	有効な JAR ファイルを識別 URL を指定して JAR 導入または置換プロシージャを出し直してください。
SQLCODE:	-20200
SQLSTATE:	46001

SQ20201	
メッセージ・テキスト:	JAR 名が無効なため、&2 の &1 の導入、置換、または除去が失敗しました。

SQ20201	
原因:	JAR 導入、置換、または除去プロシージャーに指定されている JAR 名が無効です。たとえば、JAR ID の形式が不適切であるか、置換または除去する JAR ID が存在していないか、すでに存在しているので導入できません。
回復手順:	JAR ID の形式が正しいことを確認してください。JAR ID が存在している場合には、導入する前に除去することが必要な場合があります。除去または置換プロシージャーの場合は、JAR ID が存在していることを確認してください。
SQLCODE:	-20201
SQLSTATE:	46002

SQ20202	
メッセージ・テキスト:	&3 は使用中なので、&2 の &1 の置換または除去が失敗しました。
原因:	JAR ファイル中に指定されているクラスが定義済みのプロシージャーによって現在使用中であるか、あるいは置換 JAR ファイルにはプロシージャーを定義するために指定されたクラスが入っていません。
回復手順:	除去しようとしているクラスを参照しているすべてのプロシージャーが除去されていることを確認し、置換または除去プロシージャーを投入し直してください。
SQLCODE:	-20202
SQLSTATE:	46003

SQ20203	
メッセージ・テキスト:	シグニチャーが &2 のユーザー定義関数またはプロシージャー &1 内の Java メソッドには無効です。
原因:	関数またはプロシージャーをインプリメントするために使用される Java メソッドのシグニチャーが無効です。たとえば、メソッドには対応している CREATE ステートメントのパラメーターと互換性のないパラメーターがあるか、あるいはプロシージャーのメソッドに戻り値が指定されていない場合があります。
回復手順:	Java メソッドと一致しているパラメーターを指定して、対応する CREATE ステートメントを再投入するか、あるいは Java メソッドのパラメーターまたは戻りタイプを訂正して、クラスを再ビルドしてください。
SQLCODE:	-20203
SQLSTATE:	46008

SQ20204	
メッセージ・テキスト:	&2 のユーザー定義関数またはプロシージャー &1 が単一の Java メソッドにマップできませんでした。
原因:	識別された関数またはプロシージャーが、一致している Java メソッドの検出に失敗したか、あるいは一致している Java メソッドを複数検出しました。
回復手順:	Java メソッドまたは対応している CREATE ステートメントを訂正して、単一の Java メソッドが関数またはプロシージャー呼び出しを解決できるようにしてください。
SQLCODE:	-20204
SQLSTATE:	46008

<b>SQ20205</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のユーザー定義関数またはプロシージャ &1 には NULL 値の入力引数があります。
原因:	CALLED ON NULL INPUT で作成された関数またはプロシージャには NULL 値の入力パラメーターがありますが、この引数の Java データ・タイプは NULL 値をサポートしません。NULL 値をサポートしない Java データ・タイプの例は、BOOLEAN、BYTE、SHORT、INT、LONG、または DOUBLE です。
回復手順:	NULL 値を指定してメソッドを呼び出す場合には、入力 Java タイプが NULL 値を受け入れ可能であることを確認してください。&1 が関数である場合には、RETURNS NULL ON NULL INPUT が CREATE FUNCTION ステートメントに指定されていると考えられます。
SQLCODE:	-20205
SQLSTATE:	39004

<b>SQ20206</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のプロシージャ &1 が戻した結果セットが多すぎます。
原因:	指定したプロシージャが、プロシージャ定義に指定されていた数より多くの結果セットを戻しました。
回復手順:	返される結果セットが少なくなるようにプロシージャを変更するか、またはこのプロシージャをドロップして再作成し、適切な数の結果セットを指定してください。
SQLCODE:	+20206
SQLSTATE:	0100E

<b>SQ20207</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の JAR 導入または置換プロシージャ &1 で展開記述子の使用が指定されていません。
原因:	JAR 導入または置換プロシージャの DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターが非ゼロでした。このパラメーターはサポートされず、ゼロでなければなりません。
回復手順:	DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターをゼロに設定してプロシージャを再投入してください。
SQLCODE:	-20207
SQLSTATE:	46501

<b>SQ20211</b>	
メッセージ・テキスト:	CREATE VIEW の文節が許可されていません。
原因:	ビューの外部全選択では ORDER BY および FETCH FIRST N ROWS は許可されません。
回復手順:	この文節を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20211
SQLSTATE:	428FJ

<b>SQ20214</b>	
メッセージ・テキスト:	テーブル指定子 &1 が順序付けられていません。
原因:	ORDER OF 文節を指定しましたが、テーブル指定子 &1 が順番になっていません。
回復手順:	ORDER OF 文節を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20214

<b>SQ20214</b>	
SQLSTATE:	428FI

<b>SQ20223</b>	
メッセージ・テキスト:	暗号化または復号関数が失敗しました。暗号化機能エラー。
原因:	関数 ENCRYPT、 ENCRYPT_AES、 ENCRYPT_RC2、 ENCRYPT_TDES、 DECRYPT_BIN、 DECRYPT_BINARY、 DECRYPT_BIT、 DECRYPT_CHAR、 DECRYPT_DB、または GETHINT の使用を試みましたが、暗号化機能でのエラーが原因で、失敗しました。
回復手順:	ソフトウェア・サービス・プロバイダーに連絡してください。
SQLCODE:	-20223
SQLSTATE:	560BF

<b>SQ20224</b>	
メッセージ・テキスト:	元からバイナリー・ストリングであった暗号化されたデータは、文字ストリングに復号できません。
原因:	DECRYPT_CHAR 関数が呼び出されましたが、その引数が元はバイナリー・ストリングであった暗号化されたストリングを表しています。バイナリー・ストリングは、DECRYPT_CHAR 関数を使用して文字ストリングにキャストすることはできません。
回復手順:	暗号化された値は、DECRYPT_BINARY 関数を使用してしか復号できません。
SQLCODE:	-20224
SQLSTATE:	22528

<b>SQ20226</b>	
メッセージ・テキスト:	スタックされた診断域の最大数を超過しています。
原因:	条件情報項目またはスタックされた診断情報を収めるのに使用可能な記憶域が不足しています。
回復手順:	SQL 警告が少なくなるようにアプリケーション・ロジックを変更するか、SET TRANSACTION ステートメントを使用して追加の条件域を指定してください。
SQLCODE:	-20226
SQLSTATE:	0Z001

<b>SQ20227</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 関数には AS 文節が必要です。
原因:	引数が名前付けられていないために、XMLATTRIBUTES、XMLFOREST、XMLROW、または XMLGROUP 関数の引数 &1 には AS 文節を指定しなければなりません。引数 &1 が &2 として指定されています。
回復手順:	AS 文節を指定して、引数に名前付けしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20227
SQLSTATE:	42633

<b>SQ20228</b>	
メッセージ・テキスト:	STACKED 診断が使用可能ではありません。

<b>SQ20228</b>	
原因:	STACKED 診断は、ハンドラーからしかアクセスできません。
回復手順:	STACKED 診断がハンドラー内だけからアクセスされるようにアプリケーション・ロジックを変更してください。
SQLCODE:	-20228
SQLSTATE:	0Z002

<b>SQ20235</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 中の実体化された QUERY テーブル &1 の変更は有効ではありません。
原因:	実体化された QUERY テーブルの列を追加、除去、または変更できません。
回復手順:	ステートメントを有効なものに変更するか、別のテーブルを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20235
SQLSTATE:	428FY

<b>SQ20236</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 は戻すことができません。
原因:	SET RESULT SETS ステートメントが WITHOUT RETURN 属性付きで宣言されたカーソル &1 を参照しています。カーソル &1 は、SET RESULT SETS ステートメントには指定できません。
回復手順:	SET RESULT SETS ステートメントからカーソルへの参照を除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20236
SQLSTATE:	428BA

<b>SQ20246</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 中の &1 は変更できません。
原因:	テーブル &1 はパーティション・テーブルであり、&4 中の DDS 作成の論理ファイル &3 がこれを基にしているので変更できません。
回復手順:	論理ファイルを取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20246
SQLSTATE:	428G0

<b>SQ20251</b>	
メッセージ・テキスト:	区画 &1 は除去できません。
原因:	パーティション &1 を除去しようとしたますが、それはテーブル中の最後のパーティションです。パーティション・テーブルは、少なくとも 1 つのパーティションを含んでいなければなりません。
回復手順:	DROP TABLE ステートメントを使用して、テーブルを除去してください。
SQLCODE:	-20251
SQLSTATE:	428G2

SQ20257	
メッセージ・テキスト:	INSTEAD OF トリガーを指定した、&2 中のビュー &1 への INSERT は許可されません。
原因:	データ変更テーブル参照の INSERT ステートメントは、INSTEAD OF トリガーを指定して定義されたビューを指定しています。 INSTEAD OF トリガーの結果を戻すことはできません。
回復手順:	INSTEAD OF トリガーをビューから除去するか、または INSERT のターゲットとして別のビューを指定してください。
SQLCODE:	-20257
SQLSTATE:	428G3

SQ20258	
メッセージ・テキスト:	INPUT SEQUENCE 配列の使用が正しくありません。
原因:	ORDER BY 文節は INPUT SEQUENCE を指定しているのに対して、全選択の FROM 文節は INSERT ステートメントを指定していません。
回復手順:	有効なソート・キーを ORDER BY 文節に指定するか、または FROM 文節中に INSERT ステートメントがあることを確認してください。
SQLCODE:	-20258
SQLSTATE:	428G4

SQ20259	
メッセージ・テキスト:	ビュー &2 は、データ変更テーブル参照内では許可されません。
原因:	&3 中のビュー &2 の定義が原因で、データ変更テーブル参照のターゲットとしてこのビューを使用できません。ビュー定義には、スカラー副選択、スカラー全選択、または副照会を付け加えることはできません。
回復手順:	データ変更テーブル参照のターゲットとして別のビューを指定するか、またはビュー定義を変更してください。
SQLCODE:	-20259
SQLSTATE:	428G6

SQ20268	
メッセージ・テキスト:	ソート順序は適用できません。理由コードは &4 です。
原因:	ライブラリー &3 中のソート順序テーブル &2 は、理由コード &4 のために適用できません。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- ソート順序テーブルをフィールド &amp;1 に適用した結果が 32,742 バイトを超えます。</li> <li>• 2 -- ソート順序テーブルは、LOCATE、POSITION、および POSSTR 関数には適用できません。</li> <li>• 3 -- ソート順序テーブルは LIKE 述部または %WLDCRD 関数には適用できません。</li> <li>• 4 -- NLSS 照合シーケンスは、フィールド・プロシージャであるキー列を含んでいる索引には許可されません。</li> </ul>

SQ20268	
回復手順:	ソート順序テーブル &2 は INTERNATIONAL COMPONENTS OF UNICODE (ICU) テーブルです。理由コード 1 の場合の回復処置：ICU ソート順序テーブルの結果がその作用するフィールドの長さを超えます。フィールドに SBCS データを入れることができる場合には、ソート順序テーブルを適用した結果はフィールドの長さを 6 倍したものになることがあります。このソート順序テーブルを DBCS フィールドに適用すると、フィールドの長さの 3 倍になることがあります。より小さいフィールドを指定するか、ICU タイプでないソート順序テーブルを指定してください。他の理由コードの場合の回復処置：関数を除外するか、ICU タイプでないソート順序テーブルを指定してください。
SQLCODE:	-20268
SQLSTATE:	429BM

SQ20275	
メッセージ・テキスト:	XML 名 &1 が無効です。
原因:	XML 名 &1 が理由コード &2 のために有効ではありません。理由コードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 「xmlns」は XML 属性名として、あるいは XML 要素または属性名の接頭部として使用される。</li> <li>• 2 -- 修飾された XML 名の XML ネーム・スペース接頭部はその有効範囲内に宣言されない。</li> <li>• 3 -- XML 要素または XML 属性の名前が XML QName ではない。</li> <li>• 4 -- XML 処理命令の名前が XML NCName ではない。</li> <li>• 5 -- XML 処理命令の名前に「XML」を含めることはできない。</li> </ul>
回復手順:	有効な名前を指定します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20275
SQLSTATE:	42634

SQ20276	
メッセージ・テキスト:	XML ネーム・スペース接頭部 &1 が無効です。
原因:	XML ネーム・スペース接頭部 &1 は理由コード &2 で無効です。理由コードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- XML ネーム・スペース接頭部が XML NCName でない。</li> <li>• 2 -- 名前「xml」または「xmlns」は XML ネーム・スペース接頭部として使用できない。</li> <li>• 3 -- XML ネーム・スペース接頭部が固有でない。</li> </ul>
回復手順:	XML ネーム・スペース接頭部に有効な固有の名前を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20276
SQLSTATE:	42635

SQ20298	
メッセージ・テキスト:	GET DESCRIPTOR に指定された VALUE が、現行の COUNT より大きくなっていきま
原因:	GET DESCRIPTOR の VALUE に指定した項目番号が記述子の現行 COUNT よりも大きくなっています。

SQ20298	
回復手順:	これは警告メッセージです。VALUE に指定した記述子項目に必要な情報は戻されませんでした。
SQLCODE:	+20298
SQLSTATE:	02505

SQ20299	
メッセージ・テキスト:	項目 &1 は記述子にすでに設定されています。
原因:	この SET DESCRIPTOR ステートメントに対して記述子項目 &1 がすでに指定されています。各項目を設定できるのは一度だけです。
回復手順:	重複項目を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20299
SQLSTATE:	42747

SQ20313	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 の DEBUG MODE は変更できません。
原因:	&2 のルーチン &1 は、DISABLE の DEBUG MODE を使用して作成されました。DEBUG MODE は変更できません。
回復手順:	ルーチンを除去し、DEBUG MODE ALLOW または DEBUG MODE DISALLOW を使用して再作成してください。
SQLCODE:	-20313
SQLSTATE:	55058

SQ20326	
メッセージ・テキスト:	XML 名 &1 が長すぎます。
原因:	XML 名 &1 が長すぎます。XML 要素名、XML 属性名、XML ネーム・スペース接頭部、および XML 処理命令名の最大長は 128 です。XML ネーム・スペース URI の最大長は 1024 です。
回復手順:	名前が長すぎないことを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20326
SQLSTATE:	54057

SQ20328	
メッセージ・テキスト:	同じターゲット・ネーム・スペースおよびスキーマ・ロケーションを持つ XML スキーマ文書が既に存在しています。
原因:	同じターゲット・ネーム・スペース &1 およびスキーマ・ロケーション &2 を持つ XML スキーマ文書が、&4 内の XML スキーマ &3 に既に存在しています。 XSR_ADDSCHEMADOC ストアード・プロシージャを使用して、同じターゲット・ネーム・スペースおよびスキーマ・ロケーションを持つ複数の XML スキーマ文書が追加されました。同じターゲット・ネーム・スペースおよびスキーマ・ロケーションを持つ文書が同一 XML スキーマ内に 2 つ存在することはできません。
回復手順:	XSR_REMOVE ストアード・プロシージャを使用して XML スキーマを除去してから、完了前に XML スキーマ文書を登録して追加してください。これらの文書を、同じターゲット・ネーム・スペースおよびスキーマ・ロケーションを持たないように変更してください。

<b>SQ20328</b>	
SQLCODE:	-20328
SQLSTATE:	42749

<b>SQ20329</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書が 1 つ以上欠落していたため、XML スキーマの完了検査に失敗しました。
原因:	XML スキーマ登録完了処理で、完全な XML スキーマには複数の XML スキーマ文書が必要であり、少なくとも 1 つの XML スキーマ文書が XML スキーマ・リポジトリから欠落していることが確認されました。欠落している XML スキーマ文書は、値 &2 を持つ targetnamespace または schemalocation &1 によって識別されます。
回復手順:	欠落している XML スキーマ文書を XML スキーマ・リポジトリに追加してから、SYSPROC 内の XSR_COMPLETE ストアド・プロシージャーを呼び出してください。
SQLCODE:	-20329
SQLSTATE:	428GI

<b>SQ20330</b>	
メッセージ・テキスト:	ターゲット・ネーム・スペース &3 およびスキーマ・ロケーション &5 によって識別された XML スキーマがリポジトリに見つかりません。
原因:	XML &2 &3 および XML &4 &5 によって識別された &1 が XML スキーマ・リポジトリで見つかりません。要求時にいずれかの値がヌル値であった場合は、対応する &3 または &5 が空ストリングです。
回復手順:	欠落している XML スキーマを XML スキーマ・リポジトリに追加し、ステートメントを再発行してください。
SQLCODE:	-20330
SQLSTATE:	4274A

<b>SQ20331</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 注記の値 &1 が無効です。
原因:	XML 注記内のストリング式は 2 つの隣接ハイフンを含めたり、ハイフンで終了したりすることはできません。
回復手順:	XML 注記の値が有効であることを確認してください。
SQLCODE:	-20331
SQLSTATE:	2200S

<b>SQ20332</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 処理命令 &1 が無効です。
原因:	XML 処理命令にサブストリング「?>」を含めることはできません。
回復手順:	XML 処理命令の値が有効であることを確認してください。
SQLCODE:	-20332
SQLSTATE:	2200T

<b>SQ20335</b>	
メッセージ・テキスト:	ターゲット・ネーム・スペースおよびスキーマ・ロケーションによって識別される XML スキーマが複数存在します。
原因:	ターゲット・ネーム・スペース &1 およびスキーマ・ロケーション &2 と一致する登録済み XML スキーマが複数存在します。
回復手順:	固有の XML スキーマ ID を使用して XML スキーマを識別してください。
SQLCODE:	-20335
SQLSTATE:	4274B

<b>SQ20338</b>	
メッセージ・テキスト:	XMLCAST 仕様のデータ・タイプは XML でなければなりません。
原因:	XMLCAST 仕様のオペランドは両方とも XML データ・タイプでなければなりません。XMLCAST 仕様を使用して、NULL XML 値をキャストしたり、指定された CCSID に XML 値をキャストしたりすることができます。
回復手順:	両方のオペランドが XML データ・タイプになるように XMLCAST 仕様を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20338
SQLSTATE:	42815

<b>SQ20339</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の XML スキーマ &1 は操作 &3 に適した状態ではありません。
原因:	&2 の &1 によって識別される XML スキーマは正しい状態ではないため、これに対して操作 &3 を実行することはできません。例えば、XML スキーマは既に完了していて、操作は XML スキーマ文書の追加を試みる場合などです。
回復手順:	スキーマがまだ完了していない場合は、SYSPROC の XSR_COMPLETE ストアード・プロシージャを呼び出し、操作をやり直してください。スキーマが既に完了していて、そのスキーマを更新する必要がある場合は、まず、そのスキーマを除去するか、または別の名前を使用してそのスキーマを登録する必要があります。
SQLCODE:	-20339
SQLSTATE:	55063

<b>SQ20340</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書が他の XML スキーマ文書に接続されていません。
原因:	&2 の ID &1 によって識別される XML スキーマには、ネーム・スペース &3 に複数の XML スキーマ文書が含まれています。これらの XML スキーマ文書のうち少なくとも 1 つが、この XML スキーマに登録されている他の XML スキーマ文書に接続されていません。
回復手順:	インポート、組み込み、または再定義を使用して XML スキーマ内のすべての XML スキーマ文書が (プライマリー・スキーマ文書から始めて) 接続されるように、XML スキーマ文書を訂正するか、あるいは新しい XML スキーマ文書を追加してください。SYSPROC の XSR_REMOVE ストアード・プロシージャを使用して無効なスキーマを除去し、XSR ストアード・プロシージャを再び呼び出してそのスキーマを、訂正済みまたは新規の (あるいはその両方の) XML スキーマ文書に登録してください。
SQLCODE:	-20340
SQLSTATE:	22534

<b>SQ20345</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 値が適格な文書ではありません。
原因:	XML 値が適格な文書ではありません。テーブルに格納中の XML 値は、単一のルート要素を含む整形 XML 文書でなければなりません。
回復手順:	XML 値を、単一のルート要素を含む適格な XML 文書になるように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20345
SQLSTATE:	2200L

<b>SQ20346</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたグローバル要素が XML スキーマにありません。
原因:	妥当性検査操作で、ネーム・スペース &3 内の明示的な要素ローカル名 &2 を妥当性検査する XML 文書のルート要素にするように指定されました。SQL ID &1 を持つ XML スキーマに、ネーム・スペース &3 内のグローバル要素として宣言された &2 がありません。ステートメントは処理できません。
回復手順:	ネーム・スペース URI &3 の要素ローカル名 &2 が XML スキーマおよび妥当性検査される XML 文書に適したものであることを確認してください。要素ローカル名、ネーム・スペース、または XML スキーマを変更し、妥当性検査をやり直してください。
SQLCODE:	-20346
SQLSTATE:	22535

<b>SQ20347</b>	
メッセージ・テキスト:	必要なルート要素が XML 文書にありません。
原因:	XML 文書のルート要素が、妥当性検査操作の対象として指定されたネーム・スペース URI &2 の必要な要素ローカル名 &1 と一致しません。ステートメントは処理できません。
回復手順:	ルート要素が指定された要素ローカル名 &1 およびネーム・スペース URI &2 と一致することを確認してください。XML 値が正しい場合は、指定された要素ローカル名またはネーム・スペース URI を変更してください。
SQLCODE:	-20347
SQLSTATE:	22536

<b>SQ20354</b>	
メッセージ・テキスト:	キーの行変更タイム・スタンプ列が無効です。
原因:	&2 中のテーブル &1 の外部キーまたはパーティション・キーには、ROW CHANGE TIMESTAMP 列を指定できません。
回復手順:	キーの指定から列を除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20354
SQLSTATE:	429BV

<b>SQ20365</b>	
メッセージ・テキスト:	シグナリング NaN が検出されたか、または DECFLOAT に関連した例外が起きました。
原因:	DECFLOAT 特殊値の sNaN が、式、算術演算、または関数内で検出されたか、または、DECFLOAT 列または値に関連した式、算術演算、または関数が結果として例外になりました。

<b>SQ20365</b>	
回復手順:	算術演算または関数内で、sNaN 値を参照しないでください。
SQLCODE:	+20365, -20365
SQLSTATE:	01565, 22502

<b>SQ20367</b>	
メッセージ・テキスト:	文節 &1 は無視されます。
原因:	&1 は DB2 for IBM i ではサポートされていません。無視されています。
回復手順:	アクションは不要です。
SQLCODE:	+20367
SQLSTATE:	01680

<b>SQ20377</b>	
メッセージ・テキスト:	文字 &1 を有効な XML 文字にマップすることができません。
原因:	ストリング &2 で始まる XML 式または関数引数で文字 &1 が見つかりました。この文字は XML 式では許可されていません。
回復手順:	この文字を除去するか、または許可されている文字で置き換えてください。
SQLCODE:	-20377
SQLSTATE:	0N002

<b>SQ20398</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 構文解析に失敗しました。
原因:	SQL 処理で XML 構文解析に失敗しました。 UTF-8 への変換後に処理する XML 値へのバイト・オフセットは &1 です。 XML パーサー・エラーの説明は次のとおりです。&2。
回復手順:	XML 値を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20398
SQLSTATE:	2200M

<b>SQ20399</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 構文解析または妥当性検査に失敗しました。
原因:	妥当性検査で XML 構文解析に失敗しました。 UTF-8 への変換後に処理する XML 値へのバイト・オフセットは &1 です。 XML パーサー・エラーの説明は次のとおりです。&2。
回復手順:	XML インスタンス文書の問題を訂正してください。 XMLVALIDATE または XDBDECOMPXML を再試行してください。
SQLCODE:	-20399
SQLSTATE:	2201R

<b>SQ20400</b>	
メッセージ・テキスト:	XML スキーマ文書が処理されませんでした。
原因:	XML 文書処理に失敗しました。 UTF-8 への変換後に処理する XML 値へのバイト・オフセットは &1 です。 XML パーサー・エラーの説明は次のとおりです。&2。

<b>SQ20400</b>	
回復手順:	XML スキーマ文書の問題を訂正し、XSR_COMPLETE ストアド・プロシージャを再度呼び出してください。
SQLCODE:	-20400
SQLSTATE:	2200M

<b>SQ20412</b>	
メッセージ・テキスト:	XML 値の直列化で変換エラーが発生しました。
原因:	XML データの直列化では、ソース CCSID とは異なる CCSID への変換が必要になることがあります。XML 直列化の結果では置換文字は許可されていません。ステートメントは処理できません。
回復手順:	XML 値内のすべての文字を表すことができるターゲット・エンコードを選択してください。すべての文字を表すことができるので、ユニコード・エンコードを推奨します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20412
SQLSTATE:	2200W

<b>SQ20422</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の中のテーブル &1 には、非表示でない列が入っていなければなりません。
原因:	スキーマ &2 でテーブル &1 の CREATE または ALTER TABLE が試みられましたが、このステートメントの結果は、IMPLICITLY HIDDEN 列のみの入ったテーブルになります。テーブルには、IMPLICITLY HIDDEN ではない列が少なくとも 1 つなければなりません。
回復手順:	IMPLICITLY HIDDEN ではない列が少なくとも 1 つテーブルにあることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20422
SQLSTATE:	428GU

<b>SQ20423</b>	
メッセージ・テキスト:	テキスト検索処理中にエラーが起きました。
原因:	CONTAINS 関数または SCORE 関数のテキスト検索処理中に、エラーが起きました。理由コード &3 のエラーが、テキスト検索索引 &2 の使用時にサーバー &1 で発生しました。問題を説明しているテキストは &4 です。
回復手順:	この理由コードのテキスト検索資料を参照してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20423
SQLSTATE:	38H10

<b>SQ20424</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 の理由で、テキスト検索サポートを利用できません。
原因:	テキスト検索管理テーブルの 1 つで、問題が検出されました。理由コードは &1 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - テキスト検索管理テーブルの 1 つが見つかりませんでした。</li> <li>• 3 - テキスト検索サポートがインストールされていません。</li> <li>• 4 - テキスト検索サポートが開始されていません。</li> <li>• 7 - テキスト検索サーバーが定義されていません。</li> </ul>

SQ20424	
回復手順:	テキスト検索サポートが正しくインストールされていて、開始済みになっていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20424
SQLSTATE:	38H11

SQ20425	
メッセージ・テキスト:	列 &1 のテキスト検索は許可されません。
原因:	CONTAINS または SCORE テキスト検索関数が、&3 のテーブル &2 の中に列 &1 を指定しました。この列のテキスト索引は存在しないので、テキスト検索処理を実行できません。
回復手順:	この列のテキスト索引を定義するか、または、テキスト索引をすでに定義されている列を使用してください。
SQLCODE:	-20425
SQLSTATE:	38H12

SQ20426	
メッセージ・テキスト:	競合するテキスト検索管理プロシージャがすでに実行されています。
原因:	この索引に対して、更新などの、競合するテキスト検索管理プロシージャがすでに実行中です。
回復手順:	他の管理プロシージャが完了するまで待ってください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20426
SQLSTATE:	38H13

SQ20427	
メッセージ・テキスト:	テキスト検索管理プロシージャ中に、エラーが起きました。
原因:	テキスト検索管理プロシージャ中に、エラーが起きました。理由コードは &2 です。戻されたテキストは &1 です。
回復手順:	理由コードによって示された問題を訂正し、管理プロシージャをやり直してください。
SQLCODE:	-20427
SQLSTATE:	38H14

SQ20430	
メッセージ・テキスト:	&2 のグローバル変数 &1 がこのコンテキストで使用されていない可能性があります。
原因:	次のいずれかの理由から、&2 のグローバル変数 &1 が設定または使用されていない可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー定義関数またはトリガー、あるいはユーザー定義関数またはトリガーによって呼び出されるルーチンで、グローバル変数の値が設定されていない可能性があります。グローバル変数を設定できるのは、そのグローバル変数が、SET の左側に指定されているか、SELECT INTO または VALUES INTO の INTO 変数リストに指定されているか、あるいは CALL の出力パラメーターの引数として指定されている時です。</li> <li>現行接続がリモート・データベースへの接続である時、PREPARE、OPEN、EXECUTE IMMEDIATE、または FETCH ステートメントでグローバル変数が使用されていない可能性があります。</li> </ul>

<b>SQ20430</b>	
回復手順:	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題のあるステートメントを関数またはトリガー本体から除去し、関数またはトリガーを呼び出す前にグローバル変数の値を設定してください。</li> <li>現行接続がローカル・データベースへの接続である時、PREPARE、OPEN、EXECUTE IMMEDIATE、または FETCH ステートメントを実行してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-20430
SQLSTATE:	428GX

<b>SQ20431</b>	
メッセージ・テキスト:	ROW CHANGE TIMESTAMP 式は、&2 の中のテーブル &1 に対して無効です。
原因:	ROW CHANGE TIMESTAMP 式が &2 の中のテーブル &1 に指定されていますが、ROW CHANGE TIMESTAMP と定義されている列がテーブル内にありません。
回復手順:	ROW CHANGE TIMESTAMP 式を除去するか、または ROW CHANGE TIMESTAMP 列を備えたテーブルを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20431
SQLSTATE:	55068

<b>SQ20434</b>	
メッセージ・テキスト:	UPDATE ステートメントでは、列をすべて UNASSIGNED 値に設定することはできません。
原因:	ステートメント内のすべての列を値 UNASSIGNED に設定するために、この値が UPDATE ステートメントで使用されました。少なくとも 1 つの列を、UNASSIGNED 以外の値に設定する必要があります。
回復手順:	少なくとも 1 つの拡張標識変数の値を、UNASSIGNED 以外の値に変更する必要があります。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20434
SQLSTATE:	22540

<b>SQ20436</b>	
メッセージ・テキスト:	配列には無効なデータ・タイプです。
原因:	配列ではサポートされていないデータ・タイプを使用して、配列の CREATE TYPE が指定されました。
回復手順:	データ・タイプを、配列で使用できるものに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20436
SQLSTATE:	429C2

<b>SQ20437</b>	
メッセージ・テキスト:	この操作は配列変数の場合にのみ許可されます。
原因:	配列にのみ許可されている操作で、SQL 配列以外のオペランドが指定されました。SQL 配列のパラメーターまたは変数に指定できるのは、配列添え字、TRIM_ARRAY、UNNEST、CARDINALITY、および MAX_CARDINALITY のみです。

SQ20437	
回復手順:	オペランドを SQL 配列変数またはパラメーターに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20437
SQLSTATE:	428H0

SQ20438	
メッセージ・テキスト:	配列添え字の値が正しいデータ・タイプではありません。
原因:	配列添え字に指定される値は、数値またはstringの組み込みデータ・タイプでなければなりません。
回復手順:	配列添え字を有効な値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20438
SQLSTATE:	428H1

SQ20439	
メッセージ・テキスト:	値 &1 は配列添え字には無効です。
原因:	配列添え字として値 &1 が指定されましたが、この値は、負またはゼロであるか、配列の最大カーディナリティーを超えているか、あるいは現行カーディナリティーより大きい配列要素を参照するために使用されています。値が -1 の場合は、添え字に NULL 値が指定された可能性があります。
回復手順:	添え字を有効な値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20439
SQLSTATE:	2200E、2202E

SQ20440	
メッセージ・テキスト:	ソース配列のカーディナリティー &1 がターゲット配列の最大カーディナリティー &2 を超えています。
原因:	ソース配列のカーディナリティー &1 がターゲット配列の最大カーディナリティーを超えています。配列を割り当てることができません。
回復手順:	ソース配列のすべての要素が配列に適合するように、ターゲット配列の最大カーディナリティーを変更してください。 TRIM_ARRAY を使用してソース配列のサイズを減らすことができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20440
SQLSTATE:	2202F

SQ20441	
メッセージ・テキスト:	指定されている場所では配列タイプが無効です。
原因:	配列タイプが使用されましたが、この配列タイプは指定されたコンテキストでは許可されません。配列タイプは以下の場合にのみ使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SQL または JAVA プロシージャの引数として使用する場合。</li> <li>• SQL プロシージャで宣言された SQL 変数に使用する場合。</li> <li>• SQL プロシージャ内の CAST 仕様で使用する場合。</li> </ul>
回復手順:	配列タイプの参照を除去してください。要求をやり直してください。

<b>SQ20441</b>	
SQLCODE:	-20441
SQLSTATE:	428H2

<b>SQ20446</b>	
メッセージ・テキスト:	CCSID が変更されました。
原因:	ジョブのデフォルトの CCSID &1 用として関連付けられた混合またはグラフィックの CCSID が存在しません。 UTF-8 または UTF-16 の CCSID が使用されます。
回復手順:	ジョブの CCSID を、関連付けられた混合またはグラフィックの CCSID を持つものに変更してください。
SQLCODE:	+20446
SQLSTATE:	0168P

<b>SQ20447</b>	
メッセージ・テキスト:	関数 &1 のフォーマット・ストリングは有効ではありません。
原因:	関数 &1 の引数 2 に指定されたフォーマット・ストリングは、有効ではありません。理由は、フォーマット・ストリングの長さが 32740 より大きいか、または VARCHAR_FORMAT 関数の結果の長さが 32740 より大きくなるか、あるいは、サポートされていないエレメントがフォーマット・ストリングに入っているからです。以下のいずれかの理由で、フォーマット・ストリングは有効でないと考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• フォーマットは、フォーマット・エレメントを格納していないか、空ストリングであるか、またはすべて空白です。</li> <li>• タイム・スタンプの同じコンポーネントを表す複数のエレメントが、フォーマットに入られています。</li> <li>• フォーマットに、AM、IYYY が入っています。</li> </ul>
回復手順:	この関数の有効なフォーマット・ストリングを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20447
SQLSTATE:	22007

<b>SQ20448</b>	
メッセージ・テキスト:	式は、TIMESTAMP_FORMAT で指定されたフォーマット・ストリングを使用していますが、この式は無効です。
原因:	以下のいずれかの理由で、引数 2 に指定されたフォーマット・ストリングを使用している TIMESTAMP_FORMAT 関数の引数 1 を解釈できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ストリング式が短かすぎるか長すぎます。</li> <li>• ストリング式は、フォーマット・ストリングに指定されているテンプレートに準拠していません。</li> <li>• フォーマット・ストリング内の対応するフォーマット・エレメント用として、ストリング式に指定された桁数が多すぎます。</li> <li>• フォーマット・ストリング内の対応するフォーマット・エレメント用の、ストリング式内の値が無効です。</li> </ul>
回復手順:	この関数の有効なフォーマット・ストリングを指定してください。要求をやり直してください。

<b>SQ20448</b>	
SQLCODE:	-20448
SQLSTATE:	22007

<b>SQ20455</b>	
メッセージ・テキスト:	テキスト検索索引 &1 は、期限切れの可能性があります。
原因:	CONTAINS 関数または SCORE 関数のテキスト検索処理で使用されたテキスト索引 &1 は、期限が切れている可能性があります。
回復手順:	管理ストアード・プロシージャを実行して、テキスト索引を更新してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+20455
SQLSTATE:	0168R

<b>SQ20463</b>	
メッセージ・テキスト:	プロシージャが関数またはトリガーによって呼び出されたため、結果セットが戻されませんでした。
原因:	プロシージャが関数またはトリガーによって直接または間接に呼び出されたため、結果セットはクライアントに戻されません。
回復手順:	回復処置は不要です。
SQLCODE:	+20463
SQLSTATE:	0168U

<b>SQ20489</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のタイプ *&3 に &1 を置き換えることができません。
原因:	&2 タイプ *&3 の &1 の定義を置換しようとしたますが、&2 の &1 の新規定義に自己参照が含まれています。この循環自己参照は、定義内で明示的に生じることも、オブジェクトを明示的または暗黙的に参照する他のオブジェクトへの参照によって暗黙的に生じることもあります。
回復手順:	オブジェクト定義から循環自己参照を除去し、置換を再試行してください。
SQLCODE:	-20481
SQLSTATE:	429C3

<b>SQ20489</b>	
メッセージ・テキスト:	索引 &1 は、すべての区画にまたがるエンコードされたベクトル索引とすることはできません。
原因:	索引 &1 をエンコードされたベクトル索引として作成しようとしたますが、パーティション・テーブルのすべてのパーティションにまたがっています。エンコードされたベクトル索引は、パーティション・テーブルの単一パーティションまたは非パーティション・テーブル上にしか作成できません。
回復手順:	CREATE INDEX ステートメントを変更し、NOT PARTITIONED 文節または ENCODED VECTOR 文節のいずれかを取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-20489
SQLSTATE:	42929

<b>SQ30000</b>	
メッセージ・テキスト:	分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー (DRDA) プロトコル・エラー。
原因:	<p>後続のコマンドまたは SQL ステートメントには影響しない分散プロトコル・エラーのために、コマンドまたは SQL ステートメントが失敗しました。プロトコル・エラーは &amp;1 で、ロケーション・コードは &amp;2 です。ロケーション・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元でエラーが検出された。</li> <li>• '02'X -- このエラーはアプリケーション・サーバーで検出された。</li> </ul> <p>考えられるプロトコル・エラーのリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '121C'X -- コマンドに対して認可されていない。</li> <li>• '1245'X -- 会話プロトコル・エラー。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '124C'X -- データ・ストリーム構文エラー。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '1254'X -- 予期しないエラー状態。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '125F'X -- アプリケーション・サーバーが要求された機能をサポートしていません。</li> <li>• '2202'X -- カーソルがオープンされていない。</li> <li>• '2204'X -- リレーショナル・データベースが接続されていない。</li> <li>• '2207'X -- リレーショナル・データベースがすでに接続されている。</li> <li>• '220A'X -- データ記述子が正しくない。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '220E'X -- データ記述子がデータと一致しない。</li> <li>• '220F'X -- カーソルがすでにオープンされている。</li> <li>• '221D'X -- コマンドが会話タイプには無効。</li> </ul> <p>プロトコル・エラーがこのリストにない場合には、「DDM Architecture Reference」の DDM コード・ポイント &amp;1 を参照してください。</p>
回復手順:	<p>プロトコル・エラーが '121C'X の場合には、アプリケーション・サーバーでこのコマンドまたは SQL ステートメントを使用するために必要な許可を取得してください。プロトコル・エラーが '121C'X 以外の場合には、問題分析 (ANZPRB) を使用して問題を報告してください。</p>
SQLCODE:	-30000
SQLSTATE:	58008

<b>SQ30001</b>	
メッセージ・テキスト:	分散 SQL プログラムの呼び出しを行うことはできない。
原因:	リモート・コマンド投入 (SBMRMTCMD) を使用して、分散データ管理機能 (DDM) のターゲット・ジョブから分散 SQL プログラムを呼び出そうとしました。
回復手順:	SQL プログラムは DDM ターゲット・ジョブでないジョブから呼び出してください。
SQLCODE:	-30001
SQLSTATE:	57042

<b>SQ30020</b>	
メッセージ・テキスト:	分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー (DRDA) プロトコル・エラー。

SQ30020	
原因:	<p>後続の SQL ステートメントまたはコマンドに影響する配布プロトコル・エラーのために、コマンドまたは SQL ステートメントが正常に実行されませんでした。アプリケーションが打ち切れ、処理は接続されていない状態です。プロトコル・エラーは &amp;1 で、ロケーション・コードは &amp;2 です。ロケーション・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元でエラーが検出された。</li> <li>• '02'X -- このエラーはアプリケーション・サーバーで検出された。</li> </ul> <p>考えられるプロトコル・エラーのリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '1218'X -- 要求された機能はサポートされていない。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '1232'X -- 予期しない永続エラー。</li> <li>• '1245'X -- 会話プロトコル・エラー。エラー・コードは &amp;3 です。</li> <li>• '1254'X -- 予期しないエラー状態。エラー・コードは &amp;3 です。</li> </ul> <p>プロトコル・エラーがこのリストにない場合には、「DDM Architecture Reference」の DDM コード・ポイント &amp;1 を参照してください。</p>
回復手順:	問題分析 (ANZPRB) を使用して問題を報告してください。
SQLCODE:	-30020
SQLSTATE:	58009

SQ30021	
メッセージ・テキスト:	分散リレーショナル・データベースはリモート・システムでサポートされていない。
原因:	分散リレーショナル・データベース体系 (DDM) をサポートしていない分散データ管理 (DDM) サーバーに接続しようとしてしました。リモート・システムでは、DDM 管理機能クラスは管理機能レベル &2 の &1 です。
回復手順:	プログラムを変更して、DRDA をサポートするリレーショナル・データベースに接続してください。
SQLCODE:	-30021
SQLSTATE:	58010

SQ30040	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 の DRDA 資源は使用可能でない。
原因:	<p>分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) リソースが使用できないため、SQL ステートメントまたはコマンドが失敗しました。後続のコマンドおよび SQL ステートメントには影響がありません。DRDA リソース &amp;2 は、ロケーション・コード &amp;3 のリレーショナル・データベース &amp;1 で使用することができません。リソース・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '1409'X -- 通信バッファ。</li> <li>• '1410'X -- ローカル・ビルド・スペース。</li> <li>• '1411'X -- 診断領域。</li> <li>• '1412'X -- ローカル・ビルド・スペース。</li> <li>• '1413'X -- LOB ビルド・スペース。</li> <li>• '1414'X -- プール・スペース。</li> </ul> <p>ロケーション・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元。</li> <li>• '02'X -- アプリケーション・サーバー。</li> </ul>

<b>SQ30040</b>	
回復手順:	DRDA リソースを解放して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-30040
SQLSTATE:	57012

<b>SQ30041</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 の DRDA 資源は使用可能でない。
原因:	<p>分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー (DRDA) リソースが使用できないために、SQL ステートメントまたはコマンドが正常に実行されていません。後続のコマンドおよび SQL ステートメントには影響がありません。アプリケーションが打ち切れ、処理は接続されていない状態です。DRDA リソース &amp;2 は、ロケーション・コード &amp;3 のリレーショナル・データベース &amp;1 で使用することができません。リソース・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '1409'X -- 通信バッファ。</li> <li>• '1410'X -- ローカル・ビルド・スペース。</li> <li>• '1411'X -- 診断領域。</li> <li>• '1412'X -- ローカル・ビルド・スペース。</li> <li>• '1413'X -- LOB ビルド・スペース。</li> <li>• '1414'X -- プール・スペース。</li> </ul> <p>ロケーション・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元。</li> <li>• '02'X -- アプリケーション・サーバー。</li> </ul>
回復手順:	DRDA リソースを解放して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-30041
SQLSTATE:	57013

<b>SQ30050</b>	
メッセージ・テキスト:	BIND 処理の進行中は、DDM コマンド &1 は正しくない。
原因:	分散データ管理機能 (DDM) コマンド &1 を実行しようとして、このコマンドは、BIND 処理の進行中には正しくありません。
回復手順:	問題分析 (ANZPRB) コマンドを使用して、この問題を報告してください。
SQLCODE:	-30050
SQLSTATE:	58011

<b>SQ30051</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたパッケージ名と整合性トークンの BIND 処理は活動状態になっていない。
原因:	活動状態になっていない BIND 処理に対して BNDSQLSTT または ENDBND 分散データ管理機能 (DDM) コマンドを実行しようとして、この問題を報告してください。
回復手順:	問題分析 (ANZPRB) コマンドを使用して、この問題を報告してください。
SQLCODE:	-30051
SQLSTATE:	58012

<b>SQ30052</b>	
メッセージ・テキスト:	プログラムの準備完了という仮定は正しくない。
原因:	アプリケーション要求元が SQL ステートメントを理解せず、すべてのホスト変数が入力されたと見なしましたが、この仮定は正しくありませんでした。
回復手順:	認識されなかったすべての SQL ステートメントを調べるためには、CRTSQLXXX (ここで、XXX=CBL、PKG、PLI、RPG、CI、CPPI、RPGI、または CBLI) リストを参照してください。出力ホスト変数を含む認識されないすべての SQL ステートメントを除去してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-30052
SQLSTATE:	42932

<b>SQ30053</b>	
メッセージ・テキスト:	所有者 &1 のパッケージの作成は認可されていない。
原因:	ユーザーは所有者 &1 として認可されていないので、パッケージの作成が正常に実行されませんでした。
回復手順:	&1 に必要な認可をもらって、やり直してください。
SQLCODE:	-30053
SQLSTATE:	42506

<b>SQ30060</b>	
メッセージ・テキスト:	ユーザーにはリレーショナル・データベース &1 が認可されていません。
原因:	リレーショナル・データベース &1 が DB2 for IBM i である場合には、ユーザー出口プログラムがユーザーに対してアクセスを否認したか、あるいはユーザー出口プログラムで障害が起きました。
回復手順:	リレーショナル・データベース &1 への認可を獲得して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-30060
SQLSTATE:	08004

<b>SQ30061</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 が見つかりません。
原因:	リレーショナル・データベース &1 がリレーショナル・データベース・ディレクトリーの中にないか、またはリモート・ロケーションで定義されたかのいずれかです。
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE) コマンドを使用して、リレーショナル・データベース名をリレーショナル・データベース・ディレクトリーに追加する。</li> <li>• リレーショナル・データベースの名を、リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目と一致するように変更する。</li> <li>• リレーショナル・データベース名がリモート・ロケーションで定義されたことを検証する。</li> </ul>
SQLCODE:	-30061
SQLSTATE:	08004

<b>SQ30070</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データ管理機能 (DDM) コマンド &1 はサポートされていない。
原因:	リモート・システムはこの DDM コマンド &1 をサポートしていません。DDM コマンドが '2012'X の場合には、リモート・システムは SQL DESCRIBE TABLE ステートメントをサポートしません。DDM コマンドが '2012'X 以外の場合には、「DDM Architecture Reference」を参照して、サポートされていないコマンドを調べてください。DDM コマンドのリストについては、IBM i Information ( <a href="http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/">http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/</a> ) の「データベース」カテゴリーの「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションにある Bibliography の Architecture Books セクションを参照してください。
回復手順:	プログラムから SQL ステートメントを除去して、プログラムのプリコンパイルを実行してください。
SQLCODE:	-30070
SQLSTATE:	58014

<b>SQ30071</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データ管理機能 (DDM) オブジェクト &1 はサポートされていない。
原因:	DDM オブジェクト &1 はサポートされていません。
回復手順:	詳細については、前のメッセージを参照してください。コード・ポイント &1 の詳細については、「DDM Architecture Reference」を参照してください。
SQLCODE:	-30071
SQLSTATE:	58015

<b>SQ30072</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データ管理機能 (DDM) パラメーター &1 はサポートされていない。
原因:	DDM パラメーター &1 はサポートされていません。ロケーション・コードは &2 で、エラー・コードは &3 です。ロケーション・コードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元でエラーが検出された。</li> <li>• '02'X -- このエラーはアプリケーション・サーバーで検出された。</li> </ul>
回復手順:	詳細については、前のメッセージを参照してください。DDM パラメーター &1 の詳細については、「DDM Architecture Reference」を参照してください。
SQLCODE:	-30072
SQLSTATE:	58016

<b>SQ30073</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データ管理機能 (DDM) パラメーター値 &1 はサポートされていない。

<b>SQ30073</b>	
原因:	<p>DDM パラメーター値 &amp;1 はサポートされていません。ロケーション・コードは &amp;2 で、エラー・コードは &amp;3 です。ロケーション・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '01'X -- アプリケーション要求元でエラーが検出された。</li> <li>• '02'X -- このエラーはアプリケーション・サーバーで検出された。</li> </ul> <p>考えられる DDM パラメーター値のリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• '0035'X -- SBCS CCSID がサポートされていない。</li> <li>• '119C'X -- SBCS CCSID がサポートされていない。</li> <li>• '2112'X -- スキーマ名またはパッケージ名が、アプリケーション・サーバーでサポートされている最大より長い。</li> <li>• '2120'X -- スtring区切り文字がサポートされていない。</li> <li>• '2121'X -- 10 進数区切り文字がサポートされていない。</li> <li>• '2128'X -- スキーマ名がアプリケーション・サーバーでサポートされている最大より長い。</li> <li>• '2131'X -- ユーザー識別コードが、アプリケーション・サーバーでサポートされている最大より長い。</li> </ul> <p>&amp;1 が上のリストにない場合には、サポートされていないパラメーター値について「DDM Architecture Reference」を参照してください。</p>
回復手順:	<p>詳細については、前のメッセージを参照してください。アプリケーション・サーバーによってサポートされている値を送信するためにジョブまたは SQL を変更して、やり直してください。</p>
SQLCODE:	-30073
SQLSTATE:	58017

<b>SQ30074</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データ管理機能 (DDM) 応答メッセージ &1 はサポートされていない。
原因:	DDM 応答メッセージ &1 はサポートされていません。
回復手順:	<p>詳細については、前のメッセージを参照してください。コード・ポイント &amp;1 の詳細については、「DDM Architecture Reference」を参照してください。</p>
SQLCODE:	-30074
SQLSTATE:	58018

<b>SQ30080</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データベース処理中に通信エラーが起きた。

<b>SQ30080</b>	
原因:	<p>通信エラーが起きました。考えられる理由には以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモート・システムが使用可能になっていない。</li> <li>• 通信ネットワークが利用不能である。</li> <li>• 接続の開始に使用されたユーザー識別コードがリモート・システムに存在しない。</li> <li>• リモート・システムではパスワードを暗号化する必要がある。</li> <li>• パスワードがユーザー ID に有効ではない場合がある。指定されたパスワードの文字と大文字・小文字の別はリモート・システムのパスワードと正確に一致しなければなりません。</li> <li>• リモート・システムのサーバー許可項目 (もしあれば) は正しくない場合がある。サーバー名は大文字でなければなりません。パスワードを保存するには、QRETSVRSEC システム値は '1' に設定されなければなりません。メッセージ CPE3425 (接続が拒否された) がこのメッセージの前にある場合には、その原因は次のとおりです。</li> </ul> <p>メッセージ CPE3425 (接続が拒否された) がこのメッセージの前にある場合には、その原因は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•</li> <li>• DDM/DRDA TCP/IP サーバーがリモート・システムで始動されていない。</li> <li>• リモート・システムに正しくないポートが指定されている。</li> <li>• リモート・システムが DRDA ポートを制限している。</li> <li>• SOCKS サーバー (使用している場合) が正しく構成されていない。</li> </ul> <p>APPC メジャー戻りコードは &amp;1 で、マイナー戻りコードは &amp;2 です。TCP/IP の場合には、両方の戻りコードが 00 になります。戻りコードが両方とも 00 でない場合には、それらの意味は、Information Center (<a href="http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/">http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/</a>) の &amp;3443 のトピックで見つけることができます。</p>
回復手順:	<p>詳細については、前のメッセージを参照してください。起こり得る問題について、リモート・システムおよび通信ネットワークの状況を検査してください。アプリケーション・サーバーが DB2 for IBM i の場合には、QSYSOPR メッセージ・キューにあるエラー・メッセージを調べてください。</p>
SQLCODE:	-30080
SQLSTATE:	08001

<b>SQ30081</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データベースの処理中に通信エラーが検出されました。
原因:	<p>通信エラーが検出されました。考えられる理由には以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続の開始を待っていたローカル・システムがタイムアウトになりました。</li> </ul>
回復手順:	<p>詳細については、前のメッセージを参照してください。起こり得る問題について、リモート・システムおよび通信ネットワークの状況を検査してください。アプリケーション・サーバーが DB2 for IBM i の場合には、QSYSOPR メッセージ・キューのエラー・メッセージを調べてください。</p>
SQLCODE:	-30081
SQLSTATE:	08001

<b>SQ30082</b>	
メッセージ・テキスト:	分散データベースの接続の試行の際の許可の障害。

SQ30082	
原因:	<p>接続しようとしたのですが、理由コード &amp;2 で正常に実行されませんでした。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- 不明の原因。</li> <li>• 1 -- パスワード失効。</li> <li>• 2 -- パスワードが正しくない。</li> <li>• 3 -- パスワードの欠落。</li> <li>• 4 -- プロトコル違反。</li> <li>• 5 -- ユーザー ID が見つからない。</li> <li>• 6 -- ユーザー ID が見つからない。DB2 for IBM i サーバーの場合は、これは損傷したユーザー・プロファイルまたは PASSWORD(*NONE) を意味している可能性があります。</li> <li>• 7 -- ユーザー ID が取り消されたか使用不可。</li> <li>• 15 -- サーバーで機密保護処理が失敗した。</li> <li>• 16 -- 新しいパスワードが正しくない。</li> <li>• 17 -- クライアントによって要求されている機密保護メカニズムがサポートされないかサーバーで使用できない。以下の回復情報を参照してください。</li> <li>• 22 -- クライアントで機密保護処理が失敗した。</li> <li>• 23 -- CCSID パスワードの CCSID 変換が失敗した。</li> </ul>
回復手順:	<p>可能な場合には、理由コードによって指示された問題を訂正して、接続をやり直してください。理由コード 17 の共通の原因として、サーバーでパスワードが必要とされているのに、クライアントには送信すべきパスワードがなく、ユーザー識別コードだけが送信されたことがあります。あるいは、サーバーは暗号化されたパスワードを必要としていて、クライアントが暗号化されたパスワードを送りませんでした。パスワードはユーザーが次の 2 つの方法で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- SQL CONNECT ステートメントで USER ... USING ... 文節を使用することによって。または、</li> <li>• 2 -- ADDSVRAUTE CL コマンドを使用し、ユーザーのプロファイルの下にリモート・サーバーのためのサーバー認可項目を追加することによって。サーバー名 (DRDA RDB NAME) は大文字で入力しなければなりません。</li> </ul> <p>DRDA サーバーは、CHGDDMTCPA CL コマンドで、パスワードを必要としないか、あるいは暗号化されたパスワードを必要としないように構成できます。</p>
SQLCODE:	-30082
SQLSTATE:	08001

SQ30089	
メッセージ・テキスト:	DB2 マルチシステムの処理中に通信エラーが起きました。
原因:	<p>通信エラーが起きました。考えられる理由のリストには次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモート・システムが使用可能になっていない。</li> <li>• 通信ネットワークが利用不能である。</li> <li>• 接続の開始に使用されたユーザー識別コードがリモート・システムに存在しない。</li> </ul>
回復手順:	<p>詳細については、前のメッセージを参照してください。起り得る問題について、リモート・システムおよび通信ネットワークの状況を検査してください。エラー・メッセージについては、QSYSOPR メッセージ待ち行列を検査してください。</p>
SQLCODE:	-30089

<b>SQ30089</b>	
SQLSTATE:	08001

<b>SQ30090</b>	
メッセージ・テキスト:	読み取り専用アプリケーション・サーバーに対する変更要求は正しくない。
原因:	アプリケーション要求元が読み取り専用のアプリケーション・サーバーを要求しています。読み取り専用のアプリケーション・サーバーに有効でないステートメントの実行が試みられました。このメッセージは、COMMIT オプションを*NONE に設定した対話式の SQL を使用して DB2 for IBM i 以外のシステムに初めて接続しようとした時に出されることがあります。
回復手順:	プログラムから変更要求を除去してやり直してください。DB2 for IBM i ではないシステムに COMMIT(*NONE) を使用したのが問題である場合には、別のコミットメント制御レベルに変更して、やり直してください。
SQLCODE:	-30090
SQLSTATE:	25000、2D528、2D529

<b>SQ30104</b>	
メッセージ・テキスト:	値 &2 のバインドまたはプリコンパイル・オプション &1 は無効です。
原因:	DB2 for IBM i アプリケーション・サーバーでサポートされている値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AS400NAMING -- SQL または SYSTEM</li> <li>• OS400NAMING -- SQL または SYSTEM</li> <li>• SORTSEQ -- JOBRUN または HEX</li> <li>• MAXSCALE -- 0 と 31 の間</li> <li>• MINDIVSCALE -- 0 と 9 の間で、MINDIVSCALE は MAXSCALE を超えることはできません。</li> <li>• ROUNDING -- CEILING、DOWN、FLOOR、HALFDOWN、HALFEVEN、HALFUP、または UP</li> </ul>
回復手順:	総称バインド・オプション値を訂正し、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-30104
SQLSTATE:	56095

<b>SQ30106</b>	
メッセージ・テキスト:	複数行挿入の入力データは無効です。
原因:	複数行入力操作のための行の処理時にデータ・エラーがクライアントで検出されました。NULL 標識値 -2 (X'FE') をクライアントから受け取りました。これは、NULL 行について SQLSTATE 22527 を含んでいるエラーの SQLCA をサーバーが戻すことを示します。分割不能な複数行入力操作の場合、このようなエラーは複数行入力要求の処理を終了し、この要求の結果行われた変更があっても取り消されます。分割不能でない複数行入力操作の場合、このようなエラーは複数行入力要求の処理を終了しますが、この要求で変更があっても取り消されません。
回復手順:	エラーになっている複数行入力操作がどの部分かを判別して、要求を再試行してください。
SQLCODE:	-30106
SQLSTATE:	22527

<b>SQ30107</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソルのクローズでレコード読み取りロックを解放する要求は無視されました。
原因:	DB2 for IBM iはこの機能をサポートしません。この警告を防止するには、次のとおりに実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 組み込み SQL の場合、CLOSE から WITH RELEASE 文節を取り除いてください。</li> <li>• CLI の場合、解放でカーソルを定義するオプションを取り除いてください。</li> </ul>
回復手順:	
SQLCODE:	+30107
SQLSTATE:	01662

<b>SQL0007</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメント中の文字 &1 (16 進数 &2) が正しくない。
原因:	SQL ステートメントに指定された文字 &1 は使用できません。この文字の 16 進数表現は &2 です。この文字はプリコンパイラによって無視され、ステートメントの処理が続行されます。
回復手順:	文字を訂正してください。文字を引用符またはアポストロフィで囲む必要がある場合があります。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-007
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0010</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 で始まるストリング定数が区切られていません。
原因:	&1 で始まる定数にストリング区切り文字が抜けています。このストリングは、ソース・ファイルの終わりで区切られているものとして扱われます。
回復手順:	このストリング定数に区切り文字を指定してください。引用符やアポストロフィの脱落または余分を調べてください。これらのエラーが他のエラーの原因となることがあります。ストリーム区切り文字が脱落しあるいは余分にある結果として、一部のステートメントが処理されない場合があります。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-010
SQLSTATE:	42603

<b>SQL0011</b>	
メッセージ・テキスト:	注記が閉じられていません。
原因:	注記が注記区切り文字で正しく閉じられていません。この注記は、ソース・ファイルの終わりで閉じられているものとして扱われます。
回復手順:	注記区切り文字が正しく指定されていて、指定されたマージンの間にあるかどうかを確認してください。このエラーが他のエラーの原因となることがあります。注記区切り文字が脱落している結果として、一部のステートメントが処理されない場合があります。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-011
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0012</b>	
メッセージ・テキスト:	欄 &1 についてテーブル &2 に対して修飾のない相互関連が行われた。
原因:	副選択で起こる列 &1 は、明示的に修飾されていないので、副選択の FROM 文節に指定されたライブラリー &3 のテーブル &2 に起こるか、あるいは更新または削除操作の対象として起こります。したがって、この副選択のこの列に対する参照は外部参照であり、相関が行われることとなります。
回復手順:	相関を使用するつもりであったことを確認してください。相関を使用するつもりでなかった場合には、この列は、列 &1 が参照されたのと同じレベルの副選択の FROM 文節で識別されるどのテーブルまたは表示にも存在しません。意図された相関参照を明示的に修飾するのはよいことなので、列 &1 がテーブル指定子で修飾されるようにステートメントを変更するようお奨めします。
SQLCODE:	+012
SQLSTATE:	01545

<b>SQL0029</b>	
メッセージ・テキスト:	INTO 文節が組み込みステートメントから欠落しています。
原因:	プログラムに組み込まれている SELECT および VALUES INTO ステートメントには、ステートメントの結果を入れる場所を指定する INTO 文節が必要です。
回復手順:	INTO 文節をステートメントに追加して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-029
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0030</b>	
メッセージ・テキスト:	ホスト変数の数が結果の値より少ない。
原因:	INTO 文節中に指定されているホスト変数の数が結果値の数より小さくなっています。このプログラムを実行した場合には、指定された変数にだけ値が割り当てられます。
回復手順:	すべての値を受け取るには、正しい数のホスト変数を指定してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	+030
SQLSTATE:	01503

<b>SQL0051</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソルまたはプロシージャ &1 は前に宣言されている。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>カーソル &amp;1 はすでに前の DECLARE CURSOR ステートメントで指定されている。カーソル名はプログラム内で固有でなければなりません。</li> <li>CALL ステートメントに指定されたプロシージャ &amp;1 が不明瞭。</li> </ul>
回復手順:	すべての DECLARE CURSOR ステートメントのカーソル名およびすべての DECLARE PROCEDURE ステートメントのプロシージャ名がプログラム内で固有であることを確認してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-051
SQLSTATE:	3C000

SQL0057	
メッセージ・テキスト:	SQL 関数内の RETURN ステートメントは値を戻さなければなりません。
原因:	RETURN ステートメントが SQL 関数内で戻り値なしで指定されています。戻り値が指定されていなければなりません。
回復手順:	戻り値を追加します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-057
SQLSTATE:	42631

SQL0058	
メッセージ・テキスト:	RETURN ステートメントに指定する値は整数でなければなりません。
原因:	RETURN ステートメントが SQL プロシージャ内で指定されていますが、指定した値が整数ではありません。SQL プロシージャの戻り値は整数でなければなりません。
回復手順:	整数値を RETURN ステートメントに指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-058
SQLSTATE:	428F2

SQL0060	
メッセージ・テキスト:	&2 関数の引数 &1 の値 &3 が正しくない。
原因:	&2 関数の引数 &1 に &3 として指定した長さまたは位取りが正しくありません。数値に指定する長さは 1 - 63 で符号のない整数でなければなりません。数値に指定する位取りは 0 から指定する長さまでの符号のない整数でなければなりません。
回復手順:	この関数に指定した長さまたは位取りを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-060
SQLSTATE:	42815

SQL0074	
メッセージ・テキスト:	記述子 COUNT &1 が正しくありません。
原因:	記述子の COUNT の値が、0 から、記述子の割り振り時に割り当てられた項目の最大数までの間にありません。エラー・タイプとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 最上位の数が正しくありません</li> <li>• 2 -- SQDS_ITEMS が正しくありません</li> <li>• 3 -- 配列と関連した記述子項目のレベルが正しくありません</li> </ul>
回復手順:	SET DESCRIPTOR ステートメントを使用して別の COUNT 値を指定してください。
SQLCODE:	-074
SQLSTATE:	07008

SQL0075	
メッセージ・テキスト:	記述子項目番号 &1 が正しくありません。
原因:	次の理由のいずれかのために、記述子項目番号 &1 が正しくありません。-- ALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントの項目の最大数に指定された値が 1 と 8000 の間ではありません。-- GET DESCRIPTOR または SET DESCRIPTOR ステートメントで指定された項目番号が 1 と記述子が割り振られたときに割り当てられた項目の最大数との間ではありません。

SQL0075	
回復手順:	ALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントの場合、指定した最大項目数が 1 と 8000 の間であることを確認してください。GET DESCRIPTOR および SET DESCRIPTOR ステートメントの場合、VALUE に指定した項目番号が 1 と指定した記述子の項目の最大数との間であることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-075
SQLSTATE:	07009

SQL0076	
メッセージ・テキスト:	DATA または INDICATOR 項目が正しくありません。
原因:	DATA または INDICATOR 項目は、次の理由の 1 つによって正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GET DESCRIPTOR ステートメントが DATA または INDICATOR 項目を要求していますが、DATA または INDICATOR 項目に値が入っていません。</li> <li>• GET DESCRIPTOR または SET DESCRIPTOR ステートメントが、無効な DATA 項目のホスト変数を指定しました。ホスト変数は、タイプ、長さ、精度、スケール、および CCSID について DATA 項目と一致していなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	DATA または INDICATOR に既知の値がない場合には、FETCH などの操作を実行するか、あるいは GET DESCRIPTOR の前に、SET DESCRIPTOR を使用して DATA または INDICATOR 値を設定してください。GET DESCRIPTOR または SET DESCRIPTOR ステートメントのホスト変数が DATA 項目の属性と一致していない場合には、ホスト変数の属性を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-076
SQLSTATE:	22005

SQL0077	
メッセージ・テキスト:	記述子名 &1 が正しくありません。
原因:	次の理由のいずれかのために、記述子名 &1 が正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 記述子名が 128 文字より長い。</li> <li>• 記述子名が ALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントを使用して割り振られていない。</li> <li>• この名前を持つ記述子がこの接続と有効範囲に対してすでに存在する。</li> </ul>
回復手順:	名前が長すぎないことを確認してください。別のステートメントで記述子を参照する前に ALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントを使用してその記述子を定義してください。この接続と有効範囲に対して同じ名前の記述子がすでにある場合、ALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントにある名前を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-077
SQLSTATE:	33000

SQL0078	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 にはパラメーター名が必要です。
原因:	SQL ルーチンを作成時にはパラメーター名を指定しなければなりません。
回復手順:	パラメーター名を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-078
SQLSTATE:	42629

<b>SQL0079</b>	
メッセージ・テキスト:	スキーマ &2 はオブジェクト &1 には無効です。
原因:	オブジェクト &1 をスキーマ &2 で修飾することはできません。 DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントのテーブルは、SESSION で修飾する必要があります。一時テーブルへの参照は SESSION または QTEMP で修飾する必要があります。一時テーブルに対する索引およびビューは、SESSION または QTEMP スキーマの中で作成しなければなりません。
回復手順:	スキーマ名として SESSION を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-079
SQLSTATE:	428EK

<b>SQL0080</b>	
メッセージ・テキスト:	標識変数 &1 が SMALLINT タイプでない。
原因:	標識変数 &1 の定義は、位取りゼロの 2 バイトの 2 進数でなければなりません。
回復手順:	位取りゼロの 2 バイトの 2 進数として定義された標識変数を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-080
SQLSTATE:	42978

<b>SQL0084</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントを使用することができません。

SQL0084	
原因:	<p>次の理由のいずれかのために、SQL ステートメントを使用することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DECLARE CURSOR、DECLARE STATEMENT、FETCH、OPEN、CLOSE、WHENEVER、PREPARE、EXECUTE、EXECUTE IMMEDIATE、INCLUDE、SELECT INTO、VALUES INTO、DECLARE VARIABLE、DECLARE PROCEDURE、DESCRIBE、GET DIAGNOSTICS、SIGNAL、RESIGNAL、ALLOCATE CURSOR、ASSOCIATE LOCATOR、ALLOCATE DESCRIPTOR、DEALLOCATE DESCRIPTOR、GET DESCRIPTOR、および SET DESCRIPTOR は、対話式 SQL でも、動的 SQL でも、また RUNSQLSTM コマンドを使用する場合にも使用できない。</li> <li>• BEGIN DECLARE SECTION および END DECLARE SECTION は対話式 SQL、動的 SQL、RPG、または REXX で使用できない。</li> <li>• ブロック化された INSERT ステートメントは、対話式 SQL または動的 SQL で使用できない。</li> <li>• CONNECT、SET CONNECTION、RELEASE、および DISCONNECT ステートメントは、動的 SQL または REXX では使用できない。ユーザー ID およびパスワードに定数を指定した CONNECT は、プリコンパイル済みプログラムでは使用できない。</li> <li>• ユーザー ID またはヒントに定数が指定された SET ENCRYPTION PASSWORD は、プリコンパイル済みプログラムでは使用できない。-- SELECT と VALUES は、EXECUTE IMMEDIATE ステートメント、または RUNSQLSTM コマンドから出すことはできない。</li> <li>• SET OPTION ステートメントは、REXX、プリコンパイル済みプログラム、または SQL ルーチンの中でのみ使用できる。プリコンパイル済みプログラムでは、プログラム内で最初の SQL ステートメントになっていなければなりません。</li> <li>• ALLOCATE CURSOR、ASSOCIATE LOCATORS、DECLARE STATEMENT、DECLARE VARIABLE、DECLARE PROCEDURE、GET DIAGNOSTICS、INCLUDE、SELECT INTO、SET CURRENT DEGREE、SET RESULT SETS、SIGNAL、WHENEVER、ブロック化された INSERT、ブロック化された FETCH、ロケーター・ステートメント、および SQL SQL 記述子ステートメントは、REXX では使用できない。</li> <li>• SET TRANSACTION ステートメントは、現行接続先がリモート・データベースの場合には使用できない。</li> <li>• SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントを実行できるのは、デフォルトの活動化グループでのみである。これは、REXX でも、また RUNSQLSTM コマンドを使用する場合にも使用できません。</li> <li>• 指定された SQL ステートメントは、DB2 for IBM i の現行リリースでは有効なステートメントではない。このステートメントは、DB2 for IBM i の今後のリリースまたは他のシステムの SQL 実装環境によっては有効な場合があります。</li> </ul>
回復手順:	このモードでは、このステートメントを実行することはできません。プリコンパイル済みプログラム中の CONNECT または SET ENCRYPTION PASSWORD ステートメントの場合、定数の代わりにホスト変数を指定してください。対話式 SQL の場合には、ステートメント処理値を *SYN に設定してステートメントの構文検査をすることができます。
SQLCODE:	+084、-084
SQLSTATE:	01505、42612

SQL0087	
メッセージ・テキスト:	変数を NULL にすることはできません。
原因:	NULL が許可されていないグローバル変数、SQL 変数、またはパラメーターが SQL ステートメントに指定されています。

SQL0087	
回復手順:	グローバル変数、SQL 変数、またはパラメーターに値を割り当ててください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-087
SQLSTATE:	22004

SQL0088	
メッセージ・テキスト:	&1 はテーブル全体に適用される。
原因:	UPDATE または DELETE ステートメントに WHERE 文節がありません。指定したテーブルのすべての行が削除または更新されることになります。
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したテーブルのすべての行を削除または更新する必要があるかどうかを確認して、ステートメントをやり直す。</li> <li>指定したテーブルの行を必ずしもすべて削除または更新する必要がない場合には、WHERE 文節を追加して、プログラムのプリコンパイルをやり直す。</li> </ul>
SQLCODE:	+088
SQLSTATE:	01504

SQL0090	
メッセージ・テキスト:	ホスト変数はここでは使用できない。
原因:	ホスト変数 &1 はこのステートメントで使用したように使用することはできません。ホスト変数は、次の場合には使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>CREATE VIEW、CREATE TABLE、CREATE INDEX、または ALTER TABLE ステートメントの中。</li> <li>ステートメント処理値が *RUN または *VLD の時の対話式 SQL ステートメントの中。</li> <li>RUNSQLSTM コマンドによって処理される SQL ステートメントの中。</li> <li>REXX の INSERT、UPDATE、DELETE、CALL、または DECLARE CURSOR ステートメントの中。</li> </ul>
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ホスト変数を置き換えるためには、定数または列名を指定する。コロンは、次に続く名前がホスト変数であることを示します。列名を指定するためには、コロンを取り除いてください。</li> <li>対話式 SQL では、ステートメントの処理値を *SYN に設定して、ホスト変数の入っているステートメントの構文を検査する。</li> <li>REXX の場合には、ホスト変数をパラメーター・マーカースに変更して、INSERT、UPDATE、DELETE、CALL、または DECLARE CURSOR ステートメントを準備する。</li> </ul>
SQLCODE:	-090
SQLSTATE:	42618

SQL0097	
メッセージ・テキスト:	データ・タイプの使用が正しくない。

SQL0097	
原因:	ステートメントに指定されたデータ・タイプは、プロシージャや関数に対しては指定できません。LONG VARCHAR などのデータ・タイプは列にだけ指定できるもので、パラメータには指定することができません。
回復手順:	プロシージャまたは関数に指定されたデータ・タイプを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-097
SQLSTATE:	42601

SQL0100	
メッセージ・テキスト:	&1 の行が見つからない。
原因:	<p>次の状態の 1 つが起っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これが FETCH ステートメントである場合には、選択値を満足する行がこれ以上ない (ファイルの終わり)。カーソルの名前は &amp;1 で、結果セットの ID は &amp;2 です。結果セット ID がゼロでない場合には、このカーソルの結果表は、ストアード・プロシージャの結果セットとしてアクセスされていました。</li> <li>• これが、スクロール可能なカーソルの FETCH ステートメントである場合には、レコードが見つかっていない。NEXT が指定されている場合には、ファイルの終わりに到達。PRIOR が指定されている場合には、ファイルの始めに到達。RELATIVE が指定されている場合には、ファイルの始めまたはファイルの終わりに到達。FIRST または LAST が指定されている場合には、選択基準を満たすレコードがない。カーソルの名前は &amp;1 です。</li> <li>• これが、組み込まれた SELECT ステートメントである場合には、選択値を満足する行がない。</li> <li>• これが UPDATE、INSERT、DELETE、または MERGE ステートメントである場合には、副選択、WHERE 文節、または MERGE 基準を満足する行がない。行は更新、挿入、または削除されていません。</li> <li>• SKIP LOCKED DATA を指定すると、戻すために修飾された行を利用できなくなります。</li> </ul>
回復手順:	回復処置は不要です。
SQLCODE:	+100
SQLSTATE:	02000

SQL0101	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントが長すぎるか、あるいは複雑すぎる。

SQL0101	
原因:	<p>SQL ステートメントが長さまたは複雑さに許される限界を超えています。理由コードは &amp;1 です。理由コードが示すエラーは次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - UNION、EXCEPT、および INTERSECT を使用して結合された副選択の合計数が 256 を超えている。</li> <li>• 2 - 列、定数、および演算子の合計数が SQL の限界を超えている。</li> <li>• 3 - 選択リスト、テーブル、ビュー定義、またはユーザー定義のテーブル関数の中の非 LOB および XML 列の長さの合計が 32766 を超えているか、あるいは定義に LOB または XML 列が入っていて、可変長フィールドについて ALLOCATE 文節に指定された長さと非可変フィールドの長さの合計が 32740 を超えている。列のいくつかが可変長であるか NULL 値を使用できる場合には、最大長が減らされます。</li> <li>• 4 - 外部副選択で参照された副選択の合計数が 256 を超えている。</li> <li>• 5 - ステートメント・テキストの合計長が 2097152 を超えているか、または準備属性ストリング・テキストの合計長が 65535 を超えている。</li> <li>• 6 - FETCH ステートメントで指定された相対位置の値が、有効な値の範囲外になっている。</li> <li>• 7 - システム名を生成できなかった。</li> </ul>
回復手順:	ステートメントを単純化するか、あるいはステートメントを複数のステートメントに分割して、要求をやり直してください。理由コード 7 の場合には、テーブル、ビュー、索引、または別名に別の名前を指定してください。
SQLCODE:	-101
SQLSTATE:	54001、54010、54011

SQL0102	
メッセージ・テキスト:	&1 で始まるストリング定数が長すぎる。
原因:	&1 で始まるストリング定数が 32740 バイトより大きくなっています。これがグラフィック文字定数である場合には、ストリングを DBCS 16370 文字より長くすることはできません。
回復手順:	ストリングの長さを減らしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-102
SQLSTATE:	54002

SQL0103	
メッセージ・テキスト:	&数値定数 1 が正しくない。
原因:	トークン &1 が数字で始まっていますが、このトークンは有効な整数、10 進数、または浮動小数点定数ではありません。COBOL プログラムの中を除き、識別名を数字で開始することはできません。
回復手順:	<p>次の 1 つを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トークン &amp;1 が正しいことを確認する。文字定数が必要な場合には、アポストロフィまたは引用符を使用してください。</li> <li>• 数字が必要な場合には、正しくない文字 (1 つまたは複数) を取り除く。</li> </ul>
SQLCODE:	-103
SQLSTATE:	42604

<b>SQL0104</b>	
メッセージ・テキスト:	トークン &1 は正しくない。有効なトークンは &2 です。
原因:	トークン &1 で構文エラーが検出されました。トークン &1 は正しいトークンではありません。有効なトークンの部分的なリストは &2 です。このリストはトークンまでのステートメントが正しいと見なします。エラーはステートメントの始めの方にある可能性があります。この点まではステートメントの構文が正しいように見えます。
回復手順:	次の 1 つまたは複数を実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>トークン &amp;1 のところの SQL ステートメントを検査してステートメントを訂正。エラーの原因は、コンマまたは引用符の脱落、つづりの間違っ語、あるいは文節の順序にあると思われる。</li> <li>エラー・トークンが &lt;END-OF-STATEMENT&gt; である場合には、SQL ステートメントが正しい文節で終了していないので、SQL ステートメントを訂正。</li> </ul>
SQLCODE:	-104
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0105</b>	
メッセージ・テキスト:	混合、グラフィック、または UTF-8 スtring定数は正しくありません。
原因:	&1 を開始する値で正しくない混合、グラフィック、または UTF-8 定数が見つかりました。以下のいずれかが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>シフトアウト文字とシフトイン文字の間が奇数バイト。</li> <li>シフトイン文字が見つかる前に、複数個のシフトアウト文字が見つかった。</li> <li>シフトアウトおよびシフトインが、それぞれ最初のバイトと最後のバイトに見つかっていないか、あるいはグラフィック・String定数の最初と最後のバイト以外の位置に見つかった。</li> <li>PL/I 形式のグラフィック・Stringが使用されていますが、プログラムが PL/I ではない。</li> <li>PL/I グラフィック・Stringを示すシフトアウトが見つかった。シフトアウトに、DBCS のアポストロフィ、偶数個の DBCS 文字、DBCS のもう 1 個のアポストロフィ、DBCS の G、およびシフトインが続けられていません。</li> </ul> <p>これが列の LABEL ON ステートメントでStringが 20 バイトより長い場合には、20 バイトのセグメントの 1 つに有効でない DBCS 定数が入っています。</p>
回復手順:	正しい形式の定数を指定してください。これが列の LABEL ON ステートメントである場合には、20 バイトのセグメントの形式が正しいことを確認してください。引用符、アポストロフィ、シフトアウト文字、シフトイン文字、またはシフトアウト文字とシフトイン文字の間の奇数個の文字を調べてください。グラフィック・String定数がその言語の正しい形式で指定されていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-105
SQLSTATE:	42604

<b>SQL0106</b>	
メッセージ・テキスト:	FLOAT または DECFLOAT に指定された精度が正しくない。

SQL0106	
原因:	FLOAT または DECFLOAT に指定された精度が正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DECFLOAT 精度は、16 または 34 でなければなりません。</li> <li>• FLOAT 精度は、1 から 53 の範囲でなければなりません。1 から 23 を指定すると、データ・タイプは単精度浮動小数点になります。24 から 53 を指定すると、データ・タイプは倍精度浮動小数点になります。</li> </ul>
回復手順:	指定した精度を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-106
SQLSTATE:	42611

SQL0107	
メッセージ・テキスト:	&1 が長すぎます。最大は &2 桁です。
原因:	&1 で始まる名前またはストリングが長すぎます。許される最大長は &2 です。名前の最大長はその名前のタイプによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム名は 10 桁を超えてはいけません。</li> <li>• SQL 名は 128 桁を超えてはいけません。</li> <li>• リレーショナル・データベース名は 18 桁を超えてはいけません。</li> <li>• プロシージャ名または関数名は 128 桁を超えてはいけません。外部プログラム名が指定されない場合には、プロシージャ名をプログラム名で使用するの、10 桁を超えてはいけません。</li> <li>• C および C++ のホスト変数名は 128 桁を超えてはいけません。その他すべての言語のホスト変数名は 64 桁を超えることはできません。</li> </ul> <p>パスワードのストリングの最大長は 128 です。</p> <p>COMMENT ON ステートメントのストリングの最大長は 2000 です。</p> <p>COMMENT ON SEQUENCE のストリングは 500 文字を超えることはできません。</p> <p>LABEL ON ステートメントのストリングの最大長は 50 です。ラベルが列見出しとして指定される場合の最大長は 60 です。</p> <p>パッケージ・バージョンのストリングの最大長は 64 です。</p>
回復手順:	この名前またはストリングを &2 以下の長さに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-107
SQLSTATE:	42622

SQL0109	
メッセージ・テキスト:	&1 文節を使用することができない。

SQL0109	
原因:	<p>次の条件の 1 つが許可されませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SELECT INTO および VALUES INTO ステートメントに FOR UPDATE 文節、FOR READ ONLY 文節、OPTIMIZE 文節、あるいは UNION、EXCEPT、または INTERSECT 演算子を組み込むことはできない。</li> <li>• カーソル宣言または副選択で使用された SELECT または VALUES ステートメントに INTO 文節を組み込むことはできない。</li> <li>• CREATE VIEW ステートメントに INTO、ORDER BY、FOR UPDATE、FOR READ ONLY、または OPTIMIZE 文節を組み込むことはできない。</li> <li>• INSERT ステートメントに、副選択の INTO 文節、FOR UPDATE、FOR READ ONLY、または OPTIMIZE 文節を組み込むことはできない。</li> <li>• 対話式 SQL または RUNSQLSTM コマンドで処理されたステートメントでは、WHERE CURRENT OF カーソル文節を使用することはできない。</li> <li>• 省略時の値が指定されていない限り、テーブルに追加される列の定義に NOT NULL 文節を使用することはできない。</li> <li>• ステートメントが GENERATED ALWAYS によって定義された列を変更している場合は、OVERRIDING USER VALUE および OVERRIDING SYSTEM VALUE だけが有効。</li> <li>• RAISE_ERROR 関数は、選択リストまたは CASE 式だけに指定できない。</li> </ul>
回復手順:	この文節を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-109
SQLSTATE:	42601

SQL0110	
メッセージ・テキスト:	&1 で始まる 16 進定数が正しくない。
原因:	<p>16 進定数 &amp;1 に正しくない 1 つまたは複数の文字が入っているか、またはストリング区切り文字間の文字数が正しくありません。すべての埋め込まれたブランク (X'40') 文字は、検証の前にストリングから除去されます。16 進定数には、偶数個の文字が入っていなければなりません。16 進グラフィック・ストリングの長さは、正しい数の DBCS 文字を入れられるように 4 の倍数でなければなりません。MIXED データを表す 16 進定数は、シフトアウト (X'0E') とシフトイン (X'0F') 文字の間が偶数バイトで、対のシフト文字がなければなりません。16 進グラフィック定数にシフトアウトまたはシフトインを含めることはできません。</p>
回復手順:	<p>定数を訂正してください。定数の桁数が偶数であること、および 16 進グラフィック定数の長さが 4 の倍数であることを確認してください。16 進数字として有効な文字は文字 0 から 9 および大文字または小文字の A から F です。MIXED データの形式が正しいことを確認してください。16 進グラフィック定数からシフトアウト文字またはシフトイン文字を取り除いてください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-110
SQLSTATE:	42606

SQL0112	
メッセージ・テキスト:	関数 &1 の引数に別の関数が含まれています。
原因:	<p>集約関数 &amp;1 の引数内に、別の集約関数が入っています。集約関数の引数として使用できるのは、集約関数が入っていない式だけです。</p>
回復手順:	関数の指定を訂正してください。要求をやり直してください。

<b>SQL0112</b>	
SQLCODE:	-112
SQLSTATE:	42607

<b>SQL0113</b>	
メッセージ・テキスト:	名前 &1 を使用することはできない。
原因:	<p>&amp;1 に使用できない文字が入っているか、あるいは文字が入っていません。</p> <p>通常識別 ID は (A から Z、¥、#、または @) で始めて、ゼロまたは 1 つ以上の (A から Z、0 から 9、¥、#、@、または _) がその後に続いていなければなりません。区切られた識別コードは、SQL エスケープ文字内の文字列です。区切られた名前に使用できる文字は、名前のタイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム・テーブル名、スキーマ名、パッケージ名、およびその他のシステム・オブジェクトのエスケープ文字間の文字は、16 進数 00 から 3F、16 進数 40 (スペース)、16 進数 5C (*), 16 進数 6F (?), 16 進数 7D ("), 16 進数 7F ('), および 16 進数 FF を除いた任意の文字とすることができる。</li> <li>SQL 名のエスケープ文字間の文字は、16 進数 00 から 3F および 16 進数 FF 以外の任意の文字とすることができる。</li> <li>区切ったシステム列名は (A から Z、¥、#、または @) で始めて、ゼロまたは 1 つ以上の (A から Z、0 から 9、¥、#、@、または _) がその後に続いていなければならない。</li> </ul> <p>リレーショナル・データベース名は A から Z で始めて、0 または 1 つ以上の文字、数字 0 から 9、または下線 (_) がその後に続いていなければならない。</p> <p>ホスト変数内に入っている通常の識別コードには (大文字に変換されない)ので 小文字を含めてはならない。</p>
回復手順:	名前を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-113
SQLSTATE:	28000、2E000、42602

<b>SQL0114</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 が現行リレーショナル・データベース &2 と同じでない。
原因:	ステートメントの 3 部分名にリレーショナル・データベース &1 が指定されましたが、その名前は現行リレーショナル・データベースと同じではありません。
回復手順:	指定するリレーショナル・データベース名が現行リレーショナル・データベース名と同じになるように、ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	+114、-114
SQLSTATE:	01536、42961

<b>SQL0115</b>	
メッセージ・テキスト:	比較演算子 &1 が正しくない。
原因:	<p>等号および不等号以外の簡単な比較演算子は、項目のリストと一緒に使用できません。</p> <p>ANY、ALL、および SOME 比較演算子の後にくるのは、式または項目のリストでなく全選択でなければなりません。JOIN 条件や CASE 式に SUBQUERY を指定することはできません。</p>

<b>SQL0115</b>	
回復手順:	比較またはオペランドのいずれかを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-115
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0117</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメントに入っている値の個数が間違っている。
原因:	<p>以下の条件の 1 つが存在すると思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• INSERT または UPDATE ステートメントの場合、値の数が、列の数と同じではありません。</li> <li>• UPDATE ステートメントの場合、行の全選択の選択リスト中の項目数が、SET 文節にリストされている列数と一致していません。</li> <li>• 副選択を伴った INSERT の場合、選択リスト中の項目数が、INSERT の列数と同じではありません。</li> <li>• INSERT ステートメントの場合、列リストから省略された 1 つ以上の列が、NOT NULL として作成されています。</li> <li>• INSERT ステートメントの場合、INSERT 用として指定された 1 つ以上の列が NOT NULL として作成されていて、ステートメントは、挿入される値として DEFAULT を指定しています。</li> <li>• SET または VALUES INTO の場合、値の数が、ターゲット・ホスト変数の数と同じではありません。</li> </ul>
回復手順:	ステートメントを修正して、列ごとに 1 つの値を指定してください。小数点として指定された文字が数値リテラルで正しく使用されていることを確認してください。INSERT 列リストに指定されていないいずれかの列が NOT NULL として作成されている場合には、その列の値を指定してください。データ変更の INSERT ステートメント中に INCLUDE 文節がある場合、すべての INCLUDE 列に値が指定されていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-117
SQLSTATE:	42802

<b>SQL0118</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の中のテーブル &1 が、FROM 文節にも指定されました。
原因:	&2 の中のテーブル &1 は、この INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントのオブジェクト・テーブルとして指定され、副選択の FROM 文節または副照会の FROM 文節中でも指定されました。操作のオブジェクトであるテーブルを、副選択にも指定することはできません。このことは、ステートメントで参照するどの基本テーブルまたはビューにも当てはまります。操作のオブジェクトと同じ名前を持つ、TOFILE パラメーターを指定する指定変更が、このエラーの原因である可能性があります。
回復手順:	指定変更を除去するか、またはステートメントを変更して、操作のオブジェクトであるテーブルが副選択にも指定されないようにしてから、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-118
SQLSTATE:	42902

<b>SQL0119</b>	
メッセージ・テキスト:	HAVING 文節の欄 &1 または式が正しくない。

SQL0119	
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HAVING 文節に指定された列 &amp;1 が、集約関数内にも GROUP BY 文節の中にもありません。</li> <li>• HAVING 文節に指定された式が、集約関数内にも GROUP BY 文節の中にもありません。</li> </ul>
回復手順:	HAVING 文節から列または式を取り除くか、その列または式を GROUP BY 文節に追加してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-119
SQLSTATE:	42803

SQL0120	
メッセージ・テキスト:	関数 &1 の使用が正しくありません。
原因:	関数 &1 は、次のとおり、指定した場所で使用することはできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 集約関数、または集約関数をソースとするユーザー定義関数を、RETURN ステートメントに対する戻り式として、または SET ステートメント、VALUES INTO ステートメント、または MERGE ステートメントの式として、SET 文節、GROUP BY 文節、JOIN 条件に指定することはできません。集約関数または集約関数をソースとするユーザー定義関数を WHERE 文節で使用できるのは、WHERE 文節が HAVING 文節の SUBQUERY 内に現れる場合にのみです。</li> <li>• ARRAY_AGG 関数は、SELECT INTO ステートメントの選択リストか、または SET ステートメントの右側にあるスカラー SUBQUERY にのみ指定できます。DISTINCT を ARRAY_AGG と一緒に指定することはできません。</li> <li>• WHERE 文節、VALUES 文節、GROUP BY 文節、HAVING 文節、または JOIN 条件には、OLAP を指定できません。SET ステートメントや VALUES INTO ステートメントや MERGE ステートメント、UPDATE ステートメントの SET 文節、または CREATE INDEX ステートメントのキー定義の式として、あるいは RETURN ステートメントの戻り式として、OLAP を指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	関数を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-120
SQLSTATE:	42903

SQL0121	
メッセージ・テキスト:	重複名 &1 を使用することはできない。
原因:	INSERT ステートメントのカラム・リスト、UPDATE ステートメントの SET 文節、MERGE ステートメント内の INSERT あるいは UPDATE、または SET あるいは VALUES INTO ステートメント内のターゲット・ホスト変数のリストで、名前 &1 が複数回指定されています。データ変更 INSERT ステートメントの場合、INCLUDE 文節内のどの列名も固有名でなければならず、INSERT テーブル内の列名と重複してはなりません。指定された名前が同じでない場合には、次のいずれかの状況が起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オブジェクトがビューの場合には、ビュー内の 2 つの列が、基本テーブル内の同じ列を指示しています。</li> <li>• 2 つの名前が、同じシステムの列名に対応していることがあります。</li> </ul>

SQL0121	
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重複している列を取り除いてください。</li> <li>ステートメントに列リストを指定して、重複している列を取り除いてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-121
SQLSTATE:	42701

SQL0122	
メッセージ・テキスト:	SELECT リストの欄 &1 または式が無効です。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ステートメントに SELECT 文節にある列名 &amp;1 と集約関数が入っていて、GROUP BY 文節が指定されていない。</li> <li>GROUP BY 文節ではなく、SELECT 文節に列名 &amp;1 が指定されている。</li> <li>SELECT 文節に式が指定されているが、その式が GROUP BY 文節にない。</li> <li>ORDER BY 文節に指定されているが、SELECT 文節には指定されていない列または式が、上にリストされたグループ化規則に準拠していない。</li> </ul>
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>GROUP BY 文節が必要な場合には、SELECT リストおよび ORDER BY 文節中の列または式がすべて GROUP BY 文節にもあることを確認してください。</li> <li>GROUP BY 文節が必要でない場合には、SELECT リストまたは ORDER BY 文節に、列名のある集約関数を入れないようにしてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-122
SQLSTATE:	42803

SQL0125	
メッセージ・テキスト:	ORDER BY の欄番号 &1 が正しくない。
原因:	ステートメントで ORDER BY 文節に、選択可能な値の最大数 (8000) より大きいか、あるいは結果のテーブル選択リストの列数より大きい列番号が入っています。
回復手順:	ORDER BY 文節の列番号を訂正して結果のテーブルに列を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-125
SQLSTATE:	42805

SQL0128	
メッセージ・テキスト:	NULL の使用は正しくない。
原因:	指定された演算子の場合には、キーワード NULL を使用することはできません。NULL が使用できるのは、IS または IS NOT に続く述部の場合だけです。NULL は予約キーワードであり、SQL ステートメントで使用する時には、名前を区切り文字で囲んだ場合にだけ列名として使用することができます。
回復手順:	演算子を IS または IS NOT に変更するか、あるいは語 NULL を列名にするつもりであった場合には、その名前を区切り文字で囲んで指定してください。
SQLCODE:	-128
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0129</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメント中のテーブルが多すぎる。
原因:	SQL ステートメントに入っているテーブルまたはビューが多すぎます。単一の SQL ステートメントの中で参照できるテーブルまたはビューの数は最大 1000 です。CREATE TABLE AS または CREATE VIEW ステートメントが参照できるテーブルは 256 のみです。この数にはビューの基本テーブルが含まれます。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SQL ステートメントを、それぞれが最大 1000 のテーブルをもつ 2 つ以上の単純なステートメントに分割してください。</li> <li>これが CREATE VIEW または CREATE TABLE AS ステートメントの場合には、テーブルの数を最大 256 に減らしてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-129
SQLSTATE:	54004

<b>SQL0130</b>	
メッセージ・テキスト:	エスケープ文字 &1 または LIKE パターンが正しくない。
原因:	エスケープ文字 &1 が正しくないか、あるいは LIKE パターン中におけるエスケープ文字の使用が正しくありません。次の場合には、エスケープ文字が正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>長さが 1 個の SBCS 文字またはグラフィック文字でない。</li> <li>シフトイン (X'0E') およびシフトアウト (X'0F') 文字が指定された。</li> </ul> 次の場合には、LIKE パターンが正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パターンを構成している文字ストリング式に、パーセント記号、下線、またはもう 1 つの ESCAPE 文字が後に続いていない ESCAPE 文字が含まれています。</li> <li>パターンを構成している漢字ストリング式に、DBCS パーセント記号、DBCS 下線、またはもう 1 つの ESCAPE 文字が後に続いていない ESCAPE 文字が含まれています。</li> </ul>
回復手順:	有効な LIKE パターンおよびエスケープ文字を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-130
SQLSTATE:	22019、22025

<b>SQL0131</b>	
メッセージ・テキスト:	比較演算子 LIKE のオペランドが矛盾しているか、または正しくない。
原因:	LIKE 述部の引数は文字、バイナリー、グラフィック、または数値でなければなりません。次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LIKE 演算子の右のオペランドが文字、バイナリー、グラフィック、または数値ではない。</li> <li>LIKE 述部のオペランドに互換性がない。</li> <li>ESCAPE 文字が文字、バイナリー、またはグラフィックではない。</li> </ul>
回復手順:	LIKE 述部のオペランドが文字、バイナリー、グラフィック、または数値となるようにしてください。ESCAPE 文字は文字、バイナリー、またはグラフィックでなければなりません。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-131
SQLSTATE:	42818

<b>SQL0132</b>	
メッセージ・テキスト:	LIKE の述語が正しくない。
原因:	2 番目のオペランドまたは LIKE の述語に指定されたエスケープ文字が正しくありません。2 番目のオペランドは文字列または数値式でなければなりません。ESCAPE 文字は文字列式でなければなりません、特殊レジスターとすることはできません。
回復手順:	正しくないオペランドまたは演算子を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-132
SQLSTATE:	42824

<b>SQL0133</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL 関数の相互関連欄の演算子が正しくない。
原因:	HAVING 文節の SUBQUERY にある集約関数が正しくありません。この関数の引数が、演算子 (+、-、*、/、**、  )、または相関参照に適用されるスカラー関数を使った式になっています。内部副選択からの使用可能な値がなければ外部 (相関) 副選択でグループの計算値を決定することができないので、相関参照に対してこの操作を実行することはできません。
回復手順:	演算子がスカラー関数の場合には、集約関数をそのスカラー関数の引数にしてください。そうでない場合には、相関参照の演算子を取り除くか、あるいは集約関数の引数の中に入らないように演算子を移動してください。たとえば、次の形式の式の指定 AVG ( outertable.column1 + innertable.column2 ) は無効なのに対して、式 AVG ( outertable.column1 ) + innertable.column2 は有効です。
SQLCODE:	-133
SQLSTATE:	42906

<b>SQL0134</b>	
メッセージ・テキスト:	文字列、引数、またはパスが長すぎます。
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• COUNT 関数の引数が長過ぎる。DISTINCT が指定されている場合には、COUNT 関数の引数を 2000 バイトより長くすることはできません。引数がグラフィックの場合には、引数を DBCS で 1000 文字より長くすることはできません。</li> <li>• 268 個より多くのライブラリーが、SET PATH ステートメントまたは SET OPTION SQLPATH ステートメントに指定された。</li> </ul>
回復手順:	長さが最大を超えないように関数の引数またはパス中のライブラリーの数を変更します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-134
SQLSTATE:	42907

<b>SQL0136</b>	
メッセージ・テキスト:	ORDER BY、GROUP BY、または結合欄が長すぎます。

SQL0136	
原因:	ORDER BY リストの要素の最大数は 10000 です。すべての ORDER BY 要素の合計長が 32766 バイトを超えることはできません。GROUP BY リストの列の最大数は 8000 です。すべての GROUP BY 列の合計長が 32766 バイトを超えることはできません。例外結合または外側結合のすべての結合列の合計長が 32766 バイトを超えることはできません。  ORDER BY または GROUP BY リストに NULL 値可能列が入っている場合には、それぞれの NULL 値可能列に追加のバイトが必要です。ORDER BY または GROUP BY リストに可変長列が入っている場合には、2 バイトの長さが合計長に含められます。データ・コピー可能オプションが ALWCPYDTA(*NO) である場合には、すべての GROUP BY の合計長が 2000 バイトを超えることはできません。
回復手順:	ORDER BY、GROUP BY、または結合値の長さがその限界を超えないように、ステートメントを変更しなければなりません。文節から 1 つまたは複数の列名を除去する必要があります。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-136
SQLSTATE:	54005

SQL0137	
メッセージ・テキスト:	結果が長すぎる。
原因:	連結演算子または HEX スカラー関数が指定されましたが、演算の結果の長さが許容最大長を超えています。最大長は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 結果が固定長文字または固定長バイナリーの場合には、32766 バイト。</li> <li>• 結果が可変長文字または可変長バイナリーの場合には、32740 バイト。</li> <li>• 結果が固定長グラフィックの場合には、DBCS の 16383 文字。</li> <li>• 結果が可変長グラフィックの場合には、DBCS の 16370 文字。</li> <li>• 結果がバイナリーまたは文字 LOB の場合には、2147483647 バイト。</li> <li>• 結果が 2 バイト文字 LOB の場合には、1073741823 DBCS 文字。</li> </ul>
回復手順:	式を変更して、結果の長さを許容最大長以下に減らしてください。グラフィック・データから文字データへの変換を行っている場合には、当該スカラー関数に指定された結果の長さは 8191 未満でなければなりません。オペランドの長さを減らすためには、SUBSTR スカラー関数を使用することができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-137
SQLSTATE:	54006

SQL0138	
メッセージ・テキスト:	サブstring化関数の引数 &1 が正しくない。

<b>SQL0138</b>	
原因:	<p>SUBSTRING 関数の引数 2 または 3 あるいは LEFT 関数の引数 2 が範囲外になっているか、あるいは評価が整数にならない式になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SUBSTRING 関数の場合には、引数 2 は結果の最初の文字の桁を指定し、引数 3 は結果の長さを指定。引数 2 は最初の引数の有効な桁でなければなりません。引数 3 は引数 2 とストリングの終わりの間の引数 1 の長さを超えてはいけません。</li> <li>• LEFT 関数の場合には、引数 2 は結果の長さを指定。引数 2 は引数 1 の長さを超えてはいけません。</li> <li>• 引数 1 が文字ストリングまたはバイナリー・ストリングの場合には、文字は 1 バイトであり、引数 1 がグラフィック・ストリングの場合には、文字は DBCS 文字とする。</li> <li>• 引数が *N の場合には、引数の 1 つが正しくない。しかし、その引数の番号は不明です。</li> </ul>
回復手順:	<p>引数が *N の場合には、ジョブ・ログ中の前にリストされたメッセージを表示するか (DSPJOBLOG コマンド)、あるいはこの画面から F10 キー (ジョブ・ログのメッセージの表示) を押して、どの引数にエラーがあるかを調べてください。SUBSTR 関数に指定された引数の 1 つまたは複数を変更してください。INTEGER スカラー関数を使用して、引数を整数の結果に変換することができます。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	+138、-138
SQLSTATE:	01544、22011

<b>SQL0142</b>	
メッセージ・テキスト:	SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントを使用することができません。
原因:	SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントの使用は、このインターフェースによって制限されます。
回復手順:	SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントを別のインターフェースを通じて使用してください。
SQLCODE:	-142
SQLSTATE:	42612

<b>SQL0143</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメント &1 は無視されます。
原因:	ステートメント &1 は DB2 for IBM i ではサポートされていません。無視されています。
回復手順:	アクションは不要です。
SQLCODE:	+143
SQLSTATE:	01505

<b>SQL0144</b>	
メッセージ・テキスト:	セクション番号 &1 が正しくない。現行の高セクション番号は &3 です。理由 &2。

SQL0144	
原因:	理由コードは &2 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>理由コード 1、セクション番号 &amp;1 がすでに割り当てられている。</li> <li>理由コード 2、セクション番号 &amp;1 が次の使用可能な番号より小さい。</li> <li>理由コード 3、 ENDBND のセクション番号が割り当てられた最高の番号より小さい。</li> <li>理由コード 4、セクション番号が SQL パッケージ中ではない。</li> <li>理由コード 5、セクション番号ゼロは正しくない。</li> </ul>
回復手順:	IBM 担当員に連絡して、問題を報告してください。
SQLCODE:	-144
SQLSTATE:	58003

SQL0145	
メッセージ・テキスト:	IBM i 以外のアプリケーション・サーバーでは再帰はサポートされていません。
原因:	&2 のプログラム &1 が、DB2 for IBM i 以外のアプリケーション・サーバーに接続される時に再帰的に呼び出されました。このプログラムは、&4 の製品 ID を使ってアプリケーション・サーバー &3 に接続していました。アプリケーション・サーバーが IBM プロダクトである場合には、ID は pppvrrm の形式です。ppp はプロダクトを次のように識別します。DB2 for z/OS の場合は DSN、VM および VSE の場合は ARI、DB2 for IBM i の場合は QSQ、その他のすべての DB2 プロダクトについては SQL。vv は 2 桁のバージョン ID ('07'など)。rr は 2 桁のリリース ID ('01' など)。m は 1 桁のモディフィケーション・レベル (例えば '0') です。例えば、アプリケーション・サーバーが DB2 for z/OS のバージョン 7 リリース 1 であれば、この製品 ID の値は 'DSN07010' になります。
回復手順:	DB2 for IBM i 以外のサーバーに接続した時に再帰的に呼び出されないように、アプリケーションを変更してください。
SQLCODE:	-145
SQLSTATE:	55005

SQL0150	
メッセージ・テキスト:	&2 のビュー・ファイルまたは論理ファイル &1 は読み取り専用である。
原因:	更新、削除、挿入、またはマージは許可されていません。 &2 の &1 を使用できるのは読み取り操作の場合だけです。次の条件の 1 つまたは複数該当する場合には、ビューまたは論理ファイルは読み取り操作でしか使用することができません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ビューに DISTINCT キーワード、GROUP BY 文節、HAVING 文節、または外部の全選択の集約関数が入っている。</li> <li>ビューまたは論理ファイルは、外部全選択内の複数のテーブルを参照する。</li> <li>外部全選択のテーブルと同じテーブルを参照する副照会がビューに入っている。このタイプのビューは行の挿入に使用することができます。</li> <li>ビューでは、UNION、EXCEPT、または INTERSECT が外部全選択に入っている。</li> <li>ビューのすべての列が式、定数、または特殊レジスターである。</li> <li>論理ファイルのすべての列が入力専用である。</li> <li>ビューの選択リストで、基本テーブルの NULL 値または省略時の値を使用できない列を除外している。ビューへの挿入は許可されません。</li> </ul>

SQL0150	
回復手順:	ビュー &1 の基本テーブルに対してデータの挿入、削除、更新、またはマージを行うようステートメントを変更してください。ビューで INSTEAD OF トリガーが定義されていない限り、テーブルまたはビューに行を挿入する場合に、テーブルのどの列にも NULL 値やデフォルト値を使用できないときは、すべての列に値を割り当てなければなりません。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-150
SQLSTATE:	42807

SQL0151	
メッセージ・テキスト:	&3 のテーブル &2 の列 &1 は、更新できません。
原因:	<p>&amp;1 は INSERT ステートメントの暗黙的または明示的な列リストの列、あるいは UPDATE ステートメントの SET 文節の列です。&amp;1 は次の理由で読み取り専用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 式、定数、または特殊レジスタから派生した。</li> <li>• 更新できない基礎になっているビューの列で定義された。</li> <li>• 入力専用として定義された論理ファイルの列。</li> </ul> <p>拡張標識サポートが有効になっていないか、または拡張標識サポートは有効になっていても、標識値が UNASSIGNED ではありません。</p>
回復手順:	列リストまたは SET 文節から列 &1 を除去してください。これが INSERT で、列リストが指定されていない場合には、列 &1 を取り除くように列リストを指定してください。拡張標識サポートが有効になっている場合、UNASSIGNED 値を持った標識変数を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-151
SQLSTATE:	42808

SQL0152	
メッセージ・テキスト:	&2 の制約 &1 の制約タイプが正しくない。
原因:	ALTER TABLE ステートメントを使用して、&2 の制約 &1 を消去しようとした。この制約は CHECK、UNIQUE、PRIMARY、または FOREIGN KEY として指定されていて、見つけた制約と同じではありません。
回復手順:	消去したい制約の名前とタイプを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-152
SQLSTATE:	42809

SQL0153	
メッセージ・テキスト:	欄リストが必要です。
原因:	<p>結果の列名が指定されていないので、列リストの指定が必要です。結果の列名は、次の理由のいずれかのために指定されていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SELECT リストの要素が列ではなく、AS 文節が指定されていない。</li> <li>• UNION、EXCEPT、または INTERSECT の中の副選択の対応する列が同じ名前ではない。</li> <li>• 2 つの結果の列が同じ列名である。すべての列名およびシステム列名はビュー定義で固有としなければなりません。2 つの列名が同じである場合には、その列名は &amp;1 です。</li> </ul>

<b>SQL0153</b>	
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• テーブル、ビュー、または派生テーブルに列名のリストを指定する。</li> <li>• AS 文節を指定して、名前のない要素に固有の名前を割り当てるか、あるいは SELECT リストの重複している列名を変更する。</li> </ul>
SQLCODE:	-153
SQLSTATE:	42908

<b>SQL0155</b>	
メッセージ・テキスト:	変換テーブル &1 は読み取り専用です。
原因:	ステートメントを使用できません。SQL トリガーの変換テーブル &1 は読み取り操作にしか使用できません。
回復手順:	ステートメントを変換テーブル以外のテーブルを指定するように変更するか、あるいはステートメントを除去します。変換テーブルは SELECT ステートメントに指定できます。名前が変換テーブルと同じ可能性がある SQL トリガー内のテーブル名は修飾します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-155
SQLSTATE:	42807

<b>SQL0156</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 が正しいタイプでない。
原因:	DROP TABLE、CREATE INDEX、LOCK TABLE、ALTER TABLE、CREATE TRIGGER または ALTER PROCEDURE ステートメントが指定されましたが、&2 の &1 が間違ったタイプです。DROP TABLE、CREATE INDEX、LOCK TABLE、および ALTER TABLE は、テーブルを指定する必要があります。BEFORE または AFTER トリガーの CREATE TRIGGER は、テーブルを指定する必要があります。INSTEAD OF トリガーの CREATE TRIGGER は、ビューを指定する必要があります。
回復手順:	ステートメントを変更して、正しいオブジェクト・タイプを使用してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-156
SQLSTATE:	42809

<b>SQL0157</b>	
メッセージ・テキスト:	FOREIGN KEY 文節で &2 の &1 が正しくない。
原因:	CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 参照制約の定義で、REFERENCES 文節に &2 のビューまたは論理ファイル &1 が指定されています。FOREIGN KEY 文節にビューおよび論理ファイルを指定することはできません。
回復手順:	親キーを含む基本テーブルを FOREIGN KEY 文節に指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-157
SQLSTATE:	42810

<b>SQL0158</b>	
メッセージ・テキスト:	指定された欄の数が矛盾している。

SQL0158	
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CREATE VIEW ステートメントのビューに指定された列名の数、その後の全選択に指定されたエレメントの数と同じではありません。</li> <li>• CREATE TABLE ステートメントのテーブルに指定された列名の数、その後の全選択に指定されたエレメントの数と同じではありません。</li> <li>• 相関文節に指定された列名の数、テーブル、派生テーブル、表関数、データ変更テーブル参照、または UNNEST のエレメント数と同じではありません。</li> <li>• 共通テーブル式の列リストに指定された列名の数、全選択に指定されたエレメント数と同じではありません。</li> <li>• ユーザー定義表関数の RETURNS TABLE 文節に指定された列数が、RETURN ステートメントの全選択で指定されたエレメント数と同じではありません。</li> </ul>
回復手順:	結果に各列の列名を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-158
SQLSTATE:	42811

SQL0159	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 が正しいタイプでない。
原因:	DROP INDEX、DROP VIEW、DROP ALIAS、COMMENT ON INDEX、COMMENT ON ALIAS、RENAME INDEX、または REFRESH TABLE ステートメントが指定されていますが、&2 の &1 が正しいタイプではありません。DROP INDEX を使用できるのは索引を除外する場合だけです。DROP VIEW を使用できるのはビューを除外する場合だけです。DROP ALIAS を使用できるのは、別名を除外する場合だけです。COMMENT ON INDEX を使用できるのは索引に注記付けする場合だけです。COMMENT ON ALIAS を使用できるのは、別名に注記付けする場合だけです。RENAME INDEX を使用できるのは索引を名前変更する場合だけです。REFRESH TABLE は、実体化された QUERY テーブルを最新表示する場合にのみ使用できます。
回復手順:	次の 1 つを実行して問題を訂正し、要求をやり直してください。これが DROP ステートメントの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>• &amp;1 が索引の場合には、DROP INDEX ステートメントを使用してください。</li> <li>• &amp;1 がビューの場合には、DROP VIEW ステートメントを使用してください。</li> <li>• &amp;1 がテーブルの場合には、DROP TABLE ステートメントを使用してください。</li> <li>• &amp;1 が別名の場合には、DROP ALIAS ステートメントを使用してください。</li> </ul> <p>これが COMMENT ON INDEX または COMMENT ON ALIAS ステートメントで、&amp;1 がテーブルまたはビューの場合には、COMMENT ON TABLE ステートメントを使用してください。</p> <p>これが RENAME INDEX ステートメントで、&amp;1 がテーブルまたはビューの場合には、RENAME TABLE ステートメントを使用してください。</p> <p>これが REFRESH TABLE ステートメントの場合には、実体化された QUERY テーブルを指定してください。</p>
SQLCODE:	-159
SQLSTATE:	42809

<b>SQL0160</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のビュー &1 に WITH CHECK OPTION を指定することはできない。
原因:	<p>全選択に次の 1 つが入っているため、CREATE VIEW ステートメントで &amp;2 のビュー &amp;1 に対して WITH CHECK OPTION 文節を指定することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初の FROM 文節が複数のテーブルまたはビューを識別している。</li> <li>• 最初の SELECT 文節に DISTINCT キーワードが入っている。</li> <li>• UNION、EXCEPT、または INTERSECT が指定されている。</li> <li>• 外部副選択に GROUP BY 文節が入っている。</li> <li>• 外部副選択に HAVING 文節が入っている。</li> <li>• 外部副選択に集約関数が入っている。</li> <li>• 外部副選択に UNION、EXCEPT、または INTERSECT が入っている。</li> <li>• 外部副選択中のすべての選択項目が式である。</li> <li>• SELECT ステートメントにグローバル変数が含まれている。</li> <li>• SELECT ステートメントにスカラー副選択が含まれている。</li> <li>• WITH CASCADED CHECK OPTION 文節が指定されていて、FROM 文節のビューにスカラー副選択が含まれている。</li> <li>• 特殊レジスターもしくは DETERMINISTIC、MODIFIES SQL DATA、または EXTERNAL ACTION 以外の関数が、外部選択リストとは別の場所にある。</li> <li>• FROM 文節のビューに、その FROM 文節で定義された INSTEAD OF トリガーがある。</li> </ul>
回復手順:	WITH CHECK OPTION 文節を除去してください。
SQLCODE:	-160
SQLSTATE:	42813

<b>SQL0161</b>	
メッセージ・テキスト:	結果の行が &2 のビュー定義 &1 を満足しないので、INSERT または UPDATE を行うことができない。
原因:	<p>結果の行が &amp;2 の &amp;1 のビュー定義を満足しなかったため、INSERT または UPDATE を行うことができませんでした。このビューまたはその基礎になっているビューのいずれかに WITH CHECK OPTION 文節が入っています。INSERT データ変更テーブル参照の場合、ビューは、WITH CASCADED CHECK OPTION 文節を格納しているものとして取り扱われます。</p>
回復手順:	挿入または更新するデータを、ビュー定義に適合するように変更してください。
SQLCODE:	-161
SQLSTATE:	44000

<b>SQL0170</b>	
メッセージ・テキスト:	関数 &1 の引数の数が正しくない。

SQL0170	
原因:	<p>組み込み関数に指定された引数の数が正しくありません。この関数がユーザー定義関数参照である場合、このシグニチャーを使用する関数は現行パスを使用して見つかりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CURDATE、CURTIME、DATABASE、GENERATE_UNIQUE、IDENTITY_VAL_LOCAL、NOW、および PI の各関数は、引数なしで指定する必要があります。</li> <li>• ADD_MONTHS、CONCAT、IFNULL、LEFT、MOD、MULTIPLY_ALT、NEXT_DAY、NULLIF、POSSTR、POWER、RAISE_ERROR、REPEAT、RIGHT、ROUND、TIMESTAMP_FORMAT、TRUNCATE、および VARCHAR_FORMAT の各関数には 2 つの引数を指定する必要があります。</li> <li>• REPLACE 関数には 3 つの引数を指定する必要があります。</li> <li>• INSERT 関数には 4 つの引数を指定する必要があります。</li> <li>• RAND 関数には、ゼロまたは 1 つの引数が指定されている可能性がある。</li> <li>• BINARY、BLOB、CHAR、および TIMESTAMP 各関数には、1 つまたは 2 つの引数が指定されている可能性がある。</li> <li>• CLOB、DBCLOB、GRAPHIC、STRIP、VARCHAR、VARGRAPHIC、および暗号化と暗号化解除の各関数には、1 つから 3 つまでの引数が指定されている可能性がある。</li> <li>• DECIMAL、TRANSLATE、および ZONED の各関数には、1 つから 4 つまでの引数が指定されている可能性がある。</li> <li>• COALESCE、MAX、および MIN の各関数には、少なくとも 2 つの引数がなければならない。</li> <li>• LOCATE および SUBSTRING の各関数には、2 つまたは 3 つの引数が指定されている可能性がある。</li> </ul>
回復手順:	関数に指定する引数の数を訂正してください。これがユーザー定義関数である場合には、パスまたは関数シグニチャーを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-170
SQLSTATE:	42605

SQL0171	
メッセージ・テキスト:	関数 &2 の引数 &1 が正しくない。
原因:	指定した関数 &2 の引数 &1 のデータ・タイプ、長さ、または値が正しくありません。
回復手順:	スカラー関数の詳細は、「DB2 for IBM i SQL Reference」を参照してください。この関数に指定されている引数を訂正します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-171
SQLSTATE:	42815

SQL0172	
メッセージ・テキスト:	関数 &1 は INCLUDE では許可されていません。
原因:	<p>関数 &amp;1 を INCLUDE 文節に指定することはできません。INCLUDE 文節に指定できる関数は、集約関数</p> <p>AVG、COUNT、COUNT_BIG、SUM、STDDEV、STDDEV_SAMP、VARIANCE、および VARIANCE_SAMP とこれらの関数のソース派生関数のみです。</p>
回復手順:	当該関数を、サポート対象の集約関数に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-172
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0175</b>	
メッセージ・テキスト:	COMMIT、ROLLBACK、または SAVEPOINT に失敗しました。
原因:	理由コード &2 のためにコミット、ロールバック、または SAVEPOINT に失敗しました。作業論理単位識別名は &1 です。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- トランザクション・プログラム・エラーが起こった。</li> <li>• 2 -- コミットの結果としてロールバックとなった。</li> <li>• 3 -- 要求されたトランザクション操作に失敗した。</li> <li>• 4 -- SAVEPOINT 操作に失敗した。</li> </ul>
回復手順:	ジョブ・ログ中の直前のメッセージを表示して、適切な処置を取ってください。
SQLCODE:	-175
SQLSTATE:	3B504, 58028

<b>SQL0177</b>	
メッセージ・テキスト:	CHECK 条件テキストが長すぎます。
原因:	CHECK 制約の CHECK 条件テキストが 2000 バイトより長く、SYSCHKCST カタログ・ビューに収まりません。CHECK 条件テキストをシステム・カタログ・ビューに記憶することができません。SYSCHKCST カタログ・ビューの CHECK_CLAUSE 列には、この制約について NULL 値が入れられます。
回復手順:	回復処置は不要です。システム・カタログ・ビューに完全なテキストが必要な場合には、1 つの大きな CHECK 制約の代わりに複数の CHECK 制約の使用を考慮してください。
SQLCODE:	+177
SQLSTATE:	01009

<b>SQL0178</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のビュー &1 の QUERY 式テキストが長すぎる。
原因:	&2 のビュー &1 用の QUERY 式テキストが 10000 バイトより長くなっていて、SYSVIEWS カタログ・ビューに収まりません。このステートメント・テキストをシステム・カタログ・ビューに記憶させることはできません。このビューについては、NULL 値が SYSVIEWS カタログ・ビューの VIEW_DEFINITION 列に入れられます。
回復手順:	回復処置は不要です。完全なテキストがシステム・カタログ・ビューで必要な場合には、そのビューを QUERY 式の長さを 10000 バイト以下にして再作成してください。
SQLCODE:	+178
SQLSTATE:	0100A

<b>SQL0180</b>	
メッセージ・テキスト:	日付、時刻、またはタイム・スタンプ値の構文が正しくない。
原因:	日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表現が、指定または暗黙のデータ・タイプおよび形式の構文に従っていません。 &2 は正しくない文字ストリング定数であるか、あるいはストリングが入っていた列またはホスト変数です。名前が *N の場合には、値はステートメントに指定された式です。ストリングがホスト変数で見つかった場合には、ホスト変数番号は &1 です。
回復手順:	日付、時刻、またはタイム・スタンプの値がそれぞれの表すデータ・タイプの構文に従っているかどうかを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+180, -180

<b>SQL0180</b>	
SQLSTATE:	01534, 22007

<b>SQL0181</b>	
メッセージ・テキスト:	日付、時刻、またはタイム・スタンプ・ストリングの値が正しくない。
原因:	<p>日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表現が、受け入れ可能な範囲にありません。&amp;2 は正しくない文字ストリング定数であるか、あるいはストリングが入っていた列またはホスト変数です。名前が *N の場合には、値はステートメントに指定された式で見つかりました。値がホスト変数で見つかった場合には、ホスト変数番号は &amp;1 です。日付、時刻、またはタイム・スタンプ値の正しい範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年の範囲は 0001 から 9999 です。日付の形式が*MDY、*YMD、*DMY、および *JUL の場合は、年は 1940 から 2039 の範囲内でなければなりません。</li> <li>• 月の範囲は 1 から 12 です。</li> <li>• 日の範囲は、4 月、6 月、9 月、および 11 月の場合は 1 から 30、2 月の場合は 1 から 28、その他の月の場合は 1 から 31 です。うるう年の 2 月は、日の範囲を 1 から 29 とすることができます。</li> <li>• 年間通算日の日の範囲は、うるう年の場合は 001 から 366 で、その他の年は 001 から 365 です。</li> <li>• 時間の範囲は 0 から 24 です。時間が 24 の場合には、時刻の値のその他の部分はゼロでなければなりません。時刻形式が USA の場合には、時間を 12 より大きくすることはできません。</li> <li>• 分の範囲は 0 から 59 です。</li> <li>• 秒の範囲は 0 から 59 です。</li> <li>• マイクロ秒の範囲は 0 から 999999 です。</li> </ul>
回復手順:	日付、時刻、またはタイム・スタンプの値がそれぞれの表すデータ・タイプの範囲に従っているかどうかを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+181, -181
SQLSTATE:	01534, 22007

<b>SQL0182</b>	
メッセージ・テキスト:	日付、時刻、またはタイム・スタンプの式が正しくない。
原因:	<p>次のいずれかが起こっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 加算のオペランドの一方が日付で、他方が日付期間になっていない。</li> <li>• 加算のオペランドの一方が時刻で、他方が時刻期間になっていない。</li> <li>• 加算のオペランドの一方がタイム・スタンプで、他方が期間になっていない。</li> <li>• 減算のオペランドの一方が日付で、他方が日付、文字、または日付期間になっていない。</li> <li>• 減算のオペランドの一方が時刻で、他方が時刻、文字、または時刻期間になっていない。</li> <li>• 減算のオペランドの一方がタイム・スタンプで、他方がタイム・スタンプ、文字、または期間になっていない。</li> </ul>
回復手順:	演算式に正しい日付、時刻、またはタイム・スタンプ式が含まれるように演算式を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-182
SQLSTATE:	42816

SQL0183	
メッセージ・テキスト:	日付またはタイム・スタンプの式の結果が正しくない。
原因:	演算操作の結果が、日付の有効な範囲である 0001-01-01 から 9999-12-31 までの範囲にない日付またはタイム・スタンプになっています。結果が YMD、MDY、DMY、または JUL の形式の日付である場合には、年は 1940 から 2039 でなければなりません。これが FETCH、組み込み SELECT、SET または VALUES INTO の場合、INTO 文節中のホスト変数の相対位置は &1 であり、ホスト変数名は &2 です。
回復手順:	演算式を訂正するか、あるいはエラーが起こった時刻に処理中であったデータを訂正してください。日付の形式が YMD、MDY、DMY または JUL で、結果が 1940 から 2039 でない場合には、日付の形式に USA、ISO、EUR、または JIS を指定してください。日付の形式は STRSQL または CRTSQLXXX コマンドで指定することができ、また、CHGJOB コマンドを使用してジョブで変更することができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+183、-183
SQLSTATE:	01535、22008

SQL0184	
メッセージ・テキスト:	式の中でパラメーター・マーカを使用することはできない。
原因:	日付/時刻演算式のオペランドとしてパラメーター・マーカを使用することはできません。
回復手順:	算術式を訂正します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-184
SQLSTATE:	42610

SQL0187	
メッセージ・テキスト:	ラベル付き期間の使用は正しくない。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ラベル付き期間が指定されているが、演算子プラスまたはマイナスのオペランドになっていない。</li> <li>年、月、または日のラベル付き期間が加算または減算のオペランドとして指定されていて、他のオペランドが日付またはタイム・スタンプになっていない。</li> <li>時、分、または秒のラベル付き期間が加算または減算のオペランドとして指定されていて、他のオペランドが時刻またはタイム・スタンプになっていない。</li> <li>マイクロ秒のラベル付き期間が加算または減算のオペランドとして指定されていて、他のオペランドがタイム・スタンプになっていない。</li> <li>ラベル付き期間が減算の左オペランドとして指定されている。</li> <li>ラベル付き期間に指定された値が数字タイプになっていない。</li> </ul>
回復手順:	ラベル付き期間の使用を訂正します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-187
SQLSTATE:	42816

SQL0188	
メッセージ・テキスト:	&1 は名前の正しいストリング表現でない。

SQL0188	
原因:	<p>ホスト変数に、次の理由の 1 つのために正しくない名前のストリング表現が入っています。理由は次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト変数が空である。</li> <li>• 最初の文字がピリオド、スラッシュ、またはブランクになっている。</li> <li>• 識別コードの数が、オブジェクトの名前に許される最大数を超えている。たとえば、ホスト変数はテーブル名を識別しますが、ホスト変数には 4 つ以上の識別コードが入っています。テーブル名には最大 3 つの識別コードを入れることができます。リレーショナル・データベース名には、最大 1 つの識別コードを入れることができます。</li> <li>• 識別コードが長すぎる。</li> <li>• 区切り文字付き識別コードに入っていないピリオドの後に、ピリオドまたはブランクが続いている。</li> <li>• 区切り文字付き識別コードに入っていないスラッシュの後に、スラッシュまたはブランクが続いている。</li> <li>• ブランクの後にブランク以外の文字が続いている。</li> <li>• 区切り文字付き識別コードに文字が入っていない。</li> <li>• 区切り文字付き識別コードの後に、ピリオド、スラッシュ、またはブランク以外の文字が続いている。</li> <li>• 区切り文字付き識別コードから、終わり区切り文字が脱落している。</li> </ul>
回復手順:	名前を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-188
SQLSTATE:	22503、28000、2E000

SQL0189	
メッセージ・テキスト:	コード化文字セット識別コード &1 は正しくない。
原因:	<p>次の理由の 1 つにより、コード化文字セット識別コード (CCSID)&amp;1 が正しくありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CCSID が EBCDIC ではない。</li> <li>• CCSID がシステムによってサポートされていない。</li> <li>• データ・タイプに対して CCSID が正しくない。</li> <li>• グラフィック・データに CCSID を指定する場合には、CCSID は DBCS CCSID でなければならない。</li> <li>• UCS-2 または UTF-16 データに CCSID を指定する場合には、CCSID は UCS-2 または UTF-16 CCSID でなければならない。</li> <li>• XML データに CCSID を指定する場合には、CCSID は SBCS またはユニコードでなければならない。CCSID を DBCS や 65535 にすることはできません。</li> <li>• CCSID を CLOB、DBCLOB、または DATALINK データに指定する場合には、CCSID は 65535 にはしてはいけません。</li> <li>• FILE LINK CONTROL をもつ DATALINK 列が複数ある場合には、それらの列はすべて同じ CCSID をもたなければならない。</li> <li>• NORMALIZED 文節は、UTF-8 または UTF-16 CCSID の場合にしか指定できない。</li> </ul>
回復手順:	<p>ステートメント中のすべての CCSID 値がシステムでサポートされていて、このデータ・タイプに有効であることを確認してください。有効な CCSID 値のリストについては、IBM i Information Center (<a href="http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/">http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/</a>) のデータベース・カテゴリーの「DB2 for i5/OS SQL Reference」トピック・コレクションを参照してください。</p>

<b>SQL0189</b>	
SQLCODE:	-189
SQLSTATE:	22522

<b>SQL0190</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 の欄 &3 の属性が矛盾している。
原因:	<p>&amp;2 の &amp;1 の列 &amp;3 に指定された属性が既存の列の属性と矛盾しています。データ・タイプ、長さ、または文節のいずれかが正しくありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値の列を数値でないタイプの列に変更することはできません。</li> <li>• 文字列を DATE、TIME、TIMESTAMP、または数値列に変更することはできません。</li> <li>• DATE、TIME、または TIMESTAMP 列は、同じタイプの列にのみ変更できます。</li> <li>• 文字の列を DBCS 専用列に変更することはできません。</li> <li>• 文字、グラフィック・データ・リンク、またはユニコードの列は CCSID が非互換の列には変更できません。</li> <li>• バイナリーの列をバイナリーでない列には変換できません。</li> <li>• バイナリーでない列をバイナリーの列には変換できません。</li> <li>• データ・リンク列はそれより長さが短い列には変更できません。</li> <li>• タイプが新しいタイプにプロモート可能なものであれば、列をユーザー定義タイプに変更することができます。ユーザー定義タイプの列は、別のタイプに変更できません。</li> <li>• 列は データ・リンク、ROWID データ・タイプ、または XML データ・タイプとの間では変更できません。</li> <li>• NULL 値を使用できる列の長さは、固定長文字または固定長バイナリーの場合は 32765、可変長文字または可変長バイナリーの場合は 32739、固定長グラフィックの場合は 16382、および可変長グラフィックの場合は 16369 を超えることはできません。データ・リンク列の長さは 32717 より大きくできません。バイナリー LOB または文字 LOB または XML 列の長さは 2147483647 より大きくできません。2 バイト LOB 列の長さは 1073741823 より大きくできません。DBCS 混用列の長さを 4 未満とすることはできません。</li> <li>• 識別属性を指定できるのは、識別列として定義された列に対してだけです。識別列に DROP NOT NULL を指定することはできません。</li> <li>• DROP DEFAULT を指定できるのは、既存の列に対して省略時の値が定義されていて、その列に NULL 属性として NOT NULL が含まれていない場合だけです。</li> <li>• DROP FIELDPROC を指定できるのは、既存のカラムに対してフィールド・プロシージャが定義されている場合に限られます。</li> <li>• ADD FIELDPROC を指定できるのは、既存のカラムに対してフィールド・プロシージャが定義されていない場合に限られます。</li> <li>• XML カラムの場合は CCSID のみを変更できます。</li> </ul>
回復手順:	列 &3 と矛盾しない属性を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-190
SQLSTATE:	42837

<b>SQL0191</b>	
メッセージ・テキスト:	混合データまたは UTF-8 データの形式が正しくありません。

<b>SQL0191</b>	
原因:	混合データ・ストリングまたは UTF-8 データ・ストリングの形式が正しくありません。混合データの場合には、すべてのシフトアウト文字 ('OE') に対応するシフトイン文字 ('OF') がなければなりません。これらの文字が対になっていない場合には、そのデータは正しくありません。大文字の CCSID の場合には、小文字は有効ではありません。変換は列またはホスト変数 &2 から列またはホスト変数 &4 に向けて行われました。
回復手順:	すべての混合文字データに対するシフト文字があること、およびすべての UTF-8 データが有効であることを確認してください。UTF-8 に関して詳しくは、Information Center ( <a href="http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/">http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/</a> ) の『プログラミング・サポート』のトピックを参照してください。
SQLCODE:	+191、-191
SQLSTATE:	01547、22504

<b>SQL0192</b>	
メッセージ・テキスト:	変換関数の引数が正しくない。
原因:	TRANSLATE、UCASE、UPPER、LCASE、または LOWER スカラー関数の引数が DBCS 専用ストリングになっています。引数は SBCS、DBCS 混用、または DBCS 択一でなければなりません。
回復手順:	関数の引数を有効な値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-192
SQLSTATE:	42937

<b>SQL0194</b>	
メッセージ・テキスト:	KEEP LOCK は使用できません。
原因:	カーソル &1 について KEEP LOCK が指定されましたが、カーソルが読み取り専用にオープンされていないので、使用することができません。ロックを維持できるようにするためには、カーソルが読み取り専用にオープンされていなければなりません。読み取り専用カーソルの説明については、IBM i Information Center の「データベース」カテゴリーにある「DB2 for i5/OS SQL プログラミング」トピック・コレクションを参照してください。
回復手順:	KEEP LOCK は指定しないか、あるいは読み取り専用のカーソルを指定してください。
SQLCODE:	-194
SQLSTATE:	42848

<b>SQL0195</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 の最後の欄を除去することはできません。
原因:	ALTER TABLE ステートメントを使用して 1 つまたは複数の列を除去しようとした。テーブルの変更時には少なくとも 1 つの既存の列を保存しておかなければならないために、&2 のテーブル &1 から列を除去することはできません。
回復手順:	ALTER ステートメントが完了した後では、&2 のテーブル &1 に少なくとも 1 つの列があるようにしてください。列の 1 つから DROP を除去して要求をやり直すか、あるいはすべての列を除去しなければならない場合には、そのテーブルを除去してから再びテーブルを作成してください。
SQLCODE:	-195
SQLSTATE:	42814

<b>SQL0196</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 の欄 &3 を除去することはできない。
原因:	列 &3 を除去しようとした。このカラムは除去できません。これは、このカラムに依存しているビュー、制約、トリガー、または索引があり、かつ RESTRICT が指定されているか、このカラムが区分キーの一部であるか、あるいはこのカラムがテキスト検索索引によって参照されているためです。
回復手順:	列およびその列に依存しているビュー、制約、トリガー、および見出しを除去するためには、ALTER TABLE ステートメントに CASCADE を指定してください。列がパーティション・キーの一部である場合には、ALTER TABLE ステートメントに DROP PARTITIONING を指定してパーティション・キーから列を取り除いてください。要求をやり直してください。このカラムがテキスト検索索引の一部である場合は、SYSPROC.SYSTS_DROP ストアド・プロシージャを使用して、このテキスト検索索引を除去してください。
SQLCODE:	-196
SQLSTATE:	42817

<b>SQL0197</b>	
メッセージ・テキスト:	欄 &1 を修飾することができない。
原因:	UNION、EXCEPT、または INTERSECT 演算子を指定した場合には、SELECT ステートメントの ORDER BY 文節中の列名を修飾することはできません。
回復手順:	列名から修飾子を除去してください。ORDER BY 文節に指定された名前が結果表の指定された列であることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-197
SQLSTATE:	42877

<b>SQL0198</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントが空またはブランクである。
原因:	SQL ステートメントが空またはブランクです。次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プリコンパイル中に示された SQL ステートメントが EXEC SQL と終わりの区切り文字との間にテキストをもっていない。ステートメントは無視されます。</li> <li>SQL ステートメントを含むプログラムの実行中に、PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのオペランドがブランクか空。PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのオブジェクトであるオペランド、ホスト変数、グローバル変数またはリテラル・ストリングがすべてブランクを含んでいるか、あるいは空ストリングです。</li> </ul>
回復手順:	プリコンパイル中の場合には、ステートメントを訂正するかあるいはそれを取り除いて、プログラムのプリコンパイルをやり直してください。SQL ステートメントを含むプログラムの実行中の場合には、PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントを出す前に正しい SQL ステートメントが指定されるように、プログラムの論理を訂正してください。
SQLCODE:	-198
SQLSTATE:	42617

<b>SQL0199</b>	
メッセージ・テキスト:	キーワード &1 は必要ではありません。有効なトークンは &2 です。

SQL0199	
原因:	キーワード &1 はここでは不要です。キーワード &1 で構文エラーが検出されました。有効なトークンの部分リストは &2 です。このリストは、ステートメントが要求しないキーワードまでは正しいと見なされます。エラーはステートメントの始めの方にある可能性があります。ステートメントの構文はこの時点までは正しいものと考えられます。
回復手順:	指定されたキーワードの範囲にある SQL ステートメントを調べてください。コロンまたは SQL 区切り文字が抜けているものと考えられます。SQL では、予約語を名前として使用する場合には、それらを区切る必要があります。SQL ステートメントを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-199
SQLSTATE:	42601

SQL0203	
メッセージ・テキスト:	名前 &1 があいまいです。
原因:	名前 &1 は次の理由のいずれかのためにあいまいです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>FROM 文節に指定された 2 つまたはそれ以上のテーブルに名前 &amp;1 の列が入っている。指定された名前はテーブルの列名またはシステムの列名を指示することができます。</li> <li>名前は ORDER BY 文節に指定され、2 つ以上の結果の列名と同じ。</li> <li>SQL トリガーに指定されている OLD_ROW および NEW_ROW と、ルーチン本体内で指定されている遷移変数が修飾されていない。</li> </ul>
回復手順:	列名をテーブル名または相関名で修飾するか、あるいは AS 文節を使用して、ORDER BY 文節に指定できる固有の結果の列名を提供してください。トリガーの遷移変数を OLD_ROW または NEW_ROW に指定した名前でも修飾します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-203
SQLSTATE:	42702

SQL0204	
メッセージ・テキスト:	&2 のタイプ *&3 の &1 が見つからない。
原因:	&2 のタイプ *&3 の &1 が見つかりませんでした。メンバー名が *ALL である場合、テーブルはパーティション化されません。これが ALTER TABLE ステートメントで、タイプが *N の場合には、制約またはパーティションが見つかりません。これが ALTER TABLE ステートメントでなく、タイプが *N の場合には、関数、プロシージャ、トリガーまたは順序オブジェクトが見つかりませんでした。  関数が見つからなかった場合には、&1 はこの関数を含むサービス・プログラムです。外部名と使用法名が正確に一致しない限り、関数が見つかりません。ジョブ・ログを調べて、検索中の関数名および一致しない名前についての詳細を示すメッセージを見つけてください。
回復手順:	名前を変更して、要求をやり直してください。オブジェクトがノード・グループの場合には、DB2 マルチシステム製品がシステム上にインストール済みであることを確認して、CRTNODGRP CL コマンドを使用してノード・グループを作成してください。外部関数が見つからなかった場合には、CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME の大文字小文字がサービス・プログラムによってエクスポートされた名前の大文字小文字と正確に一致しているかを確認してください。
SQLCODE:	+204、-204
SQLSTATE:	01532、42704

<b>SQL0205</b>	
メッセージ・テキスト:	列 &1 が &3 のテーブル &2 がない。
原因:	&1 という名前の列はスキーマ &3 のテーブルまたはビュー &2 に存在していません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>列名、テーブル名、およびすべての修飾子が正しく指定されていることを確認する。</li> <li>列が修飾されていない場合には、列 &amp;1 はテーブル &amp;2 にはありません。列は最初テーブル &amp;2 に見つかりましたが、存在していません。列が現在別のテーブルで使用可能であり、このステートメントによって参照される場合には、プリコンパイルの必要なことがあります。</li> <li>複数のテーブルが SQL ステートメントで参照される場合には、列名を修飾する必要があります。</li> <li>これが CREATE TABLE ステートメントで、作成中のテーブルに対するパーティション・キーまたは制約に列 &amp;1 が指定された場合には、列 &amp;1 の列定義を追加するか、あるいは制約またはパーティション・キーからそれを除去してください。</li> <li>再帰的共通テーブル式の場合、SET 順序列名および USING 列名は共通テーブル式を定義する全選択で参照できません。</li> </ul>
SQLCODE:	-205
SQLSTATE:	42703

<b>SQL0206</b>	
メッセージ・テキスト:	カラムまたはグローバル変数 &1 が見つかりませんでした。
原因:	&1 は、&3 のテーブル &2 のカラムとして検出されず、また &2 のグローバル変数としても検出されませんでした。テーブルが *N の場合には、&1 は参照できるどのテーブルまたはビューの列でもありません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>列名およびテーブル名がステートメントに正しく指定されていることを確認してください。</li> <li>これが SELECT ステートメントの場合には、必要なすべてのテーブルが FROM 文節に指定されていることを確認してください。</li> <li>列が相関参照であると意図されていた場合には、正しいテーブル指定子で列を修飾してください。</li> <li>カラムがグローバル変数であると意図されていた場合には、そのグローバル変数が存在するスキーマで名前を修飾するか、またはそのスキーマが必ずパスに含まれるようにしてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-206
SQLSTATE:	42703

<b>SQL0208</b>	
メッセージ・テキスト:	ORDER BY 欄 &1 または式が結果のテーブルにない。
原因:	列 &1 が ORDER BY 文節に指定されていますが、UNION、EXCEPT、または INTERSECT 演算子が指定されている時に、それが結果表の名前付き列を示していないので有効ではありません。各 SELECT リスト対応する列に同じ名前がある場合には、結果の列に名前が指定されます。

SQL0208	
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNION、EXCEPT、または INTERSECT が指定された場合には、&amp;1 が名前のついた結果の列であることを確認する。</li> <li>• ORDER BY 文節で &amp;1 の代りに数値の列識別コードを指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-208
SQLSTATE:	42707

SQL0212	
メッセージ・テキスト:	重複したテーブル指定子 &1 は正しくない。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 副選択の FROM 文節中に名前 &amp;1 のテーブル指定子が複数個あります。相関名が指定されている場合には、その相関名はテーブル指定子です。これが指定されていない場合には、テーブル名またはビュー名がテーブル指定子です。SQL での命名が指定されている場合には、テーブル名は暗黙または明示のスキーマ名とその後続く実際のテーブル名とから構成されています。システムの命名方式が指定されている場合には、テーブル名そのものが修飾子なしでテーブル指定子として使用されます。テーブル指定子は副選択の各レベルで固有としなければなりません。</li> <li>• CREATE TRIGGER ステートメントの REFERENCING 文節中に指定されている名前が固有ではありません。NEW および OLD 相関名に指定されている名前と、NEW_TABLE および OLD_TABLE の名前は固有でなければならず、トリガーを定義しようとしているテーブルと同じにはいけません。</li> </ul>
回復手順:	副選択の同じレベルについて FROM 文節のすべてのテーブルに固有のテーブル指定子があるかどうかを確かめてください。スキーマ名/テーブル名を使用して列を修飾することはできないので、テーブル名を固有とするか、あるいは相関名を指定しなければなりません。CREATE TRIGGER ステートメントの REFERENCING 文節中に固有の名前を指定します。エラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-212
SQLSTATE:	42712

SQL0213	
メッセージ・テキスト:	パラメーター &1 が &3 のルーチン &2 にはない。
原因:	名前 &1 のパラメーターは、スキーマ &3 のルーチン &2 に存在していません。
回復手順:	パラメーター名、ルーチン名、および修飾子が正しく指定されていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-213
SQLSTATE:	42703

SQL0214	
メッセージ・テキスト:	ORDER BY 式が正しくない。

SQL0214	
原因:	位置 &1 の ORDER BY 文節の式が理由コード &3 のために正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - SELECT ステートメントに UNION、EXCEPT、または INTERSECT が入っています。</li> <li>• 2 - SELECT 文節に DISTINCT が指定され、式または列を選択リストの式または列と正確に一致させることができません。</li> <li>• 3 - 選択リストが集約関数を使用しているか、あるいは GROUP BY 文節があり、式が集約関数でないかまたは選択リストの式と正確に一致しません。</li> <li>• 4 - ORDER BY 文節の集約関数にはグループ化が必要です。</li> <li>• 5 - ネストされたテーブル式は ORDER BY 文節ではサポートされていません。</li> </ul>
回復手順:	理由コード &3 用にリストされた変更を行って、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - ORDER BY 文節から式を除去してください。</li> <li>• 2 - SELECT 文節から DISTINCT を取り除くか、あるいは ORDER BY 式を、数値列識別コードまたは列名を使用して選択リスト項目を参照するように変更してください。</li> <li>• 3 - ORDER BY 文節中の式を集約関数に変更するか、あるいは数値列識別コードまたは列名を使用するように変更してください。</li> <li>• 4 - GROUP BY 文節を追加するか、または ORDER BY 文節から集約関数を除去してください。</li> <li>• 5 - ORDER BY 文節内の副選択からネストされたテーブル式を除去してください。代わりに共通テーブル式を使用することを検討してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-214
SQLSTATE:	42822

SQL0216	
メッセージ・テキスト:	述部リストの値の数が一致していません。
原因:	述部の左側の値の数が述部の右側の値の数と一致しません。  述部の 1 つの側が複数の結果列を戻す全選択である場合、述部の他方の側は同数の値を含んである式のリストである必要があります。全選択は、結果列を明示的にリストする必要があります。  述部の両側とも式リストである場合、これらのリストには同数の値が入っている必要があります。  IN または NOT IN 述部で使用される式リストにタイプなしパラメーター・マーカールを入れることはできません。  サポートされていない相関参照が副照会内に入っています。これが起きる可能性があるのは、UNION、EXCEPT、または INTERSECT が副照会中にある場合です。
回復手順:	両側に同数の値が入るように述部リストまたは行全選択の選択リストの値の数を変更してください。全選択の SELECT * を変更して実際の列をリストしてください。IN 式リストのタイプなしパラメーター・マーカールにキャスト関数を使用してください。
SQLCODE:	-216
SQLSTATE:	428C4

SQL0221	
メッセージ・テキスト:	行 &2 の数が正しくない。
原因:	ブロック化 FETCH、ブロック化 INSERT、または SET RESULT SETS ステートメントは無効です。指定した行数が 0 から 32767 の範囲内でないか、あるいはホスト構造配列の次元より大きくなっています。指定された行数は &2 で配列の次元は &3 です。これが FETCH ステートメントである場合には、カーソル名は &1 です。
回復手順:	行数が 0 から 32767 の範囲内であり、配列の次元以下であることを確認するか、あるいは配列のサイズを大きくしてください。
SQLCODE:	-221
SQLSTATE:	42873

SQL0225	
メッセージ・テキスト:	FETCH が正しくありません。カーソル &1 がスクロール可能ではありません。
原因:	カーソル &1 に PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、CURRENT、または RELATIVE を指定して FETCH ステートメントが指定されましたが、カーソル &1 がスクロール可能ではありません。スクロール可能でないカーソルに使用できるのは NEXT だけです。
回復手順:	FETCH ステートメントで PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、CURRENT、または RELATIVE を指定するためには、カーソルがスクロール可能でなければなりません。スクロール可能なカーソルを作成するためには、カーソル &1 の DECLARE CURSOR ステートメントに SCROLL キーワードを追加してください。SCROLL は、カーソルに関連した準備済みステートメントの属性ストリングにも指定できます。
SQLCODE:	-225
SQLSTATE:	42872

SQL0226	
メッセージ・テキスト:	現在の行が削除されたか、またはカーソル &1 に対して移動された。
原因:	スクロール可能カーソル &1 に FETCH CURRENT が指定されました。現在の行は、削除または更新されています。行が更新されている場合には、次の 1 つが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の行の ORDER BY 列の値が変更されている。</li> <li>索引の列の値が変更されている。</li> <li>列が変更されているので、もはやレコード選択基準に適合しない。</li> </ul>
回復手順:	FETCH ステートメントで NEXT、PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、または RELATIVE を指定してカーソルを位置決めし、別の行を取り出してください。
SQLCODE:	-226
SQLSTATE:	24507

SQL0227	
メッセージ・テキスト:	FETCH が正しくない。カーソル &1 は位置不明です。
原因:	カーソル &1 の前のブロック化 FETCH は、データベース管理機能から検索された行のブロックを処理している途中で、エラーになりました (SQLCODE &2、SQLSTATE &3)。ブロック中に残った 1 つまたは複数の行を、エラーの後で、プログラムに戻すことができず、カーソルの位置も不明のままとなりました。SQLSTATE が *N である場合には、このエラーは不明です。

SQL0227	
回復手順:	カーソルをクローズして再びオープンし、その位置をセットしてください。スクロール可能なカーソルの場合には、FIRST、LAST、BEFORE、または AFTER を使用してカーソルを位置指定することもできます。
SQLCODE:	-227
SQLSTATE:	24513

SQL0228	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 に SCROLL と同時の FOR UPDATE 文節は正しくない。
原因:	カーソル &1 に FOR UPDATE 文節と SCROLL キーワードが指定されています。DYNAMIC キーワードも指定されている場合を除き、SCROLL キーワードと同時の FOR UPDATE 文節は正しくありません。SCROLL を指定して DYNAMIC を指定しない場合には、そのカーソルは読み取り専用です。DYNAMIC SCROLL を指定した場合には、そのカーソルは更新可能です。
回復手順:	読み取り専用のスクロール可能カーソルを宣言するためには、SCROLL キーワードを指定して、FOR UPDATE 文節を指定しないでください。更新可能なスクロール可能カーソルを宣言するためには、DYNAMIC SCROLL を指定してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-228
SQLSTATE:	42620

SQL0231	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 の位置が、現在行の FETCH には正しくない。
原因:	スクロール可能なカーソル &1 に対して FETCH CURRENT または FETCH RELATIVE 0 が指定されました。カーソルがレコードに位置付けられていないので、この操作は正しくありません。現在行の FETCH は、FETCH BEFORE、FETCH AFTER、または結果的に +100 の SQLCODE となる FETCH の後では使用できません。
回復手順:	現在行を取り出す前に、カーソルがレコードに位置づけられていることを確かめてください。
SQLCODE:	-231
SQLSTATE:	22006

SQL0237	
メッセージ・テキスト:	SQLDA に十分な数の SQLVAR 項目が指定されていない。
原因:	SQLDA に &2 個の SQLVAR 項目しか指定されていません。少なくとも、記述しようとしている列の 1 つが特殊タイプまたは LOB なので、&3 個の SQLVAR 項目が指定されていなければなりません。2 次 SQLVAR 項目はいずれも設定されていません。少なくとも列の 1 つが特殊タイプまたは LOB なので、列数の 2 倍の SQLVAR 項目用のスペースが与えられていなければなりません。基本 SQLVAR 項目しか設定されていません。
回復手順:	特殊タイプまたは LOB に関する追加情報が必要なければ、処置は不要です。この情報が必要なら、SQLDA 内の SQLN フィールドの値を、メッセージに示された値に増やし、ステートメントを再投入する必要があります。
SQLCODE:	+237
SQLSTATE:	01594

<b>SQL0239</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLDA または記述子域に十分な項目数が指定されていません。
原因:	SQLDA または記述子域にあったのは、&1 項目のみです。これは、SQLDA の SQLVAR 項目の数または記述子域の DB2_MAX_ITEMS の値です。少なくとも &2 項目が指定されていたはずですが、項目はいずれも設定されていません。SQLDA の場合、列のいずれかが特殊タイプまたは LOB の場合には、列数の 2 倍の SQLVAR 項目用のスペースを与える必要があります。
回復手順:	記述子の場合、より多くの項目を割り振ってください。SQLDA の場合、特殊タイプまたは LOB の情報を必要とする場合には、SQLN フィールドの値を、メッセージに示された値に増やし、ステートメントを再投入する必要があります。特殊タイプまたは LOB に関する追加情報が必要であれば、列数を収容するだけの SQLVAR 項目しか提供しないステートメントを再投入することができます。
SQLCODE:	+239
SQLSTATE:	01005

<b>SQL0242</b>	
メッセージ・テキスト:	重複する属性名または区分名 &1 です。
原因:	属性名 &1 または区分名あるいは区分番号 &1 が既に指定されていました。値は固有の値でなければなりません。
回復手順:	固有名を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-242
SQLSTATE:	42713

<b>SQL0243</b>	
メッセージ・テキスト:	SENSITIVE カーソル &1 は、指定された SELECT ステートメントには定義できません。
原因:	カーソル &1 は SENSITIVE として定義されていますが、QUERY では一時結果表の作成が必要になります。SELECT ステートメントにデータ変更テーブル参照がある場合には、一時結果テーブルが必要です。SENSITIVE カーソルは実装できません。
回復手順:	カーソルを ASENSITIVE または INSENSITIVE として再定義するか、一時結果表の作成が必要でないように QUERY を変更してください。
SQLCODE:	-243
SQLSTATE:	36001

<b>SQL0250</b>	
メッセージ・テキスト:	ローカル・リレーショナル・データベースがディレクトリーに定義されていない。

<b>SQL0250</b>	
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 3 部分名が使用されたが、リレーショナル・データベース名がリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義されていない。</li> <li>• 接続が試みられたが、リレーショナル・データベース名がリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義されていない。</li> <li>• SQL ステートメントが CURRENT SERVER 特殊レジスターを使用しているが、ローカル・リレーショナル・データベース名がリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義されていない。</li> <li>• SQL ステートメントが CURRENT SERVER 特殊レジスターを使用するビューを参照したが、ローカル・リレーショナル・データベース名がリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義されていない。</li> </ul>
回復手順:	リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE) コマンドを使用して、ローカル・リレーショナル・データベース名を定義してください。
SQLCODE:	-250
SQLSTATE:	42718

<b>SQL0251</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース名 &1 中の文字が正しくない。
原因:	リレーショナル・データベース名として正しくない文字である #、@、..、または ¥ が &1 に含まれています。有効な文字には、A から Z、0 から 9 および下線が含まれます。
回復手順:	名前を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-251
SQLSTATE:	2E000、42602

<b>SQL0255</b>	
メッセージ・テキスト:	QUERY の関数がサポートされていません。

**SQL0255**

原因:

理由コードは &amp;1 です。

- コード 1 -- 分散ファイルではネストされたテーブル式からのスカラー副選択および横方向相関は使用できません。
- コード 2 -- 一時分散ファイルの使用中にエラーが起きました。
- コード 3 -- この QUERY では EXCEPT または INTERSECT はサポートされていません。
- コード 4 -- 分散ファイルでは順序の参照はサポートされていません。
- コード 5 -- この QUERY では再帰的共通テーブル式はサポートされていません。
- コード 6 -- この QUERY では OLAP 関数はサポートされていません。
- コード 7 -- この QUERY では ORDER OF はサポートされていません。
- コード 8 -- スカラー全選択はこの QUERY ではサポートされていません。
- コード 9 -- マルチスレッド対応のジョブで分散ファイルが処理されているか、またはこれは初期スレッドではありません。
- コード 10 -- この QUERY ではグループ化セットはサポートされていません。
- コード 11 -- この QUERY では全外部結合はサポートされていません。
- コード 12 -- VALUES 全選択はこの QUERY ではサポートされていません。
- コード 13 -- この QUERY では非 ICU NLSS テーブルを含む UTF-8 はサポートされていません。
- コード 14 -- この QUERY では OmniFind 関数はサポートされていません。
- コード 15 -- この QUERY では副選択配列はサポートされていません。
- コード 16 -- この QUERY では XML 関数はサポートされていません。
- コード 17 -- この QUERY では配列変数はサポートされていません。
- コード 18 -- この QUERY ではグローバル変数はサポートされていません。

<b>SQL0255</b>	
回復手順:	<p>訂正処置のリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コード 1 の場合には、ネストされたテーブル式からのスカラー副選択または相関を使用しないように QUERY を変更してください。</li> <li>• コード 2 の場合には、詳細について前のメッセージを参照してください。</li> <li>• コード 3 の場合には、QUERY から EXCEPT または INTERSECT を取り除いてください。</li> <li>• コード 4 の場合には、QUERY から順序参照を取り除いてください。</li> <li>• コード 5 の場合には、QUERY から再帰的共通テーブル式を取り除いてください。</li> <li>• コード 6 の場合には、QUERY から OLAP 関数を取り除いてください。</li> <li>• コード 7 の場合は、ORDER OF を QUERY から除去してください。</li> <li>• コード 8 の場合は、全選択なしで QUERY を再指定してください。</li> <li>• コード 9 の場合は、QUERY の実行でマルチスレッドを使用しないでください。</li> <li>• コード 10 の場合は、グループ化セットを QUERY から除去してください。</li> <li>• コード 11 の場合は、全外部結合を QUERY から除去してください。</li> <li>• コード 12 の場合は、VALUES 全選択を QUERY から除去してください。</li> <li>• コード 13 の場合には、ICU NLSS テーブルを使用するか、あるいは UTF-8 カラムまたは変数の参照を除去してください。</li> <li>• コード 14 の場合には、QUERY から OmniFind 関数を取り除いてください。</li> <li>• コード 15 の場合には、QUERY から副選択配列を除去してください。</li> <li>• コード 16 の場合には、QUERY から XML 関数を取り除いてください。</li> <li>• コード 17 の場合には、QUERY から配列変数の参照を除去してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-255
SQLSTATE:	42999

<b>SQL0256</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の制約 &1 を分散ファイルで使用できない。
原因:	<p>&amp;2 の制約 &amp;1 は、以下のいずれかの理由で許可されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パーティション・キーを構成する列は、外部キーを構成する列のサブセットでなければなりません。この列は任意の順序で表すことができます。</li> <li>• 外部キーの制約の中の従属テーブルのノード・グループは、親テーブルのノード・グループと一致していなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	パーティション・キーの中にあるすべての列がテーブルの外部キーの中にもあることを確認してください。また、従属テーブルと親テーブルが同じノード・グループで作成されていることを確認してください。
SQLCODE:	-256
SQLSTATE:	42998

<b>SQL0270</b>	
メッセージ・テキスト:	関数を &2 中のテーブル &1 に使用できません。

SQL0270	
原因:	<p>&amp;2 中のテーブル &amp;1 は分散テーブルまたはパーティション・テーブルです。次の理由のいずれかのために、この関数を使用することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分散テーブルまたはパーティション・テーブルのすべての固有索引または固有制約はパーティション・キーを構成するすべての列を含んでいなければならないために、固有索引または固有制約を使用することはできません。これが CREATE TABLE ステートメントであって、PARTITIONING KEY 文節が指定されていない場合には、省略時のパーティション・キーは 1 次キーの最初の列またはテーブルの最初の有効な列となります。</li> <li>パーティション・キー列の 1 つにあるデータが UPDATE ステートメントによって変更され、強制的に別のノードの行になっています。</li> <li>テーブルに LOB または XML 列が入っています。分散テーブルの中では LOB および XML 列は使用できません。</li> <li>実体化された QUERY テーブルのノード・グループは、実体化された QUERY テーブルによって参照される 1 つ以上のテーブルのノード・グループと異なっています。</li> </ul>
回復手順:	<p>すべての固有索引または固有制約にパーティション・キーのすべての列が含まれていることを確認してください。パーティション・キー列のデータが変更されていないか、あるいは同じノード内にある値に変更されていることを確認してください。テーブルに LOB または XML 列が入らないようにしてください。実体化された QUERY テーブルが同じノード・グループ内のテーブルを参照するようにしてください。</p>
SQLCODE:	-270
SQLSTATE:	42990

SQL0301	
メッセージ・テキスト:	入力変数 &2 または引数 &1 は正しくない。
原因:	<p>ステートメントの相対位置 &amp;1 の値が、要求された操作と互換性がないタイプです。この値は変数 &amp;2、記述子域の項目 &amp;1、または CALL ステートメントの引数 &amp;2 です。名前 *N は、ユーザーの記述子域が使用されたか、あるいは CALL ステートメントに定数または特殊レジスターが指定されたことを示します。</p>
回復手順:	<p>次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいタイプの変数を使用する。</li> <li>正しいタイプの変数を CALL の引数に指定する。</li> <li>DECLARE PROCEDURE ステートメントのパラメーター &amp;1 に指定されたタイプを変更する。</li> </ul>
SQLCODE:	-301
SQLSTATE:	07006, 42895

SQL0302	
メッセージ・テキスト:	変数またはパラメーター &2 で変換エラー。

SQL0302	
原因:	<p>記述子域の変数またはパラメーター &amp;2 または項目 &amp;1 には、ステートメントに必要な属性に変換できない値が入っています。エラー・タイプ &amp;3 が起こりました。エラー・タイプとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- オーバーフロー。</li> <li>• 2 -- 浮動小数点オーバーフロー。</li> <li>• 3 -- 浮動小数点アンダーフロー。</li> <li>• 4 -- 浮動小数点変換エラー。</li> <li>• 5 -- 正確な結果ではありません。</li> <li>• 6 -- 数値データが無効です。</li> <li>• 7 -- 2 バイト文字セット (DBCS) または UTF-8 データが無効です。</li> <li>• 8 -- 文字変数で C NUL 終了文字が抜けているか、あるいはグラフィック変数で二重 NUL 終了文字が抜けているため、プログラムは *CNULRQD オプションを使用してコンパイルされました。</li> <li>• 9 -- CALL ステートメントの文字またはバイナリー・パラメーターに変数または定数をマッピングするときか、または文字またはグラフィック変数を GET DESCRIPTOR または SET DESCRIPTOR ステートメント内で使用するときの切り捨て。</li> <li>• 10 -- REXX アプリケーションにおける入力 SQLDATA 値から指定された SQLTYPE への非互換変換。</li> <li>• 11 -- UTF-8 文字データの変換時のオーバーフロー。変数名が *N で、ステートメントが FETCH の場合には、記述子域が指定されています。パラメーター名が *N で、ステートメントが CALL の場合には、記述子域、定数、または特殊レジスターが指定されています。</li> </ul>
回復手順:	記述子域の中の変数またはパラメーター、あるいは項目の値を、変換可能で有効となるように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-302
SQLSTATE:	22001、22003、22023、22024

SQL0303	
メッセージ・テキスト:	変数 &2 が非互換であるか、または値が長すぎます。

SQL0303	
原因:	<p>変数 &amp;2 はデータ・タイプが非互換であるか、または値が長すぎるため、これに値を割り当てることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変数 &amp;2 のデータ・タイプが対応する値のデータ・タイプと互換性がないため、FETCH、SELECT、CALL、SET、VALUES INTO、GET DIAGNOSTICS、GET DESCRIPTOR、SET DESCRIPTOR または関数呼び出しを実行することができません。</li> <li>SQL ルーチンの場合は、SQL 変数が対応するリスト項目には十分な長さでない可能性があります。また、SQL パラメーターまたは RETURNS データ・タイプが出力または RETURN 値には十分な長さでない可能性があります。</li> <li>日付の値を選択する時には、文字変数は、年間通算日の場合は少なくとも 6 バイト、MDY、YMD、DMY 形式の日付の場合は少なくとも 8 バイト、その他の形式の場合は少なくとも 10 バイト。</li> <li>時刻の値を選択する時には、文字変数は USA 形式の場合には最小 8 バイト、その他の形式の場合には最小 5 バイトが必要。</li> <li>タイム・スタンプの値を選択する時には、文字変数は最小 19 バイトが必要。</li> <li>変数が C NUL 終了文字で、プログラムが *CNULRQD オプションでコンパイルされた場合には、日付/時刻の値の NUL 終了文字のために追加のバイトが必要。</li> <li>GET DIAGNOSTICS ALL の場合、変数は可変長文字または可変長グラフィック。</li> </ul> <p>INTO 文節、SQLDA、または CALL ステートメントの変数の相対位置は &amp;1 です。変数名が *N の場合には、FETCH ステートメントに記述子域が指定されています。</p>
回復手順:	<p>データ・タイプが対応するリスト項目のそれぞれに対応していることを確認してください。日付、時刻、およびタイム・スタンプ用の変数が正しく定義されていることを確認してください。</p>
SQLCODE:	-303
SQLSTATE:	22001、42806

SQL0304	
メッセージ・テキスト:	変数 &2 への割り当て時に変換エラー。
原因:	<p>FETCH、組み込み SELECT ステートメント、CALL ステートメント、SET ステートメント、SET DESCRIPTOR ステートメント、または VALUES INTO ステートメントで変数 &amp;2 に値を戻す途中で、エラー・タイプ &amp;3 が起こりました。エラー・タイプのリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エラー・タイプ 1 はオーバーフロー。</li> <li>エラー・タイプ 2 は浮動小数点オーバーフロー。</li> <li>エラー・タイプ 3 は浮動小数点アンダーフロー。</li> <li>エラー・タイプ 4 は浮動小数点変換エラー。</li> <li>エラー・タイプ 5 は正確な結果ではない。</li> <li>エラー・タイプ 6 は無効な数値データ。</li> <li>エラー・タイプ 7 は無効な 2 バイト文字セット (DBCS) データ。</li> </ul> <p>変数の相対位置は &amp;1 です。変数名が *N の場合には、FETCH または CALL ステートメントに記述子域が指定されています。</p>
回復手順:	<p>結果の値を入れることができるように記述子域の変数または項目のサイズおよび (必要な場合には) タイプを変更するか、あるいは正しくないデータを訂正してください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	+304、-304

<b>SQL0304</b>	
SQLSTATE:	01515、01547、01565、22003、22023、22504

<b>SQL0305</b>	
メッセージ・テキスト:	標識変数が必要である。
原因:	FETCH、組み込み SELECT、CALL、GET DESCRIPTOR、または SET あるいは VALUES INTO ステートメントが NULL 値になりましたが、ホスト変数 &2 に標識変数が指定されていません。 INTO 文節またはパラメーター・リスト中のホスト変数の相対位置は &1 です。ホスト変数名が *N の場合には、記述子域が指定されています。GET DESCRIPTOR ステートメントでこのエラーが発生した場合、NULL 値が戻されるが、INDICATOR 項目が GET DESCRIPTOR ステートメントに指定されていませんでした。
回復手順:	標識変数を指定して、プログラムのプリコンパイルをやり直してください。これが GET DESCRIPTOR ステートメントである場合、DATA 項目と INDICATOR 項目の両方を指定してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-305
SQLSTATE:	22002、22004

<b>SQL0306</b>	
メッセージ・テキスト:	REXX 入力ホスト変数 &1 が定義されていない。
原因:	REXX 入力ホスト変数 &1 を含む SQL ステートメントがありますが、この変数には値が割り当てられていないので、この変数は定義されていません。
回復手順:	当該 SQL ステートメントで &1 のつづりが正しいこと、およびその SQL ステートメントが実行される前にこのホスト変数に値が割り当てられることを確認してください。
SQLCODE:	-306
SQLSTATE:	42863

<b>SQL0311</b>	
メッセージ・テキスト:	可変長、LOB、または XML ホスト変数の長さが無効です。
原因:	ホスト変数 &2 が指定されました。可変長、LOB または XML ホスト変数の長さ部分の値が負であるか、あるいは宣言された長さより大きくなっています。ホスト変数がグラフィックである場合には、この長さは DBCS 文字の数でなければなりません。ホスト変数番号は &1 です。指定された長さは &4 です。この変数の長さは &3 と宣言されています。
回復手順:	可変長、LOB または XML ホスト変数の長さ部分を、正しい正の数またはゼロになるように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-311
SQLSTATE:	22501

<b>SQL0312</b>	
メッセージ・テキスト:	変数 &1 が定義されていないか使用可能ではありません。

SQL0312	
原因:	<p>変数 &amp;1 が SQL ステートメントにあります。次の条件のいずれかが存在しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変数の宣言が存在していないか、または宣言が現在の有効範囲内がない。</li> <li>属性は指定された使用方法では正しくない。</li> <li>このホスト変数が動的 SQL で指定されている。ホスト変数は動的 SQL では正しくありません。</li> <li>REXX では、ホスト変数名に組み込みブランクを入れることはできない。</li> <li>変数名が SQL プロシージャまたは関数のルーチン本体で使用されているが、その変数が SQL 変数またはパラメーターとして宣言されていない。SQL ステートメントの有効範囲は、宣言を含む複合ステートメントです。</li> <li>変数が SQL トリガーのルーチン本体で使用されているが、その変数が SQL 変数として宣言されていないか、あるいは変数は OLD 遷移変数であり、変更できない。</li> <li>変数は AFTER トリガーの遷移変数であり、変数を変更可能なステートメントで使用される。AFTER トリガーの遷移変数の変更はできません。</li> </ul>
回復手順:	<p>次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&amp;1 が SQL ステートメントに正しいつづりで指定されていることを確認。</li> <li>この変数の宣言がプログラムに入っていることを確認。RPG では、変数は、グローバルに宣言するか、またはその使用先の有効範囲内になければなりません。</li> <li>この変数の属性がステートメントでのこの変数の用法と合致していることを確認。</li> <li>動的 SQL では、ホスト変数の代わりにパラメーター・マーカを使用。</li> <li>REXX ホスト変数名から組み込みブランクを除去。</li> <li>変数を SQL プロシージャまたは関数内で SQL 変数またはパラメーターとして宣言。</li> <li>変数を SQL 変数として宣言するか、あるいは SQL トリガー内で変数を変更する時に NEW 遷移変数を指定。</li> <li>遷移変数をステートメントから除去してください。遷移変数をローカル変数にコピーしてからそのローカル変数をステートメントで使用することもできます。</li> </ul>
SQLCODE:	-312
SQLSTATE:	42618

SQL0313	
メッセージ・テキスト:	ホスト変数の数が正しくない。
原因:	<p>EXECUTE または OPEN ステートメントで指定された SQLDA または記述子域のホスト変数または項目の数が、準備された SQL ステートメント &amp;1 で指定されたパラメーター・マーカの数と同じではありません。ステートメント名が *N の場合には、SQLDA または記述子域のホスト変数または項目の数が OPEN ステートメントで指定され、カーソル &amp;2 の DECLARE CURSOR ステートメントに指定されたホスト変数の数と同じではありません。</p>
回復手順:	<p>USING 文節に指定されたホスト変数の数または SQLDA または記述子域の項目数が、準備された SQL ステートメントのパラメーター・マーカの数または DECLARE CURSOR ステートメントのホスト変数の数と等しくなるように変更してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。</p>
SQLCODE:	-313
SQLSTATE:	07001、07004

<b>SQL0326</b>	
メッセージ・テキスト:	指定された変数が多すぎる。
原因:	<p>&amp;1 変数が FETCH、組み込み SELECT、SET、または VALUES INTO ステートメントで指定されていましたが、QUERY から戻されたのは &amp;2 列だけでした。余分なグローバル変数は変更されません。余分なホスト変数には指定されたタイプに該当する値が埋め込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字ホスト変数には空白が埋め込まれます。</li> <li>バイナリー・ホスト変数には 16 進ゼロが埋め込まれます。</li> <li>日付ホスト変数には現行日付が埋め込まれます。</li> <li>時刻ホスト変数には現在時刻が埋め込まれます。</li> <li>タイム・スタンプ・ホスト変数には現行タイム・スタンプが埋め込まれます。</li> <li>グラフィック・ホスト変数には 2 バイト、UCS-2、または UTF-16 の空白が埋め込まれます。</li> <li>可変長文字、可変長グラフィック、可変長バイナリー、CLOB、DBCLOB、BLOB、および XML ホスト変数はゼロの長さに設定されます。</li> <li>C 終了文字の文字 NUL ホスト変数は、終了文字の NUL が最初の文字位置に設定されます。</li> <li>C 終了文字の NUL グラフィック・ホスト変数は、2 バイト終了文字の NUL が最初の DBCS 位置に設定されます。</li> <li>数値ホスト変数は値 0 に設定されることとなります。</li> <li>REXX ホスト変数の省略時の値として長さが 0 にセットされた可変長文字が使用されません。</li> </ul>
回復手順:	回復処置は不要です。
SQLCODE:	+326
SQLSTATE:	01557

<b>SQL0327</b>	
メッセージ・テキスト:	区分化キーが定義された区画と対応していません。
原因:	INSERT、CREATE TABLE、または ALTER TABLE ステートメントがパーティション・テーブルに対して試みられましたが、パーティション・キーに提供された値がどのパーティションの行も修飾していません。
回復手順:	INSERT ステートメントでエラーが発生した場合、挿入中の行に提供される値を、テーブルのパーティションに対応するように変更するか、このキー値を使用できるようにパーティション定義を変更してください。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでエラーが発生した場合、既存のすべての行がテーブルに入るようにパーティションの定義を変更するか、または入らない行を削除してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-327
SQLSTATE:	22525

<b>SQL0328</b>	
メッセージ・テキスト:	欄 &1 を区分化キーで使用することはできない。

SQL0328	
原因:	列 &1 をパーティション・キーの一部として使用することはできません。列名が *N の場合には、DB2 マルチシステム・パーティション化のデフォルトのパーティション・キーとして使用するための有効な列はありません。タイプが DATE、TIME、TIMESTAMP、FLOAT、DATALINK、LOB、および XML の列またはこれらのタイプのいずれかに基づく特殊タイプの列をパーティション・キーの中で使用することはできません。
回復手順:	この列をパーティション・キー列のリストから除去するか、あるいは列のデータ・タイプを変更してください。
SQLCODE:	-328
SQLSTATE:	42996

SQL0329	
メッセージ・テキスト:	SET PATH 名前リストが無効です。
原因:	<p>ストリング定数または入力ホスト変数 &amp;1 に、無効な SET PATH 名前リストが入っています。ホスト変数名 *N は、正しくないストリング定数が SET PATH ステートメントに指定されていたか、あるいは SET OPTION ステートメントの SQLPATH に指定されていたことを示しています。名前リストは以下の属性をもっていなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 長さは 0 より大きくなければならない。</li> <li>• 長さは 8843 より大きくできない。</li> <li>• コンマで区切った有効なスキーマ名のリストが含まれていなければなりません。</li> <li>• リストには最大 268 個のスキーマ名を入れられる。</li> <li>• 各スキーマ名は、特殊な区切り文字付き名前でない限り、大文字で指定しなければならない。</li> <li>• リストに特殊値 *LIBL、CURRENT PATH、SYSTEM PATH、または USER を入れることはできない。</li> </ul>
回復手順:	正しい値をもつストリング定数またはホスト変数を使用してください。
SQLCODE:	-329
SQLSTATE:	0E000

SQL0330	
メッセージ・テキスト:	文字変換を実行することができない。
原因:	列またはホスト変数 &2 を列またはホスト変数 &3 に変換しようとしてしました。変換を実行することができません。変換元のデータが文字で、混合コード化文字セット識別コード (CCSID) が入っている場合には、2 バイト文字が見つかっています。このような混合データ変換を使用できるのは、変換元のデータに 2 バイト・データが入っていない場合だけです。データがグラフィックの場合には、CCSID の値に互換性がないか、あるいはストリングに 1 バイト文字が入っています。変換元の CCSID は &4 で、変換先の CCSID は &5 です。
回復手順:	すべての文字またはグラフィックの比較、連結、または割り当てが互換性のある CCSID 値をもつ列またはホスト変数間で行われることを確認してください。文字データおよび変換元の CCSID が混合である場合には、変換元のデータに 2 バイト文字が入っているはいけません。グラフィック・データの場合には、ストリングに 1 バイト文字を入れることはできません。文字、DBCS グラフィック、およびユニコード・グラフィック・データの間で変換するためには、VARCHAR のようなキャスト関数を使用してください。
SQLCODE:	-330
SQLSTATE:	22021

SQL0331	
メッセージ・テキスト:	文字変換を実行することができない。
原因:	列またはホスト変数 &2 を列またはホスト変数 &3 に変換しようとした。変換を実行することができません。変換元のデータが文字で、混合コード化文字セット識別コード (CCSID) が入っている場合には、2 バイト文字が見つかっています。混合 CCSID 変換を使用できるのは、変換元のデータに 2 バイト・データが入っていない場合だけです。データがグラフィックの場合には、CCSID の値に互換性がありません。変換元の CCSID は &4 で、変換先の CCSID は &5 です。
回復手順:	すべての文字またはグラフィックの割り当てが互換性のある CCSID 値をもつ列またはホスト変数間で行われることを確認してください。文字および変換元の CCSID が混合である場合には、変換元のデータに 2 バイト文字が入ってはいけません。文字、DBCS グラフィック、および UCS-2/UTF-16 グラフィック・データの間で変換するためには、VARCHAR のようなキャスト関数を使用してください。
SQLCODE:	+331、-331
SQLSTATE:	01520、22021

SQL0332	
メッセージ・テキスト:	CCSID &1 と CCSID &2 の間の文字変換は正しくない。
原因:	互換性のないデータに対して文字またはグラフィック変換を行おうとしています。CCSID &1 と CCSID &2 の間には変換が定義されていません。1 つの CCSID が 65535 の場合には、他の CCSID はグラフィック CCSID です。65535 とグラフィック CCSID の間には、変換は定義されません。これが CONNECT ステートメントである場合には、省略時のアプリケーション要求元の SBCS CCSID とアプリケーション・サーバーの SBCS CCSID の間に変換が定義されていません。2 番目の CCSID が 0 の場合には、アプリケーション・サーバーがその省略時の SBCS CCSID を戻していません。DB2 for IBM i 以外のアプリケーション・サーバーは CCSID 65535 をサポートしない場合があります。
回復手順:	すべての文字またはグラフィックの比較、連結、または割り当てが互換性のある CCSID 値をもつ列またはホスト変数間で行われることを確認してください。これが CONNECT ステートメントである場合には、アプリケーション要求元またはアプリケーション・サーバーの SBCS CCSID を変更して、CCSID 値の間で変換が定義されるようにしてください。
SQLCODE:	-332
SQLSTATE:	57017

SQL0334	
メッセージ・テキスト:	文字変換の結果として切り捨てが起こった。
原因:	列またはホスト変数 &2 の文字変換の結果として切り捨てが起こりました。混合 ASCII データを混合 EBCDIC データに変換しようとしたか、あるいは UCS-2 または UTF-16 グラフィック・データを混合 EBCDIC データに変換しようとした。シフト文字が挿入されたので、データの長さが増えました。結果のストリングが変換先に収まらなかったため、切り捨てが起こりました。
回復手順:	混合 ASCII から混合 EBCDIC に、UCS-2 または UTF-16 グラフィックから混合 EBCDIC に変換する時には、変換先に十分なスペースがあることを確認してください。
SQLCODE:	-334
SQLSTATE:	22524

SQL0335	
メッセージ・テキスト:	文字変換の結果として置き換え文字が発生した。
原因:	文字列またはホスト変数 &2 が文字列またはホスト変数 &3 に変換されました。変換元のデータのいくつかの異なる文字値が変換先のデータの同じ値に変換されるように、変換が定義されています。これらの値を区別することはもはや不可能になります。変換元のデータの CCSID は &4 で、変換先の CCSID は &5 です。ホスト変数の値が *N であるか、または CCSID 値が 0 であると、値が不明であることを示します。
回復手順:	使用される CCSID 値によって変換元のすべての文字値が変換先の文字値に変換されるように、列またはホスト変数の定義を変更してください。
SQLCODE:	+335
SQLSTATE:	01517

SQL0336	
メッセージ・テキスト:	識別または順序属性が正しくありません。
原因:	識別列または順序の場合、START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE、MAXVALUE、および RESTART WITH オプションに指定する値は、位取りがゼロでなければなりません。
回復手順:	値を有効なものに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-336
SQLSTATE:	428FA

SQL0338	
メッセージ・テキスト:	JOIN 述部 または MERGE ON 文節が正しくない。
原因:	JOIN 述部または ON 文節の有効範囲の外側にあるテーブルに存在している列が指定されているので、JOIN 述部または MERGE ステートメントの ON 文節が無効です。一般に、この有効範囲は左から右へと判別されるが、結合条件の位置にも基づいています。括弧を使用する場合には、括弧の内側の列は括弧の外側のテーブルからは参照できません。ON 文節を含む結合テーブルより前に (コンマを使用した) 暗黙的結合が指定されている場合は、コンマより前にあるテーブルから ON 文節内のカラムを参照することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>列名、テーブル名、およびすべての修飾子が正しく指定されていることを確認する。</li> <li>左から右以外の結合順序を指定するために、結合するテーブルの前後に括弧を指定する。列が同じ有効範囲内のテーブル中に存在していることを確認してください。</li> <li>MERGE ステートメント内の ON 文節の場合は、参照されているカラムが ON 文節の有効範囲内にあることを確認してください。</li> <li>暗黙的結合の代わりに CROSS JOIN を指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-338
SQLSTATE:	42972

SQL0340	
メッセージ・テキスト:	共通テーブル式に重複名 &1 がある。
原因:	名前 &1 を使って複数のテーブル式を定義することはできません。
回復手順:	どれか 1 つ共通テーブル式の名前を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-340
SQLSTATE:	42726

SQL0341	
メッセージ・テキスト:	共通テーブル式間に循環参照がある。
原因:	指定された共通テーブル式は正しくありません。テーブル &1 の副選択がテーブル &2 を参照し、テーブル &2 の副選択がテーブル &1 を参照しています。共通テーブル式間の循環参照は許可されません。
回復手順:	共通テーブル式を、存在しているテーブル、またはすでに定義されている共通テーブル式を参照するように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-341
SQLSTATE:	42835

SQL0342	
メッセージ・テキスト:	再帰的共通テーブル式 &1 にはキーワード使用できません。
原因:	共通テーブル式 &1 は再帰的です。再帰的共通テーブル式には次のエラーのいずれかが入っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テーブル式内の全選択は、共通テーブル式が再帰的であるため、SELECT DISTINCT から開始できない。</li> <li>共通テーブル式内の全選択は、再帰的共通テーブル式の必要に応じて、UNION ALL の代わりに UNION を指定した。</li> </ul>
回復手順:	全選択からキーワード DISTINCT を除去してください。UNION を UNION ALL に変更するか、または共通テーブル式内の再帰的参照を除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-342
SQLSTATE:	42925

SQL0343	
メッセージ・テキスト:	欄リストがテーブルでは正しくありません。
原因:	再帰的共通テーブル式の場合、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>列名リストは、共通テーブル式のテーブル名に続いて指定する必要がある。&amp;1 は、共通テーブル式名です。</li> <li>順序列名および SET 循環列名は、再帰的共通テーブル式の列リストで参照できない。&amp;1 は、順序列名または SET 循環列名です。</li> </ul>
回復手順:	再帰的共通テーブル式を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-343
SQLSTATE:	42908

SQL0345	
メッセージ・テキスト:	再帰的な共通テーブル式 &1 が正しくありません。

SQL0345	
原因:	次の理由のいずれかのために、再帰的共通テーブル式は正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テーブル式の初期化全選択は、自己参照できない。</li> <li>グループ化関数、集約関数、および ORDER BY は、共通テーブル式を定義する UNION の全選択内では使用できない。</li> <li>共通テーブルが JOIN の右オペランドとして指定されている場合、EXCEPT DISTINCT は使用できない。</li> <li>共通テーブルが JOIN の右オペランドとして指定されている場合、LEFT OUTER JOIN および FULL OUTER JOIN は使用できない。</li> <li>共通テーブルが JOIN の左オペランドとして指定されている場合、RIGHT OUTER JOIN および FULL OUTER JOIN は使用できない。</li> <li>共通テーブル式は、FROM 文節で複数回参照できないし、SUBQUERY で参照できない。</li> </ul>
回復手順:	再帰的共通テーブル式を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-345
SQLSTATE:	42836

SQL0346	
メッセージ・テキスト:	共通テーブル式の再帰は許可されない。
原因:	指定された共通テーブル式は正しくありません。テーブル &1 の副選択がそれ自身を参照しています。再帰的な共通テーブル式は許可されません。
回復手順:	共通テーブル式を、存在しているテーブル、またはすでに定義されている共通テーブル式を参照するように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-346
SQLSTATE:	42836

SQL0348	
メッセージ・テキスト:	&1 式が正しく使用されていません。
原因:	&3 中の &2 の &1 順序式は使用できません。NEXT VALUE または PREVIOUS VALUE 順序式は、次の中では使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>CREATE VIEW、CREATE TABLE、ALTER TABLE、または CREATE INDEX ステートメントの中。-- CREATE FUNCTION ステートメント。</li> <li>CHECK 制約の中。PREVIOUS VALUE 式は、CREATE TRIGGER ステートメント中には指定できません。NEXT VALUE 式は次のようにしか指定できません。</li> <li>最外部 SELECT の SELECT 文節の中。最外部 SELECT が DISTINCT キーワードを使用する場合、GROUP BY または ORDER BY 文節を含んでいる場合、あるいは全選択の一部である場合には、使用できません。CASE 式の中では使用できません。</li> <li>共通テーブル式の最外部 SELECT の SELECT 文節の中。最外部 SELECT が DISTINCT キーワードを使用する場合、GROUP BY または ORDER BY 文節を含んでいる場合、あるいは全選択の一部である場合には、使用できません。</li> <li>UPDATE の SET 文節中の式として。UPDATE の SET 文節中の副選択では使用できません。</li> <li>全選択の VALUES 文節または SELECT 文節のいずれかの INSERT 値として。</li> <li>SET または VALUES ステートメントの値として。</li> </ul>
回復手順:	NEXT VALUE または PREVIOUS VALUE を取り除いてください。

<b>SQL0348</b>	
SQLCODE:	-348
SQLSTATE:	428F9

<b>SQL0350</b>	
メッセージ・テキスト:	欄 &1 が無効です。
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LOB、データ・リンク、または XML 列は、キー・フィールド、索引のキー、または参照制約の外部キーとしては正しくない。</li> <li>LOB または XML カラムを索引の WHERE 文節に指定することはできません。</li> <li>FILE LINK CONTROL オプションを指定したデータ・リンク列は、QTEMP、QSYS、QSYS2、または SYSIBM 中のテーブル、あるいは一時テーブルを作成することはできない。</li> <li>LOB、データ・リンク、または XML 列あるいは LOB、データ・リンク、または XML タイプに基づく特殊タイプは、RANGE パーティション化のパーティション・キー列として有効ではありません。</li> </ul>
回復手順:	テーブル、索引、キー、または制約の仕様から、LOB、データ・リンク、または XML 列を除去してください。
SQLCODE:	-350
SQLSTATE:	42962

<b>SQL0351</b>	
メッセージ・テキスト:	AR が同一レベルではなく、DB2 がデータ・タイプを互換タイプに変換できません。
原因:	項目 &1 のデータ・タイプはアプリケーション要求元ではサポートされません。通常の原因は、アプリケーション要求元が SQL アクセス管理機能のレベル 6 より下位であることにあり、アプリケーション・サーバーはそのデータ・タイプを対応するタイプに変換できません。また、BLOB またはデータ・リンクなどのサポートされないデータ・タイプで SQLCI (SQL CLIENT INTEGRATION) を使用しようとしたことを意味している場合もあります。これは、配列変数が SQLDA 内で受け渡されたことも意味しています。
回復手順:	データ・タイプを対応するアプリケーション要求元または SQLCI がサポートする値に変更してください。
SQLCODE:	-351
SQLSTATE:	56084

<b>SQL0352</b>	
メッセージ・テキスト:	AS が同一レベルではなく、DB2 がデータ・タイプを互換タイプに変換できません。
原因:	項目 &1 のデータ・タイプは、アプリケーション・サーバーではサポートされないものです。アプリケーション・サーバーは SQL アクセス管理機能のレベル 6 より下位であるので、アプリケーション要求元はデータ・タイプを互換タイプに変換できません。
回復手順:	データ・タイプを、対応するアプリケーション・サーバーでサポートされるものに変更してください。
SQLCODE:	-352
SQLSTATE:	56084

<b>SQL0356</b>	
メッセージ・テキスト:	索引式 &1 は無効です。
原因:	<p>索引式 &amp;1 は無効です。式番号が 0 の場合、その式は WHERE 文節 または INCLUDE 文節内で参照されているか、または索引キー列番号が不明です。以下のいずれかの理由により、この式は無効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 式は特殊レジスターまたはグローバル変数を参照している。</li> <li>• 式は副選択を含んでいる。</li> <li>• 式の中で ROW CHANGE TIMESTAMP または ROW CHANGE TOKEN が使用されている。</li> <li>• 式は、集約関数 (AVG や COUNT など)、確定的でない関数、ユーザー定義関数、または許可されていないシステム関数を使用している。</li> <li>• 式は NODENAME、DBPARTITIONNAME、DATAPARTITIONNAME、または DATAPARTITIONNUM スカラー関数を使用する。</li> <li>• 式に LOB または XML が関与している。</li> <li>• 式が、フィールド・プロシージャを指定する列を参照している。</li> </ul>
回復手順:	エラーを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-356
SQLSTATE:	429BX

<b>SQL0357</b>	
メッセージ・テキスト:	データ・リンクで使用されているファイル・サーバー &1 は現在使用可能でない。
原因:	<p>理由コード &amp;2 により、データ・リンク値の URL 内のサーバー &amp;1 は使用可能ではありません。理由コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• - 1 データ・リンク値のファイル・サーバーが使用不可能。</li> <li>• 2 操作が試みられたデータベース・サーバー、インスタンス、またはデータベースが、ファイル・サーバーに未登録。</li> <li>• 3 操作に関係したファイル・サーバーで、再始動回復が保留中であるか、または進行中。</li> <li>• 4 データ・リンク値のファイル・サーバーは、データベースに登録されていますが、不明のサーバー。</li> </ul>
回復手順:	サーバーが実行中であり、アクセスできることを確認します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-357
SQLSTATE:	57050

<b>SQL0358</b>	
メッセージ・テキスト:	データ・リンク・データ・タイプの使用中にエラー &1 が起こった。

<b>SQL0358</b>	
原因:	<p>データ・リンクを使用している間にエラーが起きました。考えられるエラーは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エラー・タイプ 21 は、データ・リンク値の形式が正しくない。</li> <li>エラー・タイプ 22 は、データ・リンク・ファイル管理機能 (DLFM) がサーバーで正しく構成されていない。</li> <li>エラー・タイプ 23 は、リンク・タイプが無効。</li> <li>エラー・タイプ 24 は、ファイルが存在しない。</li> <li>エラー・タイプ 25 は、ファイルがすでにリンクされている。</li> <li>エラー・タイプ 26 は、ファイルが利用不可である。</li> <li>エラー・タイプ 27 は、注記または URL の長さが正しくない。</li> <li>エラー・タイプ 28 は、ユーザーがファイルのリンクを許可されていない。</li> <li>エラー・タイプ 29 は、データ・リンクをリンク解除不可。</li> </ul>
回復手順:	<p>データ・リンク内の該当するエラーを訂正して、要求をやり直してください。エラー・タイプ 22 の場合には、サーバーの DLFM にホスト・データベースまたは接頭部が追加されていない場合があります。その場合には、DLFM にホスト・データベース追加 (ADDHDBDLFM) または DLFM に接頭部追加 (ADDPFXDLFM) コマンドを使用して、エラーを訂正してください。</p>
SQLCODE:	-358
SQLSTATE:	428D1

<b>SQL0359</b>	
メッセージ・テキスト:	識別欄または順序の値が使用可能ではありません。
原因:	<p>次のいずれかの理由で、識別列または順序の値が使用可能ではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>識別列のすべての値がすでに割り当てられているので、INSERT または UPDATE ステートメントは実行できません。</li> <li>順序のすべての値がすでに割り当てられているので、NEXT VALUE 式は評価できません。</li> </ul>
回復手順:	<p>識別列の場合には、識別列の値の範囲をより大きくできるように列を変更するか、あるいは識別値の反復が可能になるように列を変更してください。順序の場合には、値の範囲をより大きくできるようにするか、あるいは順序の反復が可能になるように順序を変更してください。</p>
SQLCODE:	-359
SQLSTATE:	23522

<b>SQL0360</b>	
メッセージ・テキスト:	保留中のリンクのために &2 中のテーブル &1 のデータ・リンクが有効でない可能性があります。
原因:	<p>スキーマ &amp;2 のテーブル &amp;1 は、リンク保留モードのデータ・リンクをもっています。データ・リンクは FETCH または SELECT INTO を使って検索できますが、テーブルがリンク保留モードのデータ・リンクをもっているため、データ・リンクが有効でない可能性があります。</p>
回復手順:	<p>検索された値が正しい URL であることを確認してください。コマンド WRKPFDL (物理ファイル・データ・リンクの処理) を使用して、リンク保留モードのデータ・リンクをもっているテーブルを判別することができます。</p>

<b>SQL0360</b>	
SQLCODE:	+360
SQLSTATE:	01627

<b>SQL0362</b>	
メッセージ・テキスト:	フラグ設定で、現在の SQL ステートメント内にエラーが検出されました。
原因:	SQL ステートメントの位置 &1 に、標準ではない構文が入っています。
回復手順:	ジョブ・ログの前のメッセージを調べて、エラーのより詳しい説明を参照してください。標準に準拠する必要がある場合、準拠するようにステートメントを変更してから、要求をやり直してください。
SQLCODE:	+362
SQLSTATE:	0168I

<b>SQL0363</b>	
メッセージ・テキスト:	項目 &1 の拡張標識変数の値は無効です。
原因:	項目 &1 の拡張標識変数の値は、許容値の範囲内にありません。値は、正の値か、または 0 から -7 の範囲内の値でなければなりません。
回復手順:	拡張標識変数の値を、その使用先のステートメントまたはコンテキストで許可される値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-363
SQLSTATE:	22010

<b>SQL0364</b>	
メッセージ・テキスト:	算術演算または割り当て時の DECFLOAT 例外 &1 です。
原因:	DECFLOAT のデータ・タイプを持つ列に対する加算、減算、乗算、割り算、否定、または組み込み関数操作のときに、例外エラー &1 が起きました。DECFLOAT 列への代入でも、オーバーフローおよびアンダーフロー例外が発生する可能性があります。可能性のある例外タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - アンダーフロー。</li> <li>• 2 - オーバーフロー。</li> <li>• 3 - 不正確な結果。</li> <li>• 4 - 無効なオペランド。</li> <li>• 5 - ゼロによる除算。</li> <li>• 6 - 正常以下の値。</li> </ul>
回復手順:	警告を出された式を調べて、問題の原因を判別できるかどうかを確認してください。問題は、データに起因する可能性があります。ステートメントの実行を続行します。
SQLCODE:	+364
SQLSTATE:	0168C, 0168D, 0168E, 0168F, 0168G

<b>SQL0365</b>	
メッセージ・テキスト:	拡張標識変数値の使用は無効です。

SQL0365	
原因:	値 DEFAULT または UNASSIGNED が拡張標識変数に対して、許可されていないコンテキストで使用されました。この値を使用できるのは、INSERT および UPDATE ステートメントにおいてのみです。
回復手順:	拡張標識変数を、その使用先のコンテキストで許可される値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-365
SQLSTATE:	22539

SQL0372	
メッセージ・テキスト:	使用できる ROWID、IDENTITY、または ROW CHANGE TIMESTAMP 列は 1 つのみです。
原因:	列 &4 がすでに定義されているので、列 &1 を &3 のテーブル &2 に作成することはできません。テーブルに定義できるのは、多くても 1 つの IDENTITY 列、1 つの ROWID 列、および 1 つの ROW CHANGE TIMESTAMP 列です。
回復手順:	単一の列だけが ROWID 列、IDENTITY 列、または ROW CHANGE TIMESTAMP 列として定義されるように、列の 1 つを除去するか、あるいは属性を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-372
SQLSTATE:	428C1

SQL0373	
メッセージ・テキスト:	DEFAULT は欄 &1 には指定できません。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DEFAULT 文節が CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの IDENTITY 列、ROWID 列、ROW CHANGE TIMESTAMP 列、または XML 列に指定されている。</li> <li>• SET ステートメントが、GENERATED BY DEFAULT として定義された IDENTITY 列、ROWID 列、XML 列、または ROW CHANGE TIMESTAMP 列に DEFAULT を割り当てる SQL トリガーの中で指定されている。</li> </ul>
回復手順:	DEFAULT 文節を列の定義から除去するか、あるいは DEFAULT の値を割り当てないように SET ステートメントを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-373
SQLSTATE:	42623

SQL0385	
メッセージ・テキスト:	SQLCODE または SQLSTATE への割り当て状態で &2 中に SQL ルーチン &1 が作成されました。
原因:	スキーマ &2 中に SQL ルーチン &1 が作成されましたが、ターゲットとして SQLCODE または SQLSTATE 変数を指定する割り当てステートメントが含まれています。SQLCODE および SQLSTATE を変更する割り当てステートメントは、変数中の値を変更するだけで、エラーまたは警告は出されません。
回復手順:	回復処置は不要です。エラーまたは警告の指示を出すつもりであった場合には、割り当ての代わりに SIGNAL または RESIGNAL ステートメントを指定してください。
SQLCODE:	+385

<b>SQL0385</b>	
SQLSTATE:	01643

<b>SQL0387</b>	
メッセージ・テキスト:	追加の結果セットは戻されません。
原因:	&2 のプロシージャ &1 は最大 &4 個の結果セットを戻すように定義されていました。プロシージャは &3 個の結果セットを戻しました。
回復手順:	ありません。
SQLCODE:	+387
SQLSTATE:	02001

<b>SQL0390</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 の使用が正しくない。
原因:	スキーマ &2 での関数 &1 の使用は無効です。特定の名前は &3 です。次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• テーブル関数が FROM 文節以外の文節に指定された。</li> <li>• 関数が FROM 文節に指定されたが、その関数はテーブル関数ではない。</li> <li>• テーブル関数が CREATE FUNCTION ステートメントにソース関数として指定された。</li> <li>• UNNEST が指定されたが、これは SQL プロシージャでのみ許可されている。</li> </ul>
回復手順:	関数を文節から除去するか、あるいは別の関数が検出されるように関数名、引数、またはパスを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-390
SQLSTATE:	42887

<b>SQL0391</b>	
メッセージ・テキスト:	テーブル関数は関数 &1 の引数にはできません。
原因:	テーブル指定子をスキーマ &2 の関数 &1 の引数として使用することができません。
回復手順:	テーブル関数を表していないテーブル指定子をこの関数の引数として使用してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-391
SQLSTATE:	42881

<b>SQL0392</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたホスト変数への LOB または XML の割り当ては許可されない。
原因:	カーソル &1 に対するこの LOB または XML 値のすべての取り出しのターゲット・ホスト変数は、ロケータ、LOB ホスト変数、または XML ホスト変数でなければなりません。
回復手順:	この取り出しのターゲットを、このカーソルに対する他の取り出しと矛盾しないように、LOB または XML ホスト変数または LOB または XML ロケータに変更してください。ホスト変数とロケータを両方ともこの取り出しのターゲットとして使う必要がある場合には、*NOOPTLOB コンパイラ・オプションを使用してください。
SQLCODE:	-392
SQLSTATE:	42855

<b>SQL0393</b>	
メッセージ・テキスト:	条件または診断に指定された値が有効ではありません。
原因:	SET TRANSACTION ステートメントの DIAGNOSTICS SIZE に指定された値が範囲外であるか、GET DIAGNOSTICS ステートメントに指定された条件番号が前の SQL ステートメントに使用可能な条件の数より大きい。
回復手順:	正しい値を指定してください。
SQLCODE:	-393
SQLSTATE:	35000

<b>SQL0398</b>	
メッセージ・テキスト:	AS LOCATOR は LOB または XML パラメーターに限り指定できます。
原因:	AS LOCATOR は、プロシージャまたは関数の LOB または XML パラメーターと戻り値にしか使用できません。AS LOCATOR は配列には使用できません。AS LOCATOR が、パラメーターまたは戻り値 &1 に対して指定されました。
回復手順:	プロシージャまたは関数の LOB または XML パラメーターまたは戻り値にだけ AS LOCATOR を使用するようにしてください。
SQLCODE:	-398
SQLSTATE:	428D2

<b>SQL0399</b>	
メッセージ・テキスト:	ROWID 欄 &1 の値が無効です。
原因:	ROWID 列 &1 に指定された値が無効であるので、INSERT または UPDATE ステートメントは実行できません。
回復手順:	列 &1 を列リストから除去するか、あるいは有効な ROWID 値または DEFAULT を列 &1 に指定してください。
SQLCODE:	-399
SQLSTATE:	22511

<b>SQL0401</b>	
メッセージ・テキスト:	比較演算子 &1 のオペランドが矛盾している。

SQL0401	
原因:	<p>比較演算子 &amp;1 のオペランドには互換性がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値オペランドは他の数値オペランドとも、文字およびグラフィックのオペランドとも互換性がある。</li> <li>• 文字オペランドは、文字、グラフィック、日付、時刻、タイム・スタンプ、または数値オペランドと互換性がある。</li> <li>• 日付、時刻、およびタイム・スタンプ・オペランドは、文字およびグラフィック・オペランドとも、同じタイプの別のオペランドとも互換性がある。</li> <li>• グラフィック・オペランドは、グラフィック、文字、日付、時刻、タイム・スタンプ、または数値オペランドと互換性がある。</li> <li>• バイナリー・オペランドは、バイナリー・オペランドとしか互換性がない。</li> <li>• ユーザー定義タイプのオペランドは、まったく同じタイプのオペランドとしか比較できない。</li> <li>• データ・リンク・オペランドは比較できない。</li> <li>• XML オペランドは比較できない。</li> </ul>
回復手順:	<p>すべてのオペランドのデータ・タイプを調べて、すべてのオペランドのデータ・タイプに矛盾がないことを確認してください。SQL ステートメントのすべてのオペランドが正しくて、ビューにアクセス中の場合には、ビュー定義のすべてのオペランドのデータ・タイプを調べてください。エラーを訂正してください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-401
SQLSTATE:	42818

SQL0402	
メッセージ・テキスト:	&1 の使用法が正しくない。
原因:	<p>算術関数または演算子 &amp;1 に正しくないオペランドが指定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー定義タイプを演算子またはスカラー関数のオペランドとして指定することはできない。ユーザー定義タイプを演算子と一緒に使用する場合には、そのタイプ用に特に作成されたユーザー定義関数内でしか指定できません。</li> <li>• DIGITS のオペランドは、数値または浮動小数点を除く数値互換タイプとすることができると。</li> <li>• INTEGER、SMALLINT、BIGINT、DECIMAL、ZONED、FLOAT、REAL、DOUBLE または DOUBLE_PRECISION、および DECFLOAT のオペランドを、日付、時刻、またはタイム・スタンプにすることはできません。</li> <li>• その他の関数および演算子には数値オペランドまたは数値互換オペランドが必要。</li> </ul>
回復手順:	<p>関数または演算子 &amp;1 のすべてのオペランドが正しいことを確認してください。オペランドを訂正してください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-402
SQLSTATE:	42819

SQL0403	
メッセージ・テキスト:	別名 &1 が &2 に作成されましたが、テーブルまたはビューが見つかりません。
原因:	<p>別名 &amp;1 が &amp;2 に作成されましたが、参照されたテーブルまたはビュー &amp;3 を &amp;4 で見つけることができませんでした。</p>
回復手順:	<p>別名が作成されても、&amp;3 が &amp;4 の中に作成されるまで使用することはできません。</p>



SQL0406	
回復手順:	結果の値が列 &2 に収まり有効となるようにステートメントを変更するか、あるいは結果の値を割り当てられるように列 &2 の新しいタイプまたは長さを指定して、テーブルまたはビューを作成し直してください。
SQLCODE:	-406
SQLSTATE:	22003、22023、22504

SQL0407	
メッセージ・テキスト:	欄または変数 &5 では、NULL 値は使用できない。
原因:	<p>次のいずれかが起こっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &amp;5 列目が &amp;4 のテーブル &amp;3 のための UPDATE、INSERT、または MERGE ステートメント中のターゲット列です。この列に挿入または更新する NULL 値が指定されていたか、あるいは列の値が INSERT 中に指定されていなくて、その列は NULL 値可能でありませんでした。VALUES リスト、選択リスト、または SET 文節中の相対項目番号 &amp;6 に NULL 値が指定されていました。</li> <li>• 列 &amp;5 がテーブル &amp;4 の &amp;3 のための ALTER ステートメントに指定されている。NULL 値が列の相対項目番号 &amp;6 に存在しているので、列 &amp;5 の属性は NOT NULL に変更できません。</li> <li>• 変数 &amp;5 は SQL プロシージャ、関数、またはトリガー内のターゲット変数。SET または VALUES ステートメントを使用してこの変数に NULL 値を設定するように指定されていましたが、この変数には NULL 値を使用できません。NULL 値が SET または VALUES INTO 文節中の相対項目番号 &amp;6 に指定されていました。</li> </ul> <p>NULL 値が NULL、負の値が入っている関連した標識変数をもつホスト変数、NULL 値が入っている列、または NULL に評価された式のいずれかとして指定されていました。NULL 値がホスト変数または列の場合には、その名前は &amp;7 です。</p> <p>列の NULL 値は、列の CREATE または ALTER で指定された列の NOT NULL 属性を強制するために暗黙的に追加された CHECK 制約によって使用できないようになっている場合があります。列の NULL 値は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの基本テーブルに指定された列のパーティション・キー属性を強制するために暗黙的に追加された CHECK 制約によって使用できないようになっている場合があります。</p>
回復手順:	これが ALTER TABLE ステートメントの場合には、列の中の既存の NULL 値を非 NULL 値に変更してください。そうでない場合には、結果が非 NULL になるように値を変更します。ホスト変数を指定する場合には、関連標識変数の値をゼロ以上の値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-407
SQLSTATE:	23502

SQL0408	
メッセージ・テキスト:	欄または変数 &1 の値が矛盾している。

SQL0408	
原因:	<p>ソース値のデータ・タイプがターゲット列または変数 &amp;1 のデータ・タイプと矛盾しています。ステートメントが INSERT または UPDATE である場合には、&amp;1 はスキーマ &amp;3 中のテーブル &amp;2 の列です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値タイプ値は数値、文字、またはグラフィック・タイプに割り当てることが可能。</li> <li>• 文字またはグラフィック値は文字、グラフィック、または数値タイプに割り当てることが可能。</li> <li>• バイナリー値はバイナリー・タイプに割り当てることが可能。</li> <li>• 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値は文字、またはグラフィック・タイプに割り当てることが可能。</li> <li>• 文字またはグラフィック値は日付、時刻、またはタイム・スタンプ・タイプに割り当てることが可能。</li> <li>• 日付の値は日付に割り当てることが可能。</li> <li>• 時刻の値は時刻に割り当てることが可能。</li> <li>• タイム・スタンプの値はタイム・スタンプに割り当てることが可能。</li> <li>• ユーザー定義タイプに割り当てられる値は、ソース・タイプにプロモート可能なものでなければならない。</li> <li>• データ・リンクに割り当てられる時は、DLVALUE 関数が指定されていなければならない。</li> <li>• XML 値は XML タイプにのみ割り当てることができます。</li> <li>• 結果セット・ロケータ値は結果セット・ロケータに割り当てることができます。</li> </ul>
回復手順:	&1 に割り当てられた値を互換性のある値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-408
SQLSTATE:	42821

SQL0410	
メッセージ・テキスト:	浮動小数点リテラル &1 が正しくない。
原因:	浮動小数点定数 &1 の文字数が先行ゼロを除外して 42 を超えることはできません。最初の数の桁数が先行ゼロを除外して 34 を超えることはできず、2 番目の数の桁数が 4 を超えることはできません。
回復手順:	指示されたリテラル &1 を訂正してください。浮動小数点リテラルが、次の例で示されている正しい形式になっていることを確認してください。 +1.2E+3、15E1、2.E5、2.2E-1、+5.E+2、-.1E1。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-410
SQLSTATE:	42820

SQL0412	
メッセージ・テキスト:	複数の結果の欄のある副選択は正しくありません。
原因:	述部の副選択には、述部の一方のオペランドが単一式である場合、指定される結果列はただ 1 つでなければなりません。副選択の結果はリストを構成するゼロ、1、または複数の行とすることができますが、結果列はただ 1 つでなければなりません。
回復手順:	1 つだけの結果列が指定されるように副選択によって戻される項目数を変更するか、または述部の一方のオペランドが式のリストになるように変更してください。
SQLCODE:	-412

<b>SQL0412</b>	
SQLSTATE:	42823

<b>SQL0414</b>	
メッセージ・テキスト:	LIKE 述部のオペランドが正しくない。
原因:	LIKE 述部のオペランド 1 のタイプが日付、時刻、タイム・スタンプ、またはデータ・リンクになっているか、あるいはユーザー定義のタイプです。LIKE 述部に指定するオペランドはバイナリー、文字、グラフィック、または数値でなければなりません。ESCAPE 文字が指定された場合には、オペランド 1 を DBCS 専用にすることができません。オペランドが列の場合には、列名は &1 です。
回復手順:	LIKE 述部のオペランド 1 をバイナリー、文字、グラフィック、または数値タイプに変更してください。日付、時刻、またはタイム・スタンプの比較には別の述部を使用してください。オペランド 1 が DBCS 専用の場合には、ESCAPE 文字を指定しないでください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-414
SQLSTATE:	42824

<b>SQL0415</b>	
メッセージ・テキスト:	UNION、EXCEPT、INTERSECT、または VALUES オペランドに互換性がありません。
原因:	列 &2 には、UNION、EXCEPT、または INTERSECT の別の副選択内、または VALUES 文節の別の行内の対応する列と互換性がありません。選択リスト中におけるその値の相対的位置は &1 です。次の状態の 1 つが存在しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一方の列が文字、グラフィック、または数値で、他方の列が文字、グラフィック、または数値でない。</li> <li>• 一方の列が日付、時刻、またはタイム・スタンプで、他方の列が文字または同じタイプでない。</li> <li>• 一方の列がバイナリーで、他方の列がバイナリーでない。列名が *N の場合には、その列が指定された列ではない。</li> </ul>
回復手順:	UNION、EXCEPT、INTERSECT、または VALUES 文節のオペランドの列を互換性があるように変更してください。列を互換性のあるタイプにするには、キャスト関数を使用できません。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-415
SQLSTATE:	42825

<b>SQL0417</b>	
メッセージ・テキスト:	パラメーター・マーカの組み合わせが正しくない。

SQL0417	
原因:	<p>PREPARE ステートメントの目的語として指定されたステートメント・ストリングに、同じ演算子のオペランドとしてパラメーター・マーカーが使用されている述語または式が入っています。パラメーター・マーカーの使用については、次の制約事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 述語の両方のオペランドをパラメーター・マーカーとすることはできない。たとえば、<code>? = ?</code> あるいは、<code>? = ( SELECT ? FROM X )</code> という形式の述語の指定は無効です。</li> <li>• 式の両方のオペランドをパラメーター・マーカーとすることはできない。たとえば、<code>? + ?</code> という形式の式の指定は無効です。</li> <li>• BETWEEN 述語のオペランドの少なくとも 1 つはパラメーター・マーカーとすることができない。たとえば、<code>? BETWEEN ? AND ?</code> という形式の述部の指定は無効です。</li> <li>• IN 述語のオペランドの少なくとも 1 つはパラメーター・マーカーとしてはならない。たとえば、<code>? IN (?, ?, ?)</code> という形式の述部の指定は無効です。</li> </ul>
回復手順:	<p>述語または式のすべてのオペランドがパラメーター・マーカーであるということがないように、ステートメントを訂正してください。属性をパラメーター・マーカーに割り当てるために、ほとんどの場合に CAST 指定を使用できます。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-417
SQLSTATE:	42609

SQL0418	
メッセージ・テキスト:	パラメーター・マーカーの使用法が正しくない。
原因:	<p>次の場合、パラメーター・マーカーと RAISE_ERROR スカラー関数は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• VALUES INTO ステートメント中の値として。</li> <li>• 連結操作のオペランドとして。</li> <li>• スカラー関数のオペランドとして。スカラー関数が VALUE、COALESCE、IFNULL、MIN、MAX、LAND、LOR、または XOR の場合には、パラメーター・マーカーでない引数が、少なくとも 1 つはあるようにする。</li> <li>• LIKE 述部の左オペランドとして。</li> <li>• 単項マイナスのオペランドとして。次の場合もパラメーター・マーカーを使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 準備するステートメント・ストリングの SELECT 文節の中。</li> <li>• 挿入された SQL または対話式 SQL の SQL ステートメントの中。</li> <li>• EXECUTE IMMEDIATE ステートメントの中。</li> <li>• CREATE VIEW、CREATE TABLE、ALTER TABLE、または CREATE INDEX ステートメントの中。</li> <li>• RUNSQLSTM コマンドによって処理されるステートメントの中。</li> <li>• ブロック化 INSERT ステートメントの中。</li> </ul> </li> </ul>
回復手順:	<p>使用できる位置のみにパラメーター・マーカーと RAISE_ERROR スカラー関数が指定されていることを確認してください。多くの状態で CAST 指定を使用できます。エラーを訂正してください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-418
SQLSTATE:	42610

SQL0419	
メッセージ・テキスト:	負の位取りは正しくない。

<b>SQL0419</b>	
原因:	10 進の除算操作によって負の位取りとなりました。10 進除算の位取りの決定に使用されるアルゴリズムを表示するには、IBM i Information Center ( <a href="http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/">http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/</a> ) の「データベース」カテゴリーにある「DB2 for i5/OS SQL 解説書」トピック・コレクションを参照してください。
回復手順:	FLOAT または DECFLOAT スカラー関数を使用することによってオペランドのいずれかを浮動小数点に変更します。これにより、除算の結果が浮動小数点に変更されます。10 進数の結果が必要な場合には、浮動小数点の結果に DECIMAL スカラー関数を使用してください。オペランドの 1 つが整数、小整数、または大整数の場合には、SQL は除算の前にその整数を 10 進数に変換しています。DECIMAL 関数を使用して、整数、小整数、または 64 ビット整数を、除算で負の位取りが生じない精度に明示的に変換することができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-419
SQLSTATE:	42911

<b>SQL0420</b>	
メッセージ・テキスト:	CAST 引数の文字が正しくありません。
原因:	CAST 関数の引数の文字が正しくありませんでした。
回復手順:	結果のデータ・タイプを CAST 引数の文字を認識できるタイプに変更するか、あるいは引数を変更して、結果のデータ・タイプの値の有効な表現が含まれるようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+420、-420
SQLSTATE:	01565、22018

<b>SQL0421</b>	
メッセージ・テキスト:	欄の数が矛盾しています。
原因:	UNION、INTERCEPT、または EXCEPT の副選択では結果の列が同数でなければなりません。複数行挿入または VALUES 文節に指定するどの行にも、同数の値が必要です。
回復手順:	各行に定義する列数が同数となるように SQL ステートメントを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-421
SQLSTATE:	42826

<b>SQL0423</b>	
メッセージ・テキスト:	ロケーター &1 が正しくありません。
原因:	現在、ロケーター &1 の値は正しくありません。LOB または XML ロケーターは、前の FREE LOCATOR ステートメントか、COMMIT または ROLLBACK によって解放されている可能性があります。CLOSE ステートメントまたは COMMIT あるいは ROLLBACK によって結果セット・ロケーターが解放された可能性があります。既にカーソルが割り振られている結果セット・ロケーター値に対して ALLOCATE CURSOR ステートメントを実行することはできません。

<b>SQL0423</b>	
回復手順:	ロケータ値が FREE LOCATOR、CLOSE、COMMIT、または ROLLBACK ステートメントによって解放されていない活動ロケータを参照するようにしてください。SELECT INTO ステートメント、VALUES INTO または SET ステートメント、GET DESCRIPTOR ステートメント、あるいは FETCH ステートメントを使用して、ロケータ変数に LOB または XML 値を割り当てることができます。ASSOCIATE LOCATORS ステートメントまたは DESCRIBE PROCEDURE ステートメントを使用して、結果セット・ロケータ変数に値を割り当てることができます。
SQLCODE:	-423
SQLSTATE:	0F001

<b>SQL0426</b>	
メッセージ・テキスト:	動的 COMMIT はこのアプリケーション環境には無効です。
原因:	DRDA 2 フェーズ・コミット・プロトコルを使用しているアプリケーションが、動的 COMMIT を出そうとしたか、あるいは COMMIT ON RETURN を実行するストアード・プロシージャを呼び出しました。
回復手順:	動的 COMMIT ステートメントを除去するか、あるいは COMMIT ON RETURN は使用しないようにストアード・プロシージャ定義を変更してください。
SQLCODE:	-426
SQLSTATE:	2D528

<b>SQL0427</b>	
メッセージ・テキスト:	動的 ROLLBACK はこのアプリケーション環境には無効です。
原因:	DRDA 2 フェーズ・コミット・プロトコルを使用しているアプリケーションが、動的 ROLLBACK を出そうとしました。
回復手順:	動的 ROLLBACK ステートメントを除去してください。
SQLCODE:	-427
SQLSTATE:	2D529

<b>SQL0428</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントを実行することができない。
原因:	SET TRANSACTION、DISCONNECT、または SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントを、現在のアプリケーション状態で実行することはできません。理由コードは &1 です。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 接続がコミット境界にない。</li> <li>• 2 -- 現行サーバーはローカル・リレーショナル・データベースであり、リモート・リレーショナル・データベースへのアクティブな接続がある。</li> <li>• 3 -- SYSTEM_USER が QSYS、QDFTOWN、または QSPL などのシステム提供のユーザー・プロファイルの 1 つである。</li> <li>• 4 -- ストアード・プロシージャ、ユーザー定義関数、またはトリガーが実行中である。</li> <li>• 5 -- COMMIT HOLD ステートメントを実行したために、リソースが保留されている。</li> <li>• 6 -- HOLD LOCATOR ステートメントを実行したために、リソースが保留されている。</li> <li>• 7 -- 最大数の ProfileHandles が生成された。</li> </ul>

SQL0428	
回復手順:	<p>SQL ステートメントの実行に先立って次の処置のいずれかを実行してください。要求をやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 接続がコミット境界にない場合、COMMIT または ROLLBACK SQL ステートメントを発行する。</li> <li>• 2 -- リモート・リレーショナル・データベースへの接続がアクティブである場合、リモート接続を切断する。</li> <li>• 3 -- SYSTEM_USER がシステム提供のユーザー・プロファイルの 1 つである場合、別のユーザー・プロファイルを使用してサインオンする。</li> <li>• 4 -- ストアド・プロシージャ、ユーザー定義関数、またはトリガーの実行の前または後で、SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントを実行する。</li> <li>• 5 -- COMMIT HOLD を実行したためにリソースが保留されている場合、COMMIT または ROLLBACK SQL ステートメントを発行する。</li> <li>• 6 -- HOLD LOCATOR を実行したためにリソースが保留されている場合、ROLLBACK または FREE LOCATOR SQL ステートメントを発行する。</li> <li>• 7 -- 最大数の ProfileHandles が生成されている場合、「ProfileHandle の解放」(QSYRLSPH) プログラムを使用して、必要でなくなった ProfileHandles の一部を解放する。</li> </ul>
SQLCODE:	-428
SQLSTATE:	25001

SQL0429	
メッセージ・テキスト:	同時に存在する LOB および XML ロケータの最大数に達した。
原因:	このプロセスにはすでに 16000000 個の有効なロケータが存在しているので、LOB または XML ロケータを生成できませんでした。
回復手順:	FREE LOCATOR ステートメントを使って、LOB または XML ロケータを解放してください。
SQLCODE:	-429
SQLSTATE:	54028

SQL0432	
メッセージ・テキスト:	パラメーター・マーカがユーザー定義タイプ名 &1 をもつことはできない。
原因:	ステートメント中に、ユーザー定義タイプ &1 をこれが使用されている文脈に基づいてもっとも判別されたパラメーター・マーカがあります。パラメーター・マーカがユーザー定義タイプをデータ・タイプとして持つことはできません。ただし、そのパラメーター・マーカが割り当て (INSERT の VALUES 文節または UPDATE の SET 文節) の一部である場合、または CAST 指定によってユーザー定義タイプに明示的にキャストされている場合は、この限りではありません。
回復手順:	パラメーター・マーカのユーザー定義特殊タイプへの明示キャストを使用するか、あるいはユーザー定義タイプの列をそれぞれの対応するソース・データ・タイプにキャストしてください。
SQLCODE:	-432
SQLSTATE:	42841

<b>SQL0433</b>	
メッセージ・テキスト:	CAST から XMLSERIALIZE へ間に有効データが切り捨てられました。
原因:	結果の文字またはグラフィック・ストリングの長さが値の文字表現を保留できるだけ大きくありません。こういった状況は、CAST、XMLCAST、および XMLSERIALIZE 関数の場合に起こることがあります。
回復手順:	結果を十分に保留できる長さの文字またはグラフィック・ストリングとなるように、結果のデータ・タイプを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-433
SQLSTATE:	22001

<b>SQL0435</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLSTATE 値 &1 が正しくありません。
原因:	ハンドラーまたは条件に指定された、SIGNAL または RESIGNAL ステートメントに指定された、あるいは RAISE_ERROR 関数に指定された SQLSTATE 値 &1 は、有効ではありません。SQLSTATE 値は、長さが 5 で、大文字の A から Z または数字 0 から 9 を含んでいなければなりません。SQLSTATE 値の最初の 2 文字は、'00' にはできません。RAISE_ERROR 関数の SQLSTATE 値は、'00'、'01'、または '02' から始めることはできません。表示されている SQLSTATE 値が '*N' である場合、SQLSTATE に対して空ストリングまたは NULL 値が渡されます。
回復手順:	SQLSTATE を有効なものに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-435
SQLSTATE:	428B3

<b>SQL0438</b>	
メッセージ・テキスト:	メッセージ &1 が、SIGNAL、RESIGNAL、または RAISE_ERROR から戻されました。
原因:	アプリケーションが SIGNAL または RESIGNAL ステートメントを実行したか、RAISE_ERROR 関数が呼び出されたか、あるいは MERGE ステートメント内でエラーが通知されました。アプリケーションが、SQL プロシージャ、関数、またはトリガーである場合、SQLSTATE が SQL ルーチン内で処理されませんでした。戻されたメッセージは &1 です。
回復手順:	SIGNAL または RESIGNAL ステートメントを発行したか、または RAISE_ERROR 関数を呼び出したアプリケーションに関する資料を参照してください。
SQLCODE:	+438, -438
SQLSTATE:	XXXXXX

<b>SQL0440</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたパラメーターでは &2 のルーチン &1 は見つからない。
原因:	指定された名前および互換引数をもつ関数またはプロシージャは見つかりませんでした。
回復手順:	正しい数およびタイプのパラメーターを CALL ステートメントまたは関数呼び出しに指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-440
SQLSTATE:	42884

<b>SQL0441</b>	
メッセージ・テキスト:	文節またはキーワード &1 は、指定された場所では正しくない。
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロシージャ内のパラメーターとしてか、またはパラメーターとして、あるいは関数の RETURNS 文節内で、AS LOCATOR が指定され、そのパラメーターが BLOB、CLOB、または DBCLOB として定義されていて、長さ、CCSID 値、または FOR BIT DATA、FOR MIXED DATA、あるいは FOR SBCS DATA 文節が指定された。</li> <li>• 集約関数でない関数に ALL または DISTINCT が指定されている。</li> </ul>
回復手順:	正しくない文節を取り除きます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-441
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0442</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のプロシージャ &1 には多すぎるパラメーターが CALL ステートメントにある。
原因:	CALL ステートメントに指定できるパラメーターの最大数は 1024 です。このプロシージャが REXX プロシージャの場合には、CALL ステートメントで渡すことができるデータの最大バイト数は 32766 です。
回復手順:	指定したパラメーターの数を最大数の 1024 まで減らしてください。REXX プロシージャを呼び出す場合には、パラメーター・データの合計バイト数を 32766 未満に制限してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-442
SQLSTATE:	54023

<b>SQL0443</b>	
メッセージ・テキスト:	トリガー・プログラムまたは外部ルーチンがエラーを検出した。
原因:	トリガー・プログラム、外部プロシージャ、または外部関数が、エラーを検出してそれを SQL に戻しました。エラーがトリガー・プログラムで起こった場合には、トリガーはスキーマ &5 中のテーブル &4 にあります。エラーが外部プロシージャまたは関数で起こった場合には、外部名はスキーマ &5 中の &4 です。関連テキストは &6 です。エラーがトリガー・プログラムで起こった場合には、関連テキストはそのトリガー・プログラムのタイプです。エラーが外部関数で起こった場合には、関連テキストはその外部関数から戻されたエラー・メッセージのテキストです。
回復手順:	検出されたエラーの詳細については、ジョブ・ログを参照してください。エラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-443
SQLSTATE:	38xxx, 38501

<b>SQL0444</b>	
メッセージ・テキスト:	&5 の外部プログラム &4 が見つからない。
原因:	&2 中の &1 で CALL プロシージャまたは関数呼び出しが試みられました。スキーマ &5 中で外部プログラムまたはサービス・プログラム &4 が見つかりませんでした。

SQL0444	
回復手順:	このプロシージャまたは関数と関連づけられた外部プログラムまたはサービス・プログラムを見つけることができません。 DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、CREATE FUNCTION、ALTER PROCEDURE、または ALTER FUNCTION ステートメントに指定された名前のオブジェクトが存在することを確認してください。名前が指定されていない場合には、指定されたプロシージャ名または関数名と一致する名前のオブジェクトが存在していることを確認してください。プログラム名が指定されている場合には、プログラム・オブジェクトが存在していなければなりません。入り口点名が指定されている場合には、サービス・プログラム・オブジェクトが存在していなければなりません。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-444
SQLSTATE:	42724

SQL0445	
メッセージ・テキスト:	&2 のプロシージャ &1 のパラメーター &4 の値が長すぎる。
原因:	OUT または INOUT として宣言されているパラメーター &4 にホスト変数 &8 に記憶できる最大長のストリングより長い値が入っています。パラメーター &4 は &2 のプロシージャ &1 からホスト変数 &8 に戻されています。文字値のストリングの長さには後書きブランクは含まれません。バイナリー値のストリングの長さには後書き 16 進ゼロは含まれません。パラメーターの長さは &6 で、ホスト変数の長さは &7 です。
回復手順:	ホスト変数の長さを &7 から &6 に増やしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+445
SQLSTATE:	01004

SQL0446	
メッセージ・テキスト:	引数 &2 の割り当て時に変換エラー。
原因:	呼び出しのために CALL ステートメントの入力引数番号 &1 を対応するパラメーターに割り当てようとした時に、エラー・タイプ &3 が起こりました。エラー・タイプのリストは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - オーバーフロー。</li> <li>• 2 - 浮動小数点オーバーフロー。</li> <li>• 3 - 浮動小数点アンダーフロー。</li> <li>• 4 - 浮動小数点変換エラー。</li> <li>• 5 - 正確な結果ではありません。</li> <li>• 6 - 数値データが無効です。</li> <li>• 7 - 2 バイト文字セット (DBCS) データが無効です。</li> </ul> パラメーター名は &2 です。
回復手順:	CREATE、ALTER、または DECLARE PROCEDURE ステートメント中のパラメーター &1 の属性宣言を CALL ステートメント中の引数 &1 の属性と一致するように変更するか、有効でないデータを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-446
SQLSTATE:	22003

SQL0448	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 には多すぎるパラメーターまたは結果のセットがある。
原因:	<p>次の限界の 1 つを超えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、または ALTER PROCEDURE ステートメントの 1024 個のパラメーター。実際の数はいくつか少ないことがあります、言語によって決まります。</li> <li>• GENERAL WITH NULLS が指定された場合、1023 個のパラメーター。</li> <li>• PARAMETER STYLE SQL または DB2SQL が指定された場合、90 個のパラメーター。</li> <li>• SQL プロシージャの場合、1024 個のパラメーター。</li> <li>• CREATE FUNCTION ステートメントの場合、90 個のパラメーター。</li> <li>• CREATE FUNCTION(TABLE) パラメーターの場合、124 個のパラメーターおよび戻り値。</li> <li>• C および C++ 以外の言語に対する 255。</li> <li>• 32767 個の結果セット。</li> </ul>
回復手順:	定義するパラメーターの数を最大数まで減らすか、あるいは結果のセットの値を 32767 以下になるように変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-448
SQLSTATE:	54023

SQL0449	
メッセージ・テキスト:	&2 の中のルーチン &1 の外部プログラム名が正しくない。
原因:	<p>DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、CREATE FUNCTION、ALTER PROCEDURE、または ALTER FUNCTION ステートメントに指定されている外部プログラム名は、ルーチンまたは指定された言語の場合には無効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロシージャまたは関数の外部プログラム名は、「ライブラリー名/プログラム名」または「ライブラリー名/プログラム名 (入り口点名)」という形式になっていなければなりません。</li> <li>• Java プロシージャまたは関数の外部プログラム名は、「クラス名!メソッド名」または「クラス名.メソッド名 (入り口点名)」という形式になっていなければなりません。</li> <li>• REXX プロシージャの外部プログラム名は、「ライブラリー名/ソース・ファイル名 (メンバー名)」でなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	正しい形式の外部プログラム名を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-449
SQLSTATE:	42878

SQL0451	
メッセージ・テキスト:	&4 のプロシージャまたは関数 &3 にはパラメーター &1 の属性が正しくない。

SQL0451	
原因:	<p>&amp;4 のプロシージャまたは関数 &amp;3 に指定された言語には、パラメーター &amp;1 のデータ・タイプ、長さ、または値が正しくありません。パラメーター名は &amp;2 です。パラメーターの条件のリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• C の場合: NUMERIC は有効なデータ・タイプでない。</li> <li>• C++ の場合: NUMERIC および DECFLOAT は有効なデータ・タイプではない。</li> <li>• PL/I: NUMERIC、BIGINT、DECFLOAT、GRAPHIC、VARGRAPHIC、CLOB、BLOB、DBCLOB、および XML は無効データ・タイプである。</li> <li>• COBOL の場合: DECIMAL または NUMERIC の精度を 18 より大きくすることはできない。 FLOAT、DECFLOAT、GRAPHIC、BIGINT、VARGRAPHIC、CLOB、BLOB、DBCLOB、および XML は無効データ・タイプです。</li> <li>• ILE COBOL の場合: DECIMAL または NUMERIC の精度を 18 より大きくすることはできない。DECFLOAT が無効です。</li> <li>• REXX の場合: SMALLINT、BIGINT、NUMERIC、DECFLOAT、ユニコード・グラフィック、CLOB、BLOB、DBCLOB および XML は有効なデータ・タイプではない。精度が 1 - 24 の場合には、FLOAT は無効です。DECIMAL の精度は 63 を超えることはできません。</li> <li>• ILE RPG の場合: DECFLOAT は有効なデータ・タイプでない。</li> <li>• RPG の場合: FLOAT、DECFLOAT、BIGINT、VARCHAR、VARBINARY、GRAPHIC、VARGRAPHIC、CLOB、BLOB、DBCLOB、ROWID、および XML は有効なデータ・タイプではない。</li> <li>• CL の場合: BIGINT、NUMERIC、VARCHAR、VARBINARY、FLOAT、DECFLOAT、GRAPHIC、VARGRAPHIC、CLOB、BLOB、DBCLOB、および XML は有効なデータ・タイプではない。CL に GENERAL WITH NULLS を指定することはできません。</li> <li>• データ・リンクは、ルーチンが SQL プロシージャまたは関数でない場合には、パラメーターとして有効なデータ・タイプではない。</li> <li>• AS LOCATOR を指定した LOB は、SQL プロシージャまたは関数のパラメーターとして有効なデータ・タイプではない。</li> <li>• 外部ルーチンの XML データ・タイプの場合は、XML AS を指定する必要がある。</li> </ul>
回復手順:	DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION、または ALTER FUNCTION ステートメントのこのパラメーターに指定されたデータ・タイプまたは精度を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-451
SQLSTATE:	42815

SQL0452	
メッセージ・テキスト:	ファイル参照変数が参照しているファイルにアクセスできない。

SQL0452	
原因:	理由コード &2 のため、ファイル参照変数 (ホスト変数 &1) が参照しているファイルにアクセスできませんでした。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - ファイル名またはパスの形式が正しくありません。</li> <li>• 2 - ファイル名の長さが最大許容長を超えています。</li> <li>• 3 - ファイル・オプションが正しくありません。</li> <li>• 4 - ファイルまたはディレクトリーが見つかりません。</li> <li>• 5 - NEW オプションをもつファイルに指定された名前と同じ名前をもつファイルがすでに存在しています。</li> </ul>
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 理由コードが 1 の場合には、ファイル名またはパスの形式を訂正してから、要求をやり直してください。</li> <li>• 理由コードが 2 の場合には、ファイル名を訂正してから、要求をやり直してください。</li> <li>• 理由コードが 3 の場合には、ファイル・オプションを訂正してから、要求をやり直してください。</li> <li>• 理由コードが 4 の場合には、ファイル・オプションに SQL_FILE_CREATE を指定する、またはディレクトリーが存在することを確認してから、要求をやり直してください。</li> <li>• 理由コードが 5 の場合には、SQL_FILE_OVERWRITE または SQL_FILE_APPEND を指定してから、要求をやり直してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-452
SQLSTATE:	428A1

SQL0453	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 の戻りタイプは CAST TO タイプと矛盾している。
原因:	&2 中の関数 &1 の RETURNS 文節に指定されたデータ・タイプは有効ではありません。CAST TO と CAST FROM データ・タイプが矛盾しています。
回復手順:	この関数の RETURNS 文節に指定されたデータ・タイプを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-453
SQLSTATE:	42880

SQL0454	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 はすでに存在しています。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じ数のパラメーターを持つプロシージャ &amp;1 は、すでにスキーマ &amp;2 に存在しています。スキーマ内のプロシージャが同じ名前および同数のパラメーターを持つことはできません。</li> <li>• 同じシグニチャーを持つ関数 &amp;1 がすでにスキーマ &amp;2 に存在しています。同じスキーマ内のすべての関数は固有のシグニチャーを持っていなければなりません。データベースは、関数の名前と引数のデータ・タイプおよび数を使用して、関数のシグニチャーを決定します。</li> </ul>
回復手順:	ルーチン名またはパラメーターを変更するか、あるいは既存のルーチンを除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-454

<b>SQL0454</b>	
SQLSTATE:	42723

<b>SQL0455</b>	
メッセージ・テキスト:	特定名のスキーマ &2 がルーチン・スキーマ &3 と同じではありません。
原因:	CREATE PROCEDURE、DECLARE PROCEDURE、または CREATE FUNCTION ステートメントで指定された特定名のスキーマ &2 が、プロシージャまたは関数 &1 のスキーマ &3 と同じではありません。
回復手順:	プロシージャまたは関数名に関する特定名に同じスキーマを指定してください。
SQLCODE:	-455
SQLSTATE:	42882

<b>SQL0456</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の特定名 &3 はすでに存在している。
原因:	関数またはプロシージャ &1 を特定名 &3 で &2 に作成しようとしたますが、特定名 &3 はすでにそのスキーマに存在しています。同じスキーマ内のルーチン (関数およびプロシージャ) は、すべて固有の特定名をもっていなければなりません。
回復手順:	存在していない特定名を指定するか、あるいは、特定名を指定しないと、固有名が生成されます。そうでない場合は、既存ルーチンを削除します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-456
SQLSTATE:	42710

<b>SQL0457</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の名前 &1 は関数には使用できない。
原因:	&2 の関数 &1 はソース関数名として作成も変更もできないか、あるいは使用できません。関数名が予約語であるか、またはスキーマが QSYS、QSYS2、SYSIBM、SYSPROC、または QTEMP として指定されているかのいずれかです。QSYS、QSYS2、SYSIBM、SYSPROC、または QTEMP では、関数の作成や変更はできません。
回復手順:	関数の名前を予約されていないものに変更するか、あるいは別のスキーマを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-457
SQLSTATE:	42939

<b>SQL0458</b>	
メッセージ・テキスト:	一致するシグニチャーをもつ関数 &1 が &2 に見つからない。
原因:	関数 &1 がスキーマ &2 に指定されています。関数の名前とパラメーターの個数およびデータ・タイプから関数シグニチャーが作られます。一致するシグニチャーをもつ関数は見つかりませんでした。
回復手順:	指定された関数名が存在し、パラメーターの個数とデータ・タイプが関数定義内のものと一致するようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-458
SQLSTATE:	42883

<b>SQL0460</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 の ALTER TABLE にデータの切り捨てが起こった可能性がある。
原因:	&2 のテーブル &1 が変更されました。列 &3 の長さが減らされて、データが切り捨てられた可能性があります。
回復手順:	回復処置は不要です。
SQLCODE:	+460
SQLSTATE:	01593

<b>SQL0461</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 から &2 への CAST はサポートされていません。
原因:	データ・タイプ &1 からデータ・タイプ &2 への CAST はサポートされていません。日付、時刻、またはタイム・スタンプから文字への CAST の場合には、文字の結果の長さが小さすぎます。
回復手順:	結果のデータ・タイプまたは長さを CAST 関数についてサポートされているものに変更するか、あるいは &2 にキャストできるデータ・タイプが含まれるように式を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-461
SQLSTATE:	42846

<b>SQL0462</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のプロシージャまたはユーザー定義関数 &1 が警告 SQLSTATE を戻しました。
原因:	&2 (特定の名前 &3) のプロシージャまたはユーザー定義関数 &1 によって、メッセージ・テキスト &4 と一緒に形式 01xxx の SQLSTATE が戻されました。
回復手順:	ユーザーは警告の意味を理解する必要があります。データベース管理者、またはユーザー定義関数かプロシージャの作成者に照会してください。
SQLCODE:	+462
SQLSTATE:	01Hxx

<b>SQL0463</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 から戻された SQLSTATE &4 は正しくない。
原因:	PARAMETER STYLE SQL または DB2SQL が指定されていると、SQLSTATE &4 は外部ルーチンから戻すことができません。&2 のルーチン &1 は、呼び出された外部プロシージャか、または呼び出された外部関数のいずれかです。特定の名前は &3 です。診断テキストは &5 です。
回復手順:	PARAMETER STYLE SQL または DB2SQL の場合に有効な SQLSTATE しか戻さないように外部ルーチンを変更します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-463
SQLSTATE:	39001

<b>SQL0464</b>	
メッセージ・テキスト:	プロシージャ &1 は &3 個の結果セットを戻しましたが、定義済みの限界 &4 を超えています。

SQL0464	
原因:	&2 のストアード・プロシージャ &1 が正常に行われました。しかし、ストアード・プロシージャは、戻ることができる結果セットについて定義済みの限界を超えました。SQL CALL ステートメントを発行した SQL プログラムに戻される結果セットは &4 個だけです。考えられる原因は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>結果セットの数が、プロシージャの作成時に指定された最大より大きくなっている。</li> <li>クライアントによって設定されている DRDA 制限が原因で、ストアード・プロシージャは &amp;3 個の結果セットを戻せない。</li> </ul>
回復手順:	SQL ステートメントは成功しています。SQLSTATE '0100E' が戻されました。
SQLCODE:	+464
SQLSTATE:	0100E

SQL0466	
メッセージ・テキスト:	プロシージャ &2 の &1 から使用可能な結果セットは &3 個です。
原因:	&2 のプロシージャ &1 が呼び出され、1 つまたは複数の結果セットを戻しました。
回復手順:	ありません。
SQLCODE:	+466
SQLSTATE:	0100C

SQL0467	
メッセージ・テキスト:	プロシージャ &2 の &1 のための結果セットがもう 1 つ存在しています。
原因:	&2 の &1 のための結果セットがクローズされました。ストアード・プロシージャのための結果セットがもう 1 つ存在しています。このプロシージャのために可能な結果セットは最大 &3 個です。
回復手順:	ありません。
SQLCODE:	+467
SQLSTATE:	0100D

SQL0469	
メッセージ・テキスト:	&2 の中のプロシージャ &1 のパラメーター &4 の IN、OUT、または INOUT が正しくない。
原因:	プロシージャの定義時にパラメーター &4 に指定された IN、INOUT、または OUT 属性が正しくありません。パラメーター名は &5 です。次のエラーの 1 つが起きました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>属性が CALL ステートメントのパラメーターと矛盾している。パラメーターが INOUT または OUT と宣言されている場合には、CALL ステートメントのパラメーターをホスト変数またはグローバル変数として指定しなければなりません。</li> <li>属性が INOUT または OUT として指定されていて、REXX が言語として指定されている。REXX を指定した場合には、属性が IN でなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、または ALTER PROCEDURE ステートメントのパラメーターの属性を変更するか、あるいはパラメーターを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-469
SQLSTATE:	42886

<b>SQL0470</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の中のプロシージャ &1 のパラメーター &4 に NULL 値を指定することはできない。
原因:	プロシージャ &1 は GENERAL を指定して宣言されていたので、NULL 値はこのプロシージャの CALL ステートメントでは使用できません。NULL キーワード、負の値を含む関連標識変数を持つホスト変数、またはヌル値を持つグローバル変数として、ヌル値が指定されています。パラメーター番号は &4 で、パラメーター名は &5 です。
回復手順:	CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、または DECLARE PROCEDURE ステートメントで PARAMETER STYLE SQL、DB2SQL、または GENERAL WITH NULLS を指定するか、あるいは CALL ステートメントで NULL 値以外の値を渡します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-470
SQLSTATE:	39004

<b>SQL0473</b>	
メッセージ・テキスト:	名前 &1 はユーザー定義タイプには使用できません。
原因:	ユーザー定義のタイプに指定されている名前 &1 はシステム定義済みのタイプと同じものであるか、あるいは予約済みの関数名の 1 つです。使用できない関数名には、CAST、DATAPARTITIONNAME、DATAPARTITIONNUM、DBPARTITIONNAME、DBPARTITIONNUM、EXTRACT、NODENAME、NODENUMBER、PARTITION、POSITION、RID、RRN、STRIP、SUBSTRING、および TRIM があります。
回復手順:	ユーザー定義タイプの名前を変更します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-473
SQLSTATE:	42918

<b>SQL0475</b>	
メッセージ・テキスト:	&4 の関数 &3 の RETURNS データ・タイプが正しくない。
原因:	スキーマ &4 の関数 &3 の RETURNS 文節または CAST FROM 文節に指定されたデータ・タイプは、ソース関数から戻されるデータ・タイプ、または SQL 関数本体の RETURN ステートメントに指定された値に適切ではありません。RETURNS 文節に指定されたデータ・タイプは &1 で、ソース関数または SQL 関数から戻されるデータ・タイプは &2 です。
回復手順:	指定されたデータ・タイプを訂正するか、または別のソース関数を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-475
SQLSTATE:	42866

<b>SQL0476</b>	
メッセージ・テキスト:	ルーチン &2 の &1 が固有ではありません。
原因:	関数またはプロシージャ &2 の &1 がシグニチャーまたは特定の名前によらずに指定されていて、そのルーチンの複数のインスタンスが見つかりました。あるいは、このプロシージャが、リモート・システムへの接続時に、スキーマ名が指定されていない DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATOR ステートメントで使用され、かつその名前で複数のプロシージャが呼び出されました。

SQL0476	
回復手順:	ルーチンは、特定の名前またはシグニチャー (パラメーター・タイプ付きの関数名またはプロシージャー名) のいずれかによって要求します。これが DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATOR ステートメントに対するものである場合は、プロシージャーのスキーマ名を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-476
SQLSTATE:	42725

SQL0478	
メッセージ・テキスト:	タイプ &3 のオブジェクト &1 は除去することも変更することもできません。
原因:	<p>スキーマ &amp;2 内の基本オブジェクト &amp;1 は、別のオブジェクトがこれに従属しているため、除去することも変更することもできません。 &amp;5 の従属オブジェクト &amp;4 は、タイプ &amp;6 のオブジェクトです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本オブジェクト・タイプが*N の場合には、除去または変更しようとしているオブジェクトは関数またはプロシージャーです。他のオブジェクトの場合には、従属関係が間接的である可能性があります。つまり、示されたオブジェクトは、除去または変更しようとしているオブジェクトに依存する別のオブジェクトに依存しています。</li> <li>基本オブジェクトが関数である場合、その従属オブジェクトは、その基本オブジェクトをソースとするか、ビューまたはマテリアライズ照会表であるか、あるいは SQL プロシージャー、関数、グローバル変数、または関数を参照するトリガーです。</li> <li>基本オブジェクトがプロシージャーである場合、その従属オブジェクトは、SQL プロシージャー、関数、またはトリガー内で参照されます。</li> <li>基本オブジェクトがテーブルである場合、およびその基本テーブルに従属しているトリガーまたは外部キーをもつ他のテーブルがある場合には、DROP ステートメントの RESTRICT 文節によってその基本テーブルの除去が防止されます。</li> <li>基本オブジェクトが *LIB で、テーブル、ビュー、関数、プロシージャー、特殊タイプ、別名、グローバル変数、またはトリガーがスキーマ内にある場合には、DROP ステートメントの RESTRICT 文節によってそのスキーマの除去が防止されます。トリガーは、別のスキーマ内に存在しているテーブル上の 1 つのスキーマ内で定義できます。</li> <li>基本オブジェクトが *SQLUDT であり、特殊タイプに従属するテーブル、ビュー、索引、関数、プロシージャー、順序、グローバル変数、またはトリガーがある場合には、DROP ステートメントの RESTRICT 文節によってその基本オブジェクトの除去が防止されます。</li> <li>基本オブジェクトが*DTAARA で、順序に従属する SQL ルーチン、グローバル変数、またはトリガーがある場合には、DROP ステートメントの RESTRICT 文節によって基本順序の除去が回避されます。</li> <li>基本オブジェクトが *SRVPGM で、グローバル変数に従属するビュー、SQL ルーチン、グローバル変数、またはトリガーがある場合には、DROP ステートメントの RESTRICT 文節によって基本グローバル変数の除去が回避されます。</li> </ul>
回復手順:	最初に、従属オブジェクトを除去します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-478
SQLSTATE:	42893

SQL0480	
メッセージ・テキスト:	プロシージャー &1 が前もって呼び出されていません。

<b>SQL0480</b>	
原因:	DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATOR ステートメントで参照されているスキーマ &2 内のプロシージャ &1 が、アプリケーション・プロセス内でまだ呼び出されていません。
回復手順:	DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATOR ステートメントを実行する前に、このプロシージャを呼び出してください。
SQLCODE:	-480
SQLSTATE:	51030

<b>SQL0482</b>	
メッセージ・テキスト:	プロシージャ &1 がロケータを戻しませんでした。
原因:	ASSOCIATE LOCATOR ステートメントで参照されているスキーマ &2 内のプロシージャ &1 が、この呼び出しに対して結果セット・ロケータを戻しませんでした。このエラーは、リモート接続時の ASSOCIATE LOCATOR ステートメントにも起こります。その場合は、プロシージャが呼び出されなかったか、または存在していません。
回復手順:	DESCRIBE PROCEDURE ステートメントを使用して、特定されたプロシージャから結果セット・ロケータが戻されるかどうか確認してください。
SQLCODE:	+482
SQLSTATE:	02503

<b>SQL0483</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 のパラメーターがソース関数と同じでない。
原因:	&2 中の関数 &1 に指定されているパラメーターの数とソース関数に指定されているパラメーターの数とが異なっています。
回復手順:	正しい数のパラメーターを関数に指定するか、あるいは別のソース関数を指定してください。これができない場合には、正しいソース関数が現行パスに存在するようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-483
SQLSTATE:	42885

<b>SQL0484</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のルーチン &1 はすでに存在しています。
原因:	&2 のルーチン &1 を作成しようとしたますが、&1 はすでに存在しています。同一スキーマ内のすべてのプロシージャおよび関数には、固有の特定名が必要です。
回復手順:	存在していない特定名を指定するか、あるいは、特定名を指定しないと、固有名が生成されます。そうでない場合は、既存ルーチンを削除します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-484
SQLSTATE:	42733

<b>SQL0487</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントが使用できません。

<b>SQL0487</b>	
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・アクセス属性として NO SQL を指定して作成した、プロシージャまたは関数が呼び出された。NO SQL で作成されたルーチン、または後続のルーチンでは、SQL ステートメントを含めることはできず、また、CONTAINS SQL DATA、READS SQL DATA、または MODIFIES SQL DATA 属性を持つルーチンを呼び出すことはできません。</li> <li>SQL プロシージャまたは関数の作成時には NO SQL を指定できない。</li> <li>SQL ステートメントが含まれているトリガーが活動化されている。</li> <li>プロシージャ、関数、またはトリガー内で、クライアント SQL 特殊レジスターを変更することはできない。</li> <li>SQL ステートメントを含むフィールド・プロシージャが呼び出されました。エラーがプロシージャまたは関数の中で起こった場合には、ルーチン名は &amp;1 であり、特定名は &amp;2 です。</li> </ul>
回復手順:	NO SQL として作成されたルーチンが SQL ステートメントの含まれていないルーチンだけを呼び出すことを確認してください。SQL プロシージャまたは関数に NO SQL は指定しないようにしてください。プロシージャ、関数、またはトリガー内で、クライアント SQL 特殊レジスターを変更しないでください。フィールド・プロシージャ・プログラムで SQL ステートメントを使用しないようにしてください。
SQLCODE:	-487
SQLSTATE:	38001

<b>SQL0490</b>	
メッセージ・テキスト:	数値 &1 が正しくない。
原因:	&1 が指定されましたが、その使用に有効な値の範囲内にありません。有効な値の範囲は &2 から &3 までです。
回復手順:	値を変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-490
SQLSTATE:	428B7

<b>SQL0491</b>	
メッセージ・テキスト:	プロシージャまたは関数の文節は正しくありません。

<b>SQL0491</b>	
原因:	<p>CREATE PROCEDURE または CREATE FUNCTION または ALTER PROCEDURE または ALTER FUNCTION の文節が抜けているか、または使用できません。理由コードは &amp;1 です。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 関数の場合、RETURNS 文節が必要。</li> <li>• 3 -- 関数の場合、パラメーター・スタイルが JAVA または GENERAL であれば、DBINFO、FINAL CALL、および SCRATCHPAD 文節を指定することはできない。プロシージャの場合、パラメーター・スタイルが SQL でない限り、DBINFO を指定することはできない。</li> <li>• 4 -- 関数の場合、GENERAL を指定できるのは、EXTERNAL NAME でサービス・プログラムが指定されている場合のみ。</li> <li>• 5 -- 関数およびプロシージャの場合、パラメーター・スタイル JAVA または DB2GENERAL を指定できるのは LANGUAGE JAVA に対してのみ。</li> <li>• 6 -- テーブル関数がパラメーター・スタイル JAVA、GENERAL、または GENERAL WITH NULLS をもつことはできない。</li> <li>• 7 -- 関数およびプロシージャの場合、JAVA または REXX には PROGRAM TYPE MAIN は使用できない。PROGRAM TYPE SUB を使用できるのはサービス・プログラムに対してだけです。</li> <li>• 9 -- CARDINALITY 文節を使用できるのはテーブル関数の場合のみ。</li> <li>• 10 -- 外部関数およびプロシージャの場合、LANGUAGE SQL は使用できず、ルーチン本体があってはならない。</li> <li>• 11 -- 外部関数およびプロシージャの場合には、CONCURRENT ACCESS RESOLUTION を指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	抜けている文節を追加するか、または許可されない文節を除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-491
SQLSTATE:	42601

<b>SQL0492</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 のデータ・タイプはソース・タイプには正しくない。
原因:	ライブラリー &2 の関数 &1 のパラメーター &3 に指定されたデータ・タイプは、SOURCE 関数の対応するタイプには正しくありません。
回復手順:	パラメーター &3 に指定されたデータ・タイプを訂正するか、または別のソース関数を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-492
SQLSTATE:	42879

<b>SQL0494</b>	
メッセージ・テキスト:	ロケーターの数が結果セットの数を下回っています。
原因:	スキーマ &2 内のプロシージャ &1 の ASSOCIATE LOCATOR ステートメントで、指定された結果セット・ロケーター変数の数が使用可能な結果セットの数を下回っています。指定された結果セット・ロケーター変数は &3 個で、使用可能な結果セットは &4 個です。
回復手順:	回復処置は不要です。
SQLCODE:	+494
SQLSTATE:	01614

SQL0499	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 は既に結果セットに割り当てられています。
原因:	<p>ALLOCATE CURSOR ステートメントを使用して結果セットにカーソルを割り当てようとして、次のいずれかが当てはまります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ALLOCATE CURSOR ステートメントで指定された結果セット・ロケータは既にカーソル &amp;2 に割り当てられています。</li> <li>• ALLOCATE CURSOR ステートメントで指定されたカーソル &amp;1 は既に結果セットに割り当てられています。</li> </ul>
回復手順:	結果セットごとに ALLOCATE CURSOR を 1 つだけにしてください。
SQLCODE:	-499
SQLSTATE:	24516

SQL0501	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 がオープンされていない。
原因:	<p>カーソル &amp;1 が FETCH または CLOSE ステートメントに指定されていますが、このカーソルはオープンされていません。カーソル &amp;1 の状態は次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カーソル &amp;1 は、いままでオープンされたことがない。</li> <li>• カーソル &amp;1 は、別のプログラムまたはこのプログラムの別の呼び出しでオープンされ、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDPGM) で作成された。</li> <li>• カーソル &amp;1 は、このモジュールの別のモジュール、または別の呼び出しでオープンされ、モジュールは CLOSQLCSR(*ENDMOD) で作成された。</li> <li>• カーソル &amp;1 は、このプログラムの別の呼び出しでオープンされ、SQL ステートメントを実行したプログラムは終了し、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDSQL) で作成された。</li> <li>• カーソル &amp;1 はこのモジュールの別のモジュールでオープンされ、活動化グループは呼び出し間で終了した。そのモジュールは CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) で作成された。</li> <li>• カーソルは CLOSE、COMMIT、または ROLLBACK ステートメントによってクローズされた。</li> <li>• カーソル &amp;1 は現行トランザクションと異なるトランザクションのもとでオープンされた。</li> </ul>
回復手順:	<p>次のいずれかを実行して、プリコンパイルをやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カーソルを FETCH または CLOSE ステートメントで使用する前に、同じプログラム、またはモジュールの呼び出しでカーソル &amp;1 がオープンされたかどうかを確認する。</li> <li>• アプリケーション・プログラムのプリコンパイル時に、CLOSQLCSR(*ENDSQL)、CLOSQLCSR(*ENDJOB)、または CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) を指定する。</li> <li>• カーソルが COMMIT または ROLLBACK によってクローズされた場合には、オープン・カーソル、準備済みステートメント、およびテーブルのロックを保存するために、COMMIT または ROLLBACK ステートメントに HOLD を指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-501
SQLSTATE:	24501

SQL0502	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 は既にオープンされているか割り振られています。

<b>SQL0502</b>	
原因:	OPEN ステートメントまたは ALLOCATE CURSOR ステートメントに指定されたカーソルは、既にこのプログラム呼び出しに備えてオープンされているか、または割り振られています。
回復手順:	カーソル &1 をクローズしてから OPEN ステートメントまたは ALLOCATE CURSOR ステートメントをやり直すか、あるいはカーソルの名前を変更してからプログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-502
SQLSTATE:	24502

<b>SQL0503</b>	
メッセージ・テキスト:	欄 &3 を更新することができない。
原因:	UPDATE ステートメントが &2 のテーブルまたはビュー &1 の列 &3 を更新しようとしてしました。関連した DECLARE CURSOR ステートメントの FOR UPDATE OF 文節に指定されていなかったために、列を更新することができません。
回復手順:	関連した DECLARE CURSOR ステートメントの FOR UPDATE OF 文節に、列 &3 を追加してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-503
SQLSTATE:	42912

<b>SQL0504</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 が宣言されていない。
原因:	カーソル &1 は参照される前にプログラムで宣言されていません。カーソルは他のステートメントで参照される前に、宣言しなければなりません。プログラム内のカーソルのどれかに WITH RETURN または WITHOUT RETURN が宣言されていると、SET RESULT SETS ステートメントで使用されるすべてのカーソルに WITH RETURN が宣言されていなければなりません。
回復手順:	アプリケーション・プログラムが完了し、カーソルの宣言につづりのエラーがないことを確認してください。カーソルの宣言が、他のステートメントで参照される前にアプリケーション・プログラムで行なわれていることを確認してください。カーソルのどれかに WITH RETURN または WITHOUT RETURN が宣言されている場合には、SET RESULT SETS ステートメントで使用されるすべてのカーソルに WITH RETURN が宣言されていることを確認してください。プログラムのプリコンパイルをやり直してください。
SQLCODE:	-504
SQLSTATE:	34000

<b>SQL0507</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 がオープンされていない。

<b>SQL0507</b>	
原因:	<p>カーソル &amp;1 が UPDATE または DELETE ステートメントに指定されていますが、このカーソルはオープンされていません。カーソル &amp;1 の状態は次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カーソル &amp;1 は、いままでオープンされたことがない。</li> <li>カーソル &amp;1 は、別のプログラムまたはこのプログラムの別の呼び出しでオープンされ、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDPGM) で作成された。</li> <li>カーソル &amp;1 は、このモジュールの別のモジュール、または別の呼び出しでオープンされ、モジュールは CLOSQLCSR(*ENDMOD) で作成された。</li> <li>カーソル &amp;1 は、このプログラムの別の呼び出しでオープンされ、SQL ステートメントを実行したプログラムは終了し、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDSQL) で作成された。</li> <li>カーソル &amp;1 は、このモジュールの別のモジュールでオープンされ、活動化グループは呼び出し間で終了した。そのプログラムは CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) で作成された。</li> <li>カーソルは CLOSE、COMMIT、または ROLLBACK ステートメントによってクローズされた。</li> </ul>
回復手順:	<p>次のいずれかを実行して、プリコンパイルをやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カーソルを UPDATE または DELETE ステートメントで使用する前に、同じプログラム、またはモジュールの呼び出しでカーソル &amp;1 がオープンされたかどうかを確認する。</li> <li>アプリケーション・プログラムのプリコンパイル時に、CLOSQLCSR(*ENDSQL)、CLOSQLCSR(*ENDJOB)、または CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) を指定する。</li> <li>カーソルが COMMIT または ROLLBACK によってクローズされた場合には、オープン・カーソル、準備済みステートメント、およびテーブルのロックを保存するために、COMMIT または ROLLBACK ステートメントに HOLD を指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-507
SQLSTATE:	24501

<b>SQL0508</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 はロックされた行に位置づけられていない。
原因:	<p>WHERE CURRENT OF &amp;1 のある UPDATE または DELETE ステートメントが試みられましたが、カーソルが行に位置づけられていないか、あるいは行に位置づけられましたが、COMMIT HOLD または ROLLBACK HOLD ステートメントが行のロックを解放したために行がロックされていません。カーソルを行に位置づけて行をロックするためには、FETCH ステートメントを出さなければなりません。</p>
回復手順:	<p>FETCH ステートメントを出して、カーソルを行に位置づけて行をロックしてから、要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-508
SQLSTATE:	24504

<b>SQL0509</b>	
メッセージ・テキスト:	&3 のテーブル &2 がカーソル &1 のテーブルと同じでない。
原因:	<p>WHERE CURRENT OF &amp;1 のある UPDATE または DELETE ステートメントが &amp;3 のテーブル &amp;2 を指定しましたが、カーソル &amp;1 は別のテーブルを参照しています。UPDATE または DELETE ステートメントに指定されたテーブルとカーソル &amp;1 によって参照されるテーブルは、同じでなければなりません。</p>
回復手順:	<p>指定されたテーブル名をカーソル &amp;1 で指定されたテーブルと一致するように変更してから、プログラムのプリコンパイルをやり直してください。</p>

<b>SQL0509</b>	
SQLCODE:	-509
SQLSTATE:	42827

<b>SQL0510</b>	
メッセージ・テキスト:	テーブルまたはビュー &2 のカーソル &1 は読み取り専用です。
原因:	<p>WHERE CURRENT OF 文節のある UPDATE または DELETE ステートメントが指定されましたが、カーソルは読み取り専用です。カーソル &amp;1 が読み取り専用であるか、あるいはスキーマ &amp;3 のビューまたは論理ファイル &amp;2 が読み取り専用です。次の条件の 1 つまたは複数該当する場合には、ビューまたは論理ファイルが読み取り専用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビューに DISTINCT キーワード、GROUP BY 文節、HAVING 文節、集約関数、あるいは最外部の副選択の UNION、EXCEPT、または INTERSECT が入っている。</li> <li>• ビューまたは論理ファイルに結合が入っている。</li> <li>• ビューに最外部の副選択のテーブルと同じテーブルを参照する SUBQUERY が入っている。</li> <li>• ビューのすべての列が式、スカラー関数、または定数である。</li> <li>• 論理ファイルのすべての列が入力専用である。次の条件の 1 つまたは複数該当する場合には、カーソルは読み取り専用です。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが ORDER BY 文節を指定しているが、FOR UPDATE OF 文節を指定していない。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが FOR READ ONLY 文節を指定している。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが、DYNAMIC を指定しないで SCROLL キーワードを指定している。</li> <li>• カーソルが選択リストの読み取り専用ビューまたは論理ファイルを参照している。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントに指定された全選択に、ビューを読み取り専用にするような上記の制約事項のどれかが含まれている。</li> <li>• 2 番目の INSTEAD OF トリガーが、従属ビューでの更新または削除に必要になります。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが、データ変更テーブル参照付きの SELECT を指定している。</li> </ul>
回復手順:	<p>次のいずれかを実行して、プログラムのプリコンパイルをやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが ORDER BY 文節を指定しているが、FOR UPDATE OF 文節を指定していない場合には、FOR UPDATE OF 文節を追加する。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが FOR READ ONLY 文節を指定している場合には、FOR READ ONLY 文節を除去する。</li> <li>• DECLARE CURSOR ステートメントが SCROLL キーワードを指定している場合には、DYNAMIC SCROLL を指定する。</li> <li>• 参照されるビューまたは論理ファイルが読み取り専用の場合には、UPDATE または DELETE ステートメントを除去する。</li> <li>• カーソルを読み取り専用にする条件が DECLARE CURSOR ステートメントに入っている場合には、UPDATE または DELETE ステートメントを除去する。</li> </ul>
SQLCODE:	-510
SQLSTATE:	42828

<b>SQL0511</b>	
メッセージ・テキスト:	FOR UPDATE 文節が正しくない。
原因:	<p>結果のテーブルが読み取り専用であるために、カーソル &amp;1 で FOR UPDATE 文節を使用することができません。結果のテーブルは次の場合には読み取り専用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択ステートメントで、DISTINCT キーワード、集約関数、GROUP BY 文節、または HAVING 文節、あるいは UNION、EXCEPT、または INTERSECT 演算子が使われている場合。</li> <li>• 選択ステートメントに VALUES 文節が入っている。</li> <li>• FROM 文節が複数のテーブル、複数のビュー、または読み取り専用ビューを認識している場合。</li> <li>• FROM 文節に、データ変更テーブル参照が入っている。</li> </ul>
回復手順:	カーソル &1 を更新することはできません。FOR UPDATE 文節を除去してください。
SQLCODE:	-511
SQLSTATE:	42829

<b>SQL0512</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメントが複数のデータベースに存在するオブジェクトを参照しています。
原因:	ステートメントが複数のデータベースに存在するオブジェクトを参照しています。これらのオブジェクトは、明示的に修飾されたオブジェクト名であるか、または別のデータベースを参照するように定義されている別名である可能性があります。この SQL ステートメントは 1 つのデータベースのみを参照できます。
回復手順:	このステートメントで使用されているすべてのオブジェクトが同じデータベースに存在するようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-512
SQLSTATE:	56023

<b>SQL0513</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の別名 &1 が別の別名を参照することはできません。
原因:	&2 の別名 &1 で参照することができるのは、テーブルまたはビューだけです。別の別名を参照することはできません。
回復手順:	参照された名前を変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-513
SQLSTATE:	42924

<b>SQL0514</b>	
メッセージ・テキスト:	準備済みステートメント &2 が見つからない。

SQL0514	
原因:	<p>準備済みステートメント &amp;2 を参照しているカーソル &amp;1 をオープンしようとしてしました。ステートメント &amp;2 の状態は次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ステートメントはまだ準備されていない。</li> <li>• ステートメントは別のプログラムまたはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、プログラムは CLOSQLCR(*ENDPGM) で作成された。</li> <li>• ステートメントはこのモジュールの別のモジュール、または別の呼び出しで準備され、モジュールは CLOSQLCR(*ENDMOD) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、SQL ステートメントを実行したプログラムは終了し、プログラムは CLOSQLCR(*ENDSQL) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのモジュールの別のモジュールで準備され、活動化グループは呼び出し間で終了した。そのモジュールは CLOSQLCR(*ENDACTGRP) で作成された。</li> <li>• COMMIT または ROLLBACK ステートメントがすべての準備済みステートメントを壊した。</li> </ul>
回復手順:	<p>次のいずれかを実行して、プリコンパイルをやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カーソル &amp;1 をオープンする前に、ステートメント &amp;2 を準備する (PREPARE ステートメント)。</li> <li>• カーソル &amp;1 をオープンする前に同じプログラム、またはモジュールの呼び出しで &amp;2 が準備されたかどうかを確認するか、あるいはアプリケーション・プログラムのプリコンパイル時に CLOSQLCR(*ENDSQL)、CLOSQLCR(*ENDJOB) または CLOSQLCR(*ENDACTGRP) を指定する。</li> <li>• ステートメントが COMMIT または ROLLBACK によって削除された場合には、オープン・カーソル、準備済みステートメント、およびテーブルのロックを保存するために、COMMIT または ROLLBACK ステートメントに HOLD を指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-514
SQLSTATE:	26501

SQL0516	
メッセージ・テキスト:	準備済みステートメント &2 が見つからない。
原因:	<p>&amp;2 は有効な準備済みステートメントではありません。このステートメントの状態は次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ステートメントはまだ準備されていない。</li> <li>• ステートメントは別のプログラムまたはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、プログラムは CLOSQLCR(*ENDPGM) で作成された。</li> <li>• ステートメントはこのモジュールの別のモジュール、または別の呼び出しで準備され、モジュールは CLOSQLCR(*ENDMOD) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、SQL ステートメントを実行したプログラムは終了し、プログラムは CLOSQLCR(*ENDSQL) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのモジュールの別のモジュールで準備され、活動化グループは呼び出し間で終了した。そのモジュールは CLOSQLCR(*ENDACTGRP) で作成された。</li> <li>• COMMIT または ROLLBACK ステートメントがすべての準備済みステートメントを壊した。</li> </ul>

SQL0516	
回復手順:	次のいずれかを実行して、プリコンパイルをやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DESCRIBE ステートメントを使用する前に同じプログラムまたはモジュール呼び出しで &amp;1 が準備されたかどうかを確かめるか、あるいはアプリケーション・プログラムのプリコンパイル時に CLOSQLCSR(*ENDSQL)、 CLOSQLCSR(*ENDJOB) または CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) を指定する。</li> <li>• ステートメントが COMMIT または ROLLBACK によって削除された場合には、オープン・カーソル、準備済みステートメント、およびテーブルのロックを保存するために、COMMIT または ROLLBACK ステートメントに HOLD を指定する。</li> </ul>
SQLCODE:	-516
SQLSTATE:	26501

SQL0517	
メッセージ・テキスト:	準備済みステートメント &2 は、選択ステートメントではありません。
原因:	ステートメント &2 を参照しているカーソル &1 をオープンしようとしてしました。ステートメント &2 は有効な準備済みステートメントですが、SELECT ステートメントではありません。OPEN は、準備済みの SELECT ステートメントしか参照することはできません。
回復手順:	準備済みの SELECT ステートメントを参照するように OPEN ステートメントを変更するか、あるいは有効な SELECT ステートメントを使用してステートメント &2 を準備し、オープンをやり直してください。
SQLCODE:	-517
SQLSTATE:	07005

SQL0518	
メッセージ・テキスト:	準備済みステートメント &1 が見つからない。
原因:	EXECUTE ステートメントがステートメント &1 を参照しています。 &1 は有効な準備済みステートメントではありません。このステートメントの状態は次の 1 つです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ステートメントはまだ準備されていない。</li> <li>• このステートメントは準備済み SELECT または DECLARE PROCEDURE ステートメントを識別する。</li> <li>• 準備時またはバインド時にステートメントにエラーがあった。</li> <li>• ステートメントは別のプログラムまたはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDPGM) で作成された。</li> <li>• ステートメントはこのモジュールの別のモジュール、または別の呼び出しで準備され、モジュールは CLOSQLCSR(*ENDMOD) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのプログラムの別の呼び出しで準備され、SQL ステートメントを実行したプログラムは終了し、プログラムは CLOSQLCSR(*ENDSQL) で作成された。</li> <li>• このステートメントはこのモジュールの別のモジュールで準備され、活動化グループは呼び出し間で終了した。そのモジュールは CLOSQLCSR(*ENDACTGRP) で作成された。</li> <li>• 準備済みステートメントが COMMIT または ROLLBACK ステートメントで破壊された。これが起こるのは、DB2 for IBM i 以外のデータベースに接続する場合だけです。</li> </ul>

<b>SQL0518</b>	
回復手順:	<p>次の 1 つを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &amp;1 が準備済み SELECT または DECLARE PROCEDURE ステートメントを識別している場合には、別の準備済みステートメントの名前が EXECUTE ステートメント中で指定されていなければなりません。</li> <li>• ステートメントにエラーがあった場合には、エラーを訂正し、ステートメントをもう一度準備するか、プログラムをもう一度プリコンパイルしてください。</li> <li>• EXECUTE ステートメントを使用する前に同じプログラムまたはモジュール呼び出しで &amp;1 が準備されたかどうかを確かめるか、あるいはアプリケーション・プログラムのプリコンパイル時に CLOSQCSP(*ENDSQL)、 CLOSQCSP(*ENDJOB) または CLOSQCSP(*ENDACTGRP) を指定する。</li> <li>• ステートメントが COMMIT または ROLLBACK によって削除された場合には、PREPARE WITH HOLD を指定するか、準備済みステートメントを保存するための正しいオプションでプログラムをバインドする。</li> </ul>
SQLCODE:	-518
SQLSTATE:	07003

<b>SQL0519</b>	
メッセージ・テキスト:	準備するステートメント &2 は使用中である。
原因:	アプリケーション・プログラムがステートメント &2 を準備しようとした。このステートメントは現在オープンされているカーソル &1 の SELECT ステートメントです。
回復手順:	PREPARE ステートメントのステートメント名を変更するか、あるいは PREPARE ステートメントをやり直す前にカーソル &1 をクローズするように、アプリケーション・プログラムの論理を訂正してください。
SQLCODE:	-519
SQLSTATE:	24506

<b>SQL0520</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 で UPDATE または DELETE することはできない。
原因:	カーソル &1 はレコードのブロック化を行っています。カーソル &1 の UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF が試みられましたが、このカーソルに対してブロック化が使用中であったので、これを実行することはできません。
回復手順:	UPDATE または DELETE ステートメントを使用する場合には、カーソル &1 に対してレコードのブロック化を行わないようにしてください。
SQLCODE:	-520
SQLSTATE:	42828

<b>SQL0525</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメントがアプリケーション・サーバーに対して正しくない。
原因:	スキーマ &3 のパッケージ &2 のステートメント番号 &4 を実行しようとした。このステートメントにエラーがあるか、あるいはステートメントがアプリケーション・サーバーによってサポートされていません。このステートメントと対応するセクション番号は &1 です。

<b>SQL0525</b>	
回復手順:	エラーのあるステートメントを訂正して、そのステートメントがアプリケーション・サーバーに有効な SQL/400 ステートメントであることを確認してください。ステートメントが複数行 FETCH である場合には、単一行 FETCH を指定してください。ステートメントが複数行 INSERT である場合には、挿入する 1 行以上を指定した VALUES 文節を指定するか、あるいは副選択を指定してください。ステートメントが SET TRANSACTION の場合には、アプリケーションからこれを除去するか、分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) 接続が使用されている場合はこれを出さないようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-525
SQLSTATE:	51015

<b>SQL0526</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメントは &3 の &1 の TEMPORARY TABLE &2 には無効です。
原因:	&1 の TEMPORARY TABLE &2 は ALTER TABLE、COMMENT ON、CREATE TRIGGER、GRANT、LABEL ON、LOCK TABLE、RENAME、または REVOKE ステートメントには指定できません。 &1 TEMPORARY TABLE には制約を指定できず、&1 TEMPORARY TABLE はパーティション化できません。
回復手順:	ステートメントに有効なテーブルを指定するか、制約またはパーティション化文節を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-526
SQLSTATE:	42995

<b>SQL0527</b>	
メッセージ・テキスト:	ALWCPYDTA(*NO) が指定されたが、&1 の場合には一時的な結果が必要である。
原因:	データのコピー可能 (ALWCPYDTA) パラメーターが *NO の値と一緒にプリコンパイラ・コマンドまたは STRSQL コマンドに指定されています。この値は、データが常に現行の値を反映しているように、データベースから直接検索されるデータを QUERY で常に使用する必要があることを示します。特定のタイプの SQL の照会では、データのコピーを作成しないで分析解決することはできません。キーワード DISTINCT または UNION を使用していくつかの例が照会されます。実行している QUERY は、データのコピーが必要な照会です。
回復手順:	ALWCPYDTA パラメーターに別の値を指定するか、SQL ステートメントを一時的な結果を使用しないで評価されるように、SQL ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	-527
SQLSTATE:	42874

<b>SQL0530</b>	
メッセージ・テキスト:	操作は &2 の参照制約 &1 では使用できない。
原因:	これが INSERT、UPDATE、または MERGE ステートメントの場合には、親キーの値と一致しないので、外部キーの値が正しくありません。これが SET DEFAULT 削除規則に影響される DELETE または MERGE ステートメントの場合には、同じ理由でデフォルト値が無効です。これが ALTER TABLE ステートメントの場合には、操作の結果が制約 &1 に違反することになります。&4 のテーブル &3 に対する &2 の制約 &1 では、外部キーの非 NULL 値は一致する値が親キーになければなりません。

<b>SQL0530</b>	
回復手順:	<p>制約規則に従うためには、次のいずれかを実行しなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親キーの値と一致するように INSERT、UPDATE、または MERGE 値を変更する</li> <li>挿入または更新する外部キー値と一致する行を親ファイルに挿入する</li> <li>従属行の外部キーの省略時の値と一致する行を親ファイルに挿入するそうでない場合には、参照制約を消去しなければなりません。</li> </ul>
SQLCODE:	-530
SQLSTATE:	23503

<b>SQL0531</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の参照制約 &1 によって更新が妨げられた。
原因:	&2 の制約 &1 は、更新規則 RESTRICT または NO ACTION によって &4 の従属テーブル &3 と関連する親テーブルとして更新するテーブルを識別しています。一致する値をもつ行が従属テーブルにある時には、親キーの更新は妨げられます。
回復手順:	この更新を実行するためには、この制約を消去するか、あるいはこの行に従属する行を従属テーブルから削除しなければなりません。
SQLCODE:	-531
SQLSTATE:	23001、23504

<b>SQL0532</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の参照制約 &1 によって削除が妨げられた。
原因:	&2 の制約 &1 は、削除規則 RESTRICT または NO ACTION によって &4 の従属テーブル &3 と関連する親テーブルとして変更するテーブルを識別しています。一致する値をもつ行が従属テーブルにある時には、親キーの削除は妨げられます。
回復手順:	この行を削除するためには、この制約を消去するか、あるいはこの行に従属する行を従属テーブルから削除しなければなりません。
SQLCODE:	-532
SQLSTATE:	23001、23504

<b>SQL0536</b>	
メッセージ・テキスト:	SUBQUERY の &2 のテーブル &1 が影響を受ける可能性があるため、削除を行うことはできない。
原因:	SUBQUERY で参照されている &2 のテーブル &1 が削除操作の影響を受ける可能性があるため、削除操作を実行することはできません。&2 の &1 は、削除規則 CASCADE、SET NULL、または SET DEFAULT をもっている参照制約中の従属テーブルです。
回復手順:	SUBQUERY が従属テーブルを参照しないようにステートメントを変更するか、あるいは 2 つのテーブル間の関係を定義している制約を消去してください。
SQLCODE:	-536
SQLSTATE:	42914

<b>SQL0537</b>	
メッセージ・テキスト:	キーの定義に重複した欄名 &1 がある。

SQL0537	
原因:	主キー、固有キー、外部キー、またはパーティション・キーの列のリスト内でか、または CREATE INDEX ステートメントのキー式の列のリスト内で、列 &1 が複数回指定されました。列はキーの定義に 1 回しか指定することができません。AS 文節を使って命名する索引列には、テーブル内の列とは異なる名前をつける必要があります。
回復手順:	キーの列のリストから重複列を除去するか、または名前を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-537
SQLSTATE:	42709

SQL0538	
メッセージ・テキスト:	&2 の制約 &1 にある FOREIGN キーが親キーと同じでない。
原因:	&2 の制約 &1 にある FOREIGN キーが &4 のテーブル &3 の親キーと同じではありません。FOREIGN キーは親キーと同じ数のカラムを持つ必要があります。また、FOREIGN キーのデータ・タイプ、属性、およびフィールド・プロシージャは、親キーの対応するカラムのデータ・タイプ、属性、およびフィールド・プロシージャと同一でなければなりません。
回復手順:	FOREIGN キーの記述が指定されたテーブルの親キーの記述と適合するように、当該ステートメントを訂正してください。
SQLCODE:	-538
SQLSTATE:	42830

SQL0539	
メッセージ・テキスト:	&2 のテーブル &1 に基本キーまたは固有キーがない。
原因:	&2 のテーブル &1 は、参照制約の親テーブルとして、または ALTER TABLE ステートメントの主キーまたは固有キーを消去するテーブルとして指定されています。参照制約に参照列リストが指定されていない時には、親テーブルの主キーを使用することが試みられます。テーブル &1 には主キーが定義されていません。
回復手順:	FOREIGN KEY 列リストと一致する参照列リストが FOREIGN KEY 文節に指定されるように当該ステートメントを訂正するか、あるいは親テーブルとして使用するテーブルに主キーを定義してください。これが主キーまたは固有キーを消去しようとするものである場合には、回復処置は不要です。
SQLCODE:	-539
SQLSTATE:	42888

SQL0541	
メッセージ・テキスト:	&2 のテーブル &1 に重複 UNIQUE 制約が存在している。
原因:	&4 の UNIQUE 制約 &3 を追加しようとした。&2 のテーブル &1 には、追加しようとした制約とまったく同じものである UNIQUE 制約がすでに存在しています。一方の UNIQUE 制約の列が他方の UNIQUE 制約の列と同じである場合には、列の順序が同じでなくても、UNIQUE 制約は重複となります。制約 &1 を追加することはできません。
回復手順:	この制約はすでに有効となっています。UNIQUE 制約の名前を変更するためには、重複制約を消去して要求をやり直してください。
SQLCODE:	-541
SQLSTATE:	42891

<b>SQL0542</b>	
メッセージ・テキスト:	PRIMARY キーの列 &1 に NULL 値は使用できません。
原因:	列 &1 は、PRIMARY KEY の列であると定義されています。 PRIMARY KEY の列では、NULL 値は使用できません。
回復手順:	NULL 値が許可されないように列を作成してください。
SQLCODE:	-542
SQLSTATE:	42831

<b>SQL0543</b>	
メッセージ・テキスト:	制約 &1 が SET NULL または SET DEFAULT の規則と矛盾している。
原因:	制約 &1 が CHECK 制約であり、これは、SET NULL または SET DEFAULT のいずれかの規則をもつ既存の参照制約と矛盾しています。
回復手順:	CHECK 制約が参照制約の規則と矛盾しないようにそれを変更するか、あるいは参照制約を除去してください。
SQLCODE:	-543
SQLSTATE:	23511

<b>SQL0544</b>	
メッセージ・テキスト:	CHECK 制約 &1 は追加できない。
原因:	テーブルの既存のデータが制約 &1 の CHECK 制約規則に違反しています。この制約を追加することはできません。
回復手順:	テーブルのデータが &1 に指定された制約に従っているように、それを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-544
SQLSTATE:	23512

<b>SQL0545</b>	
メッセージ・テキスト:	INSERT、UPDATE、または MERGE は CHECK 制約によって使用できない。
原因:	挿入または更新している値が CHECK 制約 &1 の基準と一致していません。この操作を使用することはできません。
回復手順:	CHECK 制約が一致するように、挿入または更新している値を変更してください。そうでない場合には、CHECK 制約 &1 を除去してください。
SQLCODE:	-545
SQLSTATE:	23513

<b>SQL0546</b>	
メッセージ・テキスト:	制約 &1 の CHECK 条件が正しくありません。

<b>SQL0546</b>	
原因:	次の理由のいずれかのために、制約 &1 の CHECK 条件が正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 列レベルの CHECK 条件がテーブル中の他の列を参照している</li> <li>• CHECK 条件がこのテーブル中にない列を参照している</li> <li>• CHECK 条件が特殊レジスターを参照している</li> <li>• CHECK 条件に集約関数 (AVG や COUNT など)、ユーザー定義関数、または OLAP 仕様が使用されている。</li> <li>• CHECK 条件に副選択が含まれている</li> <li>• CHECK 条件に許可されていない組み込みスカラー関数を使用されている。</li> <li>• CHECK 条件に LOB を含む式が使用されている</li> <li>• CHECK 条件で、非互換のデータ・タイプが使用されている</li> <li>• CHECK 条件に、ROW CHANGE TIMESTAMP または ROW CHANGE TOKEN が入っている。</li> <li>• CHECK 条件に順序参照が含まれている。</li> <li>• CHECK 条件がグローバル変数を参照している。</li> <li>• CHECK 条件が XML 列 を参照している。</li> <li>• CHECK 条件がフィールド・プロシージャーを含むカラムを参照している。</li> </ul>
回復手順:	エラーを訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-546
SQLSTATE:	42621

<b>SQL0551</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 が認可されていない。
原因:	&2 のタイプ *&3 のオブジェクト &1 に操作が試みられました。この操作は必要な権限なしに実行することはできません。
回復手順:	機密保護担当者またはオブジェクト所有者から必要な権限をもらってください。論理ファイルに対して認可されていない場合には、論理ファイルの基礎になっているファイルに対する認可を受けてください。操作をやり直してください。
SQLCODE:	+551、-551
SQLSTATE:	01548、42501

<b>SQL0552</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 には認可されていない。

SQL0552	
原因:	<p>必要な権限がなければ、この操作を実行することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CREATE TABLE には、物理ファイル作成 (CRTPF) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• CREATE VIEW または CREATE INDEX には、論理ファイル作成 (CRTLFL) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• CREATE ALIAS には、DDM ファイル作成 (CRTDDMF) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• CREATE SCHEMA には、ライブラリー作成 (CRTLIB) コマンドに対する *USE 権限が必要である。また、WITH DATA DICTIONARY が指定された場合には、データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT) コマンドに対する *USE 権限も必要です。</li> <li>• ALTER TABLE には、制約を追加するために、物理ファイル制約追加 (ADDPFCST) コマンドに対する *USE 権限が必要であり、制約を消去するために、物理ファイル制約除去 (RMVPCST) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• CREATE PROCEDURE または CREATE FUNCTION には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSROUTINES に対する *OBJOPR および *ADD 権限が必要である。</li> <li>• DROP PROCEDURE または DROP FUNCTION には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSPARMS に対する *OBJOPR および *DLT 権限が必要である。</li> <li>• COMMENT ON PROCEDURE または COMMENT ON FUNCTION には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSROUTINES に対する *OBJOPR、*READ、および *UPD 権限が必要である。</li> <li>• CREATE TYPE には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSTYPES に対する *OBJOPR および *ADD 権限が必要である。</li> <li>• DROP TYPE には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSTYPES に対する *OBJOPR および *DLT 権限が必要である。</li> <li>• COMMENT ON TYPE には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSTYPES に対する *OBJOPR、*READ、および *UPD 権限が必要である。</li> <li>• CREATE TRIGGER には、物理ファイル・トリガー追加 (ADDPFTRG) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• DROP TRIGGER には、物理ファイル・トリガー除去 (RMVPFTRG) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• COMMENT ON TRIGGER には、QSYS2 のカタログ・テーブル SYSTRIGGERS に対する *OBJOPR、*READ、および *UPD 権限が必要である。</li> <li>• CREATE SEQUENCE には、データ域作成 (CRTDTAARA) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• DROP SEQUENCE には、データ域削除 (DLTDTAARA) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• ALTER SEQUENCE には、データ域検索 (RTVDTAARA) およびデータ域変更 (CRTDTAARA) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• COMMENT ON SEQUENCE には、データ域変更 (CHGDTAARA) コマンドに対する *USE 権限が必要である。</li> <li>• SET SESSION AUTHORIZATION は、ステートメントに関連する許可 ID に *ALLOBJ 特殊権限があることを必要とする。</li> <li>• SET CURRENT DEGREE および QSYS2/RESET_ENVIRONMENTAL_LIMITS プロシージャでは、ステートメントと関連した許可 ID が、*JOBCTL 特殊権限を持っているか、または System i ナビゲーターのアプリケーション管理を通じて QIBM_DB_SQLADM 機能を許可済みでなければなりません。この機能の使用の許可または拒否は、機能使用法変更 (CHGFCNUSG) コマンドを使用して行うこともできます。例えば、CHGFCNUSG FCNID(QIBM_DB_SQLADM) USER(XXXX) USAGE(*ALLOWED) などです。</li> </ul>
回復手順:	機密保護担当者から許可をもらって、操作をやり直してください。
SQLCODE:	+552, -552
SQLSTATE:	01542, 42502

SQL0553	
メッセージ・テキスト:	スキーマ名 &1 は許可されません。
原因:	スキーマ名 &1 は、予約語であるため許可されません。
回復手順:	このスキーマ名を予約語でないものに変更してください。
SQLCODE:	-553
SQLSTATE:	42939

SQL0557	
メッセージ・テキスト:	&2 のテーブルまたはビュー &1 には、特権は正しくない。
原因:	次の理由のいずれかのために、指定した特権は正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• INDEX 特権はテーブルおよび物理ファイルに対しては正しいが、ビューに対しては正しくない。ビューに索引を作成することはできません。</li> <li>• &amp;2 のテーブルまたはビュー &amp;1 には該当する能力がないので、指定した特権は正しくない。たとえば、DELETE、INSERT、および UPDATE 特権は、読み取り専用ビューに対しては正しくありません。</li> </ul>
回復手順:	正しい能力をもつテーブルまたはビューを指定するか、あるいは正しくない特権を SQL ステートメントから除去してください。
SQLCODE:	-557
SQLSTATE:	42852

SQL0567	
メッセージ・テキスト:	権限名 &1 は使用できません。
原因:	権限名は、QSYS、QDFTOWN、または QSPL などのシステム提供のユーザー・プロファイルにすることはできません。
回復手順:	名前を変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-567
SQLSTATE:	42602

SQL0569	
メッセージ・テキスト:	要求した特権のうち、&2 のタイプ *&3 のオブジェクト &1 から取り消されなかったものがある。
原因:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 に対して REVOKE 操作が試みられましたが、要求した特権のすべてが取り消されたわけではありません。オブジェクト &1 に対して指定された特権がないか、オブジェクト &1 に対して *OBJMGT 権限がないか、あるいは現在その特権を有していないユーザーから特権を取り消そうとしました。要求した有効な特権はすべて取り消されました。
回復手順:	現在その特権を有していないユーザーから特権を取り消す場合には、処置は不要です。特権を有していない場合には、有効な特権を指定するように REVOKE ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	+569
SQLSTATE:	01006

SQL0570	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 に対する要求した特権のうち、認可されなかったものがある。
原因:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 に対して GRANT 操作が試みられましたが、要求した特権のすべてが認可されたわけではありません。認可しようとした特権のうち有していないものがあるか、WITH GRANT OPTION を使用して GRANT ステートメントを実行しようとしたがオブジェクト所有者でないか、オブジェクトに対する *ALLOBJ 権限がないか、または *ALLOBJ 特殊権限をもっていません。要求した有効な特権はすべて認可されました。
回復手順:	機密保護担当者またはオブジェクト所有者から必要な権限をもらってください。操作をやり直してください。
SQLCODE:	+570
SQLSTATE:	01007

SQL0573	
メッセージ・テキスト:	&2 のテーブル &1 には対応する親キーがない。
原因:	&4 の制約 &3 に対して FOREIGN KEY 文節に参照列リストが指定されています。&2 の親テーブル &1 には対応する PRIMARY または UNIQUE キーがありません。ファイルが区画化ファイルである場合は、親ファイルのアクセス・パスが非区分アクセス・パスでなければなりません。この制約を追加することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>参照列リストと対応する PRIMARY または UNIQUE キーをもつテーブルを FOREIGN KEY 文節に指定する。</li> <li>親テーブルに定義された PRIMARY または UNIQUE キーの定義と一致するように参照列リストを変更する。</li> <li>親ファイルが区画化ファイルである場合は、非区分アクセス・パスを追加する。</li> </ul>
SQLCODE:	-573
SQLSTATE:	42890

SQL0574	
メッセージ・テキスト:	欄または順序属性が正しくありません。

SQL0574	
原因:	<p>&amp;2 中の &amp;1 の列 &amp;3 の DEFAULT 値または識別属性値が有効でないか、&amp;2 中の順序 &amp;1 の順序属性値が有効でないか、または循環列 &amp;3 に割り当てられた値が有効ではありません。DEFAULT 値の場合、このステートメントに間違っ値が指定されているか、あるいは値がすでに列に定義されていて ALTER TABLE ステートメントに指定されている新規属性と矛盾している可能性があります。値は次の規則に従っていなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DEFAULT 値は列のデータ・タイプと矛盾しないものでなければなりません。浮動小数点定数は浮動小数点または DECFLOAT 列の省略時の値にだけすることができます。DECFLOAT 定数は DECFLOAT 列の省略時の値にだけすることができます。</li> <li>• DEFAULT 値は列に対して長すぎではいけません。</li> <li>• 列が日付、時刻、またはタイム・スタンプとして定義されている場合には、DEFAULT 値はそのタイプの有効なストリング表記でなければなりません。</li> <li>• DEFAULT 値が USER 特殊レジスターの値として定義されている場合には、列を CHAR または VARCHAR として定義し、長さ属性は 18 より大きいか等しくなければなりません。</li> <li>• DEFAULT 値の CCSID は、列の CCSID と矛盾しないものでなければなりません。</li> <li>• ユーザー定義タイプである列の DEFAULT 値は、ソース・タイプにプロモート可能なものであるか、あるいはそのタイプ用の CAST 関数を使ってそのユーザー定義タイプにキャストされているものでなければなりません。</li> <li>• データ・リンクまたは XML カラムあるいは SQL 変数に DEFAULT 値を指定することはできません。</li> </ul> <p>識別列または順序の場合、START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE、MAXVALUE、および RESTART WITH オプションに指定する値は、位取りがゼロでなければなりません。再帰的共通テーブル式循環列名の場合、割り当て値は、長さ 1 の文字ストリングでなければなりません。</p>
回復手順:	値を列または順序に対して有効なものに変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-574
SQLSTATE:	42894

SQL0577	
メッセージ・テキスト:	SQL データの変更は許可されません。

<b>SQL0577</b>	
原因:	<p>次のエラーの 1 つが起っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・アクセス属性として READS SQL DATA または CONTAINS SQL DATA を指定して作成したプロシージャが呼び出されたか、あるいは関数が呼び出されました。READS SQL DATA または CONTAINS SQL DATA を指定した作成されたプロシージャまたは関数、あるいはそのプロシージャまたは関数で呼び出されるプロシージャまたは関数では、データを変更できず、MODIFIES SQL DATA 属性を持つプロシージャまたは関数を呼び出すことはできません。</li> <li>データを変更するステートメントがルーチン本体に含まれていると、READS SQL DATA および CONTAINS SQL DATA は、SQL プロシージャまたは関数の CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION または ALTER FUNCTION ステートメントでは指定できません。</li> <li>データを変更するステートメントが含まれている BEFORE トリガーが活動化されていました。</li> </ul> <p>データを変更するステートメントには、INSERT、UPDATE、DELETE、MERGE、REFRESH TABLE、GRANT、REVOKE、LABEL、COMMENT、およびいずれかの CREATE、DROP または ALTER があります。エラーがプロシージャまたは関数の中で起こった場合には、ルーチン名は &amp;1 であり、特定名は &amp;2 です。</p>
回復手順:	READS SQL DATA または CONTAINS SQL DATA を指定して作成されたプロシージャまたは関数が、SQL データを変更するプロシージャまたは関数を呼び出していないことを確認します。SQL データを変更する関数の作成時には、MODIFIES SQL DATA を指定してください。
SQLCODE:	-577
SQLSTATE:	2F002, 38002, 42985

<b>SQL0578</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の SQL 関数 &1 で RETURN ステートメントが実行されませんでした。
原因:	&2 の SQL 関数 &1 の実行中に、RETURN ステートメントを実行しないで、ルーチン本体の終わりに達しました。
回復手順:	関数ルーチン本体の終わりに RETURN ステートメントを追加してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-578
SQLSTATE:	2F005

<b>SQL0579</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL データの読み取りは許可されません。

<b>SQL0579</b>	
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・アクセス属性として CONTAINS SQL DATA を指定して作成したプロシージャーが呼び出されたか、あるいは関数が呼び出されました。CONTAINS SQL DATA を指定した作成されたプロシージャーまたは関数、あるいはそのプロシージャーまたは関数で呼び出されるプロシージャーまたは関数では、データを読み取ることができず、READS SQL DATA 属性を持つプロシージャーまたは関数を呼び出すことはできません。</li> <li>データを読み取るステートメントがルーチン本体に含まれていると、CONTAINS SQL DATA は、SQL プロシージャーまたは関数の CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION、または ALTER FUNCTION ステートメントでは指定できません。</li> <li>SQL ステートメントが含まれているトリガーが活動化されている。エラーがプロシージャーまたは関数の中で起こった場合には、ルーチン名は &amp;1 であり、特定名は &amp;2 です。</li> </ul>
回復手順:	CONTAINS SQL DATA を指定して作成されたプロシージャーおよび関数が SQL データを読み取るプロシージャーまたは関数を呼び出していないことを確認してください。
SQLCODE:	-579
SQLSTATE:	2F004, 38004, 42985

<b>SQL0580</b>	
メッセージ・テキスト:	CASE 式の少なくとも 1 つの結果は NULL であってはなりません。
原因:	CASE 式のすべての結果について NULL 値、パラメーター・マーカ、または RAISE_ERROR スカラー関数が指定されています。CASE 式の少なくとも 1 つの結果は、NULL、パラメーター・マーカ、または RAISE_ERROR スカラー関数以外の値でなければなりません。
回復手順:	THEN または ELSE キーワードに続く少なくとも 1 つの結果式が NULL、パラメーター・マーカ、または RAISE_ERROR スカラー関数以外の他の値になるように CASE 式を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-580
SQLSTATE:	42625

<b>SQL0581</b>	
メッセージ・テキスト:	CASE 式の結果に互換性がありません。
原因:	CASE 式の結果の値として指定された式に互換性がありません。
回復手順:	CASE 式の結果を互換性のある値に変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-581
SQLSTATE:	42804

<b>SQL0583</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の関数 &1 の使用が正しくない。
原因:	&2 の関数 &1 は、確定的でないものとして定義されているか、または外部アクションを含んでいるため、指定された場所で呼び出すことはできません。確定的でない関数は、GROUP BY 文節にも JOIN 文節にも指定できません。確定的でないか、または外部アクションを含んでいる関数は、OLAP 関数の PARTITION BY 文節または ORDER BY 文節に指定できません。RAISE_ERROR 関数は、GROUP BY または HAVING 文節に指定できません。
回復手順:	関数を取り除いてください。要求をやり直してください。

<b>SQL0583</b>	
SQLCODE:	+583, -583
SQLSTATE:	01685,42845

<b>SQL0584</b>	
メッセージ・テキスト:	NULL またはパラメーター・マーカは、VALUES 内では許可されません。
原因:	VALUES 文節内のどの列にも、データ・タイプがなければなりません。列のすべての行で、NULL、パラメーター・マーカ、または RAISE_ERROR スカラー関数を使用することはできません。
回復手順:	各列ごとに、定義されたタイプの値が少なくとも 1 つあることを確認してください。CAST を指定して、タイプを割り当てることができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-584
SQLSTATE:	42608

<b>SQL0585</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたパスでのスキーマ &1 の使用法が正しくありません。
原因:	<p>誤ったパスが、SET PATH ステートメントまたは SET OPTION SQLPATH ステートメントに指定されていました。次のエラーの 1 つが起っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスの中で &amp;1 が複数回指定されています。</li> <li>*LIBL がパス中に指定されているただ 1 つの値ではありません。</li> <li>スキーマ名が *N である場合には、USER、CURRENT PATH、または SYSTEM PATH のいずれかがパス中に複数回指定されています。</li> </ul>
回復手順:	有効なパスを指定します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-585
SQLSTATE:	42732

<b>SQL0590</b>	
メッセージ・テキスト:	プロシージャまたは関数 &2 に指定された名前 &1 は固有のものではない。
原因:	&1 は、SQL プロシージャまた関数 &2 の中でパラメーター、SQL 変数、条件、またはラベルとして指定されています。この名前は固有のものではありません。
回復手順:	名前が固有のものとなるように変更してください。
SQLCODE:	-590
SQLSTATE:	42734

<b>SQL0593</b>	
メッセージ・テキスト:	行変更タイム・スタンプ列 &1 は、NOT NULL でなければなりません。
原因:	NOT NULL を欄 &1 に指定する必要があります。ROW CHANGE TIMESTAMP 列は、NULL 値をサポートしていません。
回復手順:	ステートメントを変更して、列 &1 に NOT NULL を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-593
SQLSTATE:	42831

SQL0595	
メッセージ・テキスト:	コミット・レベル *&1 は *&2 ロックに拡大された。
原因:	<p>コミット・レベルに *&amp;1 が指定されていますが、*&amp;1 は使用されませんでした。コミットメント・レベル *&amp;1 に対する要求を満たすために、基本テーブルが *&amp;2 でロックされました。ROLLBACK HOLD ステートメントを要求した場合には、カーソルは同じ位置にとどまります。次の理由のいずれかのために、*&amp;1 は使用されませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• GROUP BY 文節、HAVING 文節、または集約関数がステートメントに指定された。</li> <li>• DISTINCT キーワードがステートメントに指定された。</li> <li>• UNION キーワードがステートメントに指定された。</li> <li>• 結合がステートメントに指定されたが、すべてのテーブルが同じジャーナルにジャーナル処理されるわけではない。</li> <li>• DB2 for IBM i はテーブルをロックして、反復可能読み取りコミット・レベルをインプリメントします。</li> </ul>
回復手順:	コミット・レベルの自動調整が必要でない場合には、ステートメントまたは要求したコミット・レベルを変更してください。更新不可共用ロック・レベル (*SHRNUP) が認可されたが、これを受け入れることができない場合には、コミット・レベルに *CHG または *NONE を指定してください。
SQLCODE:	+595
SQLSTATE:	01526

SQL0596	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 の DISCONNECT 時にエラーが起こった。
原因:	リレーショナル・データベース &1 の DISCONNECT 時にエラーが起こりました。ただし、これによってリレーショナル・データベース &1 の正常な切断が妨げられたわけではありません。エラーの説明については、前のメッセージを参照してください。
回復手順:	不要です。
SQLCODE:	+596
SQLSTATE:	01002

SQL0601	
メッセージ・テキスト:	&2 のタイプ *&3 に &1 がすでに存在している。
原因:	<p>&amp;2 に &amp;1 を作成しようとしたか、あるいはテーブル、ビュー、別名、または索引を &amp;1 に名前変更しようとしたが、&amp;1 はすでに存在しています。同一スキーマ内のすべてのテーブル、ビュー、別名、索引、SQL パッケージ、順序、グローバル変数、制約、トリガー、ユーザー定義タイプ、および XSR オブジェクトには固有名が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &amp;1 が一時テーブルである場合には、WITH REPLACE 文節を指定しなければそれを置き換えることはできない。</li> <li>• スキーマ名が *N の場合には、これは CREATE SCHEMA ステートメント。これが CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで、そのタイプが *N の場合には、&amp;1 が制約。</li> </ul>
回復手順:	&1 を存在しない名前に変更するか、あるいは既存のオブジェクトを削除、移動、名前変更してください。これが一時テーブルである場合には、WITH REPLACE 文節を使用してください。SQL パッケージを作成する時には、CRTSQLPKG に REPLACE(*YES) を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-601

<b>SQL0601</b>	
SQLSTATE:	42710

<b>SQL0602</b>	
メッセージ・テキスト:	CREATE INDEX に 120 を超える欄が指定された。
原因:	CREATE INDEX ステートメントで使用できる列数は 120 までです。
回復手順:	列リスト中の列名を最大 120 に減らしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-602
SQLSTATE:	54008

<b>SQL0603</b>	
メッセージ・テキスト:	重複キーのために固有索引を作成することができない。
原因:	&2 に固有索引 &1 を作成しようとしたか、あるいは &2 に固有制約 &1 を追加しようとした。索引の作成に使用される列の 1 つまたは複数の重複した値が、&4 のテーブル &3 の行に含まれているので、この操作を実行することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CREATE INDEX ステートメントから UNIQUE 属性を除去する。</li> <li>• ALTER TABLE ステートメントから UNIQUE 制約を除去する。</li> <li>• すべてのキー値が固有になるように、関連テーブルのデータを変更する。</li> <li>• 重複キーに NULL 値が入っている場合には、CREATE INDEX ステートメントに UNIQUE WHERE NOT NULL を指定する。キー値に NULL 値が入っていても、固有性の制約が適用されません。</li> </ul> どの行に重複するキーの値が入っているかについては、前にリストされているジョブ・ログのメッセージを参照してください。
SQLCODE:	-603
SQLSTATE:	23515

<b>SQL0604</b>	
メッセージ・テキスト:	属性が正しくない。

SQL0604	
原因:	<p>無効なデータ・タイプ、長さ、精度、位取り、または ALLOCATE 属性が次のいずれかに含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CREATE TABLE、ALTER TABLE、または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメント中の列の 1 つか、または INSERT ステートメント内の INCLUDE 列。</li> <li>• DECLARE PROCEDURE、CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、または CREATE TRIGGER ステートメント中のパラメーターまたは SQL 変数の 1 つ。</li> <li>• CAST スカラー関数。</li> <li>• CREATE TYPE ソース・データ・タイプ。</li> <li>• CREATE VARIABLE データ・タイプ。</li> </ul> <p>次の理由のいずれかのために、定義が無効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DECIMAL または NUMERIC データ・タイプが指定されている場合には、精度は 1 から 63 で、位取りは 0 からその精度までとする。</li> <li>• DECFLOAT を指定する場合、精度を省略するか、または 16 か 34 でなければならない。</li> <li>• CHARACTER または BINARY が指定されている場合には、長さは、パラメーターまたは NULL 値可能でない列の場合には 1 から 32766 であるか、あるいは NULL 値可能な列の場合には 1 から 32765 でなければならない。</li> <li>• VARCHAR または VARBINARY が指定されている場合には、長さは、パラメーターまたは NULL 値可能でない列の場合には 1 から 32740 であるか、あるいは NULL 値可能な列の場合には 1 から 32739 でなければならない。</li> <li>• FOR MIXED DATA 文節または混合 CCSID が指定されている場合には、長さを 4 未満にはできない。</li> <li>• GRAPHIC または NCHAR が指定されている場合には、長さは、パラメーターまたは NULL 値可能でない列の場合には 1 から 16383 であるか、あるいは列が NULL 値可能な場合には 1 から 16382 でなければならない。指定される長さは、DBCS 文字の文字数です。</li> <li>• VARGRAPHIC または NVARCHAR が指定されている場合には、長さは、パラメーターまたは NULL 値可能でない列の場合には 1 から 16370 であるか、あるいは列が NULL 値可能な場合には 1 から 16369 でなければならない。指定される長さは、DBCS 文字の文字数です。</li> <li>• BLOB または CLOB が指定されている場合には、長さは、1 から 2G (2048 M、2,097,152 K、または 2,147,483,647 バイト) でなければならない。DBCLOB または NCLOB が指定されている場合には、長さは 1 から 1073741823 でなければならない。</li> <li>• DATALINK が指定されている場合には、長さは 1 から 32717 でなければならない。</li> <li>• VARCHAR、VARGRAPHIC、NVARCHAR、VARBINARY、CLOB、BLOB、DBCLOB、NCLOB、または DATALINK が指定されている場合には、ALLOCATE 属性は、指定されている長さ属性以下と 32766 以下でなければならない。</li> <li>• DATALINK および配列をグローバル変数のタイプとして指定することはできません。</li> <li>• CREATE TYPE に ARRAY [0] を指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	列の長さ、精度、位取り、または ALLOCATE 属性を訂正してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-604
SQLSTATE:	42611

<b>SQL0607</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のシステム・テーブル &1 に対する操作は許されません。
原因:	&2 のテーブルまたはビュー &1 はカタログまたはシステム・テーブルです。ユーザーがカタログ、システム・テーブルおよびシステム・トリガーを変更またはロックできません。
回復手順:	システム・テーブルでないテーブルを参照するように、SQL ステートメントを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-607
SQLSTATE:	42832

<b>SQL0612</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 は重複した欄の名前である。
原因:	次のエラーの 1 つが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>CREATE TABLE または CREATE VIEW ステートメントに列 &amp;1 が複数回指定されている。列名およびシステム列名はテーブルまたはビューの中で固有でなければなりません。</li> <li>ALTER TABLE ステートメントの ADD 文節の中に列 &amp;1 が指定されている。列 &amp;1 はすでにテーブルの中に存在しています。</li> <li>列 &amp;1 が ALTER TABLE ステートメントの ALTER、DROP、または ADD 文節の中に複数回指定されている。</li> <li>共通テーブル式の列リストの中か、テーブルまたは派生テーブルの関連文節の中に、列 &amp;1 が複数回指定されている。</li> <li>列 &amp;1 が UPDATE トリガーの列リストの中に複数回指定されている。</li> <li>列 &amp;1 が CREATE FUNCTION ステートメントの RETURNS TABLE 文節の中に複数回指定されている。ユーザー定義テーブル関数の戻り列名は固有でなければなりません。</li> <li>列 &amp;1 が再帰的共通テーブル式の CYCLE 列リストの中に複数回指定されている。</li> </ul>
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各列に固有の名前を指定する。</li> <li>1 つの ALTER TABLE ステートメントの中の 1 つの文節を除いてその他のすべての文節から列を除去する。必要な場合には、複数のステートメントを指定することができます。</li> </ul>
SQLCODE:	-612
SQLSTATE:	42711

<b>SQL0613</b>	
メッセージ・テキスト:	キーが長すぎるか、その欄が多すぎます。
原因:	次のいずれかが起っています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&amp;2 中の制約 &amp;1 の PRIMARY または UNIQUE キーを作成することができません。</li> <li>テーブルのパーティション・キーが長すぎます。</li> </ul> <p>キーに 120 個を超える列が指定されているか、あるいはキーに指定された列の長さの合計が最大値の 32768 バイトを超えています。NULL 値可能列がリストに入っている場合には、各 NULL 値可能列ごとにその長さとしてさらに 1 バイトが必要になります。可変長列がリストに入っている場合には、各可変長列ごとに 2 バイトの長さが合計長に含まれます。キーの長さは、ICU (UNICODE) テーブルが使用されている場合、長すぎる場合があります。キーの内部拡張は、変換のためユーザー指定キー長の 6 倍までできます。詳細については、前のメッセージを参照してください。</p>

<b>SQL0613</b>	
回復手順:	キーから一部の列を取り除くか、キーの合計長が最大長を超えないように列の長さ属性を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-613
SQLSTATE:	54008

<b>SQL0614</b>	
メッセージ・テキスト:	CREATE INDEX の欄の長さが長すぎる。
原因:	CREATE INDEX に指定された列の長さの合計が最大の 32768 バイトを超えています。リストに NULL 値可能列が入っている場合には、各 NULL 値可能列に追加のバイトが必要です。索引に可変長列が入っている場合には、列の 2 バイトの長さが合計長に含まれます。キーの長さは、ICU (UNICODE) テーブルが使用されている場合、長すぎる場合があります。キーの内部拡張は、変換のためユーザー指定キー長の 6 倍までできます。詳細については、前のメッセージを参照してください。
回復手順:	列の一部を CREATE INDEX 列リストから削除することによって長さを減らしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-614
SQLSTATE:	54008

<b>SQL0615</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 タイプ &3 が除去されなかった。現在使用中です。
原因:	&2 のオブジェクト &1 タイプ &3 は、すでに同じアプリケーション処理で使用されているため、除去されませんでした。オブジェクトがテーブルの場合には、オープン・カーソルが使用している可能性があります。オブジェクトが SQL パッケージの場合には、そのパッケージが現在実行中である場合があります。
回復手順:	このオブジェクトがテーブルの場合には、カーソルをクローズしなければなりません。このオブジェクトが SQL パッケージの場合には、SQL パッケージはそれ自身を除去することはできません。除去要求をやり直してください。
SQLCODE:	-615
SQLSTATE:	55006

<b>SQL0616</b>	
メッセージ・テキスト:	RESTRICT を使用して &2 タイプ &3 の &1 を除去することはできない。
原因:	RESTRICT オプションを使用して &2 の &1 を除去しようとしていました。ビュー、制約、トリガー、マテリアライズ照会表、または索引が &1 に依存しているため、これを除去することはできません。
回復手順:	&1 およびこれに依存しているビュー、制約、トリガー、マテリアライズ照会表、および索引を除去するには、ALTER TABLE ステートメントに CASCADE を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-616
SQLSTATE:	42893

<b>SQL0624</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のテーブル &1 にはすでに基本キーがある。

SQL0624	
原因:	&2 のテーブル &1 に主キーすなわち固有キーを追加しようとした。このテーブルにはすでに主キーが定義されているか、あるいはこのテーブルは、追加しようとするキーと一致しないアクセス・パスをもっています。テーブルは主キーを 1 つしかもつことができません。この制約を追加することはできません。
回復手順:	テーブルに現在定義されている主キーを除去するか、あるいは UNIQUE 制限として制約を追加してください。テーブルのアクセス・パスが一致しない場合には、制約の中の列数とアクセス・パスの中の列数が一致するようにしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-624
SQLSTATE:	42889

SQL0628	
メッセージ・テキスト:	同じ定義では文節が正しくない。
原因:	<p>カラム、ソース関数、トリガー、または索引の属性を定義するために指定されている文節が無効です。次のいずれかが起こっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文節 FOR BIT DATA、FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または CCSID のうち 2 つ以上が列定義に指定されていました。</li> <li>• READ PERMISSION FS および WRITE PERMISSION BLOCKED がデータ・リンク列に指定されていました。</li> <li>• READ PERMISSION DB および WRITE PERMISSION FS がデータ・リンク列に指定されていました。</li> <li>• WRITE PERMISSION FS および ON UNLINK 文節がデータ・リンク列に指定されていました。</li> <li>• INCLUDING または EXCLUDING COLUMN DEFAULTS および USING TYPE DEFAULTS がテーブルに指定されていました。</li> <li>• ソース関数の作成時に無効な文節が指定されていました。</li> <li>• RETURNS 文節が ALTER FUNCTION に指定されましたが、ALTER には REPLACE が指定されていません。</li> <li>• FOR EACH STATEMENT が BEFORE または INSTEAD OF トリガーに指定されていたか、MODE DB2ROW で指定されています。</li> <li>• MODE DB2SQL が BEFORE の場合に指定されていて、トリガー・テーブルへの参照がトリガーに含まれています。</li> <li>• WHEN 文節または UPDATE 列リストが INSTEAD OF トリガーに指定されている。</li> <li>• OLD ROW または NEW ROW および日付または時刻オプション用に SET OPTION をもつ相関名が指定されていました。</li> <li>• CREATE INDEX の場合は、INCLUDE 文節が指定されていると、RCDFMT 文節を指定することはできません。INCLUDE 文節には ENCODED VECTOR 文節が必要です。</li> <li>• SET OPTION DBGVIEW に指定したオプションが、DEBUG MODE に指定した値との整合性がない。</li> <li>• ルーチン・オプション CONCURRENT ACCESS RESOLUTION が指定されている場合は、SET OPTION CONACC を指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	定義が有効となるように文節を変更または除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-628
SQLSTATE:	42613

<b>SQL0629</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の参照制約 &1 に対して SET NULL を指定することはできない。
原因:	参照制約 &1 に対して REFERENCES 文節で SET NULL が指定されています。外部キー中の列に NULL 値を指定することはできません。
回復手順:	外部キー中の列の少なくとも 1 つに NULL 値を指定できるようにテーブルを作成するか、あるいは別の省略時処置を ON DELETE 文節で指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-629
SQLSTATE:	42834

<b>SQL0631</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の制約 &1 に対する外部キーが長すぎる。
原因:	&2 の制約 &1 に対して FOREIGN キーを作成することができません。FOREIGN KEY 文節に 120 個を超える列が指定されているか、あるいはこのキーに指定された列の長さの合計が最大値の 32768 バイトを超えています。NULL 値可能列がリストに入っている場合には、各 NULL 値可能列ごとにその長さとしてさらに 1 バイトが必要になります。可変長列がリストに入っている場合には、各可変長列ごとに 2 バイトの長さが合計長に含まれます。
回復手順:	FOREIGN KEY 文節から列のいくつかを除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-631
SQLSTATE:	54008

<b>SQL0636</b>	
メッセージ・テキスト:	区画 &1 に指定された範囲が正しくありません。
原因:	次のいずれかの理由でパーティション・キーに指定された範囲は有効ではありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パーティションが正しい順序で指定されていません。</li> <li>パーティションの ENDING 値が STARTING 値より小さくなっています。</li> <li>EVERY 文節に指定された値が範囲に有効ではありません。</li> <li>MINVALUE または MAXVALUE が開始または終了値に指定され、ステートメントに EVERY 文節が含まれていた。</li> <li>パーティション・キーがオーバーラップしています。</li> <li>MINVALUE または MAXVALUE がパーティション・キー境界の開始または終了値に指定され、その範囲の後続のキー値が同じ値ではない。</li> </ul>
回復手順:	STARTING、ENDING、または EVERY 文節に有効な範囲を指定して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-636
SQLSTATE:	56016

<b>SQL0637</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 で始まるキーワードまたは文節が無効です。

SQL0637	
原因:	<p>キーワードまたは文節 &amp;1 は次の理由のいずれかのために正しくありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DEFAULT、HIDDEN、ROW CHANGE TIMESTAMP、FIELDPROC、UNIQUE、PRIMARY、各データ・リンク・オプション、そして各識別オプションを指定できるのは、CREATE TABLE ステートメント中の列定義で一度だけである。</li> <li>• 同じ列定義で UNIQUE と PRIMARY の両方を指定することはできない。</li> <li>• PRIMARY は CREATE TABLE ステートメントに 1 回だけ指定することができる。</li> <li>• IDENTITY COLUMN ATTRIBUTES、COLUMN DEFAULTS、USING TYPE DEFAULTS、HIDDEN COLUMN ATTRIBUTES、および ROW CHANGE TIMESTAMP COLUMN ATTRIBUTES のいずれのオプションも、指定できるのは 1 回のみである。</li> <li>• ALTER TABLE ALTER COLUMN の場合には、各 SET または DROP オプションを指定できるのは、列につき一度だけである。</li> <li>• XML 関数の各オプションを指定できるのは 1 回だけである。</li> <li>• FOR READ ONLY、FOR UPDATE、OPTIMIZE、分離レベル、および SKIP LOCKED DATA のどの文節も、指定できるのは 1 回のみである。</li> <li>• PREPARE ステートメントの属性ストリングは、オプションを 1 回しか指定できず、矛盾するオプションを含むことはできません。</li> </ul>
回復手順:	各キーワードまたは文節ごとに 1 つを除くすべての指定を除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-637
SQLSTATE:	42614

SQL0642	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 に対する制約の最大数を超えている。
原因:	&2 のテーブル &1 はすでに 5000 個の制約と関連づけられているので、このテーブルに制約を追加することはできません。この限界数には、テーブルに定義されているすべての制約とテーブルが親として定義されているすべての参照制約が含まれます。
回復手順:	可能なら、すでに関連づけられている 5000 個の制約のうちの 1 つを消去して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-642
SQLSTATE:	54021

SQL0644	
メッセージ・テキスト:	ATTRIBUTES 値 &1 が正しくありません。
原因:	PREPARE ステートメントに指定された ATTRIBUTES ストリングに &1 が含まれていますが、これは正しくありません。準備中の SQL ステートメントのタイプのタイプは &2 です。
回復手順:	無効な属性を除去または訂正して、やり直してください。
SQLCODE:	-644
SQLSTATE:	42615

SQL0645	
メッセージ・テキスト:	&2 の索引 &1 の場合には、WHERE NOT NULL 文節は無視される。

SQL0645	
原因:	&2 の索引 &1 の作成時に UNIQUE WHERE NOT NULL が指定されましたが、この索引の列はどれも NULL 値可能ではありません。この索引は固有索引として作成されます。
回復手順:	CREATE INDEX ステートメントから WHERE NOT NULL 文節を除去してください。
SQLCODE:	+645
SQLSTATE:	01528

SQL0658	
メッセージ・テキスト:	関数 &2 の &1 が除去できません。
原因:	スキーマ &2 の関数 &1 は、CREATE DISTINCT TYPE ステートメントによって暗黙に生成されたものなので、除去できません。
回復手順:	この関数を除去するためには、この関数が関連付けられている特殊タイプを除去する必要があります。
SQLCODE:	-658
SQLSTATE:	42917

SQL0662	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 のパーティション化索引を作成できません。
原因:	PARTITIONED または NOT PARTITIONED が CREATE INDEX ステートメントで指定されましたが、スキーマ &2 の中のテーブル &1 はパーティション・テーブルではありません。
回復手順:	PARTITIONED 文節をステートメントから除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-662
SQLSTATE:	53037

SQL0663	
メッセージ・テキスト:	区分化値の数が正しくありません。
原因:	パーティション &1 の STARTING または ENDING 文節に間違った数の値が指定されました。指定する値の数は、パーティション・キーのキー列数と一致しなければなりません。EVERY 文節を使用する場合には、パーティション・キーには 1 つの列しか指定できません。
回復手順:	指定されたキー限界の数をパーティション・キー列数と一致するように変更するか、パーティション・キー中の列数を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-663
SQLSTATE:	53038

SQL0665	
メッセージ・テキスト:	区画名または区画番号 &1 は正しくありません。
原因:	DROP PARTITION 文節にパーティション名またはパーティション番号 &1 が指定されましたが、テーブル中のパーティションを参照していません。指定するパーティション名またはパーティション番号は、テーブルの既存のパーティションを識別するものでなければなりません。
回復手順:	既存のパーティションのパーティション名またはパーティション番号を指定して、要求をやり直してください。

<b>SQL0665</b>	
SQLCODE:	-665
SQLSTATE:	53039

<b>SQL0666</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL QUERY が指定された時間制限または記憶制限を超えています。
原因:	見積実行時間 &1 が指定限度 &2 を超えるか、または見積一時ストレージ使用 &3 が指定限度 &4 を超える、データベース照会を開始しようとした。照会の制限時間および一時ストレージ限度は、CHGQRYA CL コマンドに指定されます。
回復手順:	<p>QUERY に対して次の変更を行うことにより、見積経過時間を短縮または一時ストレージ使用の見積量を少なくできる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらに制約レコード選択指定を追加することによって戻されるレコードの数が少なくなるように QUERY を変更する。</li> <li>既存のキー順アクセス・パスを使用してより高速にレコードを処理できるように QUERY のレコード選択を変更する。</li> <li>SQL CREATE INDEX ステートメントを使用して QUERY のレコード選択と一致するキーをもつアクセス・パスを作成する。</li> <li>一時アクセス・パスの作成もソートの実行も不要になるように順序づけ指定を変更する。</li> <li>グループ化フィールド指定を、既存のキー順アクセス・パスの左端のキー・フィールドと一致するように変更する。これによって既存のアクセス・パスが使用できるようになります。</li> <li>OPTIMIZE FOR NN ROWS 文節を指定する。ここで、NN は QUERY が終了される前に検索する予定である実際のレコード数を表します。この文節により、QUERY 最適化プログラムは、見積値を減らすために QUERY が最後まで連続的には実行されないと見なすこととなります。</li> <li>結果を画面上に出力するように QUERY の出力タイプを変更する。</li> <li>CHGQRYA CL コマンドの QRYTIMLMT パラメーターによって QUERY 時間制限に新しい値を指定する。</li> <li>CHGQRYA CL コマンドの QRYSTGLMT パラメーターによって QUERY 一時ストレージ制限に新しい値を指定する。</li> <li>パフォーマンス情報および提案について、ジョブ・ログに入っている QUERY デバッグ・メッセージを調べる。これらのメッセージはジョブ・ログのこのメッセージの前にあり、追加の情報および提案を提供します。</li> </ul>
SQLCODE:	-666
SQLSTATE:	57005

<b>SQL0667</b>	
メッセージ・テキスト:	FOREIGN キーの値が &2 の制約 &1 の親キーの値と一致しない。
原因:	従属テーブルの FOREIGN キーのすべての値は、一致する値が親テーブルの親キーになければなりません。&2 の制約 &1 には、一致する値が親テーブルにない既存の値が &4 のテーブル &3 の FOREIGN キーにあります。この制約を追加することはできません。
回復手順:	FOREIGN キーのすべての値が一致する値を親キーにもつように従属テーブルまたは親テーブルの行を更新するか、あるいは参照制約中のキーの定義を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-667

<b>SQL0667</b>	
SQLSTATE:	23520

<b>SQL0675</b>	
メッセージ・テキスト:	指定した削除規則は &2 のテーブル &1 上のトリガーでは使用できません。
原因:	&2 のテーブル &1 で &4 の参照制約 &3 に指定されている削除規則は、指定したトリガーには使用できません。制約規則 DELETE CASCADE はカスケード・トリガーでは使用できません。制約規則 DELETE SET NULL および DELETE SET DEFAULT は更新トリガーでは使用できません。
回復手順:	RMVPFTRG コマンドを使用してトリガーを除去するか、RMVPCST コマンドを使用して制約を除去するか、有効な削除規則を指定して制約を定義するか、あるいは別のイベントを指定してトリガーを定義するかのいずれかにしてください。
SQLCODE:	-675
SQLSTATE:	42892

<b>SQL0678</b>	
メッセージ・テキスト:	リテラル &1 のデータ・タイプが欄 &3 と互換性がありません。
原因:	指定したリテラルは互換性がありません。リテラル &1 が STARTING、ENDING、または EVERY 文節に指定された場合、列 &3 と互換性がありません。列 &3 のデータ・タイプは &2 です。数値との比較にリテラルを指定した場合、そのリテラルは有効な数値ではありません。
回復手順:	有効なリテラルを指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-678
SQLSTATE:	53045

<b>SQL0679</b>	
メッセージ・テキスト:	操作が保留されているために、&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 は作成されなかった。
原因:	<p>オブジェクト &amp;1 にはコミットメント制御下の未処理の DROP または CREATE があり、それによって作成が妨げられています。これは次のいずれかの方法で起こった可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアプリケーション処理が、コミットされていない DROP をコミットメント制御下で実行し、現在、コミットメント制御レベル *NONE を使用して同じオブジェクトを作成しようとしている。</li> <li>別のアプリケーション処理が、コミットされていない DROP をコミットメント制御下で実行した。</li> <li>このアプリケーション処理が、別のコミット定義を使用して DROP をコミットメント制御下で実行して、DROP がコミットされていない。</li> <li>このアプリケーション処理が、コミットされていない CREATE をコミットメント制御下で実行し、現在、コミットメント制御レベル *NONE のもとで後続の CREATE でオブジェクトを使用しようとしている。</li> </ul>

<b>SQL0679</b>	
回復手順:	<p>次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これがコミットされていない DROP または CREATE ステートメントを出したアプリケーション処理であった場合には、オブジェクトの作成を試みる前に COMMIT を出すか、あるいは *NONE 以外のコミットメント制御レベルを使用してプログラムから CREATE ステートメントを出してください。</li> <li>• DROP を出したアプリケーション処理がユーザーのアプリケーション処理でない場合には、そのアプリケーション処理が DROP ステートメントのコミットまたは ROLLBACK を実行しなければなりません。</li> <li>• このアプリケーション処理がコミットされていない DROP、または別のコミット定義の下で CREATE ステートメントを出した場合には、コミット定義で COMMIT または ROLLBACK を出してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-679
SQLSTATE:	57006

<b>SQL0680</b>	
メッセージ・テキスト:	指定された欄が多すぎます。
原因:	ユーザー定義テーブル関数の定義に指定された列が多すぎます。入力パラメーター列と戻り列の結合として指定できる列は最大 125 です。この最大は、SCRATCHPAD と DBINFO の両方の構造が要求されると 1 ずつ減じられます。
回復手順:	ユーザー定義テーブル関数について指定したパラメーターまたは戻り列数を減らしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-680
SQLSTATE:	54011

<b>SQL0681</b>	
メッセージ・テキスト:	カラム &1 のフィールド・プロシージャが SQLSTATE &5 を戻しました。
原因:	カラム &1 のフィールド・プロシージャが SQLSTATE &5 を戻しました。関連メッセージ・テキストは &4 です。
回復手順:	有効な SQLSTATE を戻すようにフィールド・プロシージャを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-681
SQLSTATE:	23507

<b>SQL0682</b>	
メッセージ・テキスト:	フィールド・プロシージャのプログラム名 &1 は使用できません。

SQL0682	
原因:	<p>フィールド・プロシージャに指定された &amp;2 内のプログラム名 &amp;1 が見つからないか、またはこのプログラムを使用する十分な権限がありません。理由コードは &amp;3 です。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- フィールド・プロシージャが見つかりません。</li> <li>• 2 -- このプログラムを使用する十分な権限がありません。このプログラムおよびこのプログラムを含むライブラリーに対して *EXECUTE 権限が必要です。</li> <li>• 3 -- プログラム名が ILE プログラムを指定していません。プログラム名は OPM プログラム、サービス・プログラム、または Java プロシージャを参照できません。プログラム名が外部プログラム名のストリング形式で指定されている場合は、「ライブラリー名/プログラム名」の形式になっていなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	<p>プログラム名の指定が正しく、かつその名前前の ILE プログラムが存在するようにしてください。プログラムが存在する場合は、プログラムおよびライブラリーを使用するために必要な権限を取得してください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-682
SQLSTATE:	57010

SQL0683	
メッセージ・テキスト:	文節が指定のタイプには無効です。
原因:	<p>次のいずれかが起こっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• FOR BIT DATA、FOR MIXED DATA、FOR SBCS DATA、または CCSID 文節が CAST スカラー関数、CREATE DISTINCT TYPE ソース・データ・タイプ、あるいは列またはパラメーター &amp;1 に指定されました。これらの文節は、そのタイプが数値、日付、時刻、タイム・スタンプ、バイナリー、NCHAR、またはユーザー定義タイプの場合には有効ではありません。FOR BIT DATA、FOR MIXED DATA、または FOR SBCS DATA 文節は、そのタイプがグラフィック、XML またはデータ・リンクの場合には有効ではありません。</li> <li>• LINKTYPE オプションがデータ・リンクでない列に指定されました。</li> <li>• ROW CHANGE TIMESTAMP が指定されましたが、データ・タイプはタイム・スタンプではありません。</li> <li>• データ・タイプが ROWID または DATALINK であるカラム、あるいは行変更タイム・スタンプ・カラムまたは識別カラムとして定義されているカラムの場合は、FIELDPROC を指定できません。</li> <li>• SQL ルーチン内の XML 変数の場合は、CCSID を指定できません。</li> </ul>
回復手順:	正しくない文節を変更または取り除きます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-683
SQLSTATE:	42842

SQL0684	
メッセージ・テキスト:	FIELDPROC の定数のリストが長すぎます。
原因:	&1 で始まっている FIELDPROC の定数のリストが 2000 バイトを超えています。
回復手順:	より短い値を使用するか値の数を減らすかして、リストを短くしてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-684
SQLSTATE:	54012

SQL0685	
メッセージ・テキスト:	カラム &1 のフィールド・プロシージャが無効なデータを戻しました。
原因:	カラム &1 のフィールド・プロシージャが無効なデータを戻しました。
回復手順:	有効なデータを戻すようにフィールド・プロシージャを変更してください。
SQLCODE:	-685
SQLSTATE:	58002

SQL0696	
メッセージ・テキスト:	相互関連名またはテーブル &3 が無効です。
原因:	<p>相関名またはテーブル &amp;3 が &amp;2 のトリガー &amp;1 には無効です。理由コードは &amp;4 です。理由コードが示すエラーは次の 1 つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - NEW 相関名または NEW_TABLE &amp;3 が DELETE トリガー中に指定された。</li> <li>• 2 - OLD 相関名または OLD_TABLE &amp;3 が INSERT トリガー中に指定された。</li> <li>• 3 - OLD_TABLE または NEW_TABLE が BEFORE トリガー中に指定されていたか、DB2ROW で指定されていた。</li> </ul>
回復手順:	ステートメントが有効になるように、参照文節またはトリガーのタイプを変更します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-696
SQLSTATE:	42898

SQL0697	
メッセージ・テキスト:	REFERENCING OLD または NEW がステートメント・トリガーには無効です。
原因:	REFERENCING OLD または NEW が SQL トリガーに指定されていました。旧および新規相関変数がステートメント・トリガーには無効です。
回復手順:	REFERENCING 文節を除去するか、FOR EACH ROW を CREATE TRIGGER ステートメントで指定します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-697
SQLSTATE:	42899

SQL0707	
メッセージ・テキスト:	&2 では名前 &1 は使用できません。
原因:	<p>名前 &amp;1 は、以下のいずれかの理由で許可されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &amp;2 内の特殊タイプ、配列タイプ、順序、またはグローバル変数 &amp;1 は、作成することも除去することもできません。名前が予約語であるか、またはスキーマが QSYS、QSYS2、SYSIBM または QTEMP として指定されているかのいずれかです。特殊タイプ、配列タイプ、順序、およびグローバル変数を QSYS、QSYS2、SYSIBM、SYSPROC、または QTEMP に作成することはできません。</li> <li>• SAVEPOINT &amp;1 は、SYS で始まる名前にはできません。</li> </ul>
回復手順:	名前を予約語でないものに変更するか、あるいはユーザー定義データ・タイプ、順序またはグローバル変数を QSYS、QSYS2、SYSIBM、SYSPROC、または QTEMP 以外のスキーマ中に作成してください。
SQLCODE:	-707
SQLSTATE:	42939

<b>SQL0713</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の値が正しくありません。
原因:	<p>SET &amp;2 ステートメントに指定された値が正しくありません。 NULL 値を &amp;2 特殊レジスターを設定するために使用することはできません。 &amp;2 の設定は、文字または UCS-2 または UTF-16 グラフィック・ストリングを使ってしか行えません。</p> <p>SET ENCRYPTION PASSWORD WITH HINT の場合には、ヒント値は 32 文字を超えることはできません。</p> <p>SET SCHEMA の場合には、スキーマ名内のすべての文字が大文字でなければならないか、スキーマ名を区切り文字で区切らなければなりません。</p> <p>SET CURRENT DEGREE の場合、値は 5 文字を超えることはできません。</p> <p>SET SESSION AUTHORIZATION の場合、権限名は 10 文字を超えることはできません。ストリング・リテラルとしてまたはホスト変数を使用して指定された権限名には、特殊レジスター・ストリング USER、SYSTEM_USER、および SESSION_USER を含めることはできません。さらに、小文字と特殊文字も使用できません。</p> <p>SET CURRENT DECFLOAT ROUNDING MODE の場合、値中で小文字を使用してはならず、サポートされている丸めモードのうちの 1 つを指定する必要があります。</p> <p>SET CURRENT IMPLICIT XMLPARSE OPTION の場合、値はサポートされている空白オプションのいずれかを識別するものでなければなりません。</p>
回復手順:	特殊レジスターに有効な値を指定してください。そこに NULL 値は含まれていないことを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-713
SQLSTATE:	42815

<b>SQL0723</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の SQL トリガー &1 が SQLCODE &3 SQLSTATE &4 で失敗しました。
原因:	スキーマ &2 中のトリガー &1 のトリガーされた SQL ステートメントでエラーが起きました。 SQLCODE は &3、SQLSTATE は &4、さらにメッセージは &5 です。
回復手順:	検出されたエラーの詳細については、ジョブ・ログを参照してください。エラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-723
SQLSTATE:	09000

<b>SQL0724</b>	
メッセージ・テキスト:	カスケードされたトリガー・プログラムが多すぎる。
原因:	カスケード・トリガーの最大数 200 を超えました。
回復手順:	同じテーブルでトリガー・プログラムが繰り返し呼び出される原因となっているトリガーを取り除いてください。
SQLCODE:	-724
SQLSTATE:	54038

<b>SQL0727</b>	
メッセージ・テキスト:	&6 内のグローバル変数 &5 の評価に失敗しました。
原因:	&6 内のグローバル変数 &5 の DEFAULT 文節を評価している時、エラーが発生しました。この障害に関連付けられている SQLCODE は &2 です。SQLSTATE は &3 です。メッセージ・トークンは &4 です。この障害は、DB2 for IBM i 以外のシステムで暗黙のシステム処置 &1 の最中にエラーが発生したことも示している場合があります。
回復手順:	検出されたエラーの詳細については、ジョブ・ログまたはプロダクト資料を参照してください。エラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-727
SQLSTATE:	56098

<b>SQL0751</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメント &1 が使用できません。
原因:	<p>ステートメント &amp;1 は、ストアード・プロシージャ、ユーザー定義関数、またはトリガーの中では使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トリガー・プログラム内で使用できないステートメントは、CONNECT、SET CONNECTION、RELEASE、DISCONNECT、および SET RESULT SETS です。</li> <li>トリガー・プログラムでは RUNSQLSTM を使用することはできません。</li> <li>トリガー・プログラムが同一の活動化グループでトリガー・プログラムとして実行中の場合には、トリガー・プログラムで COMMIT および ROLLBACK を使用することはできません。COMMIT および ROLLBACK は SQL トリガーの中では使用できません。</li> <li>コミットメント制御が活動状態にある時には、トリガー・プログラムで ALTER TABLE を使用することはできません。</li> <li>プロシージャが COMMIT ON RETURN YES と定義されているか、あるいは分散作業単位用である場合、COMMIT および ROLLBACK は許可されません。</li> <li>SQL BEFORE トリガーで許可されていないステートメントは、INSERT、UPDATE、DELETE、MERGE、ALTER、COMMENT ON、CREATE、DROP、GRANT、LABEL ON、RENAME、REVOKE、REFRESH TABLE と、データ変更参照が付帯したすべての副選択です。</li> <li>RETURN ステートメントは SQL トリガーの中では使用できません。</li> </ul>
回復手順:	ステートメント &1 をトリガー・プログラム、ユーザー定義関数、またはストアード・プロシージャから除去します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-751
SQLSTATE:	0W000, 2F003, 38003, 42985, 42987

<b>SQL0752</b>	
メッセージ・テキスト:	接続は変更できません。理由コードは &1 です。

SQL0752	
原因:	<p>アプリケーションの処理が接続可能状態でないので、接続を行うことができません。理由コードは &amp;1 です。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- SQL が接続可能な状態にない。SQL は、COMMIT または ROLLBACK の後で接続可能状態になります。COMMIT、ROLLBACK、または CONNECT 以外の SQL ステートメントが実行される時に、SQL は接続可能状態を終了します。</li> <li>• 2 -- 現行サーバーでコミットメント制御による保留中の変更またはオープンされているファイルがある。CONNECT 要求に指定されたりレシーショナル・データベース (RDB) が現行サーバーではありません。</li> <li>• 3 -- コミット境界でない時に SQL パッケージ作成要求が処理されている。</li> <li>• 4 -- 接続が対話式 SQL の別の呼び出しによってロックされているか、あるいは対話式 SQL 製品と IBM i の間にレベルの不一致がある。</li> <li>• 5 -- リモート接続およびジョブ・レベル・コミットメント定義での制約事項により、接続を変更することができない。</li> <li>• 6 -- SET TRANSACTION ステートメントが原因で、接続をリモート・システムに変更することができない。</li> <li>• 7 -- 前の接続が保護されているので、*RUW 接続管理を使用して接続を変更することはできない。</li> <li>• 8 -- スレッドの補助記憶域プール (ASP) グループのための RDB が &amp;3 であるので、CONNECT RESET では RDB&amp;2 へのローカル接続を開始することができない。</li> <li>• 9 -- 活動状態の接続とスレッドの現行 ASP グループの間に不一致がある。</li> </ul>
回復手順:	<p>理由コードを基にして次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- COMMIT または ROLLBACK ステートメントを出して、接続可能な状態にする。</li> <li>• 2 -- コミットメント制御によりオープンされているすべてのファイルをクローズして、COMMIT または ROLLBACK ステートメントを出す。</li> <li>• 3 -- COMMIT または ROLLBACK ステートメントを出す。</li> <li>• 4 -- 対話式 SQL を終了して、要求をやり直す。対話式 SQL が活動中の場合には、対話式 SQL を使用して現行サーバーしか変更することはできません。</li> <li>• 5 -- ジョブ・レベル・コミットメント定義に関連したすべての活動化グループはローカルとする。あるいはローカル接続でなく、1 つのリモート接続だけにはジョブ・レベル・コミットメント定義を関連付けることができます。</li> <li>• 6 -- COMMIT または ROLLBACK ステートメントを出す。</li> <li>• 7 -- COMMIT の後に保護されている会話を解放する。</li> <li>• 8 -- スレッドの ASP グループを、リレーショナル・データベース &amp;2 用の ASP グループに変更する。</li> <li>• 9 -- スレッドの ASP グループを、リレーショナル・データベース &amp;2 用の ASP グループに変更するか、あるいは CONNECT または SET CONNECTION ステートメントを使用して、活動状態の接続を変更する。</li> </ul>
SQLCODE:	-752
SQLSTATE:	0A001

SQL0771	
メッセージ・テキスト:	ROWID の使用は正しくない。

<b>SQL0771</b>	
原因:	以下のいずれかの理由により、ROWID は無効です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ROWID 列をもつテーブルは QTEMP には作成できません。</li> <li>• CREATE VARIABLE ステートメントでは ROWID をタイプとして指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	ROWID 列またはタイプを除去するか、あるいは QTEMP 以外のスキーマ中にテーブルを作成してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-771
SQLSTATE:	428C7

<b>SQL0773</b>	
メッセージ・テキスト:	CASE ステートメントにケースが見つかりません。
原因:	SQL プロシージャのルーチン本体に ELSE 文節のない CASE ステートメントが指定されています。CASE ステートメントに指定された条件で満たされるものはありませんでした。
回復手順:	起こり得るすべての条件を処理するように CASE ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	-773
SQLSTATE:	20000

<b>SQL0774</b>	
メッセージ・テキスト:	複合 SQL ステートメントの中でステートメントを実行することはできません。
原因:	
回復手順:	
SQLCODE:	-774
SQLSTATE:	2D522

<b>SQL0775</b>	
メッセージ・テキスト:	指定された SQL ルーチンではステートメントは使用できません。
原因:	SQL プロシージャまたは関数のルーチン本体に指定されたステートメントは許可されません。制約のリストは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• COMMIT または ROLLBACK ステートメントを SQL プロシージャの ATOMIC 複合ステートメントに指定することはできません。</li> <li>• ATOMIC 複合ステートメントを SQL 関数に指定することはできません。</li> <li>• COMMIT、ROLLBACK、CONNECT、DISCONNECT、SET CONNECTION、SET RESULT SETS、および SET TRANSACTION ステートメントを SQL 関数に指定することはできません。</li> <li>• プロシージャに RESULT SET が指定されていない場合には、SET RESULT SETS ステートメントを SQL ルーチン本体に指定することはできません。</li> </ul>
回復手順:	SQL 関数またはプロシージャからステートメントを除去してください。
SQLCODE:	-775
SQLSTATE:	42910

<b>SQL0776</b>	
メッセージ・テキスト:	FOR ステートメントに指定されたカーソル &1 は使用できません。

<b>SQL0776</b>	
原因:	カーソル &1 は、SQL プロシージャの FOR ステートメントにカーソル名として指定されています。FOR ステートメントの中の FETCH、OPEN、または CLOSE ステートメントにカーソルを指定することはできません。
回復手順:	FETCH、OPEN、または CLOSE ステートメントを除去してください。
SQLCODE:	-776
SQLSTATE:	428D4

<b>SQL0778</b>	
メッセージ・テキスト:	終了ラベル &1 が開始ラベルと同じではありません。
原因:	SQL ルーチン本体中の複合、FOR、WHILE、REPEAT、または LOOP ステートメントの終わりに指定されたラベル &1 が、ステートメントの始めのラベルと同じではありません。開始ラベルが指定されていない場合には、終了ラベルを指定することはできません。
回復手順:	複合、FOR、WHILE、REPEAT、または LOOP ステートメントで終了ラベルが開始ラベルと同じであることを確認してください。
SQLCODE:	-778
SQLSTATE:	428D5

<b>SQL0779</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたラベル &1 が無効です。
原因:	ラベル &1 は、SQL ルーチン本体の中の LEAVE ステートメントまたは GOTO ステートメントに指定されています。このラベルが有効なラベルではないか、あるいは現行ステートメントと同じ有効範囲内にありません。
回復手順:	同じ有効範囲内にある有効なラベルを指定します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-779
SQLSTATE:	42736

<b>SQL0780</b>	
メッセージ・テキスト:	ハンドラーに指定した UNDO が無効です。
原因:	UNDO は、SQL プロシージャ、関数、またはトリガーの中の複合ステートメント中でハンドラーのために指定されています。複合ステートメントが ATOMIC でない場合に、UNDO を指定することはできません。UNDO はトリガーの中では指定できません。
回復手順:	ATOMIC 複合ステートメントを指定するか、あるいはハンドラーに EXIT または CONTINUE を指定してください。
SQLCODE:	-780
SQLSTATE:	428D6

<b>SQL0781</b>	
メッセージ・テキスト:	ハンドラーに指定された条件 &1 は定義されていません。
原因:	SQL ルーチン本体のハンドラーに指定された条件 &1 は、定義されていません。
回復手順:	DECLARE CONDITION ステートメントを使用して条件を定義するか、あるいは条件をハンドラーから除去してください。
SQLCODE:	-781

<b>SQL0781</b>	
SQLSTATE:	42737

<b>SQL0782</b>	
メッセージ・テキスト:	ハンドラーに指定された条件値 &1 が正しくありません。
原因:	SQL ルーチン本体のハンドラーに指定された条件 &1 は、次の理由のいずれかのために正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>条件値は同じ有効範囲内の別のハンドラーによってすでに指定されている。</li> <li>条件または SQLSTATE が同じハンドラーの中で SQLEXCEPTION、SQLWARNING、または NOT FOUND として指定されている。</li> </ul>
回復手順:	条件をハンドラーから除去してください。
SQLCODE:	-782
SQLSTATE:	428D7

<b>SQL0783</b>	
メッセージ・テキスト:	FOR ステートメントのカーソル &1 のための選択リストが正しくありません。
原因:	FOR ステートメントの選択リストには、固有の列名が含まれていなければなりません。指定された選択リストには、重複した列名か名前のない式のいずれかが含まれています。2 つの列名が同じであった場合には、列名は &2 となります。
回復手順:	FOR ステートメントに指定された選択リストに固有の列名を指定してください。
SQLCODE:	-783
SQLSTATE:	42738

<b>SQL0784</b>	
メッセージ・テキスト:	制約 &1 を除去することはできません。
原因:	制約 &1 は CHECK 制約または UNIQUE 制約です。これは 1 次キーが NULL でなくなるように強制するか、あるいは ROWID を固有にするものであるため、除去することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>この CHECK 制約によって NULL でなくなることが強制される 1 次キーを除去します。1 次キーが必要な場合には、1 次キーを形成する列の属性が NOT NULL になるように変更してから、1 次キーを再び追加してください。</li> <li>ROWID 列を除去します。ROWID 列の代わりに識別列を使用することもできます。</li> </ul>
SQLCODE:	-784
SQLSTATE:	42860

<b>SQL0785</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLCODE または SQLSTATE の使用が正しくありません。
原因:	SQLCODE または SQLSTATE が SQL ルーチン本体で変数として使用されましたが、次の理由のいずれかのために正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SQLCODE が INT として宣言されていない。</li> <li>SQLSTATE が CHAR(5) として宣言されていない。</li> <li>変数が NULL に設定されている。</li> </ul>

<b>SQL0785</b>	
回復手順:	SQLCODE 変数を INT として宣言し、SQLSTATE 変数を CHAR(5) として宣言してください。変数を有効な値に設定してください。
SQLCODE:	-785
SQLSTATE:	428D8

<b>SQL0787</b>	
メッセージ・テキスト:	RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。
原因:	SQL ルーチンの中で指定された RESIGNAL ステートメントは、ハンドラーの内部で指定されていなければなりません。
回復手順:	RESIGNAL ステートメントを除去するか、あるいは SIGNAL ステートメントを使用します。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-787
SQLSTATE:	0K000

<b>SQL0788</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 内の MERGE ターゲット &1 で重複行が識別されました。
原因:	MERGE ステートメントの USING 文節で識別されている行のセットは、INTO 文節で指定された &2 内のターゲット・テーブルまたはビュー &1 で同じ行を複数回識別しています。ターゲット・テーブルまたはビュー内の行は、USING 文節の入力によって 1 回しか識別できない場合があります。
回復手順:	USING 文節で識別されているデータを、ターゲット・テーブルまたはビュー内のどの行も複数回出現しないように変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-788
SQLSTATE:	21506

<b>SQL0798</b>	
メッセージ・テキスト:	GENERATED ALWAYS の列 &1 には値は指定できません。
原因:	列 &1 は GENERATED ALWAYS として定義されているので、それに値を指定することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 値を INSERT または UPDATE ステートメントから除去するか、あるいは DEFAULT を指定して、その列のシステム値が生成されるようにする。</li> <li>• OVERRIDING USER VALUE 文節を INSERT または UPDATE ステートメントに指定して GENERATED ALWAYS 属性を指定変更し、値を列に割り当てる。</li> <li>• SET ステートメントから列を除去します。</li> </ul>
SQLCODE:	-798
SQLSTATE:	428C9

<b>SQL0799</b>	
メッセージ・テキスト:	アプリケーション・サーバーに特殊レジスター &1 が存在しません。
原因:	SET ステートメントが特殊レジスター &1 を参照しています。この特殊レジスターがアプリケーション・サーバーに存在しないため、ステートメントで参照できません。

<b>SQL0799</b>	
回復手順:	サポートされない特殊レジスターへの参照をステートメントから除去してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	+799
SQLSTATE:	01527

<b>SQL0802</b>	
メッセージ・テキスト:	データ変換またはデータ・マッピング・エラー。
原因:	<p>エラー・タイプ &amp;3 が起こりました。エラー・タイプとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 算術オーバーフロー。</li> <li>• 2 -- 浮動小数点オーバーフロー。</li> <li>• 3 -- 浮動小数点アンダーフロー。</li> <li>• 4 -- 浮動小数点変換エラー。</li> <li>• 5 -- 正確な結果ではありません。</li> <li>• 6 -- 数値データが無効です。</li> <li>• 7 -- 2 バイト文字セット (DBCS) または UTF-8 データが無効です。</li> <li>• 8 -- ゼロによる除算。</li> <li>• 9 -- 要求された QUERY についてハッシュ値は計算できません。</li> <li>• 10 -- ユーザー定義関数がマッピング・エラーを戻しました。</li> <li>• 11 -- 配列結果セットから戻された可変長列で無効な長さが見つかりました。</li> <li>• 12 -- 可変長フィールドの連結操作の結果が、結果タイプに使用できる最大長を超えました。</li> </ul> <p>FETCH、組み込み SELECT、SET、または VALUES INTO ステートメントのホスト変数への値の割り当て時にエラーが起こった場合には、ホスト変数名は &amp;2 であり、INTO 文節中のホスト変数の相対位置は &amp;1 です。ホスト変数名が *N の場合には、検索条件を分析解決しようとしている時にエラーが起こりました。複数のデータ・マッピング・エラーが起こった場合には、これは最初に起こったエラーの説明です。その他のデータ・マッピング・エラーについては、前にリストされているジョブ・ログのメッセージを参照してください。</p>
回復手順:	このエラーの原因はデータが正しくないか、あるいは大きすぎることにあります。ジョブ・ログ中の前にリストされたメッセージを表示するか (DSPJOBLOG コマンド)、あるいはこの画面から F10 キー (ジョブ・ログのメッセージの表示) を押して、どの行および桁にエラーがあるかを調べてください。データを訂正してから、要求をやり直してください。
SQLCODE:	+802、-802
SQLSTATE:	01004, 01519, 01547, 01564, 01565, 22001, 22003, 22012, 22023, 22504

<b>SQL0803</b>	
メッセージ・テキスト:	重複するキーの値が指定された。
原因:	&2 の固有索引または固有制約 &1 が &4 のテーブル &3 の 1 つまたは複数の列に存在しています。1 つまたは複数の値によってこの固有索引または制約に重複キーが生成されるので、この操作を実行することはできません。
回復手順:	重複キーが生成されないように、ステートメントを変更してください。どの行に重複するキーの値が入っているかについては、ジョブ・ログ中の前にリストされたメッセージを調べるか (DSPJOBLOG コマンド)、あるいはこの画面で F10 キー (ジョブ・ログのメッセージの表示) を押してください。

<b>SQL0803</b>	
SQLCODE:	-803
SQLSTATE:	23505

<b>SQL0804</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLDA または記述子域が正しくありません。

SQL0804	
原因:	<p>エラー・タイプが 2、3、9、12、または 13 である場合、エラーのある項目は &amp;2 で、SQLTYPE または TYPE の値は &amp;3 で、SQLLEN、SQLLONGLEN、または LENGTH の値は &amp;4 です。エラー・タイプが 13 である場合、不整合が検出されると、&amp;5 が設定されます。エラー・タイプが &amp;1 のために、指定された SQLDA または記述子域は正しくありません。エラー・タイプとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- SQLN の値がゼロより小さいか、SQLD の値が 0 から 8000 の間にないか、SQLD の値が SQLN の値より大きいか、あるいは SQLD の値が REXX で初期設定されていない。</li> <li>• 2 -- SQLTYPE の値が正しくないか、あるいは REXX でサポートされていないかまたは初期設定されていない。</li> <li>• 3 -- SQLLEN または SQLLONGLEN の値が正しくないか、あるいは SQLLEN、SQLPRECISION、または SQLSCALE の値が REXX で初期設定されていない。REXX および SQLTYPE が 10 進数または数値の場合には、SQLPRECISION または SQLSCALE が初期設定されていません。そうでない場合には、SQLLEN が初期設定されていません。SQLTYPE が LOB または XML 変数の場合には、SQLLONGLEN が正しくありません。</li> <li>• 4 -- 配列変数の記述子内の属性が無効です。配列がヌルの時以外は、レベル 0 記述子項目内の DATA 項目をヌルにすることはできません。</li> <li>• 5 -- SQLDA 域が 16 バイト境界上になかった。</li> <li>• 6 -- SQLDABC に指定された値が無効である。この値は、SQLN に指定された項目数に対して十分に大きくないか、あるいは使用可能な最大値より大きいかのいずれかです。</li> <li>• 7 -- SQLN の値が少なくとも SQLD のサイズの 2 倍になっておらず、SQLDA に LOB ホスト変数が見つかった。</li> <li>• 8 -- SQLDAID の 7 番目のバイトが '2'、'3'、または '4' でなく、SQLDA に LOB ホスト変数が見つかった。</li> <li>• 9 -- DBCLOB ホスト変数に対して SQLDATAL ポインターが NULL でないが、SQLDATAL ポインターによって参照された長さの値が奇数値であった。</li> <li>• 10 -- LOB ロケーターの SQLTYPE が LOB ロケーターに関連したタイプと一致していない。</li> <li>• 11 -- 行の長さが許可された最大行長より長くなっている。</li> <li>• 12 -- 記述子域の項目に TYPE が設定されていない。</li> <li>• 13 -- 記述子域の項目の属性に整合性がない。TYPE、LENGTH、PRECISION、SCALE、DB2_CCSID、および DATETIME_INTERVAL_CODE は、SET DESCRIPTOR ステートメントで設定された各項目について相互に整合性があるようにする必要があります。</li> <li>• 14 -- 記述子域内の LEVEL の値が無効である。</li> <li>• 15 -- 記述子域内の DATETIME_INTERVAL_CODE の値が無効である。</li> <li>• 16 -- CALL ステートメントで使用された入力および出力の記述子が一致していない。CALL ステートメントの DESCRIBE で記述子が構築された場合以外は、どちらの記述子にも、CALL のすべてのパラメーターが入っていないければならず、項目は一致しなければなりません。</li> <li>• 17 -- SQLDA に ARRAY SQLTYPE が指定されています。</li> </ul>
回復手順:	SQLDA または記述子域のエラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-804
SQLSTATE:	07002, 0700E, 0700F

<b>SQL0805</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の SQL パッケージ &1 が DRDA サーバー側に見つからない。
原因:	&2 の SQL パッケージ &1 の &4 に対してリモート要求が試みられました。SQL パッケージは見つかりませんでした。対話式 SQL または QUERY 管理機能を使用している場合には、リモート・システムでパッケージを作成する試みが正常に実行されず、要求したパッケージは存在しません。
回復手順:	<p>DB2 for IBM i 以外のサーバーとの対話式 SQL セッションでのこの問題の最も一般的な原因は、接続を更新できないことにあります。このケースでは、パッケージを自動的に作成できません。接続が確実に更新可能となるように、リレーショナル・データベースへの接続の前に、RELEASE ALL コマンドに続けて COMMIT を実行してください。</p> <p>そのほかの場合には、SQL パッケージは、CRTSQLPKG コマンドを使用して作成することができます。また、RDB パラメーターを指定した SQL プログラムをプリコンパイルしても、システムに SQL パッケージが作成されます。SQL パッケージを作成または復元してください。アプリケーションを実行し直してください。</p> <p>対話式 SQL、QUERY 管理機能、または SQL 呼び出しレベル・インターフェースを使用している場合には、そのプロダクトまたはアプリケーションを終了して CL COMMIT または ROLLBACK コマンドを入力してください。これによって、ローカル・システムで処理を続行できるようになります。ジョブ・ログを調べて、パッケージが作成されなかった理由を判別してください。問題を訂正して、対話式 SQL または QUERY 管理機能のセッションを再び試みてください。</p>
SQLCODE:	-805
SQLSTATE:	51002

<b>SQL0809</b>	
メッセージ・テキスト:	行の長さが 3.5 ギガバイトを超えます。
原因:	INSERT または UPDATE ステートメントへの入力データとして使用された値の長さにより、行の長さが最大長の 3.5 ギガバイトを超えることとなります。
回復手順:	すべてのフィールドの長さの合計が結果として 3.5 ギガバイト以内の行の長さとなるように、ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	-809
SQLSTATE:	54018

<b>SQL0811</b>	
メッセージ・テキスト:	SELECT の結果が複数行ある。
原因:	SELECT INTO ステートメント、SUBQUERY、または SET ステートメントの副選択の結果表に複数の行が入っています。エラー・タイプは &1 です。エラー・タイプが 1 の場合には、SELECT INTO ステートメントが複数の行を戻そうとしました。エラー・タイプが 2 の場合には、基本述部の副選択が複数の行を作成しました。1 行しか使用できません。
回復手順:	結果の行が 1 行だけ戻されるように選択項目を変更して、要求をやり直してください。複数の結果の行を処理するためには、DECLARE CURSOR、OPEN、および FETCH ステートメントを使用しなければなりません。SUBQUERY の場合には、IN、EXISTS、ANY、または ALL 述部を使用して、複数の結果の行を処理することができます。1 行を要求していた場合には、行の重複など、複数行が戻される原因となるデータ・エラーのある可能性があります。
SQLCODE:	-811

<b>SQL0811</b>	
SQLSTATE:	21000

<b>SQL0817</b>	
メッセージ・テキスト:	更新操作は使用できません。
原因:	SET TRANSACTION READ ONLY が実行された後に、テーブルの内容を変更することになる SQL ステートメントを実行しようとしたか、あるいはデータベース・オブジェクトを作成または削除しようとした。
回復手順:	SET TRANSACTION READ WRITE を指定するか、あるいはプログラムから更新操作を除去して、やり直してください。
SQLCODE:	-817
SQLSTATE:	25006

<b>SQL0818</b>	
メッセージ・テキスト:	整合性トークンが一致しない。
原因:	アプリケーション・サーバー &5 上の &4 のパッケージ &3 は、現行のアプリケーション・プログラムと一緒に実行することができません。これは、アプリケーション・プログラムがパッケージを再作成しないで再コンパイルされたか、あるいはパッケージがバックレベル・バージョンから復元されたためです。
回復手順:	CRTSQLPKG コマンドを使用するか、あるいは正しいリレーショナル・データベースを指定した CRTSQLXXX コマンドを使用して、パッケージを再作成してください。そうでない場合には、実行するアプリケーション・プログラムと一致するバージョンからパッケージを復元してください。
SQLCODE:	-818
SQLSTATE:	51003

<b>SQL0822</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLDA または記述子域中のアドレスが正しくありません。
原因:	<p>SQLDA または記述子域には、項目番号 &amp;1 に正しくないアドレス、SQLDATA または DATA 値、または SQLIND または INDICATOR 値が入っています。正しくないアドレスまたは値はタイプ &amp;2 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タイプ 1 は、SQLDATA または DATA アドレスが正しくないことを示す。</li> <li>• タイプ 2 は、SQLIND または INDICATOR アドレスが正しくないことを示す。</li> <li>• タイプ 3 は、SQLDA アドレスが正しくないことを示す。</li> <li>• タイプ 4 は、行記憶域の大きさが十分でないことを示す。</li> <li>• タイプ 5 は、ブロック化 FETCH ステートメントの標識域の大きさが十分でないことを示す。</li> <li>• タイプ 6 は、SQLDATA フィールドが REXX プロシージャ中で 1 つの値に初期設定されていなかったことを示す。</li> <li>• タイプ 7 は、SQLIND フィールドが REXX プロシージャ中で 1 つの値に初期設定されていなかったことを示す。</li> <li>• タイプ 8 は、SQLDATAL アドレスが正しくないことを示す。</li> </ul>

SQL0822	
回復手順:	タイプ 1、2、3、または 8 の場合には、項目 &1 のアドレスを正しいアドレスに変更してください。タイプ 4 と 5 の場合には、要求されたすべての行に十分な域を割り振ってください。タイプ 6 と 7 の場合には、SQLDATA または SQLIND フィールドを有効な値に初期設定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-822
SQLSTATE:	51004

SQL0827	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 タイプ *SQLPKG にアクセスすることができない。
原因:	&2 の SQL パッケージ &1 は QSQPRCED API を使用して作成されたものではないので、QSQPRCED API はこのパッケージにアクセスすることができません。QSQPRCED API は、CRTSQLPKG または CRTSQLXXX コマンドを使用して作成された *SQLPKG オブジェクトを使用することができません。
回復手順:	QSQPRCED API を使用して新しい *SQLPKG オブジェクトを作成してください。API によって作成されたパッケージを使用するように要求を変更してください。
SQLCODE:	-827
SQLSTATE:	42862

SQL0840	
メッセージ・テキスト:	選択した項目数が 8000 を超えている。
原因:	選択リストに戻された項目数または挿入リストで指定された項目数が最大の 8000 を超えています。
回復手順:	選択する項目の数を減らして、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-840
SQLSTATE:	54004

SQL0842	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 との接続はすでに存在している。
原因:	次の 1 つを行おうとしました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続が活動状態にある時にリレーショナル・データベースに CONNECT しようとした。</li> <li>活動状態にあるリレーショナル・データベースとの接続と同じ通信情報が含まれるリレーショナル・データベースに CONNECT しようとした。</li> </ul> 活動状態にあるリレーショナル・データベースは &1 です。
回復手順:	CONNECT が指定されている場合には、SET CONNECTION ステートメントを使用してリレーショナル・データベース &1 を現行接続にするか、あるいは少なくとも通信情報の部分が &1 用の項目で指定した情報と異なるように、接続しようとしているリレーショナル・データベースの RDB ディレクトリ項目を変更 (CHGRDBDIRE) してください。APPC 接続の場合の通信情報は、リモート・ロケーション、装置記述、ローカル・ロケーション、リモート・ネットワーク識別コード、モード、およびトランザクション・プログラムです。TCP/IP 接続の場合の通信情報は、リモート・ロケーションおよびポート識別です。
SQLCODE:	-842
SQLSTATE:	08002

<b>SQL0843</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 との接続は存在していない。
原因:	SET CONNECTION、RELEASE、または DISCONNECT ステートメントか、または SQLESETI API の呼び出しで、アクティブになっていないリレーショナル・データベース名 &1 を指定しました。
回復手順:	接続が活動状態になっているリレーショナル・データベースの名前を指定してください。
SQLCODE:	-843
SQLSTATE:	08003

<b>SQL0845</b>	
メッセージ・テキスト:	順序 &1 の PREVIOUS VALUE は使用できません。
原因:	PREVIOUS VALUE 式で &2 中の順序 &1 を指定していますが、値がこのアプリケーション・プロセスで使用可能ではありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>PREVIOUS VALUE 式が使用される前には NEXT VALUE 式を評価しなければなりません。</li> <li>順序が変更または除去された後では NEXT VALUE 式を評価しなければなりません。</li> </ul>
回復手順:	PREVIOUS VALUE を使用する前に、同じアプリケーション・プロセスで &2 中の順序 &1 で NEXT VALUE 式を評価してください。
SQLCODE:	-845
SQLSTATE:	51035

<b>SQL0846</b>	
メッセージ・テキスト:	IDENTITY 欄または順序の属性が有効ではありません。
原因:	IDENTITY 列または順序でエラー &6 が起こりました。IDENTITY 列の場合、スキーマ &3 中の &2 はテーブルの名前です。順序の場合、&3 中の &2 は順序の名前です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コード 1 -- IDENTITY 列のデータ・タイプが INTEGER、BIGINT、SMALLINT、あるいは位取りがゼロの DECIMAL または NUMERIC ではない。DECIMAL または NUMERIC の IDENTITY 列は 31 以下の精度でなければなりません。</li> <li>コード 2 -- START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE、または MAXVALUE に指定された値が指定されたデータ・タイプの範囲外。</li> <li>コード 3 -- MINVALUE に指定された値が MAXVALUE に指定された値より大きい。</li> <li>コード 4 -- CACHE に指定された値が無効。CACHE の最小値は 2 です。</li> <li>コード 7 -- 現在のデータ・タイプが組み込みデータ・タイプで、特殊タイプのソース・データ・タイプにプロモートできる場合には、順序は特殊タイプにしか変更不可。現在のデータ・タイプが特殊タイプである場合には、そのソース・データ・タイプにしか変更不可。</li> </ul>
回復手順:	IDENTITY 列または順序に有効な属性を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-846
SQLSTATE:	42815

<b>SQL0858</b>	
メッセージ・テキスト:	LU6.2 保護会話のためにリレーショナル・データベース &1 を切断することができない。
原因:	会話が LU6.2 保護会話を使用しているので、DISCONNECT ステートメントを使用してリレーショナル・データベース &1 を切断することはできません。

<b>SQL0858</b>	
回復手順:	RELEASE ステートメントとその後続ける COMMIT ステートメントを使用して、LU6.2 保護会話を終了してください。
SQLCODE:	-858
SQLSTATE:	08501

<b>SQL0862</b>	
メッセージ・テキスト:	ローカル・プログラムがリモート・リレーショナル・データベースに接続しようとしている。
原因:	&2 のローカル・プログラム &1 がリモート・リレーショナル・データベースに接続しようとした。CONNECT ステートメントまたは SET CONNECTION ステートメントが指定され、指定されたリレーショナル・データベースはリモート・リレーショナル・データベースです。
回復手順:	SQL プリコンパイル・コマンドに RDB パラメーターを指定してください。
SQLCODE:	-862
SQLSTATE:	55029

<b>SQL0863</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 では、混合または DBCS CCSID はサポートされない。
原因:	接続は完了しましたが、リモート・リレーショナル・データベース &1 は、混合または DBCS CCSID をサポートしません。SBCS データを使用することができます。プロダクト識別は &2 です。
回復手順:	回復は不要です。
SQLCODE:	+863
SQLSTATE:	01539

<b>SQL0864</b>	
メッセージ・テキスト:	制約が、テーブル &3 の行を更新または削除しようとした。
原因:	&2 の参照制約 &1 が、データ変更テーブル参照によって変更された &4 内のテーブル &3 の行を更新または削除しようとした。データ変更テーブル参照が FROM 文節に指定されましたが、データ変更テーブル参照のターゲット・テーブルには、この同じテーブルを変更する参照制約が付帯しています。同じ行の変更は許可されません。
回復手順:	データ変更テーブル参照を FROM 文節から除去するか、または参照制約をテーブル &3 から除去してください。
SQLCODE:	-864
SQLSTATE:	560C6

<b>SQL0871</b>	
メッセージ・テキスト:	指定した CCSID 値が多すぎる。
原因:	文字データ・タイプとコード化文字セット識別コード (CCSID) の固有の組み合わせが 80 を超えています。リモート・データにアクセスする時には、80 個の異なる CCSID 値が限界です。
回復手順:	アクセスする文字データ・タイプと CCSID の異なる組み合わせが 80 を超えないように要求を変更してください。

<b>SQL0871</b>	
SQLCODE:	-871
SQLSTATE:	54019

<b>SQL0880</b>	
メッセージ・テキスト:	SAVEPOINT &1 は存在しないか、このコンテキストでは無効です。
原因:	RELEASE TO SAVEPOINT または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントが、現行 SAVEPOINT レベルで存在している SAVEPOINT を識別していません。
回復手順:	有効な SAVEPOINT 名を使用するようにステートメントを訂正してから、ステートメントをやり直してください。
SQLCODE:	-880
SQLSTATE:	3B001

<b>SQL0881</b>	
メッセージ・テキスト:	SAVEPOINT &1 はすでに存在しています。
原因:	SAVEPOINT 名は現行 SAVEPOINT レベルで前に定義されていて、既存の SAVEPOINT か新規の SAVEPOINT が UNIQUE キーワードによって定義されました。
回復手順:	別の SAVEPOINT 名を使用するか、あるいは既存の SAVEPOINT が UNIQUE 文節を指定しないで作成されていて、その SAVEPOINT 名の再使用を意図している場合には、UNIQUE 文節を省略してください。既存の SAVEPOINT は、RELEASE TO SAVEPOINT ステートメントを使用して解放することができます。
SQLCODE:	-881
SQLSTATE:	3B501

<b>SQL0882</b>	
メッセージ・テキスト:	SAVEPOINT が存在していません。
原因:	SAVEPOINT 名のない ROLLBACK TO SAVEPOINT が試みられましたが、現行 SAVEPOINT レベルで存在する SAVEPOINT はありません。
回復手順:	SAVEPOINT を設定するか、あるいは SAVEPOINT へのロールバックは試みないように、アプリケーションの論理を訂正してください。
SQLCODE:	-882
SQLSTATE:	3B502

<b>SQL0900</b>	
メッセージ・テキスト:	アプリケーションの処理が接続状態になっていない。
原因:	以下のいずれかが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現行の接続が DISCONNECT ステートメントを使用して切断された。</li> <li>• 現行の接続が解放されて、コミットが起こった。</li> <li>• 前のエラーでアプリケーションの処理が非接続状態になっている。ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用して、前のエラーを調べてください。</li> </ul>
回復手順:	接続状態に入るためには、TO または RESET 文節を指定した CONNECT ステートメント、または SET CONNECTION ステートメントを出してください。
SQLCODE:	-900

<b>SQL0900</b>	
SQLSTATE:	08003

<b>SQL0901</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL システム・エラー。
原因:	SQL システム・エラーが起っています。現在の SQL ステートメントを正常に完了することはできません。このエラーによって他の SQL ステートメントの処理が妨げられることはありません。SQL ステートメントに問題があって、SQL がそのエラーを正しく診断していないことを前のメッセージで指示している場合があります。直前のメッセージ ID は &1 でした。内部エラー・タイプ &2 が起こりました。プリコンパイル中の場合には、このステートメントから後の処理は続行されません。
回復手順:	前のメッセージを調べて、SQL ステートメントに問題があるかどうかを判別してください。メッセージを表示するためには、対話式で実行中の場合には DSPJOBLOG コマンドを使用するか、あるいは WRKJOB コマンドを使用してプリコンパイルの出力を表示してください。この戻りコードを受け取ったアプリケーション・プログラムは、さらに SQL ステートメントを試みることができます。エラーを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-901
SQLSTATE:	58004

<b>SQL0904</b>	
メッセージ・テキスト:	資源の限界を超えた。
原因:	<p>リソース限界タイプ &amp;1 が、理由コード &amp;2 で超えました。限界タイプのリストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タイプ 1 は、ユーザー・プロファイルの記憶域限界またはマシンの記憶域限界を超えたことを示す。</li> <li>• タイプ 2 は、マシン・ロック限界を超えたことを示す。</li> <li>• タイプ 3 は、QUERY リソース限界を超えたことを示す。詳細については、前にリストされたメッセージ CPD4365 を参照してください。</li> <li>• タイプ 4 は、ジャーナル・エラーが起こったことを示す。</li> <li>• タイプ 5 は、コミット・ロック限界を超えたことを示す。</li> <li>• タイプ 6 は、テーブルの最大サイズに達したことを示す。</li> <li>• タイプ 7 は、用意されたステートメント域の最大サイズに達したことを示す。</li> <li>• タイプ 8 は、このジョブのためにカーソルの最大数がオープンされたことを示す。</li> <li>• タイプ 9 は、ロック・テーブルの最大数の項目がこのジョブで使用されたことを示す。</li> <li>• タイプ 12 は、DRDA 通信バッファの最大サイズを超えたことを示す。</li> <li>• タイプ 13 は、ブロック化データの最大容量を超えたことを示す。</li> <li>• タイプ 14 は、最大量の記述子スペースが割り振られていることを示す。</li> </ul>

<b>SQL0904</b>	
回復手順:	<p>以下のいずれかを行います。エラー・タイプ 1 の場合には、機密保護担当者に連絡してユーザー・プロファイルの記憶域限界を増やしてもらうか、あるいは一部のオブジェクトを削除して記憶域を解放し、その後で要求をやり直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エラー・タイプ 2 の場合には、保持されているマシン・ロックの数が減少した時に操作をやり直す。</li> <li>エラー・タイプ 3、4、または 5 の場合には、前にリストされているジョブ・ログの回復情報についてのメッセージを参照。</li> <li>エラー・タイプ 6 の場合には、このテーブルから行の一部を別のテーブルに移動。</li> <li>エラー・タイプ 7 の場合には、これ以上 PREPARE ステートメントを出す前に、HOLD 文節を指定しないで COMMIT または ROLLBACK を出す。</li> <li>エラー・タイプ 8 の場合には、これ以上 OPEN ステートメントを出す前に CLOSE を出す。</li> <li>これがエラー・タイプが 9 の場合には、HOLD 文節のない COMMIT または ROLLBACK を出す。</li> <li>エラー・タイプ 12 の場合には、SQL 要求で提供された列データの合計サイズを減らす。</li> <li>これがエラー・タイプ 13 の場合には、ブロック中の行数を減らす。</li> <li>これがエラー・タイプ 14 の場合には、DEALLOCATE DESCRIPTOR ステートメントを使用して割り振られた記述子の数を減らす。</li> </ul>
SQLCODE:	+904, -904
SQLSTATE:	01687, 57011

<b>SQL0906</b>	
メッセージ・テキスト:	前のエラーのために、操作は実行されなかった。
原因:	前のエラーによりカーソル &1 が使用不能となりました。
回復手順:	カーソルが使用不能です。次のステップを行ってください。1) カーソルをクローズする。2) カーソルをオープンする。3) 操作をやり直してください。
SQLCODE:	-906
SQLSTATE:	24514

<b>SQL0907</b>	
メッセージ・テキスト:	データ変更違反が起こった。
原因:	トリガー・プログラムの呼び出しを指示したステートメントによって参照された行が、そのトリガー・プログラムで再び参照されました。トリガー・プログラム内の参照はその行を更新または削除しようとするものです。これは破壊的なデータ変更と呼ばれ、行うことはできません。
回復手順:	エラーの原因となったステートメントをトリガー・プログラムから除去して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-907
SQLSTATE:	27000

<b>SQL0910</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 に保留中の変更がある。

<b>SQL0910</b>	
原因:	<p>オブジェクト &amp;1 に、コミットメント制御下で行われた未処理の変更があり、それがこの操作を妨げています。次の 1 つが起こったものと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このアプリケーション処理が、コミットメント制御下でこのオブジェクトに対して操作を実行している。この操作がコミットされていません。このアプリケーション処理は、現在、コミットメント制御レベル *NONE を使用して同じオブジェクトを変更しようとしています。</li> <li>別のアプリケーション処理が、コミットメント制御下でこのオブジェクトに対して操作を実行している。この操作がコミットされていません。</li> <li>このアプリケーション処理が、別のコミット定義を使用して、コミットメント制御下でこのオブジェクトの操作を実行した。この操作がコミットされていません。</li> <li>このアプリケーション処理が、コミットメント制御下でこのオブジェクトの操作を実行した。この操作がコミットされていません。変更がコミットされるかロールバックされるまでは、テーブルを変更することはできません。</li> </ul>
回復手順:	<p>次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーのアプリケーション処理がコミットされていない操作を出している場合には、このオブジェクトの他の操作を試みる前に COMMIT または ROLLBACK を出すか、あるいは *NONE 以外のコミットメント制御レベルを使用してプログラムからステートメントを出してください。</li> <li>このオブジェクトでコミットされていない操作を出したアプリケーション処理がユーザーのアプリケーション処理でない場合には、そのアプリケーション処理が COMMIT または ROLLBACK を実行しなければなりません。</li> <li>ユーザーのアプリケーション処理が別のコミット定義を使用してコミットされていない操作を出した場合には、そのコミット定義の COMMIT または ROLLBACK を出してください。</li> <li>このオブジェクトの ALTER TABLE ステートメントを試みる前に、COMMIT または ROLLBACK を出してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-910
SQLSTATE:	57007

<b>SQL0913</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 内の行またはオブジェクト &1 タイプ *&3 が使用中である。
原因:	&2 の要求したオブジェクト &1 タイプ *&3 が別のアプリケーション処理で使用されているか、あるいはこのオブジェクト中の行が別のアプリケーション処理またはこのアプリケーション処理の別のカーソルで使用されています。

<b>SQL0913</b>	
回復手順:	<p>ジョブ・ログ中の前にリストされたメッセージを調べるか (DSPJOBLOG コマンド)、あるいは対話式 SQL からこの画面で F10 キー (ジョブ・ログのメッセージの表示) を押して、これがオブジェクトまたはレコード・ロック待機タイムアウトであるかどうかを判別してください。次の 1 つを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このオブジェクトが別のアプリケーション処理によってロックされている場合には、このオブジェクトが使用中でない時に、SQL ステートメントをやり直してください。このオブジェクトを現在使用しているユーザーを調べるためには、オブジェクト・ロック処理 (WRKOBJLCK) コマンドを使用してください。</li> <li>オブジェクトがスキーマであって、コミットメント制御下でこのスキーマにテーブル、ビュー、または索引を作成しようとした場合には、システム中の他のジョブによって、同じスキーマで活動時保管操作が進行中である可能性があります。活動時保管処理が完了した時に、要求をやり直してください。</li> <li>別のアプリケーション処理によってレコードがロックされている場合には、そのレコードが使用中でない時に、SQL ステートメントをやり直してください。レコード・ロック表示 (DSPRCDLCK) コマンドを使用して、そのレコードを現在使用しているユーザーを調べることができます。</li> <li>これが同じアプリケーション処理の別のカーソルによって保留されているレコード・ロックである場合には、この SQL ステートメントを出す前に、ロックを保留しているカーソル位置で COMMIT、ROLLBACK、または別の FETCH ステートメントを出さなければなりません。</li> </ul> <p>このエラーが頻繁に起こる場合には、物理ファイル変更 (CHGPF)、論理ファイル変更 (CHGLF)、またはデータベース・ファイル一時変更 (OVRDBF) コマンドを使用して、オブジェクトまたはレコードの待機タイムアウトを変更してください。</p>
SQLCODE:	-913
SQLSTATE:	57033

<b>SQL0918</b>	
メッセージ・テキスト:	ROLLBACK が必要です。
原因:	活動化グループは、他の SQL ステートメントを実行する前に ROLLBACK を実行することを必要とします。次のいずれかが起こっています。 -- SQL ステートメントが分散データベース・サーバーを更新しましたが、そのデータベース・サーバーは読み取り専用操作にのみ使用可能です。
回復手順:	ROLLBACK CL コマンドまたは SQL ROLLBACK ステートメントを出して、続行してください。SQL サーバー・モードが使用された場合は、分散作業単位設定の使用に切り替えることを検討してください。
SQLCODE:	-918
SQLSTATE:	51021

<b>SQL0950</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース &1 がリレーショナル・データベース・ディレクトリーの中にない。
原因:	リレーショナル・データベース &1 への要求が出されましたが、リレーショナル・データベース名がリレーショナル・データベース・ディレクトリーに見つかりませんでした。

SQL0950	
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>CONNECT、SET CONNECTION、RELEASE、または DISCONNECT ステートメントまたは SQL プリコンパイル・コマンドの RDB パラメーターに指定したリレーショナル・データベースの名前を変更する。</li> <li>リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE) コマンドを使用して、リレーショナル・データベース・ディレクトリーにリレーショナル・データベース名を追加する。</li> </ul>
SQLCODE:	-950
SQLSTATE:	42705、55006

SQL0951	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 は変更されなかった。
原因:	&2 中のオブジェクト &1 は、そのオブジェクトまたはその関連オブジェクトが同じアプリケーション・プロセスによって使用中であるので変更されませんでした。テーブルは同じアプリケーション・プロセスで使用中の別のテーブルとの参照制約関係にある可能性があります。
回復手順:	カーソルをクローズして、変更要求をやり直してください。
SQLCODE:	-951
SQLSTATE:	55007

SQL0952	
メッセージ・テキスト:	SQL ステートメントの処理は終了しました。理由コードは &1 です。
原因:	SQL 操作は正常な完了前に終了しました。理由コードは &1 です。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 -- SQLCANCEL API が処理された (たとえば ODBC から)。</li> <li>2 -- 例外の送信によって SQL 処理が終了。</li> <li>3 -- 異常終了。</li> <li>4 -- 活動化グループの終了。</li> <li>5 -- 活動化グループの再利用またはリソースの再利用。</li> <li>6 -- プロセスの終了。</li> <li>7 -- EXIT 関数が呼び出された。</li> <li>8 -- 処理できない例外。</li> <li>9 -- 長いジャンプが処理された。</li> <li>10 -- 照会メッセージに対する取り消し応答が受信された。</li> <li>11 -- データベース・ファイル出口プログラム (QIBM_QDB_OPEN) をオープンする。</li> <li>0 -- 不明の原因。</li> </ul>
回復手順:	理由コードが 1 の場合には、SQL 処理を取り消すクライアント要求が出されました。その他すべての理由コードの場合には、前のメッセージを参照して、SQL 処理が終了した理由を判別してください。
SQLCODE:	-952
SQLSTATE:	57014

<b>SQL0969</b>	
メッセージ・テキスト:	アプリケーション要求元ドライバー・プログラムに要求を渡している時に、エラーが起こった。
原因:	リレーショナル・データベース &1 のアプリケーション要求元ドライバー・プログラムに SQL 要求を渡している時に、予期しないエラーが起こりました。障害の原因については、前にリストされたジョブ・ログのメッセージを参照してください。
回復手順:	問題があればそれを訂正して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-969
SQLSTATE:	58033

<b>SQL0971</b>	
メッセージ・テキスト:	制約 &4 が検査保留状態にあります。
原因:	<p>&amp;3 テーブル &amp;2 で実行していた操作は正常に実行されていません。 &amp;5 の制約 &amp;4 は、理由コード &amp;1 のために強制することはできませんでした。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 参照制約違反のために従属ファイルが検査保留状態である。</li> <li>• 2 -- 従属ファイルまたは親ファイルのアクセス・パスが正しくない。</li> <li>• 3 -- 検査制約違反のためにファイルが検査保留状態である。</li> </ul>
回復手順:	理由コード 1 および 3 の場合には、CHGPFPCST コマンドを使用して、制約を使用できなくしてください。その後で DSPCPCST コマンドを使用して、検査保留状態の原因となっているレコードを参照してください。ファイルのデータを訂正し、CHGPFPCST コマンドを使用して、制約を使用できるようにしてください。理由コード 2 の場合には、System i ナビゲーターの EDTRBDAP コマンドまたは索引再ビルド管理を使用してファイルのアクセス・パスを再ビルドしてください。
SQLCODE:	-971
SQLSTATE:	57011

<b>SQL0989</b>	
メッセージ・テキスト:	トリガー &1 が、テーブル &3 内の行を変更しようとしてしました。
原因:	データ変更テーブル参照の &4 内のターゲット・テーブル &3 には、同じテーブルを変更する &2 の AFTER トリガー &1 が付帯しています。AFTER トリガーを使った、同じテーブルの変更は許可されません。
回復手順:	データ変更テーブル参照を FROM 文節から除去するか、または、AFTER トリガーを変更して、データ変更テーブル参照と同じテーブルを変更しないようにしてください。
SQLCODE:	-989
SQLSTATE:	560C3

<b>SQL0990</b>	
メッセージ・テキスト:	作業単位の結果が不明である。
原因:	作業単位は完了しましたが、その結果がすべての場所で完全に知られているわけではありません。会話障害が起こって、問題を訂正するために再同期が行われているか、あるいはリソースの 1 つで ROLLBACK が起こりました。
回復手順:	ユーザーの処置は不要です。
SQLCODE:	+990

<b>SQL0990</b>	
SQLSTATE:	01587

<b>SQL1530</b>	
メッセージ・テキスト:	SET CURRENT DEGREE ステートメントは完全には使用可能になっていません。
原因:	システム機能 DB2 SMP がシステムにインストールされていないため、このマシンで並列処理が使用可能になっていません。
回復手順:	
SQLCODE:	+1530
SQLSTATE:	01623

<b>SQL1583</b>	
メッセージ・テキスト:	PAGESIZE 値 &1 が正しくありません。
原因:	次の理由のいずれかのために、PAGESIZE 値 &1 が正しくありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• これは、ENCODED VECTOR 索引には指定できない。</li> <li>• PAGESIZE の有効値は、8、16、32、64、128、256、および 512 である。</li> <li>• PAGESIZE 値が索引のキー長と矛盾している可能性がある。</li> </ul>
回復手順:	PAGESIZE 値を、指定可能な値をいずれかに変更してください。これが ENCODED VECTOR 索引でないことを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-1583
SQLSTATE:	428DE

<b>SQL1596</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 の WITH EMPTY TABLE が正しくありません。
原因:	ALTER TABLE では、&2 のテーブル &1 に対して WITH EMPTY TABLE 文節を指定できません。テーブルは、マテリアライズ照会テーブルまたは参照制約の親テーブルであり、WITH EMPTY TABLE 文節とは矛盾します。
回復手順:	テーブルの名前を変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-1596
SQLSTATE:	42928

<b>SQL4300</b>	
メッセージ・テキスト:	Java サポートがこのプラットフォームにインストールされていないか、正しく構成されていません。
原因:	Java ストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数のサポートが、このサーバーにインストールおよび構成されていません。
回復手順:	必ず、互換性のある Java 開発キットを導入してください。
SQLCODE:	-4300
SQLSTATE:	42724

<b>SQL4301</b>	
メッセージ・テキスト:	Java インタープリターの始動または通信が理由コード &1 のために失敗しました。

<b>SQL4301</b>	
原因:	Java インタープリターを開始しようとしているか、それと通信しようとしている間にエラーが起きました。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- Java 環境変数または Java データベース構成パラメーターが無効。</li> <li>• 2 -- Java インタープリターに対する Java ネイティブ・インターフェース呼び出しに失敗。</li> <li>• 4 -- Java インタープリターがそれ自体を終了して、再始動できない。</li> </ul>
回復手順:	Java 環境変数または Java データベース構成パラメーターが有効であることを確認してください。Java インタープリターによって呼び出された Java メソッドが System.out を使用していないことを確認してください。内部 DB2 クラス (com.ibm.db2) はユーザー・クラスによってオーバーライドされていないことを確認してください。
SQLCODE:	-4301
SQLSTATE:	58004

<b>SQL4302</b>	
メッセージ・テキスト:	Java ストアド・プロシージャまたはユーザー定義関数 &1 (特定名 &2) が例外 "&3" で打ち切られました。
原因:	Java ストアド・プロシージャまたはユーザー定義関数が Java 例外で打ち切られました。SQJAVA コンポーネント・トレースがオンになっていると、ジョブのコンポーネント・トレースには打ち切られたメソッドの Java スタック・トレースバックが入ります。
回復手順:	Java メソッドをデバッグして、例外を除去してください。
SQLCODE:	-4302
SQLSTATE:	38000

<b>SQL4303</b>	
メッセージ・テキスト:	Java ストアド・プロシージャまたはユーザー定義関数 &1 (特定名 &2) が外部名 &3 から識別できませんでした。
原因:	このストアド・プロシージャまたはユーザー定義関数を宣言した CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION、または ALTER FUNCTION ステートメントに間違って形式化された EXTERNAL NAME 文節がありました。外部名は次のように形式化されていなければなりません。 "PACKAGE.SUBPACKAGE.CLASS.METHOD"。
回復手順:	ステートメントの外部名を変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-4303
SQLSTATE:	42724

<b>SQL4304</b>	
メッセージ・テキスト:	Java ストアド・プロシージャまたはユーザー定義関数 &1 (特定名 &2) が理由コード &4 のために Java クラス &3 をロードできませんでした。

SQL4304	
原因:	CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION または ALTER FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 文節によって指定されている Java クラスをロードできませんでした。理由コードとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- クラスが CLASSPATH で見つからない。</li> <li>• 2 -- クラスが必要なインターフェース ("com.ibm.db2.app.StoredProc" または "com.ibm.db2.app.UDF") をインプリメントしていなかったか、あるいは Java "public" アクセス・フラグが欠落していた。</li> <li>• 3 -- 省略時のコンストラクターが失敗したか使用不能。</li> </ul>
回復手順:	コンパイル済み ".CLASS" ファイルが CLASSPATH (たとえば、"/QIBM/USERDATA/OS400/SQLLIB/FUNCTION" の下) に導入されていることを確認してください。必要な Java インターフェースがインプリメントされていて、それが "public" であることを確認してください。
SQLCODE:	-4304
SQLSTATE:	42724

SQL4306	
メッセージ・テキスト:	Java ストアード・プロシージャーまたはユーザー定義関数 &1 (特定名 &2) が Java メソッド &3、シグニチャー &4 を呼び出すことができませんでした。
原因:	CREATE PROCEDURE ステートメントまたは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 文節によって指定されている Java メソッドが見つかりませんでした。その宣言済みの引数リストが、必要としているデータベースと一致していないか、あるいは "PUBLIC" インスタンス・メソッドでないと考えられます。
回復手順:	"public" フラグおよびこの呼び出しに必要な引数リストをもつ Java インスタンス・メソッドが存在していることを確認してください。
SQLCODE:	-4306
SQLSTATE:	42724

SQL4701	
メッセージ・テキスト:	指定された区分が多すぎます。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CREATE TABLE ステートメントに指定されたパーティションが多すぎます。</li> <li>• ALTER TABLE ステートメントで既存のテーブルにパーティションを追加しようとしたが、テーブルにすでに最大数のパーティションがあります。</li> </ul> パーティション・テーブルに入れることができるパーティションの最大数は 256 個です。
回復手順:	CREATE TABLE ステートメントの場合、最大数を超えないようにパーティションの数を訂正してください。ALTER TABLE ステートメントの場合、ADD PART 文節を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-4701
SQLSTATE:	54054

SQL4903	
メッセージ・テキスト:	関数 &2 のパラメーター &1 の長さが無効です。
原因:	関数 &2 のパラメーター &1 の長さが無効です。
回復手順:	示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

<b>SQL4903</b>	
SQLCODE:	-4903
SQLSTATE:	42611

<b>SQL4905</b>	
メッセージ・テキスト:	関数 &2 のパラメーター &1 の値が有効範囲内ではありません。
原因:	関数 &2 のパラメーター &1 の値は、このパラメーターの有効範囲外です。示されたパラメーターが構造の場合、有効範囲内の値が入っているかもしれませんが、全体として見たときには有効ではありません。いくつかの構造には、割り振られたサイズと使用されているサイズを示すヘッダーが入っています。割り振られたサイズが、使用されたサイズより小さいのは無効です。
回復手順:	示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。
SQLCODE:	-4905
SQLSTATE:	42611

<b>SQL4917</b>	
メッセージ・テキスト:	オプション配列の要素 &1 が無効です。
原因:	オプション配列に、無効なオプション・タイプまたはオプション値を持つ要素が入っています。配列要素 &1 にこの値が入っています。
回復手順:	オプション配列で渡される値を訂正してください。再び関数を呼び出してください。
SQLCODE:	-4917
SQLSTATE:	42611

<b>SQL5001</b>	
メッセージ・テキスト:	欄修飾子またはテーブル &2 が未定義です。

SQL5001	
原因:	<p>名前 &amp;2 が列名を修飾するために使用されているか、または RRN、RID、HASHED_VALUE、PARTITION、NODENAME、NODENUMBER、DBPARTITIONNAME、DBPARTITIONNUM、DATAPARTITIONNAME、または DATAPARTITIONNUM スカラー関数のオペランドとして指定されているか、あるいは ROW CHANGE TIMESTAMP または ROW CHANGE TOKEN 式用として指定されました。この名前は、この SQL ステートメントでテーブル指定子として定義されていないか、あるいは SQL ステートメントに指定された場所でテーブル指定子を参照できません。VALUES 全選択のテーブル指定子を、上記のいずれの関数のオペランドとしても使用することはできません。</p> <p>FROM 文節でテーブル名の後に相関名が指定されている場合には、その相関名がテーブル指定子であると見なされます。相関名が指定されていない場合には、テーブル名がテーブル指定子であると見なされます。SQL 命名を使用していて、テーブルが認可名で修飾されている場合には、テーブル指定子は 認可名.テーブル名 です。認可名が指定されていない場合には、テーブル指定子は暗黙の認可名とその後に続くテーブル名です。</p> <p>ネストされたテーブル式から高位のテーブルへの相関が使用可能なのは、ネストされたテーブル式の定義に TABLE キーワードが指定されている場合だけです。名前が *N である場合には、ネストされたテーブル式からの横方向相関参照は使用できません。次のいずれかの理由で、ネストされたテーブル式より高いレベルのテーブルに相関付けすることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネストされたテーブル式に UNION、EXCEPT、または INTERSECT が入っている。</li> <li>• ネストされたテーブル式で SELECT 文節に DISTINCT キーワードが使用されている。</li> <li>• ネストされたテーブル式に ORDER BY 文節が入っている。</li> <li>• 相関付けされたプロバイダーがネストされたテーブル式と同じ FROM 文節にあるが、RIGHT OUTER JOIN、RIGHT EXCEPTION JOIN、または FULL OUTER JOIN の一部である。</li> <li>• ネストされたテーブル式が以上の制約のいずれかがある別のネストされたテーブル式の FROM 文節にある。</li> </ul> <p>OLAP 関数で、ORDER OF テーブル指定子は、副選択の FROM 文節のテーブル指定子を参照する必要があります。</p>
回復手順:	<p>すべての列名が有効なテーブル指定子で修飾されていることを確認してください。テーブル指定子が関数の引数として指定されていることを確認してください。TABLE キーワードを使用して、相関付けされた列をネストされたテーブル式内で使用できるようにしてください。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-5001
SQLSTATE:	42703

SQL5002	
メッセージ・テキスト:	テーブル &1 の集合を指定する必要があります。
原因:	テーブル &1 は、暗黙でも明示的にも集合名で修飾されていません。CREATE TABLE ステートメントでは、システム命名モードの集合名が必要です。
回復手順:	<p>テーブル &amp;1 を集合名で明示的に修飾してください。システム命名で修飾したテーブル名の正しいフォームは、collection-name/table-name です。プログラムの場合、CRTSQLxxx コマンドに DFTRDBCOL パラメーターを指定すれば、デフォルト集合を使ってテーブル名を暗黙で修飾することができます。要求をやり直してください。</p>
SQLCODE:	-5002

<b>SQL5002</b>	
SQLSTATE:	42812

<b>SQL5003</b>	
メッセージ・テキスト:	コミットメント制御の下ではこの操作を実行することはできない。
原因:	<p>COMMIT(*CHG)、COMMIT(*CS)、または COMMIT(*ALL) が指定されたコミットメント制御のもとでは、次の命令を実行することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DROP SCHEMA ステートメント。</li> <li>• 権限ホルダーを持つオブジェクトに対する GRANT または REVOKE ステートメント。</li> <li>• 権限ホルダーを持つオブジェクトに対する SQL 命名モードの CREATE ステートメント。</li> <li>• テキスト検索索引の除去。これらの命令はコミットまたはロールバックすることはできません。</li> </ul>
回復手順:	COMMIT(*NONE) を指定して、ステートメントをやり直してください。
SQLCODE:	-5003
SQLSTATE:	42922

<b>SQL5005</b>	
メッセージ・テキスト:	演算子 &4 がオペランドと矛盾している。
原因:	<p>指定した演算子は前のオペランドと矛盾しています。算術演算子 (*、/、および **) は、連結演算子、あるいは DIGITS および SUBSTR スカラー関数と同時に使用することができません。</p> <p>連結演算子は、算術演算子 (* および /) あるいは LENGTH、DECIMAL、FLOAT、または INTEGER スカラー関数など、結果が数値となる他の演算子または関数と同時に使用することができません。</p>
回復手順:	すべての式が正しい数値式、ストリング式、または日付/時刻式になるように、SQL ステートメントを変更してください。
SQLCODE:	-5005
SQLSTATE:	42815

<b>SQL5012</b>	
メッセージ・テキスト:	ホスト変数 &1 が位取りゼロの数字でない。
原因:	<p>ホスト変数 &amp;1 が、使用できない位置に指定されています。ホスト変数は次の理由の 1 つによって使用できませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数字でない。</li> <li>• 位取りがゼロでない。</li> </ul>
回復手順:	ホスト変数を位取りがゼロの数字タイプに変更してください。
SQLCODE:	-5012
SQLSTATE:	42618

<b>SQL5016</b>	
メッセージ・テキスト:	修飾オブジェクト名 &1 は正しくない。

<b>SQL5016</b>	
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>修飾オブジェクト名に使用された構文は、指定された命名方式オプションには正しくありません。システム命名方式では、オブジェクト名の修飾形式はスキーマ名/オブジェクト名です。SQL 命名方式では、オブジェクト名の修飾形式は認可名.オブジェクト名です。</li> <li>修飾オブジェクト名に使用された構文は許可されません。</li> </ul> SQL プロシージャまたは関数のパラメーターおよび SQL 変数に関するシステム命名規則では、ユーザー定義タイプをスキーマで修飾することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SQL 命名規則を使用したい場合には、該当する SQL コマンドに SQL 命名方式オプションがあることを確認して、認可 ID.オブジェクト名 の形式でオブジェクト名を修飾する。</li> <li>システムの命名規則を使用したい場合には、該当する SQL コマンドにシステム命名オプションを指定して、スキーマ名/オブジェクト名 の形式でオブジェクト名を修飾する。</li> <li>システム命名規則を用い、SQL ルーチンのパラメーターおよび変数に指定されたユーザー定義タイプが現行パスに見つかることを確認する。</li> </ul>
SQLCODE:	-5016
SQLSTATE:	42833

<b>SQL5017</b>	
メッセージ・テキスト:	GRANT または REVOKE に指定されたユーザーが多すぎる。
原因:	GRANT または REVOKE ステートメントで最大の 50 を超えるユーザーが指定されました。
回復手順:	最大 50 のユーザーを指定するように、GRANT または REVOKE ステートメントを変更してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-5017
SQLSTATE:	54009

<b>SQL5021</b>	
メッセージ・テキスト:	FOR UPDATE 欄 &1 は無効です。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ORDER BY 文節に FOR UPDATE 文節の列が指定されました。列名が *N の場合には、FOR UPDATE 文節に列のリストが指定されていません。これはすべての列をリストするのと同じこととなります。</li> <li>FOR UPDATE 文節の DATALINK 列が SELECT リストに指定されています。</li> </ul>
回復手順:	文節の 1 つから重複している列を除去してください。FOR UPDATE 文節に列が指定されていない場合には、FOR UPDATE 文節または ORDER BY 文節のいずれかを取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-5021
SQLSTATE:	42930

<b>SQL5023</b>	
メッセージ・テキスト:	ステートメント名 &1 は前に参照されている。

<b>SQL5023</b>	
原因:	この DECLARE CURSOR ステートメントで参照されたステートメント &1 はすでに前の DECLARE CURSOR で参照されています。ステートメント名は 1 回しかカーソルと関連づけることはできません。
回復手順:	アプリケーション・プログラムまたは REXX プロシージャ中のすべての DECLARE CURSOR ステートメントで指定されたステートメント名を調べて、それらが固有であることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-5023
SQLSTATE:	26510

<b>SQL5024</b>	
メッセージ・テキスト:	変数 &1 が文字、UCS-2 グラフィック、または UTF-16 グラフィックではありません。
原因:	<p>ホスト変数 またはプロシージャ変数 &amp;1 が文字、UCS-2 グラフィック、または UTF-16 グラフィックとして定義されていません。プリコンパイル済みプログラムまたは REXX プロシージャのホスト変数またはグローバル変数は、次のように使用する場合、文字、UCS-2 グラフィック、または UTF-16 グラフィックでなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのステートメント・ストリング。</li> <li>• DESCRIBE TABLE ステートメントのテーブル名</li> <li>• CALL ステートメントのプロシージャ名。</li> <li>• CONNECT、SET CONNECTION、RELEASE、DISCONNECT、SET ENCRYPTION PASSWORD、または SET SESSION AUTHORIZATION ステートメントのサーバー名、権限名、またはパスワード。</li> <li>• SET PATH、SET SCHEMA、または SET CURRENT DECFLOAT ROUNDING MODE などの SET 特殊レジスター・ステートメントの特殊レジスター値。</li> <li>• SIGNAL ステートメントの SQLSTATE 値またはシグナル情報値。</li> <li>• 記述子名。</li> </ul>
回復手順:	文字、UCS-2 グラフィック、または UTF-16 グラフィックの変数を指定してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-5024
SQLSTATE:	42618

<b>SQL5027</b>	
メッセージ・テキスト:	OPTION(*SYS) が有効なのは、リレーショナル・データベース &1 (製品識別番号 &2) が DB2 for IBM i の場合だけです。
原因:	別の DB2 for IBM i ではないリレーショナル・データベースに対して SQL パッケージを作成する場合には、SQL 命名が必要です。
回復手順:	SQL 命名を使用するようにプログラムを変更し、パラメーター OPTION(*SQL) を指定して CRTSQLXXX コマンドをやり直してください。
SQLCODE:	-5027
SQLSTATE:	560C4

<b>SQL5028</b>	
メッセージ・テキスト:	COMMIT(*NONE) が有効なのは、リレーショナル・データベース &1 (製品識別番号 &2) が DB2 for IBM i の場合だけです。
原因:	リレーショナル・データベース &1 が別の DB2 for IBM i でない時には、コミット・レベル *CHG、*CS、または *ALL が必要です。
回復手順:	プログラムを変更し、コミットメント制御を使用してから、*CHG、*CS、または *ALL を指定したコミットメント制御レベルで CRTSQLXXX をやり直してください。
SQLCODE:	-5028
SQLSTATE:	560C4

<b>SQL5047</b>	
メッセージ・テキスト:	SRTSEQ または LANGID パラメーターの処理中にエラー。メッセージは &3、&4 です。
原因:	SRTSEQ パラメーター &1 および LANGID パラメーター &2 についてソート順序テーブルを検索しようとした時に、エラーが起きました。メッセージ &3 が戻されました。
回復手順:	メッセージ &3 の指示に従ってエラーを訂正し、要求をやり直してください。ソート順序テーブルが不要な場合には、SRTSEQ パラメーターとして *HEX を指定してください。
SQLCODE:	-5047
SQLSTATE:	42616

<b>SQL5051</b>	
メッセージ・テキスト:	修飾子 &1 が名前 &2 と同じでない。
原因:	次のいずれかが起こっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたオブジェクトは、スキーマ名以外の名前 で修飾されている。CREATE SCHEMA ステートメントで作成されるすべてのオブジェ クトは、スキーマ名 &amp;2 で修飾されているか、あるいは修飾しないかのいずれかでなければ なりません。修飾されていないオブジェクトはスキーマ名によって暗黙に修飾されます。</li> <li>制約名がテーブルの修飾子と同じでない名前 で修飾されている。テーブルの制約はテー ブルと同じスキーマによって修飾されてい なければなりません。明示的に修飾され ない場合には、制約名は省略時のスキ ーマ (指定された場合) によって暗黙 的に修飾されます。そうでない場合に は、制約名は SQL 名の権限識別コード によって、あるいはシステム名用の テーブル名の修飾子によって暗黙に 修飾されます。</li> </ul>
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>スキーマのオブジェクトを &amp;2 で明示的に修飾するか、あるいはオブジェクト名から修飾 子 &amp;1 を除去する。</li> <li>制約名とテーブル名に同じ修飾子を使用する。</li> </ul>
SQLCODE:	-5051
SQLSTATE:	42875

<b>SQL7001</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 中のテーブル &1 がデータベース・ファイルではありません。
原因:	SQL 処理は、データベース・ファイルの場合にしか使用できません。これ以外のすべてのフ ァイル・タイプを使用することはできません。
回復手順:	テーブルおよびスキーマの名前が正しいことを確認してください。
SQLCODE:	-7001

<b>SQL7001</b>	
SQLSTATE:	42858

<b>SQL7002</b>	
メッセージ・テキスト:	一時変更パラメーターが正しくない。
原因:	SQL ステートメントで参照されたファイルの 1 つに、データベース・ファイル一時変更 (OVRDBF) コマンドが出されました。SQL の場合には OVRDBF コマンドのパラメーターは正しくありません。どのパラメーターが正しくないかについては、ジョブ・ログ中のメッセージ CPF4276 を参照してください。
回復手順:	一時変更を削除してください (DLTOVR コマンド)。必要な場合には、正しくないパラメーターなしで OVRDBF コマンドを再び使用して、操作をやり直してください。
SQLCODE:	-7002
SQLSTATE:	42847

<b>SQL7003</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のファイル &1 に複数の様式がある。
原因:	SQL は複数の様式をもつファイルを処理することができません。
回復手順:	正しいファイル名が指定されていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7003
SQLSTATE:	42857

<b>SQL7006</b>	
メッセージ・テキスト:	スキーマ &1 は除去できません。
原因:	&1 はライブラリー・リストにあるスキーマです。
回復手順:	DROP を行う前に、ライブラリー・リストから &1 を取り除いてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7006
SQLSTATE:	55018

<b>SQL7007</b>	
メッセージ・テキスト:	COMMIT、ROLLBACK、または SAVEPOINT は無効です。
原因:	COMMIT、ROLLBACK、または SAVEPOINT ステートメントが出されましたが、コミットメント制御が活動状態になっていません。
回復手順:	コミットメント制御レベル *NONE を *CHG、*CS、または *ALL に変更してください。SET TRANSACTION ステートメントを使用して分離レベルを *NONE 以外の値に変更することができます。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7007
SQLSTATE:	51009

<b>SQL7008</b>	
メッセージ・テキスト:	操作には &2 の &1 が正しくない。

**SQL7008**

原因:	<p>理由コードは &amp;3 です。理由コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 1 -- &amp;1 にメンバーがない。</li><li>• 2 -- &amp;1 は記憶域を解放して保管された。</li><li>• 3 -- &amp;1 がジャーナル処理されていないか、またはジャーナルに対する権限がないか、あるいはジャーナル状態が *STANDBY になっている。 CASCADE、SET NULL、または SET DEFAULT の RI 制約の操作があるファイルは、同じジャーナルに記録しなければなりません。</li><li>• 4 および 5 -- &amp;1 は実動ライブラリーに入っているか、またはそこで作成中であるが、ユーザーはデバッグ・モード UPDPROD(*NO) を指定している。</li><li>• 6 -- スキーマを作成中であるが、ユーザーは UPDPROD(*NO) でデバッグ・モードになっている。</li><li>• 7 -- ビューの作成で使用された基になったテーブルが無効である。テーブルはプログラム記述テーブルであるか、または一時スキーマに入っています。</li><li>• 8 -- 基になったテーブルは、作成中のオブジェクトの ASP とは異なる ASP に常駐している。</li><li>• 9 -- 索引は現在保留されているか、無効である。</li><li>• 10 -- 定数またはトリガーが無効なタイプのテーブルに追加されるか、またはトリガーが最大数に達しているか、または分散テーブルのすべてのノードが同じリリース・レベルとは限らない。</li><li>• 11 -- 分散テーブルをスキーマ QTEMP に作成しようとしているか、ビューを 2 つ以上の分散テーブルにまたがって作成しようとしている。</li><li>• 12 -- テーブルには FILE LINK CONTROL オプションが指定されているタイプ DATALINK の列が入っているので、そのテーブルは QTEMP、QSYS、QSYS2、または SYSIBM に作成できなかった。</li><li>• 13 -- テーブルには DATALINK、LOB、または XML 列が入っているが、データ・ディクショナリーと矛盾する。</li><li>• 14 -- DATALINK、LOB、XML、または IDENTITY 列は、非 SQL テーブルに追加できない。</li><li>• 15 -- 別の ASP 内のコミットメント定義を使用してオブジェクトを作成または変更しようとしている。</li><li>• 16 -- &amp;2 中の順序 &amp;1 が CL コマンドによって間違えて変更された。</li><li>• 17 -- テーブルは、部分的なトランザクションを含んでいるため、使用可能ではない。</li></ul>
-----	---

SQL7008	
回復手順:	<p>理由コードを基にして次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- メンバーを &amp;1 に追加する (ADDPFM)。</li> <li>• 2 -- &amp;1 を復元する (RSTOBJ)。</li> <li>• 3 -- &amp;1 のジャーナル処理を開始 (STRJRNPF) するか、またはそのジャーナルにアクセスするか、あるいはジャーナル状態を *ACTIVE (CHGJRN) に変更する。</li> <li>• 4、5、または 6 -- UPDPROD(*YES) を指定した CHGDBG コマンドを実行する。</li> <li>• 7 -- QTEMP 内のファイルまたはプログラム記述ファイルを識別するテーブル名を除去する。</li> <li>• 8 -- 同じ ASP 内のテーブルを使用する。</li> <li>• 9 -- EDTRBDAP コマンドを使用して、アクセス・パスの順序を HELD から 1-99 または *OPN に変更するか、固有索引または制約を再作成するか削除する。</li> <li>• 10 -- 制約またはトリガーに有効なテーブルを指定する。</li> <li>• 11 -- QTEMP 以外のスキーマを指定するか、1 つの分散テーブルについてのみビューを作成する。</li> <li>• 12 -- QTEMP、QSYS、QSYS2、または SYSIBM 以外のスキーマを指定する。</li> <li>• 13 -- データ・ディクショナリーが入っていないスキーマを指定するか、またはすべての DATALINK 列、LOB 列、および XML 列を除去する。</li> <li>• 14 -- SQL テーブルを指定する。</li> <li>• 15 -- 現行コミットメント定義と同じ ASP 内のオブジェクトを指定するか、または現行コミットメント定義を終了する。</li> <li>• 16 -- 異なる順序を指定するか、&amp;2 中の順序 &amp;1 に関連したデータ域を削除して順序を再作成する。</li> <li>• 17 -- ジョブ・ログ内の直前のメッセージを調べてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-7008
SQLSTATE:	55019

SQL7009	
メッセージ・テキスト:	操作には &2 の &1 が正しくない。
原因:	<p>理由コードは &amp;3 です。理由コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 復元時に据え置かれたマテリアライズ照会表を、REFRESH TABLE を使って最新表示にできないか、または ALTER TABLE を使って変更できません。</li> <li>• 2 -- データ変更テーブル参照のターゲットは分散ファイルです。</li> <li>• 3 -- 分散テーブル &amp;1 は要求元システム上には存在しますが、受動システム上には存在しません。</li> <li>• 4 -- &amp;2 内のフィールド・プロシージャ &amp;1 が失敗しました。</li> <li>• 5 -- &amp;2 内のサービス・プログラム &amp;1 はグローバル変数ではありません。</li> </ul>

<b>SQL7009</b>	
回復手順:	理由コードを基にして次のいずれかを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- マテリアライズ照会表の基盤になっているファイルとそのメンバーを利用できることを確認します。次に、Save Object (SAVOBJ) コマンドと Restore Object (RSTOBJ) コマンドを使用して、据え置かれているマテリアライズ照会表を保存して復元します。</li> <li>• 2 -- 分散ファイルではないデータ変更テーブル参照を指定します。</li> <li>• 3 -- 要求元システムと受動システム上に存在する別のテーブルを指定します。</li> <li>• 4 -- フィールド・プロシージャが有効になるようにしてください。</li> <li>• 5 -- 別の変数を指定するか、または &amp;2 内の変数 &amp;1 に関連付けられているサービス・プログラムを削除し、グローバル変数を再作成してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-7009
SQLSTATE:	55019

<b>SQL7010</b>	
メッセージ・テキスト:	CREATE VIEW の場合には、&2 の論理ファイル &1 は正しくない。
原因:	CREATE VIEW の副選択文節に &2 の論理ファイル &1 が指定されています。論理ファイルの上にビューを作成することはできません。
回復手順:	CREATE VIEW ステートメントから論理ファイル &1 を取り除いて、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7010
SQLSTATE:	42850

<b>SQL7011</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 は、テーブル、ビュー、または物理ファイルでない。
原因:	SQL ステートメント &3 をテーブル、ビュー、単一形式の論理ファイル、または物理ファイルでないファイルで実行することはできません。
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 制御言語 (CL) コマンドを使用してこの機能を実行する。</li> <li>• 正しいテーブル、ビュー、論理ファイル、または物理ファイルを選択する。</li> </ul>
SQLCODE:	-7011
SQLSTATE:	42851

<b>SQL7017</b>	
メッセージ・テキスト:	指定されたコミット・レベルでステートメントを実行することができない。
原因:	SQL はコミットメント制御でリソースを登録できないので、SQL は指定されたコミット・レベルでステートメントを実行することができません。
回復手順:	詳細については、前のメッセージを参照してください。
SQLCODE:	-7017
SQLSTATE:	42971

<b>SQL7018</b>	
メッセージ・テキスト:	COMMIT HOLD または ROLLBACK HOLD を使用することはできない。

SQL7018	
原因:	DB2 for IBM i ではないアプリケーション・サーバーに対してか、またはアプリケーション・リクエスターから、COMMIT HOLD または ROLLBACK HOLD が試みられました。HOLD を使用できるのは、アプリケーション・サーバーとアプリケーション・リクエスターの両方が DB2 for IBM i である場合のみです。
回復手順:	HOLD を除去して、再びステートメントを投入してください。
SQLCODE:	-7018
SQLSTATE:	42970

SQL7020	
メッセージ・テキスト:	SQL パッケージの作成が正常に実行されなかった。
原因:	SQL ステートメントを実行するためには、アプリケーション・サーバーに SQL パッケージが存在していなければなりません。このためのパッケージの作成がアプリケーション・サーバーで正常に実行されず、SQLCODE &1、SQLSTATE &2 が戻されました。作成しようとしたパッケージの名前はリモート・リレーショナル・データベース &5 のスキーマ &4 の &3 でした。
回復手順:	SQLCODE &1 および SQLSTATE &2 の指示に従って応答してください。コミットメント制御を実行中の場合には、対話式 SQL または QUERY 管理機能を終了して、CL COMMIT または ROLLBACK コマンドを出してください。これによって、ローカル・システムで処理を続行できるようになります。
SQLCODE:	-7020
SQLSTATE:	42969

SQL7021	
メッセージ・テキスト:	アプリケーション・サーバーでローカル・プログラムを実行しようとしている。
原因:	アプリケーション・サーバーである処理で、SQL プログラムを実行しようとしています。
回復手順:	別のジョブを開始して、そのジョブの中で SQL プログラムを実行してください。
SQLCODE:	-7021
SQLSTATE:	57043

SQL7022	
メッセージ・テキスト:	ユーザー &1 が現行ユーザー &2 と同じでない。
原因:	以下のいずれかが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル・リレーショナル・データベース名を指定した CONNECT ステートメントでユーザー &amp;1 が指定されている。指定されたユーザーが、現行ジョブのユーザー &amp;2 と同じではありません。</li> <li>ユーザー &amp;1 が CONNECT ステートメントに指定されているが、接続方式 *DUW を使用する指定のリレーショナル・データベースに対して &amp;2 を使用する接続がすでに存在している。</li> </ul>
回復手順:	ローカル・リレーショナル・データベースへの接続の場合には、CONNECT で指定されたユーザーが現行ジョブのユーザー ID と同じになるように、ステートメントを変更してください。リモート・リレーショナル・データベースへの接続の場合には、SET CONNECTION ステートメントを使用して既存の接続を使用するか、あるいは現行接続を終了して新しいユーザー ID で CONNECT ステートメントを出してください。
SQLCODE:	-7022

<b>SQL7022</b>	
SQLSTATE:	42977

<b>SQL7024</b>	
メッセージ・テキスト:	CCSID が矛盾しています。
原因:	索引または TO グループ列を作成しようとしたますが、列の CCSID に矛盾があります。ソート順序が *HEX ではありません。ステートメントが CREATE INDEX である場合には、スキーマ &2 中に索引 &1 が作成されませんでした。ソート順序が *HEX でない場合には、GROUP BY 文節の文字キー列または文字列の CCSID は関連づけられた CCSID でなければなりません。関連づけられた CCSID は、すべて同じ 1 バイト・コード・ページを持つ必要があります。
回復手順:	次の 1 つを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ソート順序を *HEX に変更して、ステートメントをやり直す。</li> <li>列の CCSID を 65535 または関連づけられた CCSID になるように変更して、ステートメントをやり直す。</li> </ul>
SQLCODE:	-7024
SQLSTATE:	42876

<b>SQL7026</b>	
メッセージ・テキスト:	補助記憶域プール &4 または &5 が見つかりません。
原因:	補助記憶域プール (ASP) &4 または装置名 &5 がシステムまたはスレッドの ASP グループに存在していないので、&2 のタイプ *&3 のオブジェクト &1 は作成されませんでした。
回復手順:	正しい ASP 番号または ASP 装置名を指定して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7026
SQLSTATE:	42896

<b>SQL7027</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 のオブジェクト &1 タイプ *&3 に対する指定された特権を GRANT することはできない。
原因:	&2 のタイプ *&3 のビュー &1 に対して GRANT 操作が試みられました。この操作は &5 の基礎ファイル &4 に対する追加特権を指定されたユーザーに認可するものなので、この操作を実行することはできません。ユーザーは、基礎ファイルに対して *OBJOPR または *OBJMGT システム特権をもっています。
回復手順:	次の 1 つを行うことができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&amp;4 に対する指定された特権を認可する。</li> <li>機密保護担当者またはオブジェクト所有者から必要な権限をもらう。</li> <li>&amp;4 に対する現在の権限を削除する。操作をやり直してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-7027
SQLSTATE:	42984

<b>SQL7028</b>	
メッセージ・テキスト:	所有者と 1 次グループを同じにすることはできない。

<b>SQL7028</b>	
原因:	オブジェクトの作成を試みている時に、SQL がそのオブジェクトの所有者を変更しようとしていました。新しい所有者はそのオブジェクトの 1 次グループと同じでした。これは許可されません。
回復手順:	ユーザー・プロファイルの 1 次グループを変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7028
SQLSTATE:	42944

<b>SQL7029</b>	
メッセージ・テキスト:	システム名 &3 を指定できません。
原因:	&2 の &1 の RENAME または CREATE SCHEMA で、&3 がシステム名として指定されました。RENAME ステートメントに 2 つの名前が指定された場合には、SYSTEM NAME の後に続く名前のみを有効なシステム名とすることができます。CREATE SCHEMA ステートメントに 2 つの名前が指定された場合には、FOR SCHEMA の後に続く名前のみを有効なシステム名とすることができます。
回復手順:	次の 1 つを実行して、要求をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SYSTEM NAME 文節または FOR SCHEMA 文節を除去してください。</li> <li>• RENAME または CREATE SCHEMA に指定された最初の名前を、システム名として無効な名前になるように変更してください。</li> </ul>
SQLCODE:	-7029
SQLSTATE:	428B8

<b>SQL7030</b>	
メッセージ・テキスト:	&3 中のテーブル &2 の別名 &1 はステートメントに正しくありません。
原因:	別名 &1 はスキーマ &3 中のテーブル &2 のメンバーを参照しているため、この別名に対して SQL ステートメントを実行できません。
回復手順:	有効なテーブルを指定するか、メンバーを参照しない別名を指定して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7030
SQLSTATE:	55042

<b>SQL7031</b>	
メッセージ・テキスト:	ソート順序テーブル &1 が長すぎます。
原因:	&2 のソート順序テーブル &1 は 31560 バイトより長い UCS-2 ソート順序テーブルです。これを分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) で使用することはできません。
回復手順:	分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) に使用する別のソート順序テーブルを指定してください。
SQLCODE:	-7031
SQLSTATE:	54044

<b>SQL7032</b>	
メッセージ・テキスト:	SQL プロシージャ、関数、トリガー、または変数 &1 が &2 に作成されていません。

<b>SQL7032</b>	
原因:	SQL プロシージャ、関数、トリガー、または変数 &1 が &2 に作成されていませんでした。  コンパイルが正常に行われていません。SQL は SQL プロシージャ、関数、トリガー、または変数を組み込み SQL が含まれている C プログラムとして作成します。CREATE PROCEDURE、ALTER PROCEDURE、CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、CREATE TRIGGER、または CREATE VARIABLE ステートメントの初期構文解析中に見つからなかったエラーは、プリコンパイル時に検出できます。
回復手順:	コンパイル・エラーが起こった場合には、QSYSPRT 中の適切なリストを参照してください。SQL プリコンパイルが失敗した場合には、常にそのエラーに関するリストがあります。C コンパイルが失敗した場合には、要求した場合にだけリストが作成されます。リストが必要な場合には、CREATE PROCEDURE、CREATE FUNCTION、または CREATE TRIGGER ステートメントのルーチンの本体の前に SET OPTION OUTPUT=*PRINT を指定してください。
SQLCODE:	-7032
SQLSTATE:	42904

<b>SQL7033</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の別名 &1 は使用できない。
原因:	別名 &1 は使用できません。このプログラムは、別名がサポートされる前のリリースでコンパイルされたものです。このプログラムが使用しているテーブル名は現在、別名として定義されています。
回復手順:	別名をサポートしているリリースでプログラムを再コンパイルするか、あるいはシステムから別名を除去してください。
SQLCODE:	-7033
SQLSTATE:	42923

<b>SQL7034</b>	
メッセージ・テキスト:	COMMIT(*NONE) の場合には、LOB および XML ロケータは使用できない。
原因:	コミットメント制御レベルが *NONE または *NC の場合には、LOB および XML ロケータを使用することはできません。
回復手順:	コミットメント制御レベル *CHG、*UR、*CS、*ALL、*RS、または *RR を使用してください。
SQLCODE:	-7034
SQLSTATE:	42926

<b>SQL7036</b>	
メッセージ・テキスト:	SQLDA にはシステム・ユーザー定義タイプ名が使用される。
原因:	SQLDA の拡張 SQLVAR 項目で戻されるユーザー定義タイプ名が 19 文字を超えています。SQLNAME 項目にはスペースが足りないため、代わりにシステム名が使用されます。システム名は 10 文字です。
回復手順:	
SQLCODE:	+7036
SQLSTATE:	01634

<b>SQL7037</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の分散ファイル &1 内のデータを再分散することはできない。
原因:	ノード・グループ、パーティション化ファイル、パーティション・キー、またはパーティション・キーの属性を変更しようとした。これらの変更でデータが再配布されることとなりますが、&2 のファイル &1 中のデータには FILE LINK CONTROL が指定された DATALINK が含まれているので再配布できません。
回復手順:	データが再分散されないように要求を変更し、この機能をやり直してください。
SQLCODE:	-7037
SQLSTATE:	429B6

<b>SQL7038</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 の &1 にはカスケード削除は有効ではありません。
原因:	削除連鎖規則は DATALINK 列が含まれているので &2 の &1 に追加できません。
回復手順:	DATALINK 列を除去するか、あるいは指定した削除連鎖規則を除去してください。
SQLCODE:	-7038
SQLSTATE:	429B7

<b>SQL7048</b>	
メッセージ・テキスト:	トリガーが無効なので、操作はできません。
原因:	スキーマ &2 の作動不能トリガー &1 の結果として SQL テーブルまたはビューのオープンが失敗しました。カーソルの挿入、更新、削除、またはオープン・ステートメントが原因でオープンできませんでした。
回復手順:	&2 の &1 を除去して再作成します。オープンが失敗したファイルの名前については、直前の CPF418A エスケープ・メッセージを参照してください。先行している CPF418A は見つかった無効なトリガーごとの CPD502B メッセージです。無効なトリガーが付加された SQL テーブルを判別するには、SYSTRIGGERS カタログも使用できます。
SQLCODE:	-7048
SQLSTATE:	51037

<b>SQL7049</b>	
メッセージ・テキスト:	内部オブジェクトの限界を超えました。
原因:	内部オブジェクトの限界が検出されたために、SQL ステートメントは正常に実行できません。理由コードは &1 です。操作は、次の理由のいずれかで失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 結果セットがオープンされているストアード・プロシージャの最大数を越えた。</li> <li>• 2 - 結果セットの処理中に内部スペースの限界に達した。</li> <li>• 3 - SQL プロシージャ、関数、またはトリガーの C プログラムの作成中に限界に達した。</li> <li>• 4 - SQL プログラムまたはパッケージのサイズの内部限界に達した。&amp;3 タイプ *&amp;4 の &amp;2 が限界に達した。</li> </ul>

<b>SQL7049</b>	
回復手順:	理由コードとその回復手順は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 結果セットを取り出すか、あるいはストアード・プロシージャーについてオープンされている結果セットをクローズしてください。</li> <li>• 2 - オープンされている 1 つまたは複数の結果セットを取り出しまたはクローズするか、あるいは配列結果セットのサイズを減らしてください。</li> <li>• 3 - SQL ステートメントの数を減らして、SQL ルーチンを修正してください。</li> <li>• 4 - プログラムまたはパッケージの SQL ステートメントの数を減らすか、または一部の SQL ステートメントを別のモジュールに移動して、プログラムまたはパッケージを再コンパイルしてください。</li> </ul>
SQLCODE:	-7049
SQLSTATE:	54035

<b>SQL7050</b>	
メッセージ・テキスト:	結果セットが &2 のプロシージャー &1 から利用不能です。
原因:	SQL CALL ステートメントが &2 のプロシージャー &1 に対して実行されました。 &3 個の結果セットがオープンされましたが、処理する前にクローズされていました。これは、活性化グループの終了、または SQL カーソルをクローズする他の何らかの機能 (リソース再利用 (RCLRSC) CL コマンドなど) が原因である可能性があります。また、これが起こる可能性があるのは、プロシージャーに SET RESULT SETS ステートメントが含まれていて、そのステートメントでエラーが起こった場合です。
回復手順:	プロシージャーが活性化グループとして *NEW を指定して作成されていた場合には、*CALLER または名前付き活性化グループに変更します。SQL カーソルをクローズしていると考えられる機能をすべて除去します。プロシージャーに SET RESULT SETS ステートメントが含まれている場合には、それが正常に完了していて、オープンしていないカーソルが識別されていないことを確認してください。
SQLCODE:	+7050
SQLSTATE:	01646

<b>SQL7051</b>	
メッセージ・テキスト:	MODE DB2SQL BEFORE トリガーは MODE DB2ROW に変換されます。
原因:	トリガーの前の MODE DB2SQL はサポートされていません。 &2 の SQL トリガー &1 は、MODE DB2SQL から MODE DB2ROW に変換されます。
回復手順:	MODE DB2ROW はすべての BEFORE トリガーに指定されている必要があります。ステートメントを変更して、要求をやり直してください。
SQLCODE:	+7051
SQLSTATE:	01647

<b>SQL7052</b>	
メッセージ・テキスト:	オブジェクト &1 タイプ *&3 を &2 に作成できません。
原因:	&2 にオブジェクト &1 タイプ &3 を作成しようとしたが、ライブラリーがユーザー・オブジェクトには有効でないために失敗しました。
回復手順:	別のライブラリーを使用して操作を実行してください。
SQLCODE:	-7052

<b>SQL7052</b>	
SQLSTATE:	55050

<b>SQL7053</b>	
メッセージ・テキスト:	リレーショナル・データベース・ディレクトリーが利用不能です。
原因:	リレーショナル・データベース (RDB) &1 に接続しようとしたが、RDB ディレクトリーが使用できないために失敗しました。補助記憶域プール (ASP) 装置の場合には、オンへの構成変更操作が進行中の場合があります。
回復手順:	いずれかの ASP 装置でオンへの構成変更操作が進行中である場合には、その操作が完了するまで待ってください。再試行に失敗した場合には、コマンド RCLSTG SELECT(*DBXREF) の実行が必要なことがあります。
SQLCODE:	-7053
SQLSTATE:	57011

<b>SQL7054</b>	
メッセージ・テキスト:	出口プログラム &1 のためにオープンが失敗しました。
原因:	出口プログラムをインストールして、すべてのファイルが、ADDEXITPGM EXITPNT(QIBM_QDB_OPEN) FORMAT(DBOP0100) コマンドを使用してオープンすることを調べました。出口プログラムは、このオープン要求を終了しました。
回復手順:	
SQLCODE:	-7054
SQLSTATE:	58002

<b>SQL7055</b>	
メッセージ・テキスト:	カーソル &1 があいまいです。
原因:	カーソル &1 は、プロシージャの別の呼び出しによってすでにオープンされている、同じ名前を持つ別のカーソルがあるため、あいまいになります。
回復手順:	プロシージャの他の呼び出しでオープンされた、同じ名前を持つ他のすべてのカーソルをクローズするか、またはこの SET RESULT SETS ステートメントに指定された一連の結果セットにそのカーソルを含めてください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7055
SQLSTATE:	24502

<b>SQL7056</b>	
メッセージ・テキスト:	理由 &1 によって XML データベース・サポートが使用不能です。
原因:	必要なライセンス・プログラムがインストールされていません。理由コードは &1 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - IBM XML Toolkit for i (5733XT2) または Unicode 国際コンポーネント (5770-SS1) がインストールされていません。</li> <li>• 2 - Java Developer Kit 5.0 (5770JV1)、J2SE 5.0 32 ビット (5770JV1)、J2SE 5.0 64 ビット (5770JV1)、または Portable App Solutions Environment (5770-SS1) がインストールされていません。</li> </ul>
回復手順:	必要なライセンス・プログラムが正しくインストールされていることを確認してください。要求をやり直してください。
SQLCODE:	-7056

<b>SQL7056</b>	
SQLSTATE:	560CR

<b>SQL7057</b>	
メッセージ・テキスト:	&1 が PROGRAM TYPE MAIN に変更されました。
原因:	&2 内の SQL プロシージャ &1 が PROGRAM TYPE SUB から PROGRAM TYPE MAIN に変更されました。このプロシージャの特定名は &3 です。PROGRAM TYPE SUB プロシージャは ILE *SRVPGM を使用して実装されますが、PROGRAM TYPE MAIN プロシージャは ILE *PGM を使用して実装されます。ILE *SRVPGM のプロシージャ呼び出し処理は ILE *PGM のプロシージャ呼び出し処理より高速であるため、最上のパフォーマンスを達成するためには、PROGRAM TYPE SUB オプションを使用して SQL プロシージャを作成すると有益です。このメッセージを受け取った場合は、ALTER PROCEDURE SQL ステートメントまたは RESTORE OBJECT (RSTOBJ) システム・コマンドの代わりに、プロシージャが PROGRAM TYPE SUB から PROGRAM TYPE MAIN に変更されることを示します。
回復手順:	CREATE PROCEDURE を使用してプロシージャを再作成するか、または ALTER PROCEDURE SQL ステートメントを使用してプロシージャを変更してください。
SQLCODE:	+7057
SQLSTATE:	01693

<b>SQL7905</b>	
メッセージ・テキスト:	&2 にテーブル &1 が作成されましたが、ジャーナル処理されませんでした。
原因:	テーブル &1 が &2 に作成されましたが、このテーブルをジャーナル処理しませんでした。QDFTJRN データ域によりジャーナル処理を開始してはいけないことが示されたか、デフォルトのジャーナルが存在しなかった、またはデフォルトのジャーナルが存在したがジャーナル処理を開始できなかった、のいずれかです。デフォルトのジャーナルが損傷しているか、ジャーナル項目を受け入れることができないか、あるいは存在しない可能性があります。テーブルの SQL 名は &1 で、テーブルのシステム名は &3 です。分散テーブルの場合には、すべてのシステムでジャーナル処理を開始することができませんでした。ノード・グループの各システムに、デフォルトのジャーナルは存在していなければならず、ジャーナル項目を受け入れることができなければなりません。
回復手順:	テーブルは作成されましたが、テーブルがジャーナル処理されるまで、テーブル &1 に対して COMMIT(*CHG)、COMMIT(*CS)、COMMIT(*RS)、COMMIT(*RR)、COMMIT(*UR)、および COMMIT(*ALL) を使用することはできません。デフォルトのジャーナルが存在しない場合には、このジャーナルを作成 (CRTJRN コマンド) して、ジャーナル処理を開始 (STRJRNPF コマンド) してください。ジャーナルにエラーがある場合には、ジャーナルに対して問題を訂正してください。テーブルが分散テーブルの場合には、ノード・グループのすべてのシステムで問題を訂正し、ジャーナル処理を開始 (STRJRNPF コマンド) してください。
SQLCODE:	+7905
SQLSTATE:	01567

<b>SQL7906</b>	
メッセージ・テキスト:	前のリリースでは、SQL 関数はサポートされていません。関数は &1 です。

SQL7906	
原因:	プリコンパイル・コマンド上でか、または SET OPTION ステートメントに対して、*PRV 値または VxRxMx 値が Target Release (TGTRLS) パラメーターで指定されました。ターゲット・リリースでは SQL 関数はサポートされていないので、作成したプログラムを保存することも、該当リリースに復元することもできません。
回復手順:	復元不能な関数を使用している各 SQL ステートメントごとに、重大度レベル 30 のメッセージをプリコンパイル・リスト中に示したうえで、プログラムはコンパイルされます。また、プログラム・オブジェクトには、復元不能のマークが付けられます。このメッセージを回避するには、TGTRLS パラメーターの値を *CURRENT 値に変更するか、またはプログラムを変更して、復元先のリリースでサポートされる関数のみがどの SQL ステートメントでも使用されるようにします。ルーチンに対して SET OPTION ステートメントを使用すると、そのルーチン内のすべての SQL ステートメントが、TGTRLS 値で指定したリリース上でサポートされていない限り、そのルーチンは作成を実行しません。
SQLCODE:	-7906
SQLSTATE:	42997

SQL7909	
メッセージ・テキスト:	&1 が作成、変更、または除去されましたが、オブジェクトが変更されませんでした。
原因:	<p>&amp;2 内のルーチンまたはグローバル変数 &amp;1 が正常に作成、変更、または除去されましたが、このオブジェクトの属性を、関連付けられているプログラムまたはサービス・プログラム・オブジェクトに対して保管、変更、または除去できませんでした。ルーチンの場合、特定名は &amp;3 です。当該オブジェクトが今しがた作成または変更されたばかりのものである場合は、*PGM または*SRVPGM オブジェクトが保管されてから復元される時、SQL カタログはこのルーチンの新規属性で更新されません。当該オブジェクトが今しがた除去されたばかりのものである場合は、関連付けられているプログラムまたはサービス・プログラムからオブジェクト情報を除去しないため、後で当該オブジェクトを復元する時、SQL カタログが正しく更新されない可能性があります。</p> <p>理由コードは &amp;4 です。理由コードとその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- CREATE、ALTER、COMMENT、LABEL、または DROP ステートメントが出された時に、外部プログラムが存在しない。</li> <li>• 2 -- 外部プログラムのライブラリーが QSYS となっている。</li> <li>• 3 -- 外部プログラムが ILE *PGM または *SRVPGM ではない。</li> <li>• 4 -- 対応するルーチンまたは変数のプログラム・オブジェクトが別のジョブで使用されました。</li> <li>• 5 -- プログラムの SQL 関連スペースが別のジョブによって使用されていた。</li> <li>• 6 -- プログラムの SQL 関連スペースを拡張できなかった。</li> <li>• 7 -- 外部プログラムは、V4R4M0 より前のリリースでコンパイルされた。</li> <li>• 8 -- 外部プログラムの SQL 関連スペースには、最大数のルーチン定義がすでに含まれている。</li> <li>• 9 -- 外部プログラムが、ルーチンと同じ独立 ASP (IASP) 内にはない。</li> </ul>

SQL7909	
回復手順:	理由コードを基にして次のいずれかを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- CREATE ステートメントが出される時に、外部プログラムが存在するようにする。</li> <li>• 2 -- 外部プログラム・ライブラリーが QSYS でないようにする。</li> <li>• 3 -- 外部プログラムが ILE *PGM または *SRVPGM であるようにする。</li> <li>• 4 -- WRKOBJLCK を使用して、オブジェクトを作成または変更したときにプログラムが使用可能であったことを確認する。</li> <li>• 5 -- プログラムは、オブジェクトを作成または変更したとき使用可能であったことを確認する。</li> <li>• 6 -- プログラムの関連スペースを再ビルドするために外部プログラムの再コンパイルを試行する。グローバル変数の場合は、デフォルト値式を単純化してください。</li> <li>• 7 -- 最新のリリースで外部プログラムを再コンパイルする。</li> <li>• 8 -- 外部プログラムに現在定義されているルーチンの 1 つを除去する。</li> <li>• 9 -- 外部プログラムが、プロシージャと同じ IASP 内にあることを確認する。</li> </ul>
SQLCODE:	+7909
SQLSTATE:	01660

SQL7941	
メッセージ・テキスト:	アプリケーション処理がコミット境界にない。
原因:	RUNSQLSTM コマンドに *NONE 以外のコミットメント制御レベルが指定されましたが、アプリケーション処理がコミット境界にありません。
回復手順:	COMMIT または ROLLBACK を出してコミット境界に達するか、あるいは RUNSQLSTM コマンドに COMMIT(*NONE) を指定してください。
SQLCODE:	-7941
SQLSTATE:	42981

## 関連概念

27 ページの『SQL メッセージの概念』

SQL メッセージは、DB2 for i を使用するアプリケーションに対して、エラー・コードまたは警告コードを戻す際に表示されます。

## コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用权を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとしします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。

2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502  
神奈川県大和市下鶴間1623番14号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、このサンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても、責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書「SQL messages and codes」には、プログラムを作成するユーザーが IBM i のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の Copyright and trademark information をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。







Printed in Japan